平成１５年度研修事業の概要
（各研修事業別個表）

Ａ．一週間以上の中長期間の研修

１．教職員等中央研修講座
　第１回　校長、教頭等 …… 1
　第２回　校長、教頭等 …… 3
　第３回　校長、教頭等 …… 5
　第４回　校長、教頭等 …… 7
　第１回　中堅教員 …… 9
　第２回　中堅教員 …… 11
　第３回　中堅教員 …… 13
　第４回　中堅教員 …… 15
２．生徒指導総合研修講座 …… 17
３．英語教育指導者講座
　第１ブロック …… 20
　第２ブロック …… 24
　第３ブロック …… 28
　第４・５ブロック …… 32
　第６ブロック …… 36
　第７ブロック …… 40
　第８ブロック …… 43
　第９ブロック …… 47
　第１０ブロック …… 51
４．外国人児童生徒等日本語指導講習会
　前期 …… 54
　後期 …… 56
５．新産業技術等指導者養成講習
【新産業技術コース】
　農業：Ａ－１ …… 58
　農業：Ａ－２ …… 60
　工業：Ｂ－１ …… 62
　工業：Ｂ－２ …… 64
　商業：Ｃ－１ …… 66
　商業：Ｃ－２ …… 68
　水産：Ｄ－１ …… 70
　家庭：Ｅ－１ …… 72
　家庭：Ｅ－２ …… 74
　家庭：Ｅ－３ …… 76
　看護：Ｆ－１－１ …… 78
　看護：Ｆ－１－２ …… 80
　看護：Ｆ－２－１ …… 82
　看護：Ｆ－２－２ …… 84
　福祉：Ｌ－１ …… 86
　福祉：Ｌ－２ …… 88
　技術：Ｇ－１－１ …… 90
　技術：Ｇ－１－２ …… 92
　技術：Ｇ－２－１ …… 94
　技術：Ｇ－２－２ …… 96
　技術：Ｇ－２－３ …… 98
　技術：Ｇ－２－４ …… 100
　技術：Ｇ－２－５ …… 102
　技術：Ｇ－２－６ …… 104
　家庭：Ｈ－１ …… 106
【情報技術コース】
　工業：Ｉ－１ …… 108
　工業：Ｉ－２ …… 110
　商業：Ｊ－１ …… 112
　商業：Ｊ－２ …… 114
６．学校安全教育指導者研修会
　第１回　交通安全 …… 116

第２回　防災・心の教育 …… 118
７．公立小・中学校幹部事務職員研修講座 …… 120
８．高等学校産業教育実習助手講習
農業 …… 122
工業 …… 124
水産 …… 126
９．会計事務研修
会計事務特別研修 …… 128

Ｂ．派 遣 研 修

教職員派遣研修
【海　外】
短期派遣 …… 130
若手派遣 …… 132
日米国民交流・若手教員の米国派遣 …… 134
英語担当派遣　　２ヶ月 …… 136
英語担当派遣　　６ヶ月 …… 138
英語担当派遣　１２ヶ月 …… 140
【国　内】
産業教育（産業教育内地留学生） …… 142
理科教育（科学教育研究室研修生） …… 145

Ｃ．３日～１週間未満の研修

１．進路指導講座
東日本地区 …… 148
西日本地区 …… 150
２．公立高等学校事務職員幹部研修講座 …… 152
３．教育情報化推進指導者養成研修
指導主事－全国講座 …… 154
小 学 校－全国講座 …… 156
小 学 校－東部１講座 …… 158
小 学 校－東部２講座 …… 160
小 学 校－中部１講座 …… 162
小 学 校－中部２講座 …… 164
小 学 校－西部１講座 …… 166
小 学 校－西部２講座 …… 168
中学校・高等学校－全国１講座 …… 170
中学校・高等学校－全国２講座 …… 172
中学校・高等学校－東部１講座 …… 174
中学校・高等学校－東部２講座 …… 176
中学校・高等学校－東部３講座 …… 178
中学校・高等学校－東部４講座 …… 180
中学校・高等学校－東部５講座 …… 182
中学校・高等学校－東部６講座 …… 184
中学校・高等学校－中部１講座 …… 186
中学校・高等学校－中部２講座 …… 188
中学校・高等学校－中部３講座 …… 190
中学校・高等学校－中部４講座 …… 192
中学校・高等学校－中部５講座 …… 194
中学校・高等学校－中部６講座 …… 196
中学校・高等学校－西部１講座 …… 198
中学校・高等学校－西部２講座 …… 200
中学校・高等学校－西部３講座 …… 202
中学校・高等学校－西部４講座 …… 204
中学校・高等学校－西部５講座 …… 206
盲学校・聾学校－全国講座 …… 208
養護学校－全国講座 …… 210
４．「総合的な学習の時間」研修講座（小学校英語活動研修講座）
第１回 …… 212
第２回 …… 215
第３回 …… 219
第４回 …… 222

５．総合学科等新科目実技指導講座 …… 226
６．道徳教育連携・推進講座
第１回中央研修講座 …… 228
第２回中央研修講座 …… 230
７．環境教育担当教員講習会
東部地区 …… 232
西部地区 …… 235
８．体験活動担当教員講習会
東日本ブロック …… 238
西日本ブロック …… 242
９．学校体育指導者中央講習会
東部地区 …… 245
中部地区 …… 247
西部地区 …… 249
10．健康教育指導者中央研修会 …… 251
11．先端技術体験プログラム
工業：Ｋ－１ …… 253
水産：Ｋ－２ …… 255
12．公立小・中学校中堅事務職員研修講座 …… 257
13．養護教諭中央研修会 …… 259
14．保健室相談活動研修会 …… 261
15．学校栄養職員等研修会 …… 263
16．国立大学等部長級研修 …… 265
17．国立大学等課長級研修・国立大学事務長研修 …… 268
18．国立大学等課長補佐級研修 …… 271
19．会計事務研修
地区別会計事務研修 …… 274
20．留学生担当者研修会 …… 284

Ｄ．１日～２日の短期間の研修

１．人権教育セミナー
第１回 …… 286
第２回 …… 288
２．エイズ・薬物乱用防止教育研修会 …… 290
３．公立学校（高等学校・特殊教育諸学校）事務職員研修講座 …… 292
４．衛生管理研修会 …… 294
５．外国語指導助手に対する研修
【来日直後】
新規来日外国語指導助手研修（４月期） …… 296
新規来日外国語指導助手研修（Ａ日程・Ｂ日程・第２次） …… 298
【契約更新時】
再契約予定者研修会（Ａ日程・Ｂ日程） …… 301
６．留学生交流研究協議会
北海道、東北、関東地区 …… 304
中部、近畿地区 …… 306
中国、四国、九州地区 …… 308
７．「学習の評価」に関する研修会 …… 310

Ｅ．その他（各都道府県に研修の実施を委託している研修）

１．道徳教育連携・推進講座
地区別研修講座 …… 338
２．外国語指導助手に対する研修
【中間期】
招致期間中外国語指導助手研修（中間期） …… 339

Ｆ．教員研修センターが実施した研修の一部を衛星で配信する研修

衛星配信研修 …… 340

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員等中央研修講座（第１回校長，教頭等）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第一係				
研修目的（趣旨）	校長，教頭等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。				
対象	高等学校の校長・教頭				
開催期日	平成１５年　６月１７日（火）　～　平成１５年　７月　８日（火）				２２日間
参加人数	計画人数	２００人	受講者数	１６８人	（参加率）　８４．０％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	126人	75.0%	38人	22.6%	1人	0.6%	3人	1.8%

２．研修内容に関する主な意見

○ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ演習や危機管理，学校管理運営演習等では実践的な体験を積むことにより学校現場で即戦力になり得ると思う。大変貴重な体験を積むことができた。
○研修に入って1日1日が過ぎていく度にこの研修の意義と学校教育（これからの）をどうしていったらよいか…ということが明確になった。この研修の成果を日々の教育活動に生かしたい。
○「企業に学ぶ」視点が多すぎるように感じた。10年後，20年後の日本の教育の目指すもの，規範意識に欠ける日本人が10年後どうなっていくか，そこに果たすべき教育の役割は…といった点についても研修したかった。
○全体的に余裕がなく振り返ってみるとかけ足で期間が通り過ぎたような印象を持っている。他県の考え方と共通の課題についてもう少しゆっくりと話し合いがもてたらさらに充実したものとなったのではないか。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度教職員等中央研修講座日程表：第１回校長・教頭等研修講座（２６５回）

平成15年6月17日（火）～平成15年7月8日（火）

第１週		６／17(火) 科　目　名 （講師名）	６／18(水) 科　目　名 （講師名）	６／19(木) 科　目　名 （講師名）	６／20(金) 科　目　名 （講師名）	6／21(土)	6／22(日)
午　前 9:30~ 12:00		受付 10:40～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ①	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ② 10:30～ 世界と日本 飯田　健一	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ③ ★教育課程 児島　邦宏	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ④ 教職員(1) 俵　正市	自由研修	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00		開講式 ★教育改革の推進(文)	13:30~16:00 教育と法規 菱村　幸彦	13:00~15:30 進路指導 鹿嶋研之助	13:00~15:30 教職員(2) 俵　正市		
午後２ 15:15~ 16:45		写真撮影 ＧＫＫ		15:45~16:45 生涯学習・男女共同参画社会(文)			
		班長会①	16:15～ 班別協議会①	17:00～ 班別協議会②	15:45~17:15 学校管理運営演習事前検討会①		
第２週	６／23(月)	／24(火)	／25(水)	／26(木)	／27(金)	／28(土)	／29(日)
午前１ 8:45~ 10:15	実践研究①	実践研究②	実践研究③	9:00～ 組織マネジメント （４）	実践研究④	9:00~11:00 特別実践研究	
午前２ 10:30~ 12:00	教育課題演習（１）	企業マネジメント 津田　和明	組織マネジメント （１）		人権尊重の教育 伊藤　公雄	自由研修	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00	教育課題演習（２）	13:00~13:20 班長会②	組織マネジメント （２）	組織マネジメント （５）	13:00~14:30 学校における組織ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの実際 木岡　一明		
		13:30~15:00 ★不登校・いじめへの対応					
午後２ 15:15~ 16:45	危機管理 田中　正博	石隈　利紀 15:15~16:45 「出会い系サイト」等に関する問題（文）	組織マネジメント （３）	組織マネジメント （６）	14:45~16:15 産業・経済 梶原　豊		
					17:00~18:30 芸術 松本　宰二 梅田　朋子		
17:00~	17:00~18:00 学校管理運営演習事前検討会②	17:00~18:00 学校管理運営演習事前検討会③					
第３週	６／30(月)	７／１(火)	／２(水)	／３(木)	／４(金)	／５(土)	／６(日)
午　前 9:30~ 12:00	学校管理運営演習（１）	学校管理運営演習（３）	学校管理運営演習（５）	総合的な学習の時間 蛭田　政弘	館外活動 (歌舞伎座)	自由研修	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00	学校管理運営演習（２）	学校管理運営演習（４）	地方教育行政制度の改善(文)	著作権（文）	館外活動 (歌舞伎座)		
午後２ 15:15~ 16:45			教職員のメンタルヘルス 夏目　誠	情報教育 清水　康敬 班長会③			
第４週	７／７(月)	／８(火)					
午　前 9:30~ 12:00	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ⑤ ボランティア教育 中田　武仁	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ⑥ 9:30~11:00 人生論 小川　三夫 11:30~12:00 閉講式					
午後１ 13:30~ 15:00	道徳教育 藤永　芳純						
午後２ 15:15~ 16:45	歴史・民俗 竹内　誠						

★印：衛星配信

Ⅰ　研修概要

研 修 名	教職員等中央研修講座（第２回校長，教頭等）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第一係				
研修目的（趣旨）	校長，教頭等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。				
対　　象	中学校の校長・教頭，指導主事				
開催期日	平成１５年　７月１５日（火）　～　平成１５年　８月　５日（火）				２２　日間
参加人数	計画人数	１５０人	受講者数	１５６人	（参加率）　１０４．０％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	118人	75.6%	33人	21.2%	1人	0.6%	4人	2.6%

２．研修内容に関する主な意見

○現場のﾆｰｽﾞを把握した内容を年度ごとに取り上げていく。
○国の新しい施策や方向性を聞くことができ，今後の教育の方向性を知ることができた。
○解答が出回っているような法規演習は，研修目的に合致していない。
○中教審で答申に直接関わった方の話は，その背景を知ることができてよかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度教職員等中央研修講座日程表：第２回校長・教頭等研修講座（２６６回）

平成15年7月15日(火)～平成15年8月5日(火)

第１週		7／15(火) 科目名 (講師名)	7／16(水) 科目名 (講師名)	7／17(木) 科目名 (講師名)	7／18(金) 科目名 (講師名)	7／19(土)	7／20(日)
午前 9:30~ 12:00		受付 10:40～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ①	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ② 10:30～ 世界と日本 河野　健一	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ③ 教育と法規 伊勢呂　裕史 13:00~13:20	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ④ 教職員(1) 石津　廣司	自由研修	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00		開講式 ★教育改革の推進(文) 写真撮影 ＧＫＫ	13:30~16:00 ★教育課程 滋澤　文隆	班長会②	13:00~15:30 教職員(2) 石津　廣司		
午後２ 15:15~ 16:45		班長会①	16:15～ 班別協議会①	企業マネジメント 大竹　美喜 15:15~16:15 班別協議会②	15:45~17:15 実践研究①		
				16:30~18:00 学校管理運営演習事前検討会①			

第２週	7／21(月)	／22(火)	／23(水)	／24(木)	／25(金)	／26(土)	／27(日)
午前１ 8:45~ 10:15	自由研修 (海の日)	実践研究②	実践研究③	9:00～ 組織マネジメント （４）	館外活動 (歌舞伎座)	自由研修	自由研修
午前２ 10:30~ 12:00		教育課題演習（１）	組織マネジメント （１）				
午後１ 13:30~ 15:00		教育課題演習（２）	組織マネジメント （２）	組織マネジメント （５）	館外活動 (歌舞伎座)		
午後２ 15:15~ 16:45		★危機管理 上地　安昭	組織マネジメント （３）	組織マネジメント （６）			
17:00~		17:00~18:00 学校管理運営演習事前検討会②					

第３週	7／28(月)	／29(火)	／30(水)	／31(木)	8／1(金)	／2(土)	／3(日)
午前 9:30~ 12:00	8:30～9:30 実践研究④ 学校管理運営演習(1)	学校管理運営演習 （３）	学校管理運営演習 （５）	道徳教育 小寺　正一	総合的な学習の時間 吉崎　静夫	9:00~11:00 特別実践研究	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00	学校管理運営演習 （２）	学校管理運営演習 （４）	教職員のメンタルヘルス 山岡　昌之	校における組織マネジメントの実際 高階　玲治	13:00~14:30 ★地方行財政制度(文)	自由研修	
午後２ 15:15~ 16:45			教育行政制度の改善 (文)	★著作権 （文）	14:45~16:15 人権尊重の教育 横島　章		
				班長会③	17:00~18:30 芸術 藤野　カヨ 平田　道子		

第４週	8／4(月)	／5(火)
午前 9:30~ 12:00	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ⑤ 9:30～11:00 学校経営の課題 徳永　保 11:15~12:15 生涯学習 (文)	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ⑥ 9:30~11:00 人生論 金子　満雄 11:30~12:00 閉講式
午後１ 13:30~ 15:00	不登校・いじめへの対応 大木　みわ	
午後２ 15:15~ 16:45	特別支援教育 上林　靖子	

★印：衛星配信

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員等中央研修講座（第３回校長，教頭等）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第一係				
研修目的（趣旨）	校長，教頭等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。				
対象	小・中学校の校長・教頭，指導主事				
開催期日	平成１６年　１月　７日（水）　～　平成１６年　１月２８日（水）				２２日間
参加人数	計画人数	２５０人	受講者数	２３４人	（参加率）　９３．６％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	196人	83.8%	37人	15.8%	1人	0.4%	0人	0.0%	0人	0.0%
割合(%)										

２．研修内容に関する主な意見

○当面する教育課題，改革の動向について理解できたことが良かった。
○危機管理の講義・演習は，今後の学校経営の中で役立つ良い研修であった。
○学校という組織をいかにﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄすることが管理職であることが痛感させられた。
○組織ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄは，興味深いが，企業の手法を学校で使えるようにするためにの具体的なﾌﾟﾗﾝや事例がほしい。
○音楽のつどいは研修中のホッとしたひといきでした。心が癒された。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度教職員等中央研修講座日程表：第３回校長・教頭等研修講座（２７０回）

平成16年1月7日(水)～平成16年1月28日(水)

第１週			１／７(水) 科　目　名 （講師名）	１／８(木) 科　目　名 （講師名）	１／９(金) 科　目　名 （講師名）	１／10(土)	１／11(日)
午　前 9:30~ 12:00			受付 10:40～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ①	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ② 10:30～ 世界と日本 飯田　健一	8:30～9:20 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ③ 教職員(1) 俵　正市	自由研修	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00			開講式 ★教育改革の推進 （文）	13:30~16:00 教育と法規 菱村　幸彦	13:00~15:30 教職員(2) 俵　正市 15:45~16:45 ★生涯学習行政の動向について （文）		
午後２ 15:15~ 16:45			写真撮影 ＧＫＫ 班長会①	16:15～ 班別協議会①	17:00～ 班別協議会②		
第２週	１／12(月)	／13(火)	／14(水)	／15(木)	／16(金)	／17(土)	／18(日)
午前１ 8:45~ 10:15	自由研修 （成人の日）	実践研究①	実践研究②	実践研究③	9:00～ 組織マネジメント （４）	9:00~11:00 特別実践研究	自由研修
午前２ 10:30~ 12:00		教育課題演習（１）	企業マネジメント 田村　哲夫	組織マネジメント （１）		自由研修	
午後１ 13:30~ 15:00		教育課題演習（２）	13:00~13:20 班長会② エネルギー教育　（文）	組織マネジメント （２）	マメジメント （５）		
午後２ 15:15~ 16:45		危機管理 田中　正博	不登校・いじめへの対応 菅野　純	組織マネジメント （３）	組織マネジメント （６）		
17:00~		17:00~18:00 学校管理運営演習事前検討会①	17:00~18:00 学校管理運営演習事前検討会②				
第３週	１／19(月)	／20(火)	／21(水)	／22(木)	／23(金)	／24(土)	／25(日)
午　前 9:30~ 12:00	8:30～9:30 実践研究④ 学校管理運営演習(1)	学校管理運営演習（３）	学校管理運営演習（５）	教育課程 谷川　彰英	館外活動 （歌舞伎座）	自由研修	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00	学校管理運営演習（２）	学校管理運営演習（４）	★地方教育行政制度の改善 （文）	13:00~14:30 ★学校における組織マネジメントの実際 木岡　一明	館外活動 （歌舞伎座）		
午後２ 15:15~ 16:45	17:00~18:30 教育課程及び指導の充実・改善方策について （文）	16:40~17:10 子どもの居場所づくりについて （文）	教職員のメンタルヘルス 夏目　誠 班長会③	14:45~16:15 特別支援教育 上林　靖子 17:00~18:30 芸術 蒲原　史子 小林　功			
第４週	１／26(月)	／27(火)	／28(水)				
午　前 9:30~ 12:00	道徳教育 横山　利弘	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ④ 総合的な学習の時間 平野　朝久	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ⑤ 9:30~11:00 倫理・哲学 今道　友信 11:30~12:00 閉講式				
午後１ 13:30~ 15:00	環境教育 高田　研	人権尊重の教育 福田　弘					
午後２ 15:15~ 16:45	著作権 （文）	自然科学 本川　達雄					

★印：衛星配信

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員等中央研修講座（第４回校長，教頭等）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第一係				
研修目的（趣旨）	校長，教頭等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。				
対象	小学校の教頭･校長，幼稚園園長，指導主事，センター指導主事				
開催期日	平成１６年　２月１２日（木）　～　平成１５年　３月　４日（木）				２２日間
参加人数	計画人数	２００人	受講者数	１６０人	（参加率）　８０．０％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	147人	91.9%	13人	8.1%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%
割合(%)										

２．研修内容に関する主な意見

○教育行政を企画・推進する第一線の文科省の先生方の新鮮な情報提供，適切な課題により見方を広げられた事例研究・演習問題・組織活性化に必要なマネジメント理論，期待以上であった。
○管理職として学校の活性化を進めるために，何をどのように評価し，改善を図れば良いか体験を通して学ぶことができた。
○自分の教育観を全般的に見直すことができ，新たに何をして行くべきか方向が見えてきた。
○組織マネジメントの講座で，学校教育に関わっての具体的な内容がもう少しほしかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度教職員等中央研修講座日程表：第４回校長・教頭等研修講座（２７１回）

平成16年2月12日（木）～平成16年3月4日（木）

第１週				２／12（木） 科　目　名 （講師名）	２／13（金） 科　目　名 （講師名）	２／14（土）	２／15（日）
午　前 9:30~ 12:00				受付 10:40～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ①	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ② 10:30～ リーダー論 金平敬之助	自由研修	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00				開講式 ★教育改革の推進 （文）	13:30~16:00 教育と法規 菱村　幸彦		
午後２ 15:15~ 16:45				写真撮影 ＧＫＫ 班長会①	16:15～ 班別協議会①		
第２週	２／16（月）	／17（火）	／18（水）	／19（木）	／20（金）	／21（土）	／22（日）
午前１ 8:45~ 10:15	8:30～9:20 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ③ 教職員（1） 松崎　勝	実践研究①	実践研究②	実践研究③	9:00～ 組織マネジメント （４）	9:00~11:00 特別実践研究	自由研修
午前２ 10:30~ 12:00		教育課題演習（１）	企業マネジメント 津田　和明	組織マネジメント （１）		自由研修	
午後１ 13:30~ 15:00	13:00~13:20 班長会② 13:30~16:00 教職員（2） 松崎　勝	教育課題演習（２）	13:00~14:30 ★学級経営をめぐる問題とその対応 小松　郁夫	組織マネジメント （２）	組織マネジメント （５）		
午後２ 15:15~ 16:45		★危機管理 尾木　和英	14:45~16:15 世界と日本 平野次郎 17:00~18:30 芸術 松本　宰二 梅田　朋子	組織マネジメント （３）	組織マネジメント （６）		
17:00~	16:15~18:00 班別協議会② 事前検討会②	学校管理運営演習事前検討会②					
第３週	２／23（月）	／24（火）	／25（水）	／26（木）	／27（金）	／28（土）	／29（日）
午　前 9:30~ 12:00	館外活動 （歌舞伎座）	8:30～9:30 実践研究④ 学校管理運営演習（1）	学校管理運営演習 （３）	学校管理運営演習 （５）	教育課程 無藤隆（幼） 児島　邦宏	自由研修	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00	館外活動 （歌舞伎座）	学校管理運営演習 （２）	学校管理運営演習 （４）	地方教育行政制度の改善 （文）	地方行財政制度（文）		
午後２ 15:15~ 16:45				教職員のメンタルヘルス 町沢　静夫 17:00~18:30 教育課程及び指導の充実・改善方策について （文）	学校における組織マネジトの実際 岡東　壽隆		
第４週	３／１（月）	／２（火）	／３（水）	／４（木）			
午　前 9:30~ 12:00	★道徳教育 七條　正典	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ④ 総合的な学習の時間 西野　範夫	9:30~12:00 健康教育 石川哲也	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ⑤ 9:30~11:00 スポーツ 西田　善夫			
午後１ 13:30~ 15:00	13:30~15:00 人権尊重の教育 柏女　霊峰	13:30~15:00 特別支援教育 牟田　悦子	13:30~15:00 ★著作権 （文）	11:30~12:00 閉講式			
午後２ 15:15~ 16:45	不登校・いじめへの対応 亀口　憲治 17:00~17:30 子どもの居場所づくりについて（文）	15:15~16:15 生涯学習行政の動向について（文） 16:30~18:00 雅楽講座と雅楽鑑賞の会	15:15~16:45 産業・経済 袖山　雅弘				

★印：衛星配信

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員等中央研修講座（第１回中堅教員）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第一係				
研修目的（趣旨）	中堅教員等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。				
対象	小・中・高等学校の中堅教員（教務主任）				
開催期日	平成１５年　５月　６日（火）　～　平成１５年　６月　６日（金）				３２日間
参加人数	計画人数	２５０人	受講者数	２０２人	（参加率）　８０．８％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	157人	77.7%	45人	22.3%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○著名人の講義・法規演習・ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄなどとても有意義な時間でした。
○新教育課程やそれに関わる答申，教育の今日的な課題が分かり，自分が歩むべき道がはっきりとしてきました。
○ｴﾝｶｳﾝﾀｰの学級経営のｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ実践ﾜｰｸ。ｷｬﾘｱｶﾞｲﾀﾞﾝｽは小中高別にﾜｰｸをして欲しかった。
○ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研修は，4週目でも良かった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度教職員等中央研修講座日程表：第１回中堅教員研修講座（２６４回）

平成15年5月6日（火）～平成15年6月6日（金）

第１週		５／６（火） 科　目　名 （講師名）	５／７（水） 科　目　名 （講師名）	５／８（木） 科　目　名 （講師名）	５／９（金） 科　目　名 （講師名）	５／10（土）	５／11（日）
午　前 9:30～ 12:00		受付 10:40～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ①	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ②	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ③ 教育と法規 伊藤　公一	班長会② 教職員（1） 清水　幹裕	自由研修	自由研修
午後１ 13:30～ 15:00		開講式 ★教育改革の推進（文） 竹下　典行	世界と日本 森本　敏	13:00～14:00 ★児童の権利条約（文） 14:30～16:00 コミュニケーション	13:30～16:00 教職員（2） 清水　幹裕		
午後２ 15:15～ 16:45		写真撮影 ＧＫＫ 班長会①	班別協議会①	16:15～ 班別協議会②			
第２週	５／12（月）	／13（火）	／14（水）	／15（木）	／16（金）	／17（土）	／18（日）
午　前 9:30～ 12:00	教育課題演習 危機管理（1）	教育課題演習 道徳教育（1）	道徳教育 七條　正典	学校経営 葉養　正明	教育課程 安彦　忠彦（小中） 山極　隆（高）		
午後１ 13:30～ 15:00	教育課題演習 危機管理（2）	教育課題演習 道徳教育（2）	13:30～16:00 不登校問題の理解と対応 伊藤美奈子	人権尊重の教育 坪井　節子 15:15～17:15	13:30～16:00 学習指導と評価 梶田　正巳	自由研修	自由研修
午後２ 15:15～ 16:45	危機管理 上地　安昭 17:00～18:00 学校管理運営演習事前検討会①	16:15～18:00 学校管理運営演習事前検討会②	16:15～17:45 実践研究①	実践研究②	16:15～17:15 実践研究③		
第３週	５／19（月）	５／20（火）	／21（水）	／22（木）	／23（金）	／24（土）	／25（日）
午　前 9:30～ 12:00	生徒指導 國分　康孝	総合的な学習の時間（1） ★澁澤 文隆（小中） 工藤 文三（高）	実践研究⑤ 10:30～ ★地方行財政制度（文）	★特別活動 高階　玲治	館外活動 （歌舞伎座）	自由研修	自由研修
午後１ 13:30～ 15:00	13:00～15:30 地方教育行財政制度 松井　一麿	総合的な学習の時間（2）	13:30～16:00 ★学習の評価 坂口　浩司 吉川　成夫	倫理・哲学 加藤　尚武 15:15～15:45 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ④	館外活動 （歌舞伎座）		
午後２ 15:15～ 16:45	15:45～17:15 実践研究④	総合的な学習の時間（3） ～16:00	16:15～18:00 学校管理運営演習事前検討会③	16:00～18:00 学校管理運営演習事前検討会④			
第４週	５／26（月）	／27（火）	／28（水）	／29（木）	／30（金）	５／31（土）	６／１（日）
午　前 9:30～ 12:00	学校管理運営演習 （１）	学校管理運営演習 （３）	学校管理運営演習 （５）	学校管理運営演習 （７）	特別支援教育 中井　滋	9:00～11:00 特別実践研究	自由研修
午後１ 13:30～ 15:00	学校管理運営演習 （２）	学校管理運営演習 （４）	学校管理運営演習 （６）	★地方教育行政制度の改善（文）	13:00～14:30 生涯学習 渋谷　英章	自由研修	
午後２ 15:15～ 16:45				いじめ問題の理解と対応 森田　洋司 班長会③	14:45～16:15 健康教育 和唐　正勝 17:00～18:30 芸術 蒲原　史子 小林　功		
第５週	６／２（月）	／３（火）	／４（水）	／５（木）	／６（金）		
午　前 9:30～ 12:00	組織マネジメント （１）	★情報教育 赤堀　侃司	選択講義 (1) (2) (3) 環境教育 市田則孝，三島次郎 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ教育 池田 幸也 国際理解教育 多田孝志，田島伸二 学級経営をめぐる問題とその対応	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ⑤ 進路指導 竹内登規夫	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ⑥ 9:30～11:00 スポーツ 与田　剛		
午後１ 13:30～ 15:00	組織マネジメント （２）	★著作権 （文）		人生論 千葉　紘子	11:30～12:00 閉講式		
午後２ 15:15～ 16:45	組織マネジメント （３）	企業マネジメント 神山　雅弘					

★印：衛星配信

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員等中央研修講座（第２回中堅教員）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第一係				
研修目的（趣旨）	中堅教員等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。				
対象	小学校の中堅教員				
開催期日	平成１５年　８月１２日（火）　～　平成１５年　９月１２日（金）				３２日間
参加人数	計画人数	２５０人	受講者数	２３０人	（参加率）　９２．０％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	208人	90.4%	21人	9.1%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	0.4%

２．研修内容に関する主な意見

○一流の講師陣より，最も新しい情報を聴くことができて良かった。
○危機管理演習は大変参考になった。
○教育行政の流れ，目指すものが分かった。
○全体講義，ｸﾞﾙｰﾌﾟﾘｰｸ，選択講義と変化があり，充実した研修になった。
○演習の問題に対して，解決する方途，手段，ﾌﾟﾛｾｽが自分の中に形成された。
○内外のﾆｭｰｽや法改正に目を凝らし，耳を傾ける必要があると感じた。
○生演奏はなかなか聴けないので良かった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度教職員等中央研修講座日程表：第２回中堅教員研修講座（２６７回）

平成15年8 月12日（火）~平成15年9月12日（金）

第１週		８／12(火) 科目名 （講師名）	８／13(水) 科目名 （講師名）	８／14(木) 科目名 （講師名）	８／15(金) 科目名 （講師名）	８／16(土)	８／17(日)
午前 9:30~ 12:00		受付 10:40～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ①	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ②	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ③ 教育と法規 伊勢呂裕史	班長会② 教職員(1) 松崎　勝	自由研修	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00		開講式 教育改革の推進（文）	著作権 （文）	13:00~14:00 児童の権利条約（文） 14:30~16:00 コミュニケーション	13:30~16:00 教職員(2) 松崎　勝		
午後２ 15:15~ 16:45		写真撮影 ＧＫＫ 班長会①	班別協議会①	16:15~17:45 班別協議会②			
第２週	８／18(月)	／19(火)	／20(水)	／21(木)	／22(金)	／23(土)	８／24(日)
午前 9:30~ 12:00	教育課題演習 危機管理(1)	教育課題演習 道徳教育(1)	道徳教育 横山　利弘	教育課程 水原　克敏	★学習指導と評価 加藤　幸次	自由研修	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00	教育課題演習 危機管理(2)	教育課題演習 道徳教育(2)	13:30~16:00 不登校・いじめへの対応 菅野　純	13:30~16:00 学校経営 有村　久春	人権尊重の教育 森　実		
午後２ 15:15~ 16:45	危機管理 尾木　和英 17:00~18:00 学校管理運営演習事前検討会①	16:15~18:00 学校管理運営演習事前検討会②	16:15~17:45 実践研究①	16:15~17:45 実践研究②	15:15~17:15 実践研究③		
第３週	８／25(月)	／26(火)	／27(水)	／28(木)	／29(金)	／30(土)	／31(日)
午前 9:30~ 12:00	特別活動 片岡　徳雄	★総合的な学習の時間(1) 吉崎　静夫	★学習の評価 吉川　成夫	生徒指導 鵜養　美昭	地方教育行財政制度 松井　一麿	9:00~11:00 特別実践研究	
午後１ 13:30~ 15:00	世界と日本 池上　彰	総合的な学習の時間(2)	学級経営をめぐる問題 滝　充	地方行財政制度（文）	13:00~14:30 自然科学 村上　和雄	自由研修	自由研修
午後２ 15:15~ 16:45	15:15~17:15 実践研究④	総合的な学習の時間(3) ~16:00	15:15～18:00 学校管理運営演習事前検討会③	15:15~15:45 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ④ 16:00~18:00 学校管理運営演習事前検討会④	14:45~16:15 個に応じた学習指導 清水　静海		
17:00~					17:00~18:30 芸術 家田　紀子 金井　紀子		
第４週	９／１(月)	／２(火)	／３(水)	／４(木)	／５(金)	／６(土)	／７(日)
午前 9:30~ 12:00	学校管理運営演習（１）	学校管理運営演習（３）	学校管理運営演習（５）	学校管理運営演習（７）	館外活動（歌舞伎座）	自由研修	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00	学校管理運営演習（２）	学校管理運営演習（４）	学校管理運営演習（６）	地方教育行政制度の改善（文）	館外活動（歌舞伎座）		
午後２ 15:15~ 16:45				意欲を育てる学級経営 河村　茂雄 班長会③			
第５週	９／８(月)	／９(火)	／10(水)	／11(木)	／12(金)		
午前 9:30~ 12:00	組織マネジメント（１）	特別支援教育 牟田　悦子	選択講義(1)(2)(3) 情報教育 鈴木敏恵 環境教育 市川智史 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ教育 長沼豊 健康教育 ★中村明子，野津有司	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ⑤ 進路指導 渡辺三枝子	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ⑥ 9:30~11:00 文学 杉みき子		
午後１ 13:30~ 15:00	組織マネジメント（２）	国際理解教育 影浦　攻		スポーツ 衣笠　祥雄	11:30~12:00 閉講式		
午後２ 15:15~ 16:45	組織マネジメント（３）	企業マネジメント 辰巳　進					
★印：衛星配信							

Ⅰ　研修概要

研 修 名	教職員等中央研修講座（第３回中堅教員）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第一係				
研修目的（趣旨）	中堅教員等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。				
対　　象	小・中学校の中堅教員				
開催期日	平成１５年９月３０日（火）　～　平成１５年１０月３１日（金）				３２日間
参加人数	計画人数	３００人	受講者数	２８６人	（参加率）　９５．３％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	255人	89.2%	29人	10.1%	0人	0.0%	0人	0.0%	2人	0.7%

２．研修内容に関する主な意見

○他県の先生方との情報交換は，とても有意義なものでした。
○教育の現代的課題から法規の分野にいたるまで，様々な角度から教育について研修させていただき，大変視野を広げることができた。
○総合的な学習は目からｳﾛｺが落ちる思いでした。
○音楽的な情操は教師にとって大切なものである。心のﾘﾌﾚｯｼｭになりました。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度教職員等中央研修講座日程表：第３回中堅教員研修講座（２６８回）

平成15年9月30日(火)~平成15年10月31日(金)

第１週		９／30(火) 科　目　名 （講師名）	10 ／１(水) 科　目　名 （講師名）	／２(木) 科　目　名 （講師名）	／３(金) 科　目　名 （講師名）	／４(土)	／５(日)
午　前 9:30~ 12:00		受付 10:40～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ①	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ② 10:30～ 世界と日本 河野　健一	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ③ 教育と法規 若井　彌一	班長会② 教職員(1) 清水　幹裕	自由研修	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00		開講式 教育改革の推進（文）	著作権 （文）	13:00~14:00 児童の権利条約（文）	13:30~16:00 教職員(2) 清水　幹裕		
午後２ 15:15~ 16:45		写真撮影 ＧＫＫ 班長会①	班別協議会 ①	14:30~16:00 コミュニケーション 16:15~17:45 班別協議会②			
第２週	10／６(月)	／７(火)	／８(水)	／９(木)	／10(金)	／11(土)	／12(日)
午　前 9:30~ 12:00	教育課題 演習 危機管理(1)	教育課題 演習 道徳教育(1)	道徳教育 横山　利弘	8:45～10:15 実践研究②	教育課程 安彦　忠彦	自由研修	自由研修
				10:30～学級経営をめぐる問題とその対応 諸富　祥彦			
午後１ 13:30~ 15:00	教育課題 演習 危機管理(2)	教育課題 演習 道徳教育(2)	13:30～16:00 不登校・いじめへの対応 勝田　顕	人権尊重の教育 坪井　節子	13:30~16:00 地方教育行財政制度 佐々木正峰		
午後２ 15:15~ 16:45	危機管理 高階　玲治 17:00~18:00 学校管理運営演習事前検討会①	16:15~18:00 学校管理運営演習事前検討会②	16:15～17:45 実践研究①	15:15~17:15 実践研究③	16:15~17:15 実践研究④		
第３週	10／13(月)	／14(火)	／15(水)	／16(木)	／17(金)	／18(土)	／19(日)
午　前 9:30~ 12:00	自由研修 （体育の日）	★学校経営 八尾坂　修	生徒指導 星野　周弘	9:00～ ★総合的な学習の時間(1) 村川　雅弘	★学習の評価 工藤　文三	9:00~11:00 特別実践研究	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00		13:30~16:00 学習指導と評価 梶田　叡一	地方行財政制度（文）	総合的な学習の時間(2)	13:00~14:30 リーダー論 童門　冬二	自由研修	
午後２ 15:15~ 16:45		16:15~18:00 学校管理運営演習事前検討会③	15:15～18:00 学校管理運営演習事前検討会④	総合的な学習の時間(3) ～15:30	14:45~16:15 個に応じた学習指導 加藤　幸次		
17:00~				16:15~16:45 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ④	17:00~18:30 芸術 家田　紀子 金井　紀子		
第４週	10／20(月)	／21(火)	／22(水)	／23(木)	／24(金)	／25(土)	／26(日)
午　前 9:30~ 12:00	学校管理運営演習 （１）	学校管理運営演習 （３）	学校管理運営演習 （５）	学校管理運営演習 （７）	館外活動 （国立劇場）	自由研修	自由研修
午後１ 13:30~ 15:00	学校管理運営演習 （２）	学校管理運営演習 （４）	学校管理運営演習 （６）	地方教育行政制度の改善 （文）	館外活動 （国立劇場）		
午後２ 15:15~ 16:45				ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞﾏｲﾝﾄﾞを生かした学級・学校づくり 黒沢　幸子			
				班長会③			
第５週	10／27(月)	／28(火)	／29(水)	／30(木)	／31(金)		
午　前 9:30~ 12:00	組織マネジメント （１）	特別支援教育 大南　英明	選択講義 (1)(2)(3) 情報教育 林　徳治 環境教育 ★ｻﾝｶﾞﾝｺﾞｲ.岡島成行 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ教育 ★吉永　宏 健康教育 野津　有司	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ⑤ ★進路指導 渡辺三枝子	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ⑥ 9:30~11:00 スポーツ 西田　善夫		
午後１ 13:30~ 15:00	組織マネジメント （２）	企業マネジメント 木村　政雄		13:30~16:00 特別活動	11:30~12:00 閉講式		
午後２ 15:15~ 16:45	組織マネジメント （３）	自然科学 坂田　俊文		成田　國英			

★印：衛星配信　※10/29の吉永講師の衛星収録は午前で，配信は13:30～16:00

Ⅰ　研修概要

研 修 名	教職員等中央研修講座（第４回中堅教員）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第一係				
研修目的（趣旨）	中堅教員等に対し，学校の管理運営，学習指導などの諸問題について，それぞれの職務に必要な研修を行い，その識見を高め，指導力の向上を図ることを目的とする。				
対　　象	高等学校の中堅教員				
開催期日	平成１５年１１月１１日（火）　～　平成１５年１２月１２日（金）				３２　日間
参加人数	計画人数	２００人	受講者数	１８０人	（参加率）　９０．０％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	175人	97.2%	2人	1.1%	2人	1.1%	0人	0.0%	1人	0.6%

２．研修内容に関する主な意見

○長期間の研修を受けたことがなかったので，学校現場を離れ，他の先生方との交流も通じ，自分にとって教育を見つめ直す良い機会となった。
○ここで得た知識・体験を必ず還元したい。
○教育関係法規・管理運営面について学べたことが良かった。
○いわゆる問題教師・指導力不足教師に対して同僚教員として，管理職として，具体的にどんなことができるのか等の講義・演習があれば良かった。
○法規演習の解答集が半ば公然と出回っている。出題を変えるなどの工夫を要望します。
○様々な価値観のある中で音楽の集いは7時間半，歌舞伎も10時間近く座りっぱなしは苦痛である。
○日本の伝統楽器の演奏が聴きたかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度教職員等中央研修講座日程表：第４回中堅教員研修講座（２６９回）

平成15年11月11日（火）～平成15年12月12日（金）

第１週		11／11（火） 科目名 （講師名）	11／12（水） 科目名 （講師名）	11／13（木） 科目名 （講師名）	11／14（金） 科目名 （講師名）	11／15（土）	11／16（日）
午前 9:30～ 12:00		受付 10:40～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ①	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ②	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ③ ★教育と法規 伊藤　公一	班長会② 教職員(1) 清水　幹裕	自由研修	自由研修
午後１ 13:30～ 15:00		開講式 教育改革の推進（文）	10:30～ 世界と日本 森本　敏 地方行財政制度 （文）	13:00~14:00 児童の権利条約（文）	13:30~16:00 教職員(2) 清水　幹裕		
午後２ 15:15～ 16:45		写真撮影 ＧＫＫ 班長会①	班別協議会①	14:30~16:00 コミュニケーション 16:15～ 班別協議会②			

第２週	11／17（月）	／18（火）	／19（水）	／20（木）	／21（金）	／22（土）	／23（日）
午前 9:30～ 12:00	教育課題演習 危機管理(1)	教育課題演習 道徳教育(1)	道徳教育 藤永　芳純	教育課程 山極　隆	学習指導と評価 梶田　正巳	自由研修	自由研修
午後１ 13:30～ 15:00	教育課題演習 危機管理(2)	教育課題演習 道徳教育(2)	13:30~16:00 不登校・いじめへの対応 金澤　純三	人権尊重の教育 福田　弘	産業・経済 水谷　研治		
午後２ 15:15～ 16:45	危機管理 上地　安昭 17:00~18:00 学校管理運営演習事前検討会①	16:15~18:00 学校管理運営演習事前検討会②	16:15~17:45 実践研究①	15:15~17:15 実践研究②	15:15~17:15 実践研究③		

第３週	11／24（月）	／25（火）	／26（水）	／27（木）	／28（金）	／29（土）	／30（日）
午前 9:30～ 12:00	自由研修 （振替休日）	特別活動 天笠　茂	★総合的な学習の時間(1) 工藤　文三	学校経営 菊池龍三郎	地方教育行財政制度 松井　一麿	9:00~11:00 特別実践研究	
午後１ 13:30～ 15:00		著作権 （文）	総合的な学習の時間(2)	13:30~16:00 ★生徒指導 坂本　昇一	13:00~14:30 健康教育 町沢　静夫	自由研修	自由研修
午後２ 15:15～ 16:45		実践研究④ 15:15 ～16:15 16:30~18:00 学校管理運営演習事前検討会③	総合的な学習の時間(3) ～16:00 16:45~17:15 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ④	16:15~18:00 学校管理運営演習事前検討会④	14:45~16:15 薬物乱用・性非行問題への対応 石橋　昭良 17:00~18:30 芸術 前澤　悦子 田中はる子		

第４週	12／１（月）	／２（火）	／３（水）	／４（木）	／５（金）	／６（土）	／７（日）
午前 9:30～ 12:00	学校管理運営演習 （１）	学校管理運営演習 （３）	学校管理運営演習 （５）	学校管理運営演習 （７）	館外活動 （国立劇場）		
午後１ 13:30～ 15:00	学校管理運営演習 （２）	学校管理運営演習 （４）	学校管理運営演習 （６）	地方教育行政制度の改善 （文）	館外活動 （国立劇場）	自由研修	自由研修
午後２ 15:15～ 16:45				ｷｰﾊﾟｰｿﾝとしてのｺｰﾁﾝｸﾞ 市毛　恵子 班長会③			

第５週	12／８（月）	／９（火）	／10（水）	／11（木）	／12（金）		
午前 9:30～ 12:00	組織マネジメント （１）	進路指導 鹿嶋研之助	選択講義 (1) (2) (3) 情報教育 鈴木克明 環境教育 小澤紀美子 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ教育 田代正美　興梠克 国際理解教育 ★米田伸次	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ⑤ ★特別支援教育 飯田　雅子	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ⑥ 9:30~11:00 スポーツ 秋山エリカ 11:30~12:00 閉講式		
午後１ 13:30～ 15:00	組織マネジメント （２）	自然科学 三浦　宏文		歴史・民俗 安田　喜憲			
午後２ 15:15～ 16:45	組織マネジメント （３）	企業マネジメント 木村　政雄					

★印：衛星配信

Ⅰ　研修概要

研修名	生徒指導総合研修講座				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	不登校・いじめ・暴力行為など生徒指導上の諸問題に適切に対応するため，生徒指導担当教員に対して，生徒指導，教育相談の理論及び実際について総合的かつ実践的研修を実施する。				
対象	次の事項のいずれかに該当し、都道府県教育委員会が推薦する国公立小学校、中学校、高等学校、中等教育学校等の教員又は指導主事 ・都道府県・市町村教育委員会において生徒指導又は教育相談を担当する指導主事等 ・都道府県教育委員会等が行う生徒指導に関する講座を受講した生徒指導主事、若しくは教育相談（カウンセリング）講座の中級程度以上の講座を受講した教育相談担当教員又は養護教員 ・上記のほか、特に都道府県教育委員会教育長が適任と認める教員又は養護教員				
開催期日	平成１５年　７月２２日（火）～ 平成１５年　８月　８日（金）				１８日間
参加人数	計画人数	１４１人	受講者数	１３８人	（参加率）	９７．９％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	80人	58.8%	50人	36.8%	0人	0.0%	0人	0.0%	6人	4.4%
割合(%)										

２．研修内容に関する主な意見

○全国のトップの講師の方々から講義や演習を受けることができ、とても感謝している。（同様他２件）
○もう少し演習や対話の機会を増やしてほしい。（同様他２件）
○事例研究は、全体会で取り上げるべきものをいきなり決めるため、やりにくかった。（同様他１件）
○講座の中に演習も含まれており、印象に残るものが多かった。（同様他１件）
○レビューディスカッションが良かった。（同様他１件）
○グループエンカウンターを知らない受講生にとっては、最初の日にリラックスした演習があったので、後の講義でも内容を掴みやすかったのではないかと思う。ソーシャルスキルトレーニングについても同様にすると良いと思う。
○理論的な裏付けをすることができ、面白く興味深い講義ばかりでためになった。
○実践交流の場がもう少しあってもよいような気がした。
○ブリーフカウンセリングについては、技法（実技）の設定に疑問を感じた。
○生徒指導事例研究においては、それぞれの事例について指導助言をいただきたかった。
○小中高の生徒指導に関しては、一まとまりで括れない面が大きく、講師もどちらに話を合わせるかで苦慮していたように思われる。
○事例研究は身近な問題を取り上げているため、大変参考になった。
○行政としてどのような施策へ反映できるのか協議したり、指導主事として学校にどのように指導・助言したらよいのか検討したりする視点で進めると良いと思う。
○たくさんのカウンセリングを紹介していただくのはありがたいのだが、時間が限られているので、もう少し数を絞り、演習をじっくりやってもっと理解を深めたいと思った。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日 程

月・日(曜)	講　師　名	講　義　題
7／22(火)	オリエンテーション・開講式	
	文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導室長 大山真末	生徒指導上の諸問題の現状と文部科学省の施策について
	独立行政法人教員研修センター主幹 福田隆行	コミュニケーション・人間関係づくり
7／23(水)	筑波大学教授 新井邦二郎	◇児童期の心理と発達課題（小学校）
	茨城大学教授 安達喜美子	◇思春期の心理と発達課題（中高等学校）
	前茨城県福祉相談センター児童健全育成主査 加倉井正	児童虐待問題の理解と対応
7／24(木)	千葉大学名誉教授 坂本昇一	生徒指導の原理と方法
	関西学院大学教授 横山利弘	生きる力を育む生徒指導の在り方 －道徳教育との接点－
	文部科学省初等中等教育局視学官 宮川八岐	生徒指導の実践的課題
7／25(金)	東京学芸大学教授 上野一彦	◇ＬＤ・ＡＤＨＤ児の理解と指導 ☆
	メンタルヘルス研究所長、武蔵病院外来診療部長 町沢静夫	◇青少年問題の理解と対応
	警察庁少年課企画係長 井上裕基	☆関係機関との連携の在り方（１） 警察庁
	厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課指導係 三浦多美子	☆関係機関との連携の在り方（２） 厚生労働省
	法務省東京保護観察所観察一課保護観察官 田島佳代子	☆関係機関との連携の在り方（３） 法務省
7／26(土)	自由研修	
7／27(日)	自由研修	
7／28(月)	東京都杉並区立天沼中学校校長 嶋崎政男	☆カウンセリングマインドを生かした学級・学校づくり
	大阪市立大学大学院教授 森田洋司	☆いじめ問題の理解と対応
7／29(火)	早稲田大学教授 菅野純	☆不登校児童生徒への援助の在り方
	国立教育政策研究所生徒指導研究センター総括研究官 森嶋昭伸	◇学級がうまく機能しない状況への理解と対応
	警視庁少年育成課副主幹 石橋昭良	☆◇薬物乱用・性非行問題への対応
7／30(水)	千葉大学助教授 諸冨祥彦	☆◇心を育てるグループ・エンカウンター
	南山大学教授 津村俊充	◇ソーシャル・スキル・トレーニングの理論と実際
		生徒指導事例研究（１）

◇印は校種別の講義または選択の講義　　☆印は衛星配信講義

月・日（曜）	講師名		講義題
7／31（木）	帝京大学教授 星野周弘		問題行動を起こす児童生徒への対応
			生徒指導事例研究（2）
8／1（金）	スーパーバイザー	奈良教育大学助教授 池島徳大	生徒指導事例研究（3）（4）
		熊谷市家庭児童相談室相談員 井上清	
		東京学芸大学講師 樺澤徹二	
		育英短期大学教授 森川澄男	
		広島国際大学助教授 相馬誠一	
		東海女子大学助教授 花井正樹	
8／2（土）	自由研修		
8／3（日）	自由研修		
8／4（月）	国際基督教大学専任講師 西川昌弘		◇ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞの理論と方法 ◇ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞの実際
	都留文科大学教授 河村茂雄		☆◇教育指導に生かすﾛｰﾙﾌﾟﾚｲﾝｸﾞの理論と方法 ◇教育指導に生かすﾛｰﾙﾌﾟﾚｲﾝｸﾞの実際
	兵庫教育大学教授 冨永良喜		◇ストレスマネジメントの理論と方法 ◇ストレスマネジメントの実際
8／5（火）	東京成徳大学教授 國分康孝		開発的カウンセリング
	函館大学専任講師 会沢信彦		☆ブリーフ・カウンセリングの理論と技法
8／6（水）	筑波大学教授 飯田稔		豊かな心の育成と自然体験活動
	日本体育大学教授 成田國英		☆体験活動の意義とそれを生かした生徒指導 小中高３校からの発表と討議・講義 新潟県燕市立燕東小学校，香川県大野原町立大野原中学校，栃木県立鹿沼高等学校
8／7（木）	日本女子大学教授 鵜養美昭		パネルディスカッション 「規範意識を育てる指導」 受講生４名による討議と講師講話
	慶應義塾大学助教授 伊藤美奈子		スクールカウンセラーを活用した組織的な生徒指導の在り方
	東京女子体育大学教授 尾木和英		生徒指導の当面する課題と全体計画
8／8（金）			成果と還元－研修成果の発表と還元についての討議－
	上越教育大学教授 若井彌一		生徒指導に関わる法的諸問題
	閉講式		

◇印は校種別の講義または選択の講義　　☆印は衛星配信講義

Ⅰ　研修概要

研修名	英語教育指導者講座（第１ブロック）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下，中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して，英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上，特に，英語を聞き話すことを指導する力を育成し，中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。				
対象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。				
開催期日	平成１５年　８月　１８日（月）～ 平成１５年　９月　５日（金）				１９日間
参加人数	計画人数	１００人	受講者数	５４人	（参加率）　５４．０％
開催場所	秋田県総合教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	38人	70.4%	15人	27.8%	1人	1.9%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○参考になった講義が多かった。
○普段学校ではなかなか知ることができない実践例や理論を知ることができ有益であった。
○実際に自分自身が体験することで、その理論を深く理解することができた。
○グループディスカッション、グループ発表、司会、レポート発表といった活動が組み込まれてあるのは大変有効である。
○指導理論の講義では専門用語が多すぎて理解できないことがあった。
○講義の前の模擬授業は非常に参考になった。
○現場で生かせるような実践に即役立つような内容の講座ももっとあってもよいと思う。
○宿題が後半に集中していた。前半ではもっと課題を与えられても良かったと思う。
○講義によっては重複するものがあったので、事前に講義内容をチェックすべき。
○評価についてもう少し具体的に指導してほしい。
○評価についてはあえて日本語でやるべきだと思う。
○コンピュータの演習は出来ればレベル別にした方が良いと思う。
○中・高で分けたほうが明らかに効果的と思われる場面がいくつかあった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講　義　日　程

第１ブロック　　第１週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
[８月] １８日 （月）	10:30～11:00　受付 11:00～　　オリエンテーション	開　講　式 行政説明 樋口　聰 （文部科学省初等中等教育局国際教育課課長補佐）
１９日 （火）	ＡＢ ＴＯＥＦＬ－ＩＴＰ	ＡＢ 海外研修報告 鳥海中学校教諭　阿部貴紀 六郷高等学校教諭　今野　巌
２０日 （水）	Ａ　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	Ａ　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	Ｂ　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	Ｂ　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
２１日 （木）	Ａ　佐々木　雅子 （秋田大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	Ａ　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	Ｂ　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	Ｂ　佐々木　雅子 （秋田大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
２２日 （金）	Ａ　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	Ａ　馬場　哲生 （東京学芸大学助教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	Ｂ　馬場　哲生 （東京学芸大学助教授） 新しい指導と評価の理論と実践	Ｂ　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
２３日 （土）	自主研修	自主研修
２４日 （日）	自主研修	自主研修

第１ブロック　　第２週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
２５日（月）	A　ブラッド・ブラックストーン他 （国際教養大学教員予定者） 新しい言語活動の理論と実践	A　朝尾　幸次郎 （立命館大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
	B　朝尾　幸次郎 （立命館大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	B　ブラッド・ブラックストーン他 （国際教養大学教員予定者） 新しい言語活動の理論と実践
２６日（火）	A　朝尾　幸次郎 （立命館大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	A　ブラッド・ブラックストーン他 （国際教養大学教員予定者） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ブラッド・ブラックストーン他 （国際教養大学教員予定者） 新しい言語活動の理論と実践	B　朝尾　幸次郎 （立命館大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
２７日（水）	A　ウェザロール　ウィリアム （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践	A　渡部　良典 （秋田大学助教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　渡部　良典 （秋田大学助教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　ウェザロール　ウィリアム （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践
２８日（木）	A　デボラ フォアマン タカノ （同志社大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　ウェザロール　ウィリアム （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ウェザロール　ウィリアム （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践	B　デボラ フォアマン タカノ （同志社大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
２９日（金）	A　中嶋　嶺雄 （国際教養大学学長予定者） 教養講座	A　デボラ フォアマン タカノ （同志社大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　デボラ フォアマン タカノ （同志社大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　中嶋　嶺雄 （国際教養大学学長予定者） 教養講座
３０日（土）	自主研修	自主研修
３１日（日）	自主研修	自主研修

第１ブロック　　第３週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
[９月] １日 （月）	A　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 新しい指導と評価の理論と実践
２日 （火）	A　加納　幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	A　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　加納　幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
３日 （水）	A　阿部　祐子 （国際教養大学教員予定者） 新しい指導と評価の理論と実践	A　フランクリン・ギディオン （ﾁｬｰﾙﾄﾝ･ｱｽﾚﾃｨｯｸ取締役） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　フランクリン・ギディオン （ﾁｬｰﾙﾄﾝ･ｱｽﾚﾃｨｯｸ取締役） 新しい指導と評価の理論と実践	B　阿部　祐子 （国際教養大学教員予定者） 新しい指導と評価の理論と実践
４日 （木）	A　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　東後　勝明 （早稲田大学教授） 教養講座
	B　東後　勝明 （早稲田大学教授） 教養講座	B　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
５日 （金）	閉　講　式	

Ⅰ　研修概要

研修名	英語教育指導者講座（第２ブロック）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下，中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して，英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上，特に，英語を聞き話すことを指導する力を育成し，中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。				
対象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。				
開催期日	平成１５年１２月　１日（月）　～　平成１５年１２月１９日（金）				１９　日間
参加：数	計画人数	１００人	受講者数	２６人	（参加率）　２６．０％
開催場所	東北自治総合研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役にたたなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	20人	76.9%	5人	19.2%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	3.8%

２．研修内容に関する主な意見

○どの講師も最前線で活躍されている方々であり、このような機会を与えててくれて感謝したい。
○講義内容も言語活動、指導・評価のそれぞれにおいて、理論的なことと実践的なことの双方ともバランスよく指導してもらえた。
○中学や高校においての実践や指導・評価の方法はもちろん、ディベートなどの専門的な講義も非常に興味深く有意義なものであった。
○今の時代、今後将来の展望に立って、英語教育がどうあらねばならないか、多面的に示唆に富む内容の講義ばかりで、自分個人の指導法・評価法の改善のみならず、学校に戻った後リーダーとして職場や地区の英語教育の向上に努めなければならないという自覚ができた。
○模擬授業は大変役に立った。授業とは何かを考えさせられた。
○自分たちの授業をさらに磨くためにも、模擬授業の評価ができる講師を呼んでいただきたい。
○コンピュータを使った講義は、インターネットに接続しているという条件において、初めてその真価を発揮するものと思われる。
○コンピュータを使った演習は、操作の能力に個人差があるので、グループごとよりも能力別に初級者・上級者とコース別にし、それぞれに合ったコースを選択し演習できれば、もっと充実した内容になるのではないかと思う。
○あまりにも理論的な講義になると、どうしても専門用語が多く出てくるため、理解するのに苦労した。
○言っていることは分かるが現場でどうすればよいのか具体性に欠ける講義があった。
○評価に関する講義をもっと増やすべき。
○有益な講義がほとんどだったが、中には理論ばかりが強調され実践の手立てが明確にならないまま終わってしまった講義があり残念であった。
○資料を見ると内容が充実しているのに、実際の講義の仕方が整理されていない講師がいたのは残念。
○いくつかの授業の内容が一部重なるところがあったので、講師間の調整ができれば理想的。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 義 日 程

第 1 週

	午前（9：30～12：30）	午後（13：30～16：30）
	講師・内容	講師・内容
〔12〕 1日 (月)		13：00～13：30 受 付 13：30～ 開 講 式 45分間：文部科学省行政説明
2日 (火)	A 加納 幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	A 高梨 庸雄 （京都ノートルダム女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B 高梨 庸雄 （京都ノートルダム女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B 加納 幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
3日 (水)	A Ken Schmidt （東北文化学園大学講師） 新しい言語活動の理論と実践	A 高梨 庸雄 （京都ノートルダム女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B 高梨 庸雄 （京都ノートルダム女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B Ken Schmidt （東北文化学園大学講師） 新しい言語活動の理論と実践
4日 (木)	A 卯城 祐司 （筑波大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	A 小松 達也 （明海大学教授） 特別講座
	B 小松 達也 （明海大学教授） 特別講座	B 卯城 祐司 （筑波大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
5日 (金)	A 卯城 祐司 （筑波大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	A 蒔田 守 （筑波大学附属中学校） 新しい指導と評価の理論と実践
	B 蒔田 守 （筑波大学附属中学校） 新しい指導と評価の理論と実践	B 卯城 祐司 （筑波大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
6日	自主研修	自主研修
7日	自主研修	自主研修

第　2　週

	午前（9：30～12：30）	午後（13：30～16：30）
	講師・内容	講師・内容
8日 (月)	A　Timothy　Wright (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A　松本　茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B　松本　茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践	B　Timothy　Wright (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
9日 (火)	A　緑川日出子 (昭和女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A　松本　茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B　松本　茂 (東海大学教育研究所教授) 新しい言語活動の理論と実践	B　緑川日出子 (昭和女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
10日 (水)	A　朝尾幸次郎 (立命館大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	A　中嶋　洋一 (富山県砺波教育事務所) 模擬授業演習
	B　中嶋　洋一 (富山県砺波教育事務所) 模擬授業演習	B　朝尾幸次郎 (立命館大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
11日 (木)	A　朝尾幸次郎 (立命館大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	A　中嶋　洋一 (富山県砺波教育事務所) 模擬授業演習
	B　中嶋　洋一 (富山県砺波教育事務所) 模擬授業演習	B　朝尾幸次郎 (立命館大学教授) コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
12日 (金)	A　Timothy　Wright (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A　Anthony　Demko (日米会話学院専任講師) 新しい言語活動の理論と実践
	B　Anthony　Demko (日米会話学院専任講師) 新しい言語活動の理論と実践	B　Timothy　Wright (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
13日	自主研修	自主研修
14日	自主研修	自主研修

	午前（9：30～12：30）	午後（13：30～16：30）
	講師・内容	講師・内容
15日 (月)	A　村川　久子 (会津大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A　Huw　Oliphant (お茶の水女子大学外国人講師) 教養講座
	B　Huw　Oliphant (お茶の水女子大学外国人講師) 教養講座	B　村川　久子 (会津大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
16日 (火)	A　板垣　信哉 (宮城教育大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	A　根岸　雅史 (東京外国語大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
	B　根岸　雅史 (東京外国語大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	B　板垣　信哉 (宮城教育大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
17日 (水)	A　緑川日出子 (昭和女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	A　Keith　Adams (東北学院大学助教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B　Keith　Adams (東北学院大学助教授) 新しい言語活動の理論と実践	B　緑川日出子 (昭和女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
18日 (木)	A　平田　和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	A　Timothy　Wright (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践
	B　Timothy　Wright (大妻女子大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	B　平田　和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践
19日 (金)	9：00～　TOEFL－ITP 11：20～　海外研修報告① 平塚　裕喜 (石巻市立蛇田中学校教諭)	13：30～　海外研修報告② 佐藤　善則 (宮城県仙台第一高等学校教諭) 15：00～　閉講式

Ⅰ　研修概要

研修名	英語教育指導者講座（第３ブロック）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下，中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して，英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上，特に，英語を聞き話すことを指導する力を育成し，中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。				
対象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。				
開催期日	平成１５年　６月２３日（月）　～　平成１５年　７月１１日（金）				１９日間
参加：数	計画人数	１００人	受講者数	７３人	（参加率）　７３．０％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役にたたなかった		回答なし	
人数（人）	50人	69.4%	20人	27.8%	0人	0.0%	0人	0.0%	2人	2.8%

２．研修内容に関する主な意見

○すばらしい講師に恵まれ実り多い研修となった。このような機会を与えていただき大変感謝している。英語教師として忘れることのない経験となった。
○バラエティーに富んでおり、多くの視点から今までの指導を見直すことができた。ディスカッションが多く取り入れてあったので、講義にめりはりがあってよかったと思う。
○英語の読み方や俳句、ジョークなど、普段の授業の中では中々取り入れたくてもできない分野について学ぶことができ、授業に組み込んでいこうという気になった。
○理論と実践とがバランスよく配置されており、ちょうど良かったと思う。
○それぞれの先生方がそれぞれの得意分野についての講義を行ってくれるので有難いのだが、その分野について基礎知識が足りないと内容の理解が難しくなる。事前に準備できるようにしていただきたい。
○外国人講師の講義はすごく興味深いものが多いので、もう少し数を増やしてもよい。
○概論で終わるのではなく、具体的事例に基づいた検証･考察を増やして欲しい。
○評価については、今だれもが勉強したいことだと思う。今回もたくさん評価についてのレクチャーはあったが、具体的に日々の授業の例などをあげたものは少なく、理想論的な感があった。
○授業にすぐ活用できる講義をより多く取り入れてもらえると有難い。
○新しい評価の考えかたやテスト問題は、具体的に良い例を提示して指導してもらえると有難い。
○中学校の先生と高校の先生では抱えている問題の種類や質が違うのでもっと配慮すべき。議論がかみ合わない時がある。
○模擬授業演習は最も有効な研修なので回数を増やし、コメントするスーパーバイザーが必要であると思う。
○コンピュータを使用した講義はレベル別にした方が良いと思う。初めての人と慣れた人では扱う内容を変えてみてはどうだろうか。
○教材の作り方（プリント等）の内容がないので作って欲しいと思う。
○内容的に重なると思われる講座がいくつかあった。
○どの講義も質疑応答に時間を割いて欲しい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講　義　日　程

第３ブロック　　第１週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
[６月] ２３日 （月）		開　講　式
２４日 （火）	A　加納　幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	A　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　加納　幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
２５日 （水）	A　ジェフリー　ミラー （白鴎大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　ウィリアム　ウェザロール （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ウィリアム　ウェザロール （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践	B　ジェフリー　ミラー （白鴎大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
２６日 （木）	A　小菅　和也 （武蔵野大学助教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　卯城　祐司 （筑波大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　卯城　祐司 （筑波大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　小菅　和也 （武蔵野大学助教授） 新しい指導と評価の理論と実践
２７日 （金）	A　アンソニー　ニューエル （早稲田大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　模擬授業演習
	B　模擬授業演習	B　アンソニー　ニューエル （早稲田大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
２８日 （土）	自主研修	自主研修
２９日 （日）	自主研修	自主研修

第３ブロック　　第２週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
３０日（月）	A　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　熊井　信弘 （学習院大学助教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
	B　熊井　信弘 （学習院大学助教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
[７月] １日（火）	A　根岸　雅史 （東京外国語大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　熊井　信弘 （学習院大学助教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
	B　熊井　信弘 （学習院大学助教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	B　根岸　雅史 （東京外国語大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
２日（水）	A　長澤　邦紘 （茨城大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　ウィリアム　ウェザロール （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ウィリアム　ウェザロール （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践	B　長澤　邦紘 （茨城大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
３日（木）	A　卯城　祐司 （筑波大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　鈴木　健 （津田塾大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　鈴木　健 （津田塾大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　卯城　祐司 （筑波大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
４日（金）	A・B　海外研修報告 早川　充 （足利市立坂西中学校教諭） 星野　百合子 （宇都宮大学附属中学校教諭）	A・B ＴＯＥＦＬ－ＩＴＰ
５日（土）	自主研修	自主研修
６日（日）	自主研修	自主研修

第３ブロック　　第３週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
７日 （月）	A　田辺　洋二 （東京国際大学教授） 特別講座	A　東後　勝明 （早稲田大学教授） 教養講座
	B　東後　勝明 （早稲田大学教授） 教養講座	B　田辺　洋二 （東京国際大学教授） 特別講座
８日 （火）	A　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　馬場　哲生 （東京学芸大学助教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　馬場　哲生 （東京学芸大学助教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 新しい指導と評価の理論と実践
９日 （水）	A　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 新しい指導と評価の理論と実践
１０日 （木）	A　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	A　鈴木　健 （津田塾大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　鈴木　健 （津田塾大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
１１日 （金）	閉　講　式	

Ⅰ　研修概要

研修名	英語教育指導者講座（第４・５ブロック）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下，中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して，英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上，特に，英語を聞き話すことを指導する力を育成し，中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。				
対象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。				
開催期日	平成１５年１１月１０日（月）　～　平成１５年１１月２８日（金）				１９　日間
参加人数	計画人数	２００人	受講者数	８７人	（参加率）　４４．０　％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	46人	53.5%	33人	38.4%	4人	4.7%	0人	0.0%	3人	3.5%

２．研修内容に関する主な意見

○自分が指導上苦労している問題点についての解決策が得られた講義や、今後の自分が取り組んでいく方向性が見えてきた講義が多く、参加できて嬉しい。
○内容もコミュニケーション活動やフォニックス、評価等、色々な内容が盛り込まれており、参加者それぞれの問題意識に対応していたのではないかと思う。
○評価の仕方についてもっと話を聞きたかったのに、時間があまりなかったので、新しい情報が得られなかった。
○ディスカッションが各講義の後半に組み込まれているが、時間が足りないような感じがする。
○２週目から講義内容が単調で、同じような展開が続いたのでつまらなく感じた。
○内容によっては、中学と高校が混在する場では効果が半減するものもある。
○内容によっては日本語の方が良かった講義もあった。
○講師の中には考える時間を与えず次々と進んだり、淡々と進んだりする方がいたので辛かった。
○筑波フォーマットが適切でない場合もある。専門知識、理論、専門家からのアドバイスが必要と感じているときに、自分たちで問題を話し合い解決法を探せと言われ、途方にくれたことがあった。
○内容的に重複するものがあったので、各講師の先生方に、事前によく講義内容の検討をさせていただきたい。
○１人の講師で１回のみだと、皆色々な事を短い時間でやろうとするため、やや無理があるように思える。
○ディベートやスピーチなどは、１度の実践だけではなかなか思うように行かないので数回実践できるようなゆとりがほしい。
○内容が盛りだくさんすぎるので、精選してもう少しじっくり深く学べるように配慮してほしい。
○我々の英語運用の力を延ばす講義と、授業で利用できるテクニックを教える講義を明確に分けた方が分かりやすい。
○教材がどちらかというと中学校向けだったので、高校のテキストを使ったコミュニカティブな活動など、具体的な例を示してほしかった。
○時間が足りなかったせいか、グループごとに発表した後、個々にコメントがもらえなかった場合があった。「評価」してもらう機会を必ず作るべきだと思うが。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講　義　日　程

第１週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
[11月] １０日 （月）		開　講　式
１１日 （火）	A　加納　幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	A　田中　武夫 （山梨大学助教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　田中　武夫 （山梨大学助教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　加納　幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
１２日 （水）	A　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　阿部　一 （獨協大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　阿部　一 （獨協大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
１３日 （木）	A　ケネス・サガワ （日米会話学院専任講師） 新しい言語活動の理論と実践	A　アンソニー・ニューエル （早稲田大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　アンソニー・ニューエル （早稲田大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　ケネス・サガワ （日米会話学院専任講師） 新しい言語活動の理論と実践
１４日 （金）	A　アンソニー・デムコ （日米会話学院専任講師） 新しい言語活動の理論と実践	A　小松　達也 （明海大学教授） 特別講座
	B　小松　達也 （明海大学教授） 特別講座	B　アンソニー・デムコ （日米会話学院専任講師） 新しい言語活動の理論と実践
１５日 （土）	自主研修	自主研修
１６日 （日）	自主研修	自主研修

第２週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
１７日（月）	A　東後　勝明 （早稲田大学教授） 教養講座	A　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　東後　勝明 （早稲田大学教授） 教養講座
１８日（火）	A　クラウディア・ペレッティ （モデルランゲージスクール副代表） 新しい指導と評価の理論と実践	A　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 教師の指導力を伸ばすアクションリサーチ
	B　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 教師の指導力を伸ばすアクションリサーチ	B　クラウディア・ペレッティ （モデルランゲージスクール副代表） 新しい指導と評価の理論と実践
１９日（水）	A　投野　由紀夫 （明海大学助教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　大下　邦幸 （福井大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　大下　邦幸 （福井大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　投野　由紀夫 （明海大学助教授） 新しい指導と評価の理論と実践
２０日（木）	A　卯城　祐司 （筑波大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　大下　邦幸 （福井大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　大下　邦幸 （福井大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　卯城　祐司 （筑波大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
２１日（金）	A　卯城　祐司 （筑波大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　卯城　祐司 （筑波大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
２２日（土）	自主研修	自主研修
２３日（日）	自主研修	自主研修

第３週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
２４日（月）	自主研修	自主研修
２５日（火）	A　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　デボラ・フォアマン・タカノ （同志社大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　デボラ・フォアマン・タカノ （同志社大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
２６日（水）	A　朝尾　幸次朗 （立命館大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	A　デボラ・フォアマン・タカノ （同志社大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　デボラ・フォアマン・タカノ （同志社大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　朝尾　幸次朗 （立命館大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
２７日（木）	A　朝尾　幸次朗 （立命館大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	A　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	B　朝尾　幸次朗 （立命館大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
２８日（金）	ＴＯＦＥＬ　ＩＴＰ （Institutional Testing Program） 閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	英語教育指導者講座（第６ブロック）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下，中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して，英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上，特に，英語を聞き話すことを指導する力を育成し，中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。				
対象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。				
開催期日	平成１５年　８月１８日（月）　～　平成１５年　９月　５日（金）				１９　日間
参加人数	計画人数	１００人	受講者数	４１人	（参加率）　４１．０　％
開催場所	奈良県社会教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	25人	61.0%	16人	39.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○評価の問題などなかなか自分だけでは解決できない問題を、講義という形で吸収できたのは非常によかった。
○講義によっては、もう少し柔軟に中高別のグループ編成にすべきだと思う。
○大変魅力のある講師陣で多くのことを学べた。
○自分が今までいかに新しい情報や理論を知らなかったかを痛感した。
○講義内容がバラエティに富み、多面的に考えることができたことがとても良かったと思う。
○グループで取り組まねばならない宿題を出されたことがあったが、半分近くの受講生が宿泊せず通っていることを考えれば不適切だと思う。
○評価方法については、観点別に評価した後で全体の評価をするときどのように判断するのか、さらに話が聞きたかった。
○評価については中学校と高校の取り組みの進み具合が違っているため、現実に進んでいる中学校教師の一番疑問に思っているところが聞けず、一般的な話が長かったので残念である。
○教授法に関わる内容で重なっている部分が多かったように思うので、それらを見直すことでスキルアップに資する内容がより充実するのではないかと思う。
○コンセプトの説明、紹介で終るだけでなく、実習の量を増やすべき。
○全体的に見て、講義の内容が指導論に偏っていたように思う。
○効果的な講義の順番を考えて日程を組むべきだと思う。
○他グループの他校種の人との交流が全くできなかったのが残念である。
○英語ディベート教育の説明の時間をもう少し短縮し、実際に行う時間を多く取ってほしかった。
○評価については日程の最後ではなく、もっと繰り上げてほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

別　紙１

講　義　日　程

第１週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
[８月] １８日 （月）	9:30～10:00 受付 10:00～12:30 開校式	ＴＯＥＦＬ－ＩＴＰ
１９日 （火）	A　加納調査官 （文部科学省教育課程教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	A　中井　英民 （天理大学教授） 英語教員に求められる能力と責任
	B　中井　英民 （天理大学教授） 英語教員に求められる能力と責任	B　加納調査官 （文部科学省教育課程教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
２０日 （水）	A　ヒュー　オリファント （お茶の水女子大学外国人教師） 教養講座	A　緑川　日出子（昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 インタアクティブアプローチと技能統合指導法の研究
	B　緑川　日出子（昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 インタアクティブアプローチと技能統合指導法の研究	B　ヒュー　オリファント （お茶の水女子大学外国人教師） 教養講座
２１日 （木）	A　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータ、ネットワークを用いた教材研究と授業の進め方	A　緑川　日出子（昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 インタアクティブアプローチと技能統合指導法の研究
	B　緑川　日出子（昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 インタアクティブアプローチと技能統合指導法の研究	B　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータ、ネットワークを用いた教材研究と授業の進め方
	16:40～　行政説明　『「英語が使える日本人」の育成のための行動計画』 文部科学省初等中等教育局国際教育課課長補佐　樋口　聰　氏	
２２日 （金）	A　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータ、ネットワークを用いた教材研究と授業の進め方	A　ジェフェリー　ミラー （白鴎大学） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ジェフェリー　ミラー （白鴎大学） 新しい言語活動の理論と実践	B　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータ、ネットワークを用いた教材研究と授業の進め方
２３日 （土）	自主研修	自主研修
２４日 （日）	自主研修	自主研修

第２週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
２５日（月）	A　ティモシー ライト （大妻女子大学教授） 実践的コミュニケーション活動を活かす修辞法の研究	A　ジェフェリー　ミラー （白鴎大学） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ジェフェリー　ミラー （白鴎大学） 新しい言語活動の理論と実践	B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 実践的コミュニケーション活動を活かす修辞法の研究
２６日（火）	A　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 実践的コミュニケーション活動を活かす修辞法の研究	A　緑川　日出子（昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 インタアクティブアプローチと技能統合指導法の研究
	B　緑川　日出子（昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 インタアクティブアプローチと技能統合指導法の研究	B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 実践的コミュニケーション活動を活かす修辞法の研究
２７日（水）	A　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 実践的コミュニケーション活動を活かす修辞法の研究	A　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 実践的コミュニケーション活動を活かす修辞法の研究
２８日（木）	A　フィリップ D．マクナリー （ブリティッシュカウンシル英語教育プロジェクツ・マネージャー） Lesson plannning & Classroom Management	A　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　フィリップ D．マクナリー （ブリティッシュカウンシル英語教育プロジェクツ・マネージャー） Lesson plannning & Classroom Management
２９日（金）	A　フィリップ D．マクナリー （ブリティッシュカウンシル英語教育プロジェクツ・マネージャー） Developing Reading Skills	A　ソフィア　ウォーカー （ブリティッシュカウンシル英語教育プロジェクツ・マネージャー） Grammar　Games
	B　ソフィア　ウォーカー （ブリティッシュカウンシル英語教育プロジェクツ・マネージャー） Grammar Games	B　フィリップ D．マクナリー （ブリティッシュカウンシル英語教育プロジェクツ・マネージャー） Developing Reading Skills
３０日（土）	自主研修	自主研修
３１日（日）	自主研修	自主研修

第３週

	午前 (9:30～12:30)	午後 (13:30～16:30)
	講師・内容	講師・内容
１日 (月)	A　靜　哲人 (関西大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践 ペアワークを中心として生徒の発話を最大限に引き出す手法	A　デボラ　フォアマン　タカノ (同志社大学教授) 英語ディベート教育
	B　デボラ　フォアマン　タカノ (同志社大学教授) 英語ディベート教育	B　靜　哲人 (関西大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践
２日 (火)	A　ロバート　ファウザー(京都大学) Thinking about Teaching English in English Classroom Fieldwork and Teacher Reflection	B　デボラ　フォアマン　タカノ (同志社大学教授) 英語ディベート教育
	A　デボラ　フォアマン　タカノ (同志社大学教授) 英語ディベート教育	B　ロバート　ファウザー(京都大学) Thinking about Teaching English in English Classroom Fieldwork and Teacher Reflection
３日 (水)	A　ロバート　ファウザー(京都大学) Thinking about Teaching English in English Classroom Fieldwork and Teacher Reflection	A　松浦　伸和　(広島大学) 新しい評価方法(目標に準拠した評価)の考え方と進め方
	B　松浦　伸和　(広島大学) 新しい評価方法(目標に準拠した評価)の考え方と進め方	B　ロバート　ファウザー(京都大学) Thinking about Teaching English in English Classroom Fieldwork and Teacher Reflection
４日 (木)	A　平田　和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	A　松浦　伸和　(広島大学) 新しい評価方法(目標に準拠した評価)の考え方と進め方
	B　松浦　伸和　(広島大学) 新しい評価方法(目標に準拠した評価)の考え方と進め方	B　平田　和人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践
５日 (金)	閉　講　式	

Ⅰ　研修概要

研修名	英語教育指導者講座（第７ブロック）					
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係					
研修目的（趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下，中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して，英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上，特に，英語を聞き話すことを指導する力を育成し，中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。					
対象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。					
開催期日	平成１５年　８月１８日（月）　～　平成１５年　９月　５日（金）					１９　日間
参加人数	計画人数	１００人	受講者数	４４人	（参加率）	４４．０　％
開催場所	島根県民会館					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	32人	72.7%	10人	22.7%	0人	0.0%	0人	0.0%	2人	4.5%

２．研修内容に関する主な意見

○日本をリードする講師陣の話を聞くことができて、二度とない体験ができた。
○評価のことやディベート、指導法、英語という言語についての捉え方など、様々な内容がバランスよく入っていてためになったと思う。
○今まで興味関心はあったが知識不足で実行に移しにくい題材があったが、このセミナーを通して目的、活用の仕方をある程度学ぶことができ、実際に運用してみようという意欲が湧いた。
○理論を追うだけでなく、実際自分が授業をするときにどう展開するかを考える機会があったので実践的だった。
○音声面でどうすれば自分の発声等を上手くできるかということが、具体的な活動を通じて理解できた。
○スピーチに関しては、自分の考えを相手に納得してもらうための手順を細かく指導してもらった気がする。
○理論→実際の授業→テストと段々視点がクローズアップされたので、全体の講義の流れは良かった。
○テストの評価のやり方や授業計画の「ここが悪い」「ここを改善して」を指摘されるのはありがたいのだが、結局どうすればよいのか具体的な良い例を示してもらえないまま終ってしまうのは、ただ混乱させただけのように思える。
○学校現場からするとあまりにも理想的、非現実的だと思えるものもあった。
○マイクロティーチングを講義の後にやるのではなく、授業をお互いやってから話し合うような講義、演習もほしかった。
○ネイティブスピーカーの講義が多い方が良い。
○分析に関しては、ビデオを使って詳しく分析したり模範的な授業を見てじっくり考える機会があっても良いのではと思う。
○教員の英語スキルアップを目的とした授業と、英語の指導方法改善を目的とした講義を明確に区分してバランスを取ってほしい。
○一番知りたかった評価の仕方については時間不足のため十分聞くことができず、少し残念に思う。
○ややスピーキングとリーディングが中心だったという印象が残った。
○英語学的なこと、例えば辞書のこと等は、このセミナーでそれほど重要性は感じなかった。
○内容が似ている講師の講義順番は系統立てた方がよい。
○内容によっては日本語で説明してほしかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講義日程

	午前(9:30～12:30) 講師(所属)・内容	会場	午後(13:30～16:30) 講師(所属)・内容	会場
[8月] 18日 (月)			開講式(13:30～)／写真撮影 オリエンテーション／グループ・ミーティング	島根県民会館 第2多目的ホール
19日 (火)	A 大庭匡史(西南中学校) 成相智志(松江教育センター) 海外研修報告　9:30～11:20 B 樋口聰(文部科学省) 行政説明　11:40～12:30	島根県民会館 第2多目的ホール	A TOEFL-ITP B	島根県民会館 第2多目的ホール
20日 (水)	A 山田政美 (島根県立大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール	A Kip Cates (鳥取大学) 特別講座	島根県民会館 第3多目的ホール
	B Kip Cates (鳥取大学) 特別講座	島根県民会館 第3多目的ホール	B 山田政美 (島根県立大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール
21日 (木)	A 山田政美 (島根県立大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール	A 望月昭彦 (筑波大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール
	B 望月昭彦 (筑波大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール	B 山田政美 (島根県立大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール
22日 (金)	A 松浦伸和 (広島大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール	A 鈴木　健 (津田塾大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール
	B 鈴木　健 (津田塾大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール	B 松浦伸和 (広島大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール
23日 (土)	自主研修			
24日 (日)	自主研修			
25日 (月)	A 平田和人 (文部科学省) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール	A 靜　哲人 (関西大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール
	B 靜　哲人 (関西大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール	B 平田和人 (文部科学省) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール
26日 (火)	A 竹中龍範 (香川大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール	A 鈴木　健 (津田塾大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール
	B 鈴木　健 (津田塾大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール	B 竹中龍範 (香川大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール
27日 (水)	A 竹中龍範 (香川大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール	A 佐野正之 (元横浜国立大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール
	B 佐野正之 (元横浜国立大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール	B 竹中龍範 (香川大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール

講 義 日 程

28日 (木)	A Robert Fouser (京都大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール	A 佐野正之 (元横浜国立大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール
	B 佐野正之 (元横浜国立大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール	B Robert Fouser (京都大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール
29日 (金)	A Robert Fouser (京都大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール	A Robert Juppe (東京家政学院筑波女子大学) 新しい言語活動の理論と評価	島根県民会館 第3多目的ホール
	B Robert Juppe (東京家政学院筑波女子大学) 新しい言語活動の理論と評価	島根県民会館 第3多目的ホール	B Robert Fouser (京都大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール
30日 (土)	自主研修			
31日 (日)	自主研修			
[9月] 1日 (月)	A 築道和明 (島根大学) 新しい言語活動の理論と実践	ｻﾝﾗﾎﾟｰむらくも 彩雲の間	A 高島英幸 (兵庫教育大学) 新しい言語活動の理論と実践	ｻﾝﾗﾎﾟｰむらくも 八雲の間
	B 高島英幸 (兵庫教育大学) 新しい言語活動の理論と実践	ｻﾝﾗﾎﾟｰむらくも 八雲の間	B 築道和明 (島根大学) 新しい言語活動の理論と実践	ｻﾝﾗﾎﾟｰむらくも 彩雲の間
2日 (火)	A 築道和明 (島根大学) 新しい言語活動の理論と実践	ｻﾝﾗﾎﾟｰむらくも 彩雲の間	A 高島英幸 (兵庫教育大学) 新しい言語活動の理論と実践	ｻﾝﾗﾎﾟｰむらくも 八雲の間
	B 高島英幸 (兵庫教育大学) 新しい言語活動の理論と実践	ｻﾝﾗﾎﾟｰむらくも 八雲の間	B 築道和明 (島根大学) 新しい言語活動の理論と実践	ｻﾝﾗﾎﾟｰむらくも 彩雲の間
3日 (水)	A 高梨庸雄 (京都ノートルダム女子大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール	A 三熊祥文 (広島文教女子大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール
	B 三熊祥文 (広島文教女子大学) 新しい言語活動の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール	B 高梨庸雄 (京都ノートルダム女子大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール
4日 (木)	A 高梨庸雄 (京都ノートルダム女子大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール	A 加納幹雄 (文部科学省) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール
	B 加納幹雄 (文部科学省) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第3多目的ホール	B 高梨庸雄 (京都ノートルダム女子大学) 新しい指導と評価の理論と実践	島根県民会館 第2多目的ホール
5日 (金)	閉講式	島根県民会館 第3多目的ホール		

Ⅰ　研修概要

研修名	英語教育指導者講座（第８ブロック）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下，中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して，英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上，特に，英語を聞き話すことを指導する力を育成し，中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。				
対象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。				
開催期日	平成１５年　８月１８日（月）　～　平成１５年　９月　５日（金）				１９　日間
参加人数	計画人数	１００人	受講者数	５０人	（参加率）　５０．０　％
開催場所	にぎたつ会館				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	31人	62.0%	16人	32.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	3人	6.0%

２．研修内容に関する主な意見

○バラエティに富んだ内容で、これまで知らなかった資料への導入の仕方や読む活動の様々な例など大変参考になるものが多くあった。（同様他１件）
○専門的な理論の講義は知っておくべきことが多くあるとは思うが、言葉が難しく苦労した。
○授業の実践例からのテクニックや方法はそのまま使えなくても、何らかの手がかりを与えてくれて大変役に立った。
○実践的な活動が多く、ペアやグループでのディスカッションが参考になった。
○講義内容も日本文化について考えさせられるものや、コンピュータの活用方法、言語活動、評価等どれも中身が濃く、充実した内容であった。
○特別講座や教養講座の内容を、現場で役立つものにしてほしい。
○英語学的なものや理論的な講義は日本語で行った方が分かりやすい。
○テストについては、入試との関わりについての議論がされないままであった。
○内容・日程等にもう少し系統性があった方がよいのではないか。
○中・高どちらかに偏り過ぎない方がよいと思う。
○コンピュータの講義はかなり難しいと思う。
○模擬授業は新しく教わった教授法を利用したものにするため、実施は最後の３週目でお願いしたい。
○模擬授業が30分という短時間だったので、途中までしか行なわれず物足りなかった。指導過程については全員資料を作っていたので、それを基にしたグループディスカッションの方がよいと思われる。
○今回教えてもらった技術は、生徒の学力がある程度ついている学校の現場では役に立つと思うが、学力の低い学校での活用は難しいのではないか。「英語が苦手な生徒にはこの技術」といった内容もほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 義 日 程

第１週

	午前（９：３０～１２：３０）	午後（１３：３０～１６：３０）
	講 師 ・ 内 容	講 師 ・ 内 容
８月 １８日 （月）		開 講 式
１９日 （火）	A 朝尾 幸次郎 （立命館大学教授） ｺﾝﾋﾟｭｰﾀなどの教育機器を使った英語指導法演習	A ロジャー J．デイヴィーズ （愛媛大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B ロジャー J．デイヴィーズ （愛媛大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	B 朝尾 幸次郎 （立命館大学教授） ｺﾝﾋﾟｭｰﾀなどの教育機器を使った英語指導法演習
２０日 （水）	A 朝尾 幸次郎 （立命館大学教授） ｺﾝﾋﾟｭｰﾀなどの教育機器を使った英語指導法演習	A 小松 達也 （明海大学教授） 特別講座
	B 小松 達也 （明海大学教授） 特別講座	B 朝尾 幸次郎 （立命館大学教授） ｺﾝﾋﾟｭｰﾀなどの教育機器を使った英語指導法演習
２１日 （木）	A 加納 幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	A ジェームズ R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B ジェームズ R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	B 加納 幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
２２日 （金）	A 模擬授業・意見交換	A ジェームズ R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B ジェームズ R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	B 模擬授業・意見交換
２３日 （土）	自主研修	自主研修
２４日 （日）	自主研修	自主研修

第２週

	午前（９：３０～１２：３０）	午後（１３：３０～１６：３０）
	講　師　・　内　容	講　師　・　内　容
８月 ２５日 （月）	A　伊東　治己 （鳴門教育大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　柳瀬　陽介 （広島大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　柳瀬　陽介 （広島大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　伊東　治己 （鳴門教育大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
２６日 （火）	A　池野　修 （愛媛大学助教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　柳瀬　陽介 （広島大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　柳瀬　陽介 （広島大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　池野　修 （愛媛大学助教授） 新しい指導と評価の理論と実践
２７日 （水）	A　綾部　功 （東海大学専任講師） 新しい言語活動の理論と実践	A　６か月海外研修報告 （平成１４年度参加者２名） 文部科学省行政説明
	B　６か月海外研修報告 （平成１４年度参加者２名） 文部科学省行政説明	B　綾部　功 （東海大学専任講師） 新しい言語活動の理論と実践
２８日 （木）	A　綾部　功 （東海大学専任講師） 新しい言語活動の理論と実践	A　靜　哲人 （関西大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　靜　哲人 （関西大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　綾部　功 （東海大学専任講師） 新しい言語活動の理論と実践
２９日 （金）	A　松本　達也 （松山東雲女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　靜　哲人 （関西大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　靜　哲人 （関西大学助教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　松本　達也 （松山東雲女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
３０日 （土）	自主研修	自主研修
３１日 （日）	自主研修	自主研修

第３週

	午前（９：３０～１２：３０）	午後（１３：３０～１６：３０）
	講　師　・　内　容	講　師　・　内　容
９月 １日 （月）	A　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　東後　勝明 （早稲田大学教授） 教養講座
	B　東後　勝明 （早稲田大学教授） 教養講座	B　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
２日 （火）	A　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	B　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
３日 （水）	A　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
４日 （木）	A　松本　達也 （松山東雲女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　佐野　正之 （横浜国立大学名誉教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　松本　達也 （松山東雲女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
５日 （金）	ＴＯＥＦＬ　ＩＴＰ (Institutional Testing Program) **閉　講　式**	

Ⅰ　研修概要

研修名	英語教育指導者講座（第９ブロック）					
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係					
研修目的（趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下，中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して，英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上，特に，英語を聞き話すことを指導する力を育成し，中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。					
対象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。					
開催期日	平成１５年１２月　１日（月）　～　平成１５年１２月１９日（金）					１９日間
参加人数	計画人数	１００人	受講者数	５３人	（参加率）	５３．０　％
開催場所	福岡県教育センター					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	42人	79.2%	10人	18.9%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	1.9%

２．研修内容に関する主な意見

○英語教育界の最前線にいる先生方の講義を受けられたことをありがたく思う。今後の英語教師としての生活に示唆に富む講義ばかりで圧倒されてばかりであった。
○実践的に来学期からすぐに活用できる活動や英語教育の在り方、授業分析の方法など、大変役に立った。
○英語教育に関する指導法を様々な視点から講義してもらえたので大変勉強になった。理論と実践を上手く組み合わせていたので退屈することがなかった。
○他県の先生方と様々な情報交換ができて大変有意義であった。
○中・高の先生が授業の中でも意見交換ができると良かったと思う。
○一方的な講義がいくつかあった。レクチャー形式というよりも質問にさえフィードバックを頂けないものがあった。
○２週間目までは講義内容も非常に面白かったが、３週目は講義内容があまりよくなかったと思う日が多くなった。講義内容に重複が見られたからだろうか。
○英語指導の改善のための講義と、英語運用力の向上のための講義をはっきりと分けて、それぞれに集中した講義にしてほしい。
○新学習指導要領の到達目標をどのような形で実践していくのかという視点からの講義がほしい。
○ディベートがあったが、手順や基準がはっきりせず、ディベートの途中でやり方が変わったりして戸惑うことが多くあったため、ルールをもっとはっきりさせて取り組ませてほしかった。
○「評価」に関する具体的な講義が欲しかった。どのようなものを評価の対象にし、どのように学期成績に入れているのかという情報交換もあればよいと思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 義 日 程

第１週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
12月 １日 （月）		開 講 式
２日 （火）	A　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 「新しい指導と評価の理論と実践」	A　佐野　正之 （立命館大学客員教授） 「新しい指導と評価の理論と実践」
	B　佐野　正之 （立命館大学客員教授） 「新しい指導と評価の理論と実践」	B　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 「新しい指導と評価の理論と実践」
３日 （水）	A　佐野　正之 （立命館大学客員教授） 「新しい指導と評価の理論と実践」	A　吉田　研作 （上智大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」
	B　吉田　研作 （上智大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」	B　佐野　正之 （立命館大学客員教授） 「新しい指導と評価の理論と実践」
４日 （木）	A　高木　信之 （熊本大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」	A　吉田　研作 （上智大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」
	B　吉田　研作 （上智大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」	B　高木　信之 （熊本大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」
５日 （金）	A　高木　信之 （熊本大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」	A　ティモシー・スチュワート （宮崎国際大学助教授） 「新しい言語活動の理論と実践」
	B　ティモシー・スチュワート （宮崎国際大学助教授） 「新しい言語活動の理論と実践」	B　高木　信之 （熊本大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」
６日 （土）	自 主 研 修	自 主 研 修
７日 （日）	自 主 研 修	自 主 研 修

第２週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
８日 （月）	A　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 「新しい指導と評価の理論と実践」	A　東條　加寿子 （九州女子大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」
	B　東條　加寿子 （九州女子大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」	B　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 「新しい指導と評価の理論と実践」
９日 （火）	A　ティモシー・スチュワート （宮崎国際大学助教授） 「新しい言語活動の理論と実践」	A　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 「新しい指導と評価の理論と実践」
	B　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 「新しい指導と評価の理論と実践」	B　ティモシー・スチュワート （宮崎国際大学助教授） 「新しい言語活動の理論と実践」
10日 （水）	A　柴田　美由紀 （小郡市立三国中学校教諭） 「海外研修受講者講義」	A　TOEFL-ITP
	B　山下　智志 （福岡県立明善高等学校） 「海外研修受講者講義」	B　TOEFL-ITP
11日 （木）	A　小松　達也 （明海大学教授） 「特別講義」	A　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」
	B　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」	B　小松　達也 （明海大学教授） 「特別講義」
12日 （金）	A　東條　加寿子 （九州女子大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」	A　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」
	B　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」	B　東條　加寿子 （九州女子大学教授） 「新しい言語活動の理論と実践」
13日 （土）	自主研修	自主研修
14日 （日）	自主研修	自主研修

第３週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
15日 （月）	A　板倉　武子 （福岡女学院英語教育センター長） 「新しい指導と評価の理論と実践」	A　ナイジェル　ストット （福岡県立大学講師） 「コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習」
	B　ナイジェル　ストット （福岡県立大学講師） 「コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習」	B　板倉　武子 （福岡女学院英語教育センター長） 「新しい指導と評価の理論と実践」
16日 （火）	A　テリー・ラスカウスキー （熊本大学外国人教師） 「新しい言語活動の理論と実践」	A　ナイジェル　ストット （福岡県立大学講師） 「コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習」
	B　ナイジェル　ストット （福岡県立大学講師） 「コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習」	B　テリー・ラスカウスキー （熊本大学外国人教師） 「新しい言語活動の理論と実践」
17日 （水）	A　テリー・ラスカウスキー （熊本大学外国人教師） 「新しい言語活動の理論と実践」	A　ロバート Ｊ．ファウザー （京都大学助教授） 「新しい言語活動の理論と実践」
	B　ロバート Ｊ．ファウザー （京都大学助教授） 「新しい言語活動の理論と実践」	B　テリー・ラスカウスキー （熊本大学外国人教師） 「新しい言語活動の理論と実践」
18日 （木）	A　金森　強 （長崎ウエスレヤン大学教授） 「新しい指導と評価の理論と実践」	A　ロバート Ｊ．ファウザー （京都大学助教授） 「新しい言語活動の理論と実践」
	B　ロバート Ｊ．ファウザー （京都大学助教授） 「新しい言語活動の理論と実践」	B　金森　強 （長崎ウエスレヤン大学教授） 「新しい指導と評価の理論と実践」
19日 （金）	閉　講　式	

Ⅰ　研修概要

研 修 名	英語教育指導者講座（第10ブロック）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下，中学校及び高等学校における英語指導上の諸問題に関する専門的な講義・演習等を通して，英語担当の指導主事及び指導的立場を担う教員の指導力の向上，特に，英語を聞き話すことを指導する力を育成し，中学校及び高等学校における英語教育の改善・充実に資する。				
対　　象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。				
開催期日	平成１６年　１月１３日（火）　～　平成１６年　１月３０日（金）				１８日間
参加人数	計画人数	１００人	受講者数	３９人	（参加率）　３９．０％
開催場所	宮崎県教育研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	35人	89.7%	3人	7.7%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	2.6%

２．研修内容に関する主な意見

○日本の英語教育を担うトップレベルの講師の講義を直に受けることができたことは、本当に貴重な体験となった。
○英語教育の置かれている状況もよく分かり、これから目指すべき方向もはっきりしたことで、しっかり頑張りたいという自覚も生まれた。
○朝の模擬授業は大変助かった。
○実体験や研究に基づく具体的な指導法は説得力があり、実用的で授業でぜひ活用してみたいと思った。
○非常に良く練られたプランだと思うが、より中身を濃くする為に、事前課題を講義ごとにしっかり設定し持参すれば、より多くのディスカッションや演習ができたのではないかと思う。
○指導方法に関わる内容が多かったが、聞くこと・話すこと・書くことの評価をどうすればよいのかについてもっと具体的な話が聞きたかった。
○評価について学校現場が何に困っているのかをしっかり把握した上で、もっと具体的にガイダンスを示せる講義を行ってほしい。
○IT機器を活用した講義を増やしてほしい
○その時期に問題となっていることを扱う講義を提供していただければありがたい。
○ただ話をさせるだけでなく、現場に帰って指導する際の指標・ポイントを教授してほしかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講　義　日　程

No. 1

日	8:30~9:20	班	午前（9：30～12：30）		午後（13：30～16：30）	
1月 13日 (火)	12:30～13:15 受　付 13:15～13:30 開講式 13:30～13:45 写真撮影 13:50～14:30 行政説明				14:40～15:40 オリエンテーション 15:40～16:00 作成資料交換・資料配付 16:10～　移動 18:00～20:30 交流会(宮崎観光ホテル)	大研修室
14 (水)	班別 協議会	A	平田和人 (文部科学省教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	第2 研修室 (第1)	樋口晶彦 (鹿児島大学) アクティブリスニングへ向けた指導	第4 研修室
		B	樋口晶彦 (鹿児島大学) アクティブリスニングへ向けた指導	第4 研修室	平田和人 (文部科学省教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	第2 研修室 (第1)
15 (木)	班別 協議会	A	緑川日出子 (昭和女子大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第4 研修室	影浦　攻 (宮崎大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第2 研修室
		B	影浦　攻 (宮崎大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第2 研修室	緑川日出子 (昭和女子大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第4 研修室
16 (金)	班別 協議会	A	緑川日出子 (昭和女子大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第4 研修室	ティモシー・ライト (大妻女子大学) 新しい言語活動の理論と実践	第5 研修室
		B	ティモシー・ライト (大妻女子大学) 新しい言語活動の理論と実践	第5 研修室	緑川日出子 (昭和女子大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第4 研修室
17 (土)	自主研修					
18 (日)	自主研修					
19 (月)	模擬授業	A	クラウディア・ペレッティ (モデルランゲージスタジオ) 新しい指導と評価の理論と実践	第2 研修室	マイケル・R・ゲスト (宮崎大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4 研修室
		B	マイケル・R・ゲスト (宮崎大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4 研修室	クラウディア・ペレッティ (モデルランゲージスタジオ) 新しい指導と評価の理論と実践	第2 研修室
20 (火)	模擬授業	A	金谷　憲 (東京学芸大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第2 研修室	ティモシー・ライト (大妻女子大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4 研修室
		B	ティモシー・ライト (大妻女子大学) 新しい言語活動の理論と実践	第4 研修室	金谷　憲 (東京学芸大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第2 研修室
21 (水)	模擬授業	A	アダチ徹子 (宮崎大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第2 研修室	朝尾幸次郎 (立命館大学) 教育機器を使った英語指導法演習	第1パソコン室
		B	朝尾幸次郎 (立命館大学) 教育機器を使った英語指導法演習	第1パソコン室	アダチ徹子 (宮崎大学) 新しい指導と評価の理論と実践	第2 研修室

日	8:30~9:20	班	午前（9：30～12：30）		午後（13：30～16：30）	
22（木）	模擬授業	A	ローコン・エリザベス ティモシーW・スチュワート （宮崎国際大学） 新しい言語活動の理論と実践	第2研修室	朝尾幸次郎 （立命館大学） 教育機器を使った英語指導法演習	第1パソコン室
		B	朝尾幸次郎 （立命館大学） 教育機器を使った英語指導法演習	第1パソコン室	ローコン・エリザベス ティモシーW・スチュワート （宮崎国際大学） 新しい言語活動の理論と実践	第2研修室
23（金）	模擬授業	A	アンソニー・デムコ （日米会話学院） 新しい言語活動の理論と実践	第2研修室	ティモシー・ライト （大妻女子大学） 新しい言語活動の理論と実践	第4研修室
		B	ティモシー・ライト （大妻女子大学） 新しい言語活動の理論と実践	第4研修室	アンソニー・デムコ （日米会話学院） 新しい言語活動の理論と実践	第2研修室
24（土）	自主研修					
25（日）	自主研修					
26（月）	模擬授業	A	緑川日出子 （昭和女子大学） 新しい指導と評価の理論と実践	第4研修室	吉田研作 （上智大学） 新しい指導と評価の理論と実践	第6研修室
		B	吉田研作 （上智大学） 新しい指導と評価の理論と実践	第6研修室	緑川日出子 （昭和女子大学） 新しい指導と評価の理論と実践	第4研修室
27（火）	班別協議会	A	松本茂 （東海大学教育研究所） 新しい言語活動の理論と実践	生物研修室	吉田研作 （上智大学） 新しい指導と評価の理論と実践	地学研修室
		B	吉田研作 （上智大学） 新しい指導と評価の理論と実践	地学研修室	松本茂 （東海大学教育研究所） 新しい言語活動の理論と実践	生物研修室
28（水）	班別協議会	A	松本茂 （東海大学教育研究所） 新しい言語活動の理論と実践	第2研修室	小松達也 （明海大学） 特別講座	第5研修室
		B	小松達也 （明海大学） 特別講座	第5研修室	松本茂 （東海大学教育研究所） 新しい言語活動の理論と実践	第2研修室
29（木）	班別協議会	A	加納幹雄 （文部科学省教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	第5研修室	金谷憲 （東京学芸大学） 新しい指導と評価の理論と実践	第2研修室
		B	金谷憲 （東京学芸大学） 新しい指導と評価の理論と実践	第2研修室	加納幹雄 （文部科学省教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	第5研修室
30（金）	～8:30 集合 8:45～10:45 TOEFL-ITP 11:10～12:00 閉講式			宮崎観光ホテル		

Ⅰ　研修概要

研修名	外国人児童生徒等日本語指導講習会（前期）				
担当課係	研修事業第三課　研修企画係				
研修目的（趣旨）	小学校，中学校における外国人児童生徒等に対する日本語指導等に関する専門的な研修を行い，日本語指導等を担当する指導的立場にある教員等の指導力の向上を図り，小学校及び中学校における外国人児童生徒等教育の一層の充実を図る。				
対象	教育委員会の指導主事及び小学校・中学校の校長，教頭等指導的立場にある者で，原則として外国人児童生徒等に対する日本語指導等について一定の知識を有する者。なお，地域における指導的立場にある小学校・中学校の教員等の参加を妨げるものではない。				
開催期日	平成１５年　７月３０日（水）　～　平成１５年　８月　１日（金）				３日間
参加人数	計画人数	１００人	受講者数	５６人	（参加率）　５６．０％
開催場所	ホテルフロラシオン青山（東京）				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	41人	73.2%	13人	23.2%	1人	1.8%	0人	0.0%	1人	1.8%

２．研修内容に関する主な意見

【講習会全体】
○現場の実践が紹介され多くの資料もありがたかった。校内の指導体制の確立や、指導を行う上で参考になる。
○指導主事・管理職へ、このような研修を継続的に行っていくことが地域を動かすためには不可欠である。
○情報交換ができて良かった。また相互の悩みを聞け、解決に向けてのヒントを多く得られた。
○すぐ調べてみたいとか、２学期から取り入れたい、と思える話が聞けてよかった。
○研究協議では少人数グループによる話し合いであったため、誰もが話し易かった。
○ＶＴＲやパワーポイント等、効果的でわかり易い説明であった。

【事例発表】
○大きな都市における施策の難しさや、取り組みの様子がわかった。
○先進的な取り組みでいろいろ工夫されていてとても役立った。
○「共生教室エスペランサ」の解説内容や企業との連絡協議会他、参考になることが多かった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度 外国人児童生徒等日本語指導講習会 日程表

日　時：平成１５年７月３０日(水)～８月８日(金)
場　所：ホテルフロラシオン青山

事務局 鼓(2F)

【前　期】

						会　場
7月30日(水)		受　付	開講式	講義 「外国人児童生徒の背景と日本語指導」 愛知淑徳大学 非常勤講師　松本一子	講義 「学校における受け入れ体制の整備について」 茨城県神栖町教育委員会 指導主事　立野健二	はごろも(1F)
7月31日(木)	事例紹介 「学校での受け入れ体制及び日本語指導の実践」 神奈川県横浜市教育委員会 指導主事　長谷川祐子 岐阜県美濃加茂市教育委員会 主任主査　鵜飼修巳			研究協議 「学校における日本語指導の必要な児童生徒の受け入れ及び指導体制の在り方について」 ・東京外国語大学　教授　伊東祐郎 ・東京外国語大学　教授　柏崎雅世 ・東京外国語大学　教授　小林幸江		はごろも(1F) 梅松桃(2F)
8月1日(金)	研究協議 「全体発表」		講義 「JSLカリキュラムについて」 東京学芸大学 教授 佐藤郡衛	講義 「学校・地域における指導協力体制」 神戸市総合教育センター 指導主事　東向信明	閉講式	はごろも(1F)

9:00　10:00　10　11:30　12:45　15:15　16:00

事務局 鼓(2F)

【後　期】

						会　場
8月4日(月)		受　付	開講式	講義 「外国人児童生徒の背景と日本語指導」 東京外国語大学 教授　柏崎雅世	講義 「日本語教授法」 (社)国際日本語普及協会 事業部長　関口明子	はごろも(1F)
8月5日(火)	講義 「文字・漢字」 西町インターナショナル・スクール 日本語ファシリテーター 林　敬子			演習A 「授業活動(アクティヴィティ)」 ・東京外国語大学　助教授　藤森弘子 ・東京外国語大学　助教授　藤村知子 ・東京外国語大学　専任講師　尾方理恵 ・日本大学　専任講師　寺内弘子		孔雀(3F) 梅松桃(2F)
8月6日(水)	講義 「言語と文化」 ブラジル事情(ポルトガル語) 大泉日伯センター　代表　高野祥子 中国事情(中国語) 東京大学大学院　研究員　婁　本東			講義 「多文化共生・子ども理解」 一橋大学 教授　横田雅弘	講義 「JSLカリキュラムについて」 東京学芸大学 助教授　高木光太郎	クレール(宿泊棟3F)
8月7日(木)	演習B 「教科志向型JSLカリキュラムの授業作り」 ・国語部会　甲府市立塚美小学校　教諭　今澤　悟 ・算数部会　私立鹿星小学校　校長　中野洋二郎 ・理科部会　独立行政法人国立国語研究所 日本語教育部門第一領域長　石井恵理子 ・社会部会　東京学芸大学　助教授　齋藤ひろみ			演習B 同　左	演習B 「全体発表」	芙蓉(2F) 梅松桃(2F)
8月8日(金)	講義　◇ 「日本語指導の必要な児童生徒教育について」 東京外国語大学　教授　横田淳子		閉講式	15:30　45		孔雀(3F)

9:00　11:30　12:15

◇　講義「日本語指導の必要な児童生徒教育について」は、エル・ネットを活用した衛星配信研修として配信予定。
（配信予定：平成15年９月10日(水)13:30～16:15、チャンネル２）
各都道府県内における受信・配信計画については、各都道府県教育委員会の当講習会担当課にご確認願います。

Ⅰ　研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等日本語指導講習会（後期）					
担当課係	研修事業第三課　研修企画係					
研修目的（趣旨）	小学校、中学校における外国人児童生徒等に対する日本語指導等に関する専門的な研修を行い、日本語指導等を担当する指導的立場にある教員等の指導力の向上を図り、小学校及び中学校における外国人児童生徒等教育の一層の充実を図る。					
対　　象	教育委員会の指導主事及び小学校・中学校の教員等で、原則として外国人児童生徒等に対する日本語指導等について一定の知識と経験を有する者。					
開催期日	平成１５年　８月　４日（月）　～　平成１５年　８月　８日（金）					５日間
参加人数	計画人数	１００人	受講者数	９９人	（参加率）	９９．０％
開催場所	ホテルフロラシオン青山（東京）					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	49人	53.3%	40人	43.5%	3人	3.2%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○基本的な指導で考えなければならないことや、しなければいけないことはよく分かった。
○今回の研修成果を、外国人児童生徒はもちろん、クラスにとけ込めない、学習についていけていない子どもの支援にも役立てていきたい。
○ＪＳＬについての説明から、各国事情、カウンセリングまで、多方面からの切り取った講義が聞けて良かった。
○教育行政の立場であえて後期に参加したのだが、現場の先生方と一緒に演習に参加できて、現場理解にとても役だった。
○他県の事情を聞き大変参考になると共に、本県の課題が見えてきたように思う。
○講習の時間と演習の時間がよく配分されており、とても学びやすかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度 外国人児童生徒等日本語指導講習会 日程表

日　時：平成１５年７月３０日(水)～８月８日(金)
場　所：ホテルフロラシオン青山

【前　期】

	9:00	10:00	30	11:30	12:45	14:15	35	16:45	会場（事務局 鼓(2F)）
7月30日(水)		受　付	開講式		講義 「外国人児童生徒の背景と日本語指導」 愛知淑徳大学 非常勤講師　松本一子		講義 「学校における受け入れ体制の整備について」 茨城県神栖町教育委員会 指導主事　立野健二		はごろも(1F)
7月31日(木)	事例紹介 「学校での受け入れ体制及び日本語指導の実践」 神奈川県横浜市教育委員会 指導主事　長谷川祐子 岐阜県美濃加茂市教育委員会 主任主査　鵜飼修巳				研究協議 「学校における日本語指導の必要な児童生徒の受け入れ及び指導体制の在り方について」 ・東京外国語大学　教授　伊東祐郎 ・東京外国語大学　教授　柏崎雅世 ・東京外国語大学　教授　小林幸江				はごろも(1F) 梅松桃(2F)
8月1日(金)	研究協議 「全体発表」		講義 「JSLカリキュラムについて」 東京学芸大学 教授 佐藤郡衛		講義 「学校・地域における指導協力体制」 神戸市総合教育センター 指導主事　東向信明		閉講式		はごろも(1F)
	9:00	10:00	10	11:30	12:45	15:15		16:00	

【後　期】

	9:00	10:00	30	11:30	12:45	14:15	35	16:45	会場（事務局 鼓(2F)）
8月4日(月)		受　付	開講式		講義 「外国人児童生徒の背景と日本語指導」 東京外国語大学 教授　柏崎雅世		講義 「日本語教授法」 (社)国際日本語普及協会 事業部長　関口明子		はごろも(1F)
8月5日(火)	講義 「文字・漢字」 西町インターナショナル・スクール 日本語ファシリテーター 林　敬子				演習A 「授業活動(アクティヴィティ)」 ・東京外国語大学　助教授　藤森弘子 ・東京外国語大学　助教授　藤村知子 ・東京外国語大学　専任講師　尾方理恵 ・日本大学　専任講師　寺内弘子				孔雀(3F) 梅松桃(2F)
8月6日(水)	講義 「言語と文化」 ブラジル事情(ポルトガル語) 大泉日伯センター　代表　高野祥子 中国事情(中国語) 東京大学大学院　研究員　婁　本東				講義 「多文化共生・子ども理解」 一橋大学 教授　横田雅弘		講義 「JSLカリキュラムについて」 東京学芸大学 助教授　高木光太郎		クレール(宿泊棟3F)
8月7日(木)	演習B 「教科志向型JSLカリキュラムの授業作り」 ・国語部会　甲府市立塚美小学校　教諭　今澤　修 ・算数部会　私立桃星小学校　校長　中野洋二郎 ・理科部会　独立行政法人国立国語研究所 日本語教育部門第一領域長　石井恵理子 ・社会部会　東京学芸大学　助教授　齋藤ひろみ				演習B 同　左		演習B 「全体発表」		芙蓉(2F) 梅松桃(2F)
8月8日(金)	講義　◇ 「日本語指導の必要な児童生徒教育について」 東京外国語大学　教授　横田淳子			閉講式		15:30	45		孔雀(3F)
	9:00			11:30	12:15				

◇　講義「日本語指導の必要な児童生徒教育について」は、エル・ネットを活用した衛星配信研修として配信予定。
（配信予定：平成15年９月10日(水)13:30～16:15、チャンネル２）
各都道府県内における受信・配信計画については、各都道府県教育委員会の当講習会担当課にご確認願います。

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（農業：Ａ－１）					
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係					
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。					
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事					
開催期日	平成１５年　８月　４日（月）　～　平成１５年　８月　８日（金）					５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	３０人	（参加率）	１００．０％
開催場所	（株）島津製作所三条工場研修センター　バイオカレッジ京都					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	19人	63.3%	10人	33.3%	0人	0.0%	1人	3.3%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○一流企業の最先端技術を見る事が出来、視野が広がった気がする。DNAの抽出及び形質転換という基礎実験手技を理論から学ぶことができ、大変ためになりました。
○書籍に、理論や方法がかかれておりますが、実際に実験を行ったことがなかったので、大変勉強になりました。「農業」という教員免許は、非常に範囲が広く、専門外で、授業を行っている現状です。こういう研修機会は大変貴重です。また、日々進化しつづけている最先端技術なので、もっとこのような研修を増やしてもよいのではないでしょうか。
○講義・実習テキストが充実していた。用語説明（専門的な言葉）がわかり易くされていた。
○現場の教員は、生徒指導、農場運営等に追われて、新技術、最新情報等を得る機会が決して多いとはいえません。今回の研修で、視野を広げて頂き、生徒達に科学の先端技術を示し、興味、感心をいだかせる必要性を強く感じました。
○遺伝子組換えキットを使用すれば、学校でも実験できることと、大掛かりな機材を必要とせずに実験できたことに感動した。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度新産業技術等指導者養成講習日程

(農業, A−1)

財団法人バイオインダストリー協会

日時	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
8月4日（月）	受付	開講式	文部科学省（学習指導要領の講義）	オリエンテーション自己紹介	昼休み	講義1（微生物学の基礎）		講義2（微生物の形態観察）		
8月5日（火）		講義3（DNA抽出法）		実習1（DNA抽出実験）	昼休み	考察1（DNA抽出実験）	実習2（遺伝子組換え前処理）			
8月6日（水）		講義4（遺伝子組換え技術）			昼休み	実習3（遺伝子組換え実験）		講義5（電気泳動）		
8月7日（木）		考察2（遺伝子組換え）			昼休み	実習4（電気泳動）		考察3（電気泳動）		
8月8日（金）		㈱島津製作所分析センター・テクニカルセンター見学		講義6（バイオ市場に対しての取り組み）	昼休み	総括（情報交換会）	閉講式			

株式会社島津製作所三条工場研修センター（8／4、8）
バイオカレッジ京都（8／5、6、7）

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（農業：Ａ－２）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　８月１８日（月）　～　平成１５年　８月２２日（金）				５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	２７人	（参加率）　９０．０％
開催場所	横河電機株式会社				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	20人	74.1%	7人	25.9%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○温室環境制御システムは、操作性が容易で、すごく性能の良いシステムだと思いました。実際に学校へ導入できる可能性は、極めて低いが、先端技術を知ることが出来て良かった。
○環境に対して、農業高校が率先して、減農薬を考えていく必要がある。生徒がかなり嫌がるので、使えないでいた。基本的な所から説明していただき、生物農薬は、取り扱いやすいと思った。
○今回の研修に参加して、新しい技術や、知識について知る事ばかりでした。これからの授業、実習には必要であり、学校に戻り、今回覚えた事を、生かして行きたい。
○自校で取引している業者やメーカーはごく一部分にすぎず、農業関連や、環境制御に取り組んでいる企業がこれだけあり、貴重な資料、たくさん教材を集めていただき、感謝します。視野が広がりました。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度新産業技術等指導者養成講習日程

（農業、A－2）

独立行政法人　教員研修センター

日　時	9　10　11	11:40	13:40　14　15　16　17	18
2003年 8/18 （月）	受付、集合 開講式 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 新学習指導要領における学習展開について	昼休み	・横河電機の施設園芸分野での取り組み ・温室環境制御ｼｽﾃﾑ(YEWFARM)の構成 大型温室に関して ・ｼｽﾃﾑ操作監視画面の説明と基本操作(ﾊﾟｿｺﾝ実習) 懇親会	
8/19 （火）	＜パソコン実習＞ ・制御工学と制御プログラム ・収集保存ﾃﾞｰﾀのｴｸｾﾙによる解析方法 ・気象的要素と作物の生長	昼休み	工場見学（設備：太陽光発電装置） レコーダ製品・計測器製品紹介 気象計器紹介 海外の施設園芸の紹介	
8/20 （水）	先端技術の納入例 これからの農業（砂栽培～最新篤農技術） 養液栽培装置（1）	昼休み	養液栽培装置（2） 土壌消毒・地中暖房 ・潅水チューブ（1） 養液栽培装置（3） 温室に関して 高品質野菜生産について 人工ゼオライト・嫌気性バクテリア	
8/21 （木）	＜パソコン実習＞ ・温室制御のシミュレーション カメラ(画像)を中心とした遠隔監視制御	昼休み	＜IT化が農業を変える＞ ・『電子商取引』 ・『電子商取引』　＜PCによる実戦・体験＞ 各都道府県における環境制御技術の指導について ＜各県先生による情報交換＞	
8/22 （金）	施設園芸用・簡易分析機器の紹介 ・各種装置 ・種苗装置『苗テラス』 ・訪花昆虫『マルハナバチ』と点滴に関して 『植物モニター』生育監視システム	昼休み	・潅水チューブ（2） 養液栽培の肥料 養液土耕 これからの農業教育の考え方 閉講式	

横河電機　株式会社

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（工業：Ｂ－１）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　７月２８日（月）　～　平成１５年　８月　１日（金）				５日間
参加人数	計画人数	４７人	受講者数	３９人	（参加率）　８２．９％
開催場所	東京工業大学				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	20人	51.3%	18人	46.2%	1人	2.6%	0人	0.0%	0人	0.0%
割合(%)										

２．研修内容に関する主な意見

○東工大での基礎実験等の内容がわかり大変すばらしい研究をしていると思いました。環境について深く考えてみたい。
○「生徒の立場に立った教育」という視点からの出発で、学校が一丸となってSSH研究に取り組んでいるの姿が、大変素晴らしく、またうらやましくもあった。工業高校のモデル校になってもらいたい。
○今後の日本において、分散型電源（太陽光発電、風力発電等）のベストミックスした形の発電形態が必要であることが理解出来た。
○建築物と環境の密接な関係について、勉強になった。今後の学校の構造物に対する対処法がわかってよかった。是非、生徒にも話したいと思う。
○燃料電池やCO2隔離について非常にわかりやすくおもしろい講義でした。代替エネルギーとして考えた場合最も実現の早いものだと思う。授業の中にすぐ取り組みやすい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度 新産業技術等指導者養成講習 日程

テーマ ： エネルギー利用と環境保全技術に関する講義と施設見学
期 日 ： 平成１５年７月２８日（月）～８月１日（金）
会 場 ： 東京工業大学大岡山キャンパス
東京工業大学すずかけ台キャンパス
工学部附属工業高等学校

工業：Ｂ－１

	9:30	10:00	10:30	12:30	13:30	15:00	15:10	17:00	17:30-19:00
第１日 ７月２８日（月） 大岡山キャンパス 西8E号館 10F 大会議室	受付	開講式	講演 国立教育政策研究所 文部科学省 佐藤 義雄 「新教育課程の編成と ２１世紀の工業教育」	昼食	講義 赤堀 侃司 「学習指導方法の改善」	休憩	施設見学 大岡山キャンパス 専門別研究室見学 （工学部５分野）	休憩	懇親会
第３日 ７月２９日（火） 工学部附属 工業高等学校 3号館 4F 大講義室	9:30 講義 門馬 進 「SSH研究開発」 平成14年度の実践とまとめ 平成15年度の計画		10:30 講義 山口 正勝 小佐野 隆治 「ＳＳＨ研究開発」 ・先端科学技術入門の取り組みと実践 ・科学技術の取り組みと実践	11:30 昼食	13:00 施設見学 森安 勝	14:00 情報交換 益田 研一	15:00 検討会 竹内 守	17:00	
第３日 ７月３０日（水） すずかけ台ｷｬﾝﾊﾟｽ 大学院5号館 G511講義室	9:30 講義 石川 忠晴 「環境計測の組み 立て方と留意点」 （水環境計測を例として）	11:00	11:10 講義 渡邊 眞紀子 「土壌のホメオスタシス と科学技術」	12:40 昼食	13:40 講義 田中 享二 「建築物の長寿命化」	15:10 休憩	15:20 施設見学 すずかけ台キャンパス 専門別研究室見学 （環境理工学創造専攻）	17:00	
第４日 ７月３１日（木） 大岡山キャンパス 西8E号館 10F 大会議室	講義 吉澤 善男 「エネルギー消費の限界」		講義 七原 俊也 「分散型電源と 電力システム」		講義 中山 実 「教育工学開発センター における遠隔教育の実 践例」		施設見学 原子炉工学研究所 ・井頭 政之 極低温物性研究ｾﾝﾀｰ ・大熊 哲		
第５日 ８月 １日（金） 大岡山キャンパス 西8E号館 10F 大会議室	講義 平井 秀一郎 「燃料電池とＣＯ２隔離」		講義 齊藤 正樹 「暮らしとエネルギー そして地球環境問題」 －原子力の役割－	閉講式					
	9:30	11:00	11:10	12:40	13:10		13:40	15:10	15:20 17:00

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（工業：B－2）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　７月２８日（月）　～　平成１５年　８月　１日（金）				５日間
参加人数	計画人数	２５人	受講者数	２５人	（参加率）　１００．０％
開催場所	大阪機工株式会社　東京テクニカルセンター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

1．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	20人	80.0%	4人	16.0%	1人	4.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

2．研修内容に関する主な意見

○基本的プログラム作成を丁寧に指導していただき、大変勉強になりました。また、他のNC工作機械を取り扱う上で大変役立つと思う。今まで知らなかった事も沢山あり、学校へ戻ってからすぐ役立つ内容の講座であった。
○講師の先生は、非常に丁寧に堂々と教えられていました。「指導の姿勢」という点から見習うべき所があった。講義もテキストも充実していて大変わかりやすく、施設も充実していてよい実習ができた。
○学校にあるのに、使えなかったマシニングセンタ、今回の研修でプログラミングに自信がつきました。学校へ帰ったら操作を覚え、生徒に物づくりの楽しさを教えていきたいと思います。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

新産業技術等指導者養成講習

（マシニングセンタのプログラミングと生産の自動化）

（工業、Ｂ－２）

社団法人　全国工業高等学校長協会

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月28日 (月)		受付 開講式 会社概要 説明見学	講義 自動ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの実際 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの概要1 補充機能及び加工内容の動作1			講義 自動ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの実際 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの概要1 補充機能及び加工内容の動作1	講義 自動ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの実際 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの概要2 実習 加工内容の動作2		
7月29日 (火)	講義 これからの工業教育	講義 自動ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの実際 実習 加工内容の動作3				実習 工具交換動作	講義 自動ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの実際 加工内容1，2 実習 段取り、テストピース切削		
7月30日 (水)	講義 自動ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの実際 加工内容1，2 実習 段取り、テストピース切削	実習 自動ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの実際 加工実習、テストピース切削				実習 自動ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの実際 加工実習、テストピース切削			
7月31日 (木)	実習 自動ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの実際 加工段取り、テストピース切削					実習 加工段取り テストピース切削	講義 自動工作機械の原理と構成		
8月　1日 (金)	講義 マシニングセンタ及び周辺機器における自動化技術①					講義 マシニングセンタ及び周辺機器における 自動化技術②	閉校式		

大阪機工株式会社　東京テクニカルセンター

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（商業：Ｃ－１）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　７月２２日（火）　～　平成１５年　７月２６日（土）				５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	２７人	（参加率）　９０．０％
開催場所	千葉商科大学				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	18人	66.7%	9人	33.3%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○数々の詳細な分析に基づいた貴重な内容であり、めったに聞くことの出来ないお話でした。取引制度改革は、複雑なため今まで、分かりにくかったのですが、本日の講義によって実際の企業の動きも知る事ができ、大変勉強になりました。
○特許とその技術を基にどのように商品が開発されているのか、具体的な手続きの流れがわかり、また、知的所有権についても知ることができ、大変勉強になりました。
○マーケティングの重要性、生産やセールスとの関連についてよく分かることが出来ました。教科書と時代に即した情報を生徒に教えるべきと痛感しました。
○一週間にわたり、１０の講義と２つの見学、全て勉強になるものばかりでした。全国から集まった、先生方との交流が深まりよい機会であったと思います。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

商業：C－1

（別紙様式１）

平成１５年度新産業技術等指導者養成講習実施案内書

受託団体名　全国商業高等学校長協会

1　実施期日　　平成　１５　年　７　月　２２　日（火）　～　７　月　２６　日（土）　（５日間）

2　実施会場

（1）名　称　　千　葉　商　科　大　学

（2）所在地　　（〒２７２－８５１２）
千葉県市川市国府台　１－３－１
ＴＥＬ　０４７-３７２-４１１１

（3）講習期間中の連絡先　全国商業高等学校長協会　　東京都新宿区大京町２６番地
ＴＥＬ　０３-３３５７-７９１１
（担当者・職名）　事務局長　津　守　四　郎

3　参加者数　　３０名

4　講　師

氏　名	職　名	氏　名	職　名
板倉　敏	（社）信託協会 業務部広報・研修グループリーダー	宇野政雄	早稲田大学名誉教授
稲谷稔宏	千葉県知的所有権センター 特許流通アドバイザー	寺澤利雄	（財）流通経済研究所 専務理事
猪俣典夫	（社）証券広報センター 広報部部長	福永憲高	日本銀行広報部調査役
牛嶋信治	（財）生命保険文化センター 生活情報室部長代理	吉野弘一	文部科学省教科調査官
岩澤孝雄	長岡大学産業経営学部教授	渡辺達也	（社）日本損害保険協会 生活サービス部企画グループ副長

5　講習日程表（講習の題目のみ記入願います。）

月　日 （曜　日）	午　前 9:00　9:30　10:00　11:00　12:00	午　後 13:00　14:00　15:00　16:00
7月22日 （火）	受付 開講式 （講義）「変革の時代におけるビジネス教育」	（講義）「流通変革に対応したマーケティング戦略」 大学内見学 懇親会
7月23日 （水）	（講義）「小売構造の変化と取引制度改革」 移動	（企業・マーケティング実務見学） <見学と質疑応答> 六本木ヒルズ（森ビル）
7月24日 （木）	（講義）「知的所有権の多目的活用によるビジネス展開」 移動 日本銀行内見学	（講義）「日本経済と日本銀行の政策」 貨幣博物館見学
7月25日 （金）	（講義）「証券市場を取り巻く環境の変化と課題」	（講義）「わが国の信託業務の現状と信託銀行の役割」 （講義）「損害保険の基礎知識」
7月26日 （土）	（講義）「生命保険の基礎知識」	（講義）「現代商品のサービス化と流通」 研究協議 閉講式

Ⅰ　研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習　（商業：Ｃ－２）						
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係						
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。						
対　　象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成１５年　８月　４日（月）　～　平成１５年　８月　８日（金）						５日間
参加人数	計画人数	６０人	受講者数	４８人	（参加率）	８０．０％	
開催場所	一橋大学大学院商学研究科						

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	31人	67.4%	15人	32.6%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○今までのどんな研修よりも、講義のレベルも高く、大変勉強になりました。更なる向学心に燃えてきました。（意見多数）
○最先端の最新情報の内容の講習を受け、やはり勉強を継続していかなければと思う。今の時代のニーズにあった商業教育に改善していかないと衰退してしまうという危機感を強く感じました。
○講師の方々のわかりやすい資料、説明により、いろいろな知識を身につけられ大変有意義な研修でした。現場の教員が今以上に頑張って信頼を取り戻す努力が必要だと感じました。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度新産業技術等指導者養成講習日程表

商業：Ｃ－２

（経済の変化とビジネス教育に関する講義と実習）

時　間 月日（曜日）	9:30 10:00　10:30			12:30　13:30	15:00　16:00　16:30	
８月４日 （月）	受　付	開講式	［変革の時代における商業 （Business）教育］ 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 吉野弘一		［講義：　改正商法等と会計　］ 一橋大学大学院商学研究科教授　安藤英義	
８月５日 （火）	［講義：　日本経済　競争力の構想　］ 一橋大学ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ研究ｾﾝﾀｰ助教授　元橋一之				［講義：　情報環境の変化と情報教育の充実　］ 横浜市立大学商学部教授　野々山隆幸	
８月６日 （水）	［講義：　国際化の進展と国際理解　］ 神奈川大学経営学部教授　田中則仁				［見学：　サントリー武蔵野ビール工場　］ 一橋大学大学院商学研究科講師　松井　剛	
８月７日 （木）	［講義：　規制緩和の進展と日本経済の今後　］ 一橋大学大学院商学研究科教授　山内弘隆				［講義：　ｅマーケティングとその可能性　］ 一橋大学大学院商学研究科助教授　神岡太郎	
８月８日 （金）	［講義：　経済のサービス化・ソフト化と消費の変化］ 一橋大学大学院商学研究科教授　片岡　寛				［講義：　現代の管理会計　］ 一橋大学大学院商学研究科教授　廣本敏郎	閉講式

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（水産：D－1）				
担当課係	研修事業第三課　道徳・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　８月　４日（月）　～　平成１５年　８月　８日（金）				５日間
参加人数	計画人数	２４人	受講者数	１８人	（参加率）　７５．０％
開催場所	独立行政法人水産大学校ニチレイ研修センター「スコレ雪ヶ谷」				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	13人	76.5%	4人	23.5%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○最先端で活躍されている講師の先生方の話は、新鮮で、はっと驚くものがあり、HACCPに関しての認識が随分と変わりました。視野が広がりました。
○演習が大変勉強になった。講習を終えた時、なんて難しいのだろうと、尻ごみする気持ちでしたが、実際に演習をやり、各班の発表後、講師の多くのご指摘をいただくことができて、驚くほど頭の中ですっきりと整理することができました。
○配布されたテキスト以外に、多くの写真や最新データをパワーポイントで示していただきわかりやすかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　新産業技術指導者養成講習日程

（水産　Ｄ－１）

全国水産高等学校長協会

月日	9 30 10 30	11 30	12 30 13	30 14 30 15 30 16 30 17
8月4日（月）	受付	開講式 オリエンテーション 所管事項説明・挨拶 （文部科学省落合調査官） 水産加工品における微生物の役割	昼休み	有害微生物について
8月5日（火）	ＨＡＣＣＰ講習 オリエンテーション 訓練過程とＨＡＣＣＰの紹介について 危害－生物的・化学的・物理的について		昼休み	ＨＡＣＣＰ講習 前もって必要な計画と準備段階について 商業規模の製造例：ＩＱＦ加熱調理エビについて 危害防止について
8月6日（水）	ＨＡＣＣＰ講習 重要管理点の決定について 管理基準の設定について 重要管理点のモニタリングについて		昼休み	ＨＡＣＣＰ講習 修正措置について 検証手順について 記録の付け方と保管の手順について ＨＡＣＣＰ計画作成に係わる情報源：ＦＤＡ ガイドの活用方法について
8月7日（木）	演習 危害分析の実施		昼休み	演習 ＨＡＣＣＰ計画の作成 ＨＡＣＣＰ演習 わが国と世界におけるＨＡＣＣＰ方式導入の状況について
8月8日（金）	移動	工場見学 株式会社ニチレイ船橋工場	閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（家庭：Ｅ－１）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　８月　４日（月）　～　平成１５年　８月　９日（金）				６日間
参加人数	計画人数	６０人	受講者数	５９人	（参加率）　９８．３％
開催場所	全国高等学校家庭クラブ会館				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	35人	64.8%	19人	35.2%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○各分野において、専門家、一流のプロのお話が生で聞けて多くの刺激とやる気をいただきました。家庭科の教員全員が聞きたい話であり、もっとお聞きしたかったです。
○生活産業基礎の科目新設のねらいについて再確認することができました。
○他県の先生方と意見交換することで、新しい発見をすることができました。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　新産業技術等指導者養成講習日程

（教科名）　家庭科　Ｅ－１

全国高等学校長協会　家庭部会

日　時	9:30 10:00　10:30			12:30	13:30		15:00		16:30
8月4日 （月） （第１日目）	受　付	開講式	（講義） 「生活産業基礎」の科目新設のねらいと指導内容 文部科学省初等中等教育局 主任視学官　河野公子	昼休み	（講義・演習） 「生活産業基礎」の指導計画の作成と指導方法の工夫 愛知県立瑞陵高等学校教頭 元廣　益枝 助手・教諭１名				懇親会
8月5日 （火） （第２日目）	（講義） 社会の変化と産業・職業及び雇用の変化 千葉商科大学助教授 鹿嶋　研之助		（講義） インターンシップと進路・履修計画の作成 千葉商科大学助教授 鹿嶋　研之助	昼休み	（講義） 住生活の変遷と住生活に関する産業・職業 東京学芸大学非常勤講師 妹尾　理子	移動	（産業界等の見学） ①東京ガス新宿ショウルーム ②リビングデザインセンター　ＯＺＯＮＥ		
8月6日 （水） （第３日目）	（講義） 食生活関連産業の発展 実践女子大学教授 田島　眞		（講義） 外食・中食産業の動向 日本食糧新聞社 編集本部長　福島　厚子	昼休み	（講義） 外食産業の仕事と調理システムの変化 フードサービス・ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ 本山　忠弘		（講義） 「食のほころび」 オテル・ドゥ・ミクニ オーナーシエフ　三國　清三		
8月7日 （木） （第４日目）	（講義）（文化服装学院） ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽ業界の仕組み 文化服装学院 専任講師　澤谷　目童		（講義）（文化服装学院） ｱﾊﾟﾚﾙﾒｰｶｰの仕事とCAD 文化服装学院 専任教授　阿部　稔	昼休み	（講義）（文化服装学院） 生産工場の仕事と設備機器 文化服装学院 専任教授　荒川　佳子 専任助手　宮沢　国博		（実習・見学）（文化服装学院） 生産管理実習室の見学とサンプル部分縫い実習 文化服装学院 専任教授　荒川　佳子 専任助手　宮沢　国博		
8月8日 （金） （第５日目）	（講義） 児童家庭福祉と保育にかかわる職業 上智大学教授 網野　武博		（講義） 老人福祉と介護にかかわる職業 元全国社会福祉協議会 副会長　山田美和子	昼休み 移　動	（産業界等の見学と講義） A　百貨店における品質管理と人材活用（15 名） 東武百貨店池袋店 B　老人介護と福祉施設（35 名）　調布八雲苑 C　子育てを支える（10 名）　新宿区立子ども家庭支援センター				
8月9日 （土） （第６日目）	（演習・発表） 「生活産業基礎」の指導計画と指導方法の工夫改善 文部科学省初等中等教育局 主任視学官　河野公子		閉講式						

実施場所　全国高等学校家庭クラブ会館
文化服装学院

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（家庭：Ｅ－２）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　７月２８日（木）　～　平成１５年　８月　１日（金）				５日間
参加人数	計画人数	５０人	受講者数	２２人	（参加率）　４４．０％
開催場所	兵庫教育大学				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	18人	85.7%	3人	14.3%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○内容が濃く、充実した研修でした。１週間がとても短く感じました。日頃から知りたいと思っていた内容だったので、すぐに教育活動にいかしていけると思いました。意欲がわいてきました。
○現場で試行錯誤していたことが、今回この研修に参加して、整然と研究や説明があり、自分で行っていることの改善点や目標が明確にできたと感じています。5日間とても貴重な経験ができました。
○諸先生方の貴重な実践報告を含めて、とても充実した５日間でした。いかに自分の取組みが甘いかをまざまざと思い知らされました。「保育」分野の研修がこれまで後回しの状況で食や被服、住居などに取り紛れていました。もっと勉強したいと思います。
○交流授業をしても、フィードバックすることは、とても大切だとおもうのですが、なかなかできず、その方法がわかったのもよかったと思います。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度 新産業技術等指導者養成講習 日程表

新産業技術コース　家庭・Ｅ－２（乳幼児理解等に関する知識と技術）

時間 / 日付	9：30	10：00	10：30	11：00	12：30	13：30	15：00	16：30	
7月28日（月）	受　付	開講式（オリエンテーション）①	（講義）「家庭科の改訂の趣旨と保育に関する指導」 文部科学省初等中等教育局主任視学官　河野公子 ①		記念写真	（講義）「摂食：その調節・ダイエット・幼児期の心の傷による拒過食症」 福島県立医科大学教授　香山雪彦 ①		（講義）「軽度発達障害：ADHD, LD, 自閉症」 兵庫教育大学講師　井澤信三 ①	懇親会
7月29日（火）	（講義）「ことばの発達」 兵庫教育大学助教授　宇野宏幸 ①			（講義）「情緒・社会性の発達」 兵庫教育大学教授　松村京子 ①		（講義）「認知・思考の発達」 兵庫教育大学助手　宮元博章 ①		（講義）「乳幼児の生活と遊び」 静岡大学教授　金田利子 ①	
7月30日（水）	（実習）「乳幼児交流・観察実習 1」 参加者を2グループに分け，保育所で参加型（交流）実習と非参加型（観察）実習のいずれかを行う。 兵庫教育大学教授　松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程及び 兵庫教育大学学校教育研究科修士課程　院生４名　卒業生１名　②					（演習）「実習分析のためのグループ演習 1」 午前の観察結果についての分析と話し合いを行う。 兵庫教育大学教授　松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程及び 兵庫教育大学学校教育研究科修士課程　院生４名　卒業生１名　①，③			
7月31日（木）	（実習）「乳幼児交流・観察実習 2」 前日の交流実習と観察実習を入れ替えて行う。 兵庫教育大学教授　松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程及び 兵庫教育大学学校教育研究科修士課程　院生４名　卒業生１名　②					（演習）「実習分析のためのグループ演習 2」 午前の観察結果についての分析と話し合いを行う。 兵庫教育大学教授　松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程及び 兵庫教育大学学校教育研究科修士課程　院生４名　卒業生１名　①，③			
8月１日（金）	（講義）「乳幼児理解のための教育」 兵庫教育大学教授　松村京子 ①			（演習）「乳幼児理解のための学習」 各自の学校での指導計画を発表し， 兵庫教育大学教授　松村京子 京都府教育庁　松村千鶴		指導計画」 話し合う。 ①	閉講式 ①		

(注) ○付き数字は実施場所を示す。①：講義室１　②：川原保育所（垂水区），本山北町保育所（東灘区），浪松保育所（長田区），西灘保育所（灘区）　③：コンピュータ教室

Ⅰ　研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習　（家庭：Ｅ－３）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対　　象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　８月　４日（月）　～　平成１５年　８月　７日（木）				４日間
参加人数	計画人数	２０人	受講者数	２０人	（参加率）　１００．０％
開催場所	装道きもの学院				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	15人	88.2%	2人	11.8%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○軽視されつつある和の文化をしらしめるためには、私達が正しい方法をきちんと知っておくべきなのに、なかなかその機会が少なく困っていました。今回このような研修に参加させていただき、本当にためになりました。さらに、着物について学びたい気持ちです。
○いい年をして、知らない事が多く、生徒の行いを云々いう前に、まづ、私自身が礼法やマナーを身につけていなければと、自分の立ち居振る舞いを反省いたしました。
○テキストのイラストが大変わかり易く書かれているので、今回実習して体で覚えたことを、たとえ少し忘れても、このテキストを見ればすぐに思い出すことが出来ます。
○一人一人の思いがきけてよかったです。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度新産業技術等指導者養成講習日程

（家庭、Ｅ－３）

日　時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
8月4日（月）		開講式 内容説明※	（講義）体型の補整と下着の着け方	（着装）下着の着け方と外出着の着装	昼　食	（着装）外出着の着装と帯結び		※①連絡事項	
8月5日（火）		（講義）きものの精神美学		昼　食	（着装）礼装の着装 留袖の着装と帯結び（二重太鼓）				
8月6日（水）		（礼法）装道礼法の基本		昼　食	（着装） A 男子の礼装の着装 B 女袴の着装				
8月7日（木）		（着装）着装の総仕上げ		昼　食	（着装）復習 着装の総仕上げ	記念撮影	（講義）家庭科教育の動向	座談会	閉講式

装道きもの学院　お茶の水校

Ⅰ　研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習　（看護：Ｆ－１－１）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対　　象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　８月　４日（月）　～　平成１５年　８月１２日（火）				８日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	２４人	（参加率）　８０．０％
開催場所	愛国高等学校				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	8人	33.3%	13人	54.2%	3人	12.5%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○東大病院の、最新医療・設備・システム・各部署のトップリーダーの方々の講義内容３０分間という中で、ポイントをしっかり伝えることのすばらしさ、感嘆するばかりでした。可能であれば是非生徒を連れて見学したいと思います。
○看護過程の大枠がわかり易く具体的に教えていただき、今後の授業にいかせるものでした。非常にすばらしく、勉強になった。
○講義だけではわかりにくかったものが、自分自身で実際に演習することで、テクニックが身につきました。生徒にも指導できそうです。
○看護教育の原点をみつめることができたので、生徒たちにも学んだことを還元していきたい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

看　護（F－1－1）

1　期　　日　　平成１５年８月　４日（月）　１０：００　開講式
～８月１２日（火）　１６：００　終了

2　会　　場　　愛国高等学校
〒133-8585　東京都江戸川区西小岩５－７－１
TEL　０３－３６５８－４１１１
東京大学医学部附属病院
〒113-8655　東京都文京区本郷７－３－１
TEL　０３－３８１５－５４１１

3　講習内容

	午　前（9:30～12:30）			午　後（13:30～16:30）		
８月４日（月）	受付	開講式	研究協議「高等学校における看護教育の現状と課題」 文部科学省　大橋 泰久	教育心理学の視点による教育方法の改善 昭和大学 保健医療学部　久保田まり 先生		
８月５日（火）	フィジカルアセスメント教育とその指導法（フィジカルアセスメント実習を含む）			東京都立保健科学大学　城生　弘美 先生 保健学部看護学科　習田　明裕 先生 実取　直子 先生		
８月６日（水）	東京大学医学部附属病院での臨床研修（詳細は別紙）					
８月７日（木）	東京大学医学部附属病院での臨床研修（詳細は別紙）					
８月８日（金）	看護研究とその指導法（看護文献･情報の活用など） 東京都立保健科学大学 保健学部看護学科　塚本　尚子 先生			成人看護学・老人看護学の授業展開 川崎市立看護短期大学 真部　昌子 先生		
８月９日（土）	精神看護学臨地実習の指導 群馬県立精神医療センター 看護部長　坂田　三允 先生					
８月11日（月）	臨地実習教育の在り方 千葉大学看護学部　大室　律子 先生			看護技術と人間工学 筑波大学社会医学系　川口　孝泰 先生		
８月12日（火）	看護過程の展開の指導法（ペーパーペイシェントによる演習を含む） 東京都立保健科学大学 保健学部看護学科　石川ふみよ 先生				閉講式	

4　持参するもの　　（１）印鑑、ネームバッジ
（２）フィジカルアセスメントの実習ができる服装
（３）白衣（見学実習時に使用、実験衣で可）
（４）看護過程の展開の演習に使用できる参考書籍
（５）以下の項目について、それぞれＡ４用紙１枚程度にまとめ、４０部持参すること。
１　看護に関する学科における教育の現状と課題
２　基礎的な科目の指導方法等の工夫・改善について

5　そ の 他　　（１）初日は午前９時３０分より受付を行います。
（２）会場案内を添付します。
（３）宿泊は各自で手配してください。
（４）同封の誓約書は一括して東大医学部附属病院へ提出しますので、下記宛に直ちに返送してください。
〒951-0011　福島県会津若松市鶴賀町１番５号
仁愛高等学校内
全国看護高等学校長協会事務局

Ⅰ　研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習　（看護：Ｆ－１－２）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対　　象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　８月１８日（月）　～　平成１５年　８月２６日（火）				８日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	１７人	（参加率）　５６．６％
開催場所	熊本大学教育学部				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	16人	94.1%	1人	5.9%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○現代の最先端医療現場を実際にみることができ、看護部長をはじめ、出来るだけ多く学んで帰ってもらおうという意気込みや情熱が感じられました。本当にいい研修でした。（意見多数）
○看護部長はじめ皆様によりよい看護の提供をしなければという熱意が伝わりました。
○他の学校の方針や様々な先生方の考え方など聞くことができ、教員として未熟な自分にとってとても勉強になりました。病院実習では、看護師の方々の患者様中心の看護を目の当たりにし、心洗われるようでした。また、一から頑張ろうと初心に帰り大変有意義であったと思います。
○生徒がしっかりと２本足で立って、看護師として、やっていけるように教員が育てる教育の重要さを再認識しました。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

看　護（F－1－2）

1　期　　日　　平成１５年８月１８日（月）　９：４５　開講式
～８月２６日（火）１６：００　終了

2　会　　場　　熊本大学教育学部
〒860-8555　熊本市黒髪２丁目４０－１
TEL 096-342-2562
熊本大学医学部附属病院（臨床研修）
〒860-8556　熊本市本荘１丁目１－１
TEL 096-344-2111

3　講習内容

	午　前（9:30～12:30）			午　後（13:30～16:30）		
8月18日（月）	受付	開講式	研究協議１「高校教育及び看護教育の現状と課題」 熊本大学教育学部　木原　信市 先生	先端医療の現状 熊本大学教育学部　木原　信市 先生		
8局19日（火）	熊本大学医学部附属病院での臨床研修（詳細は別紙）					
8月20白（水）	熊本大学医学部附属病院での臨床研修（詳細は別紙）					
8月21日（木）	熊本大学医学部附属病院での臨床研修（詳細は別紙）					
8月22白（金）	老人・成人看護学の授業展開 熊本大学教育学部　河瀬比佐子 先生			看護過程と看護診断 熊本大学教育学部　花田　妙子 先生		
8月23白（土）	臨地実習の教育技法Ⅰ（演習） 熊本大学教育学部　上田　公代 先生、谷口まり子 先生、東　清巳 先生			臨地実習の教育技法Ⅱ（演習）		
8月25日（月）				看護教育技法 熊本大学教育学部　花田　妙子 先生		
8月26日〈火〉	高校教育及び看護教育の動向 熊本大学教育学部　木原　信市 先生 指導助言：　大橋　泰久　教科調査官			研究協議２「高校教育及び看護教育の現状と課題」 熊本大学教育学部 木原 信市 先生	閉講式	

4　持参するもの　　（１）印鑑、ネームバッジ
（２）病院での実習用具（白衣，ナース・シューズ等）
（２）以下の項目について、それぞれＡ４用紙１枚程度にまとめ、４０部持参すること。
1　看護に関する学科における教育の現状と課題
2　基礎的な科目の指導方法等の工夫・改善について

5　そ の 他　　（１）初日は受付を行いますので，９時２０分までに教育学部玄関に集合して下さい。
（２）会場案内を添付します。
（３）宿泊は各自で手配してください。

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（看護：Ｆ－２－１）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　８月　４日（月）　～　平成１５年　８月　８日（金）				５日間
参加人数	計画人数	１５人	受講者数	９人	（参加率）　６０．０％
開催場所	群馬県立精神医療センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	8人	88.9%	1人	11.1%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○ここ数年で、法律が変わり、新しい精神病院を知ることが出来た。自分の知識が浅く、古いもので、少しでも自信を持っていたことがはずかしかった。この研修で、最新の精神医療、実際の看護、実際の社会資源の現状等学ぶことができた。
○地域に開かれた精神病院を目指しているスタッフの方々に感謝している。今後は、プラスのイメージで精神看護の授業ができるものと思う。
○研修期間中に少しでも見学させたいというご配慮に頭がさがります。この研修を通して、単に精神看護についてのみ学んだのではなく、人間対人間の関係について考えさせられた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

看　護（Ｆ－２）

1　期　　日　（１）平成１５年８月　４　日（月）　９：５０　開講式
～８月　８　日（金）　１５：３０　終了
（２）平成１５年８月１８日（月）　９：５０　開講式
～８月２２日（金）　１５：３０　終了

2　会　　場　群馬県立精神医療センター
〒379-2221　群馬県佐波郡東村大字国定２３７４
TEL　０２７０－６２－３３１１

3　講習内容

（１） （２）	午　前（8:30～12:30）	午　後（13:30～16:30）
８月４日 （月） ８月18日	開講式 10：00～11：00 院長の講義 11：00～12：00 看護部長の講義	リハビリ病棟での実習 病棟のオリエンテーション 生活指導の援助 治療カンファレンス
８月５日 （火） ８月19日	リハビリ病棟での実習 生活指導の援助	リハビリ病棟での実習 生活指導の援助 患者ミーティング 診察の介助
８月６日 （水） ８月20日	浅見Drの講義 援護寮の見学実習	訪問看護の見学実習 実習計画と実習病院の連携について （講義）
８月７日 （木） ８月21日	急性期病棟での実習 病棟のオリエンテーション 個室対応（隔離、拘束の実際） 診察の介助	急性期病棟での実習 生活指導の援助 ＤＭＴ（ダンスムーブメントセラピー）
８月８日 （金） ８月22日	急性期病棟での実習 生活指導の援助 Ｍ－ＥＣＴ（修正型、電気けいれん療法） 入退院における看護者の関わり	13：30～14：00 病棟でのミーティング 14：00～15：00 全体のミーティング 講和・所管事項説明 国立政策研究所 文部科学省　大橋　泰久 閉講式

群馬県立精神医療センターは病癖が７カ所です。（Ａ Ｂ Ｃ Ｄ Ｅ Ｆ Ｇ）
Ａ～Ｃはリハビリ病棟、Ｅ～Ｇは急性期病棟です。ただし、Ａ病棟は高齢者と感染棟（結核）です。
実習配置について、月、火はリハビリ病棟、木、金は急性期病棟で実習をする。
水曜日の午後の訪問看護実習は１件につき２名位の参加です。全員の参加は難しいので、未体験者を含めた情報交換をしていただきます。

4　持参するもの　（１）印鑑、ネームバッジ
（２）病院での実習用具（各所属校のユニフォーム，シューズ等で可。ナースキャップは不要。）
（３）訪問看護実習用の服装（動きやすいもの）

5　そ の 他　（１）初日はセンター正面玄関で，９時３０分から９時４５分まで受付をします。
（２）２日目以降の実習は８時３０分より開始します。
（３）会場案内を添付します。
（４）宿泊は各自で手配してください。

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（看護：Ｆ－２－２）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　８月１８日（月）　～　平成１５年　８月２２日（金）				５日間
参加人数	計画人数	１５人	受講者数	６人	（参加率）　４０．０％
開催場所	群馬県立精神医療センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	5人	83.3%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	16.7%

２．研修内容に関する主な意見

○内容の深い学習ができました。あたらしい精神看護の方向性、治療、生活保障、社会の資源利用、患者さんのよりよい一生を皆さんの力で支援しようと心がけている、院長先生はじめ、精神医療センターの、社会に向けてのメッセージを送られて実践されているいる姿は、素晴らしいことだと思いました。私達医療関係者からまず人の力と和でよりよい社会になります様に声を広げていかなければいけないと強く感じました。
○医師・看護師・薬剤師の人たち、診察の介助役、主治医から回診の意味等、それぞれに関わっておられる姿を実際に目の当たりにして意味等理解できました。
○看護師の幅広い知識と、医療チーム以外のネットワークつくりに感動しました。
○他の先生方の学びを聞き、自分の感想とほぼ同様で皆この研修で得たものは大きかったと思います。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

看　護（F－2）

1　期　　日　（1）平成１５年８月　４　日（月）　９：５０　開講式
～８月　８　日（金）　１５：３０　終了
（2）平成１５年８月１８日（月）　９：５０　開講式
～８月２２日（金）　１５：３０　終了

2　会　　場　群馬県立精神医療センター
〒379-2221　群馬県佐波郡東村大字国定２３７４
TEL　０２７０－６２－３３１１

3　講習内容

（1） （2）	午　前（8:30～12:30）	午　後（13:30～16:30）
８月４日 （月） ８月18日	開講式 10：00～11：00 院長の講義 11：00～12：00 看護部長の講義	リハビリ病棟での実習 病棟のオリエンテーション 生活指導の援助 治療カンファレンス
８月５日 （火） ８月19日	リハビリ病棟での実習 生活指導の援助	リハビリ病棟での実習 生活指導の援助 患者ミーティング 診察の介助
８月６日 （水） ８月20日	浅見Drの講義 援護寮の見学実習	訪問看護の見学実習 実習計画と実習病院の連携について （講義）
８月７日 （木） ８月21日	急性期病棟での実習 病棟のオリエンテーション 個室対応（隔離、拘束の実際） 診察の介助	急性期病棟での実習 生活指導の援助 ＤＭＴ（ダンスムーブメントセラピー）
８月８日 （金） ８月22日	急性期病棟での実習 生活指導の援助 Ｍ－ＥＣＴ（修正型、電気けいれん療法） 入退院における看護者の関わり	13：30～14：00 病棟でのミーティング 14：00～15：00 全体のミーティング 講和・所管事項説明 国立政策研究所 文部科学省　大橋　泰久 閉講式

群馬県立精神医療センターは病癖が７カ所です。（Ａ Ｂ Ｃ Ｄ Ｅ Ｆ Ｇ）
Ａ～Ｃはリハビリ病棟、Ｅ～Ｇは急性期病棟です。ただし、Ａ病棟は高齢者と感染棟（結核）です。
実習配置について、月、火はリハビリ病棟、木、金は急性期病棟で実習をする。
水曜日の午後の訪問看護実習は１件につき２名位の参加です。全員の参加は難しいので、未体験者を含めた情報交換をしていただきます。

4　持参するもの　（1）印鑑、ネームバッジ
（2）病院での実習用具（各所属校のユニフォーム，シューズ等で可。ナースキャップは不要。）
（3）訪問看護実習用の服装（動きやすいもの）

5　そ の 他　（1）初日はセンター正面玄関で，９時３０分から９時４５分まで受付をします。
（2）２日目以降の実習は８時３０分より開始します。
（3）会場案内を添付します。
（4）宿泊は各自で手配してください。

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（福祉：L－１　）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては，産業技術の高度化，情報技術及び高齢化社会の進展，環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため，高等学校において産業教育を担当する教員等に対して，新産業技術に関する知識と技術を習得させ，指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　７月３０日（水）　～　平成１５年　８月　７日（木）				８日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	２４人	（参加率）　８０．０％
開催場所	文京社会福祉専門学校				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	22人	91.7%	1人	4.2%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	4.2%

２．研修内容に関する主な意見

○講師の先生方の熱心さ、豊富な経験に基づく説得力のある分かり易い講義、全てが新鮮で、大変感銘深く学ぶものがありました。１日も早く、ここで学んだことを生徒に伝えたいという気持ちでいっぱいです。この研修を通じて介護の意味、福祉の意味がわかったような気がします。
○実際にヘルパーさんの声がきけてよかった。ヘルパー職に対する自分の認識が変わった。
○福祉・介護の基礎知識がない、福祉現場を知らないため、授業をつくるにしてもどこにポイントをおいて何を伝えたらよいか全くつかめないでいました。今回一通りの流れを把握することができ、教材研究の進め方に見当がつきました。
○研修を受けて、福祉教育にプラス志向で取り組むことができた。来年は是非別の人に受講してもらい、福祉を真剣に考えている人と触れ合えば必ず教育への良い影響が先生の中に芽生えると思います。思いは伝わると思います。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

福祉：Ｌ－1

平成１５年度新産業技術等指導者養成講習日程

日　時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月30日（水）		開講式	アイスブレイク 自己紹介	講義「介護福祉教育とカリキュラム」	昼休み	講義「介護概論」			
31日（木）		講義「介護保険の基礎知識」			昼休み	実習「介護技術の基礎Ⅰ」 環境整備とベットメーキング			
8月1日（金）		講義「高齢社会と社会福祉」			昼休み	実習「介護技術の基礎Ⅱ」 移動援助の基本			
2日（土）		実習「介護技術の基礎Ⅲ」 車イスへの移乗と移動の介助			昼休み	実習「介護技術の基礎Ⅳ」 着替えの援助・排泄の援助			
4日（月）		実習「介護技術の基礎Ⅴ」 食事の援助			昼休み	実習「介護技術の基礎Ⅵ」 清潔の援助			
5日（火）		講義「介護保険と在宅介護」 ホームヘルパーサービスの現状			昼休み	演習「介護過程とケアプラン」 問題解決技法とその訓練			
6日（水）		講義「介護実習について」 実習目標とスーパービジョン			昼休み	福祉施設見学 「介護老人福祉施設見学」			
7日（木）		実習「介護技術のまとめ」 介護福祉士国家試験（実技試験）の考察			昼休み	講義 「講習のまとめ」	講義「高校教育及び福祉科教育の動向」	閉講式	

実施場所：文京社会福祉専門学校

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（福祉：Ｌ－２　）					
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係					
研修目的（趣旨）	産業教育においては，産業技術の高度化，情報技術及び高齢化社会の進展，環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため，高等学校において産業教育を担当する教員等に対して，新産業技術に関する知識と技術を習得させ，指導者としての資質の向上を図る。					
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事					
開催期日	平成１５年　７月２８日（月）　～　平成１５年　８月　１日（木）					５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	２８人	（参加率）	９３．３％
開催場所	ＮＨＫ学園高等学校					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	17人	60.7%	11人	39.3%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○講師の先生のレベルもそろっていて、深みがあり充実している、学びやすい講習でした。
○授業での実践を意識した講義で、とても具体的で分かりやすかった。
○展開方法の例示が大変参考になりました。
○社会福祉を学ぶ上での基本的な理念について理解でき、大変よかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度新産業技術等指導者養成講習日程

福祉：Ｌ－２

日　時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月28日（月）		開講式	講義「社会福祉援助技術の概要」		昼休み	講　義「社会福祉援助技術の方法と実際Ⅰ」個別的な援助			
29日（火）		講　義「社会福祉援助技術の方法と実際Ⅱ」集団及び家族への援助				講　義「社会福祉援助技術の方法と実際Ⅲ」地域を基盤とした援助			
30日（水）		講　義「社会福祉援助技術の方法と実際Ⅳ」さまざまな援助技術				講　義「援助過程と援助技法」			
31日（木）		講義「レクリエーション」レクリエーションの考え方と展開				実習「レクリエーション」レクリエーション活動の実際			
8月1日（金）		講義「コミュニケーション」コミュニケーションのとらえ方	講義「コミュニケーションの技法Ⅰ」手話			講義「コミュニケーションの技法Ⅱ」点字	講義「高校教育及び福祉科教育の動向」	閉講式	

実施場所：日本放送協会学園（ＮＨＫ学園）

Ⅰ　研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：Ｇ－１－１）					
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係					
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。					
対　　象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事					
開催期日	平成１５年　８月２５日（月）　～　平成１５年　８月２９日（金）					５日間
参加人数	計画人数	２３人	受講者数	３３人	（参加率）	１４３．４％
開催場所	茨城大学					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	27人	81.8%	3人	9.1%	0人	0.0%	0人	0.0%	3人	9.1%

２．研修内容に関する主な意見

○日本の物づくりの原点（のこぎり、さしがね、かんな等の調整法）を実習を含め学べた事は大変有意義でした。物づくり文化の深さを感じた。（道具の調整法一つで作品の完成レベルが違う、奥の深さを感じた。）物づくりは、道具づくりからという事を改めて確認できた。
○プラスチックの性質について、何より難解な高分子の特徴や性質構造について、コンパクトに、要点をわかりやすく教えていただいた事に感動しました。難しいと思える内容を基本的な原理にたちかえって簡単に説明していただき本当に勉強になりました。
○今回の研修は、「目からうろこが落ちる」ものでした。基礎基本の技能は、不可欠にして、重要である。新しい発想で物づくりを楽しむ技術科教育は、教師にかかっていることが今回わかりました。
○本当に現場のことを考え、すぐに役立つ内容と資料を用意していただき有難うございました。様々な面で、感銘を受け、自分自身の勉強になりました。
○教具、教材を工夫することで、新しい授業の展開が工夫できること、どんどん工夫して開発していかなければいけないと感じた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

技術：Ｇ－１－１

平成15年度新産業技術等指導者養成講習日程

9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
8月25日	受付	開講式	講義（佐藤） 木工具の調整法	実習（佐藤） さしがね・のこぎりの検査と調整	休憩	講義(佐藤) かんな刃口の働きと調整法	実習（佐藤），実習助手（小室） かんな刃口調整（刃口彫り落とし部分のけがきおよび加工，埋め木製作および接着固定）			
8月26日	実習（佐藤），実習助手（安田） かんな刃口調整（埋め木部分の加工），かんな台調整（下端，木端）			講義（佐藤） かんな身・裏金の研磨および調整法，	休憩	実習(佐藤)，実習助手（安田） かんな身・裏金の研磨，かんな削りの実践		講義（榊） 電気機器の整備について	実習(榊)，実習助手（小室） 電圧調整器の整備	懇親会
8月27日	講義（野崎） プラスチックの性質について		実習（野崎），実習助手（竹野） プラスチックの性質実験		休憩	講義(竹野) プラスチック加工法	実習（竹野），実習助手（野崎） プラスチック加工機の製作１			
8月28日	実習（竹野），実習助手（野崎） プラスチック加工機の製作２			講義（安田） バキューム成型について	休憩	講義(安田) 型の製作法	実習(安田)，実習助手（竹野） 型の製作とプラスチックのバキューム成型		講義(小室) エネルギー変換教材の製作法	
8月29日	実習(小室)，実習助手（榊） エネルギー変換教材の製作				休憩	講義(稲葉) 新しい栽培の展開について	講義(渡邊) 評価の考え方	講義（渡邊） これからの指導法	閉講式	

実施場所　茨城大学教育学部

※講習は教育学部Ｃ１０１（木材加工実習室）で行ないます。

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：G－1－2）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　８月　４日（月）　～　平成１５年　８月　８日（金）				５日間
参加人数	計画人数	２４人	受講者数	１８人	（参加率）　７５．０％
開催場所	島根大学				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	15人	83.3%	2人	11.1%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	5.6%

２．研修内容に関する主な意見

○これほど充実した役に立つ実習中心の講座は受けたことがなく、大変勉強になり有意義でした。特に木材加工領域については、工具に対しての手入れの大切さ、かんなのすばらしさを学ぶことができました。これまで替え刃式であったので、考えの甘かった点をよく認識することができ、自分で磨いでみようと思いました。
○プラスチック加工については、まったく思いもよらない教材でとても参考になりました。帯のこで簡単に切断できたり、金剛砥石で研磨したり、いろいろ学ぶことができ勉強になった。
○今回の研修に参加して、さらにものづくりに対する情熱、重要性を感じられた。
○正しく調整された工具を使った制作を、是非現場で伝達したい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度新産業技術等指導者養成講習（中学校：技術・家庭）日程

8月4日（月）

９：００	受付	
９：２０	開講式及びガイダンス	
９：４５～１２：００	木材加工（木工具の調整）	{山下担当}
１３：００～１６：３０	〃　（木工具の調整と使用法）	
１６：３０～１７：００	まとめ、質疑応答	

8月5日（火）

９：００～１２：００	木材加工（木工具の使用法）	{山下担当}
１３：００～１６：３０	〃　（木工技能診断評価及び小型木工機械の整備点検）	
１６：３０～１７：００	まとめ、質疑応答	

8月6日（水）

９：００～１２：００	木材加工（小型木工機械の安全な使用法）	{山下担当}
１３：００～１５：００	〃　（小型木工機械による製作実習）	
１５：００～１６：００	プラスチック加工（性質と加工）	{出口担当}
１６：００～１７：００	〃　（鋸断加工）	{大谷担当}

8月7日（木）

９：００～１２：００	プラスチック加工（鋸断加工、面接着加工）	{大谷担当}
１３：００～１６：３０	〃　（面接着、研削、研磨加工）	
１６：３０～１７：００	まとめ、質疑応答	

8月8日（金）

９：００～１２：００	プラスチック加工（穴開け、ねじ切り）	
１３：００～１４：３０	〃　（組み立て）	
１４：３０～１６：００	本講座の意義と指導活用法 学習指導要領をふまえた指導	{渡邊担当}
１６：００～１７：００	閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：Ｇ－２－１）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　９月　８日（月）　～　平成１５年　９月１２日（金）				５日間
参加人数	計画人数	３２人	受講者数	１９人	（参加率）　５９．４％
開催場所	北海道立教育研究所				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	13人	72.2%	4人	22.2%	0人	0.0%	1人	5.6%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○ネットワークの基礎的なところからお話していただけたので、大変参考になりました。
○ユーザ設定・管理とも業者任せでしたが、これからは、自分で修正できそうです。
○成績のデータをネットワーク上で、どう管理していけばよいのかを考えるにあたり大変参考になりました。
○情報化の進展と社会生活について、著作権にも触れてもらい有意義でした。
○ビデオ編集は初めて体験した。今後の教材づくりや、学校行事等で活用していきたい。
○今回の研修で、ベースになる部分について知ることができ、大変有意義に感じました。理論的な部分を、分からないまま指導していました。単にWebページ作りを題材とした授業からの脱却がはかれそうです。
○このようなじっくりと時間をかけて、研修をできるのは、初めてだったので、とてもいい経験ができました。ここで得た知識を現場で実践していきたいと思います。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

技術：G－2－1

（別紙－2）

平成１５年度 新産業技術等指導者養成講習日程表

【北海道会場：北海道立教育研究所】

日時	午前		午後	
	9:00	10:30　12:00	13:00	16:00
第1日 9／8 （月）	受付 オリエンテーション 開講式	【講演】 技術・家庭科における 情報教育	【講義・実習】 ネットワークの概要 ・ネットワークの概要と 構築の実際	【講義・実習】 サーバ構築と端末の接続Ⅰ ・ＬＡＮの構築 （ユーザ管理）
会場	第３研修室	第３研修室	第３研修室	第３研修室
講師		国立教育政策研究所 教科調査官　渡邉　康夫	北海道日本電気ソフトウェア(株) 主任　今野　幹男	北海道立教育研究所　研究研修主事 古市俊章、我妻公裕、廣瀬一仁、猪俣康行
第2日 9／9 （火）	【講義・実習】 サーバ構築と端末の接続Ⅱ ・ＬＡＮの構築 （ファイル管理）		【講義・実習】 ネットワーク運用とセキュリティ ・無線ＬＡＮを利用したネットワーク ・ネットワークのセキュリティ管理	
会場	第３研修室		第３研修室	
講師	北海道立教育研究所 研究研修主事　古市 俊章、我妻 公裕 研究研修主事　廣瀬 一仁、猪俣 康行		(株)アイ・オー・データ機器 ソリューション開発部　伊達　康司 主任　森　俊樹	
第3日 9／10 （水）	【講演】 情報化の進展と 社会生活	【講義・実習】 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑと計測・制御Ⅰ ・制御技術と プログラム作成	【講義・実習】 プログラムと計測・制御Ⅱ ・ｷｭｰﾍﾞｰｼｯｸを活用したプログラミング ・プログラムによるマイコンカートの制御	
会場	第３研修室	第３研修室	第３研修室	
講師	川村学園女子大学 教授　古藤 泰弘	ｽｽﾞｷ教育ｿﾌﾄ(株) 技術課長 阿久津 一史 ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	スズキ教育ソフト(株) 技術課長　阿久津 一史 ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	
第4日 9／11 （木）	【講義・実習】 マルチメディアの活用Ⅰ ・情報のデジタル化 ・静止画、音の編集		【講義・実習】 マルチメディアの活用Ⅱ ・動画の編集 ・マルチメディアの教材例	
会場	第３研修室		第３研修室	
講師	北海道立教育研究所 研究研修主事　奥崎 敏之、金子 義之 研究研修主事　伊藤 良平		(株)アイ・オー・データ機器 ＡＶネットワーク１課　羽田 明生 営業部　主任　小野 邦義	
第5日 9／12 （金）	【講義】 インターネットによる情報発信 インターネットを活用した授業展開事例		【講義】 教育情報通信ネットワーク の概要 ・ほっかいどうスクールネットの概要	15:15 閉講式
会場	第３研修室		第３研修室	
講師	札幌市立新琴似北中学校 教諭　浅井 信孝		ＮＴＴｺﾑｳｪｱ(株) 担当課長　堀田 祐介	

Ⅰ　研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：Ｇ－２－２）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対　　象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年１１月１０日（月）　～　平成１５年１１月１４日（金）				５日間
参加人数	計画人数	３４人	受講者数	２４人	（参加率）　７０．６％
開催場所	千葉県総合教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	14人	60.9%	9人	39.1%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○ビデオクリップづくりの講義は良い体験となった。
○情報モラルに関して、これからの授業・研修にすぐ活用していきたいと思いました。
○テキストは、わかり易く内容も良く、教材は具体的で、講義と実習のバランスがよい、一気に１０段階位い、考え方他スキルアップにつながりました。これからの授業で生かして行きたいです。
○ネットワークを活用した授業の実践例など、他校がどのように活用しているのか理解でき参考になった。
○今回の研修は、必要な骨組み的な内容に精選され、1週間の研修が適当である。実際に教材会社による説明などは、今後の授業にも役立てられ、大変参考になった。
○各県の技術科の先生方との情報交換ができたことがもう一つの成果であった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

技術：G－2－2

（別紙－2）

平成１５年度 新産業技術等指導者養成講習日程表

【千葉会場：千葉県総合教育センター】

日時	午前		午後
	9:00	10:30　12:00	13:00　16:00
第1日 11／10 （月）	受付 オリエンテーション 開講式	【講演】 技術･家庭科における 情報教育	【講義･実習】 ネットワークの概要及び通信プロトコル サーバ構築と端末の接続
会場	Ｃ３１１演習室	パソコン演習室	ニューメディア室
講師		国立教育政策研究所 教科調査官 渡邉 康夫	ＮＴＴ東日本㈱　渡辺　元気 千葉県立佐原高等学校　教諭　吉田　圭介
第2日 11／11 （火）	【講義･実習】 サーバ構築と端末の接続（続き）		【講義･実習】 サーバ構築と端末の接続（続き）
会場	ニューメディア室		ニューメディア室
講師	ＮＴＴ東日本㈱　渡辺　元気 千葉県立佐原高等学校　教諭　吉田　圭介		ＮＴＴ東日本㈱　渡辺　元気 千葉県立佐原高等学校　教諭　吉田　圭介
第3日 11／12 （水）	【講義】 ネットワークを活用した授業及び学校運営		【講義】 アルゴリズムの考え方 各種出力ポートを利用したｲﾝﾀｰﾌｪｰｽの機能
会場	パソコン演習室		パソコン演習室
講師	市川市立第二中学校　教諭　林　直也 茂原市立本納中学校　教諭　中村　健一		千葉県立幕張総合高等学校 教諭 川名　康央 千葉県立千葉工業高等学校 教諭 伊藤　英昭 スズキ教育ソフト㈱　技術課長 阿久津　一史
第4日 11／13 （木）	【講義･実習】 プログラミングの実際と計測・制御		【講義･事例発表】 マルチメディアの概要と機能 マルチメディアを活用した授業と 生徒の活用事例
会場	パソコン演習室		パソコン演習室
講師	千葉県立千葉工業高等学校 教諭 伊藤　英昭 千葉県立幕張総合高等学校 教諭 川名　康央 スズキ教育ソフト㈱　技術課長 阿久津　一史		千葉県立行徳高等学校　教諭　福島　毅 千葉県教育庁　指導主事　森本　均
第5日 11／14 （金）	【講義･事例発表】 インターネットにおける情報モラル インターネットを活用した授業展開事例 インターネットによる情報発信		12:15 閉講式
会場	パソコン演習室		Ｃ３１１演習室
講師	船橋市立前原中学校　教諭　伴　雄三 千葉県立東葛飾高等学校　教諭　大橋　真也		

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：Ｇ－２－３）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　８月１８日（月）　～　平成１５年　８月２２日（金）				５日間
参加人数	計画人数	３４人	受講者数	２３人	（参加率）　６７．６％
開催場所	新潟県立教育研究所				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	10人	43.5%	11人	47.8%	2人	8.7%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○再確認した部分もあり、新しく知ったり、発見することが多く、勉強になりました。ＬＡＮの実習をもう少しやりたかったですが、大変役に立ちました。
○プログラミングの実際と計測・制御を実際に動かしてみると、その楽しさからすごく興味をもてると思いました。一つしか制作しなかったので、もう少し実習してみたかったです。
○情報モラルに関しては、対生徒だけでなく、対教師のモラルの方法等、大変わかり易く、具体的であった。今後の学校で使えると思いました。
○他県の先生方と交流ができ、とても有意義であった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

技術：G－2－3

(別紙－2)

平成１５年度 新産業技術等指導者養成講習日程表

【新潟会場：新潟県立教育センター】

日時	午前		午後	
	9:00	10:30 12:00	13:00	16:00
第1日 8／18 (月)	受付 オリエンテーション 開講式	【講演】 技術・家庭科における 情報教育	【講義・実習】 ネットワークの概要及び通信プロトコル サーバ構築と端末の接続	
会場	CAD室	CAD室	CAD室	
講師		国立教育政策研究所 教科調査官 渡邉 康夫	富士通ｻﾎﾟｰﾄ&ｻｰﾋﾞｽ㈱ 高橋 ひとみ 富士通ｻﾎﾟｰﾄ&ｻｰﾋﾞｽ㈱ 斉藤 博司	
第2日 8／19 (火)	【講義・実習】 サーバ構築と端末の接続（続き）		【講義・実習】 サーバ構築と端末の接続（続き）	
会場	CAD室		CAD室	
講師	富士通ｻﾎﾟｰﾄ&ｻｰﾋﾞｽ㈱ 高橋 ひとみ 富士通ｻﾎﾟｰﾄ&ｻｰﾋﾞｽ㈱ 斉藤 博司		富士通ｻﾎﾟｰﾄ&ｻｰﾋﾞｽ㈱ 高橋 ひとみ 富士通ｻﾎﾟｰﾄ&ｻｰﾋﾞｽ㈱ 斉藤 博司	
第3日 8／20 (水)	【講義】 ネットワークを活用した授業及び学校運営		【講義】 アルゴリズムの考え方 各種出力ポートを利用したｲﾝﾀｰﾌｪｰｽの機能	
会場	CAD室		CAD室	
講師	富士通ｻﾎﾟｰﾄ&ｻｰﾋﾞｽ㈱ 高橋 ひとみ 富士通ｻﾎﾟｰﾄ&ｻｰﾋﾞｽ㈱ 斉藤 博司		スズキ教育ソフト㈱ 技術課長 阿久津 一史 スズキ教育ソフト㈱ 鈴木 真里	
第4日 8／21 (木)	【講義・実習】 プログラミングの実際と計測・制御		【講義】 マルチメディアの概要と機能	【講義・事例発表】 マルチメディアを活用した授業と生徒の活用事例
会場	CAD室		CAD室	CAD室
講師	スズキ教育ソフト㈱ 技術課長 阿久津 一史 スズキ教育ソフト㈱ 鈴木 真里		青海町立青海中学校 教諭 藤田 賢一郎	新潟市立白新中学校 教諭 池田 浩
第5日 8／22 (金)	【講義】 インターネットにおける情報モラル	【講義】 インターネットを活用した授業展開事例	12:15 閉講式	
会場	CAD室	CAD室		
講師	新潟市立内野中学校 教諭 小川 裕一	新潟市立小針中学校 教諭 工藤 展久		

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：G－2－4）						
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係						
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。						
対象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成１５年　８月２５日（月）　～　平成１５年　８月２９日（金）						５日間
参加人数	計画人数	３８人	受講者数	３０人	（参加率）		７８．９％
開催場所	奈良県立教育研究所						

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	12人	41.4%	17人	58.6%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○今後のコンピュータ教室の整備において、セキュリティー面での確かな考えをもつ事ができました。
○サーバーの管理についてとても役立ちました。自校でのサーバ管理者として活動したい。
○情報モラルについて、より詳しく知ることができた。
○授業実践と共に、専門業者の担当の方々から話を聞けたことはとてもよかったと思います。
○他県の先生方と交流ができ有意義な研修であった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

技術：Ｇ－２－４

(別紙－２)

平成１５年度 新産業技術等指導者養成講習日程表

【奈良会場：奈良県立教育研究所】

日時	午前		午後
	9:00	10:30　12:00	13:00　16:00
第１日 ８／25 (月)	受付 オリエンテーション 開講式	【講演】 技術・家庭科における 情報教育	【講義・実習】 ネットワークの概要及び通信プロトコル サーバ構築と端末の接続
会　場	教育工学室	教育工学室	教育工学室
講　師		国立教育政策研究所 教科調査官 渡邉 康夫	株式会社内田洋行　係長　野村 裕之 株式会社内田洋行　西谷 知之
第２日 ８／26 (火)	【講義・実習】 サーバ構築と端末の接続（続き）		【講義】 インターネットにおける情報モラル インターネットを活用した授業展開事例
会　場	教育工学室		教育工学室
講　師	株式会社内田洋行　係長　野村 裕之 株式会社内田洋行　西谷 知之		生駒市立生駒北中学校 教　諭　岡田 知也
第３日 ８／27 (水)	【講義・実習】 サーバ構築と端末の接続（続き）		【講義・実習】 ネットワークを活用した授業及び学校運営
会　場	教育工学室		教育工学室
講　師	株式会社内田洋行　係長　野村 裕之 株式会社内田洋行　西谷 知之		株式会社内田洋行　係長　野村 裕之 株式会社内田洋行　西谷 知之
第４日 ８／28 (木)	【講義・実習】 アルゴリズムの考え方 各種出力サポートを利用したｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ機能		【講義・実習】 プログラミングの実際と計測・制御
会　場	教育工学室		教育工学室
講　師	スズキ教育ソフト㈱ 技術課長　阿久津 一史 スズキ教育ソフト㈱ ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ　加藤 智奈美		スズキ教育ソフト㈱ 技術課長　阿久津 一史 スズキ教育ソフト㈱ ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ　加藤 智奈美
第５日 ８／29 (金)	【講義】 マルチメディアの機能と概要 マルチメディアの活用と授業展開事例		12:15 閉講式
会　場	教育工学室		教育工学室
講　師	大和郡山市立片桐中学校 教　諭　樫岡 健史		

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：Ｇ－２－５）					
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係					
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。					
対象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事					
開催期日	平成１５年１０月２０日（月）～平成１５年１０月２４日（金）					５日間
参加人数	計画人数	３８人	受講者数	２３人	（参加率）	６０．５％
開催場所	香川県教育センター					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	13人	56.5%	10人	43.5%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○サーバの構築は、本校で率先して取り組まなければならない課題でした、大変たすかりました。
○アルゴリズムの考え方は、これまで敬遠してきたが、わかりやすいテキストと説明で興味深く受講できた。
○パワーポイントは初めてだった。教科のみでなく、今後の学校の諸活動の中で有効に活用したい。
○情報モラルの確立は、本学校でも徹底的に指導したいと考えました。
○他県の取組みを知り、環境の違いに驚いた、今後の参考になった。
○今回の研修内容は普段自分では学習しないものがほとんどであり、大変勉強になりました。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

技術：G－2－5

(別紙－2)

平成１５年度 新産業技術等指導者養成講習日程表

【香川会場：香川県教育センター】

日時	午前		午後	
	9:00	10:30 12:00	13:00	16:00
第1日 10／20 (月)	受付 オリエンテーション 開講式	【講演】 技術・家庭科における 情報教育	【講義・実習】 ネットワークの概要 及び通信ﾌﾟﾛﾄｺﾙ	【講義・実習】 サーバの構築と 端末の接続
会　場	講義室	講義室	コンピュータ実習室	
講　師		国立教育政策研究所 教科調査官 渡邉 康夫	富士通㈱ 文教第三営業部課長　藤澤　均 富士通㈱ 四国支社　木目 貴子	
第2日 10／21 (火)	【講義・実習】 サーバの構築と端末の接続（続き）		【講義】 アルゴリズムの 考え方	【講義・実習】 各種出力ポートを 利用したｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ の機能
会　場	コンピュータ実習室		コンピュータ実習室	
講　師	富士通㈱ 文教第三営業部課長　藤澤　均 富士通㈱ 四国支社　木目 貴子		スズキ教育ソフト㈱ 技術課長　阿久津 一史 スズキ教育ソフト㈱ ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ　加藤 智奈美	
第3日 10／22 (水)	【講義・実習】 プログラミングによる計測・制御		【講義・研究協議】 実践発表及び事例研究 ・グループ別研究協議	
会　場	コンピュータ実習		コンピュータ実習室	
講　師	スズキ教育ソフト㈱ 技術課長　阿久津 一史 スズキ教育ソフト㈱ ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ　加藤 智奈美		香川県教育委員会 主任指導主事 國木 良輝 香川県教育センター 主席研究員 赤坂津代志	
第4日 10／23 (木)	【講義・実習】 マルチメディアの概要と機能 教材作成と提示方法		【講義・実習】 教材作成と利用方法 作品発表と相互評価	【講義・演習】 指導計画と 評価計画の作成
会　場	コンピュータ実習室		コンピュータ実習室	
講　師	香川県教育委員会 主任指導主事 國木 良輝 香川県教育センター 主席研究員 赤坂津代志		香川県教育委員会 主任指導主事 國木 良輝 香川県教育センター 主席研究員 赤坂津代志	
第5日 10／24 (金)	【講義】 「情報とｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」の 授業づくり	【講義・演習】 情報モラルの確立に 向けて	12:15 閉講式	
会　場	講義室	講義室	講義室	
講　師	香川大学教育学部 助教授　黒田　勉	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｿﾌﾄｳｪｱ著作権協会 事務局次長　三橋 信司		

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：Ｇ－２－６）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　７月２８日（月）　～　平成１５年　８月　１日（金）				５日間
参加人数	計画人数	３６人	受講者数	１５人	（参加率）　４１．６％
開催場所	鹿児島県総合教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	9人	60.0%	6人	40.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%
割合(%)										

２．研修内容に関する主な意見

○情報というと、少々嫌う部分がありましたが、それではこれからの社会、通用していくことができないと感じました。この研修を生かしていきます。
○自校のセキュリティーのあまさを認識した。
○ネットワークのつなぎ方がよくわからなかったので助かりました。
○プログラム通りにメカが動くところは、生徒も興味がそそられるところだと思う。もっと研究したい。
○授業の進め方や工夫の仕方が分かり大変参考になった。
○各県の技術担当者の先生方との交流もできて、良い刺激になった。自分自身も研修を深めて生きたい。（意見多数）

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

技術：G－2－6

(別紙－2)

平成１５年度 新産業技術等指導者養成講習日程表

【鹿児島会場：鹿児島県総合教育センター】

日時	午前		午後
	9:00	10:30　12:00	13:00　16:00
第1日 7／28 (月)	受付 オリエンテーション 開講式	【講演】 技術・家庭科における 情報教育	【講義】 ネットワークを活用した授業及び学校運営
会場	パソコン研修室Ⅰ	パソコン研修室Ⅰ	パソコン研修室Ⅰ
講師		国立教育政策研究所 教科調査官 渡邉 康夫	三島村立三島小・中学校 教頭　辻 慎一郎
第2日 7／29 (火)	【講義・実習】 ネットワークの概要及び通信プロトコル サーバ構築と端末の接続		【講義・実習】 サーバ構築と端末の接続（続き）
会場	ﾈｯﾄﾜｰｸ実習室		ﾈｯﾄﾜｰｸ実習室
講師	南日本ﾏｲｸﾛｺﾝﾋﾟｭｰﾀ㈱　取締役　野元　幸浮 南日本ﾏｲｸﾛｺﾝﾋﾟｭｰﾀ㈱　ﾏﾈｰｼﾞｬｰ　舟倉　香代		南日本ﾏｲｸﾛｺﾝﾋﾟｭｰﾀ㈱　取締役　野元　幸浮 南日本ﾏｲｸﾛｺﾝﾋﾟｭｰﾀ㈱　ﾏﾈｰｼﾞｬｰ　舟倉　香代
第3日 7／30 (水)	【講義・実習】 サーバ構築と端末の接続（続き）		【講義】 アルゴリズムの考え方 各種出力ポートを利用したｲﾝﾀｰﾌｪｰｽの機能
会場	ﾈｯﾄﾜｰｸ実習室		パソコン研修室Ⅰ
講師	南日本ﾏｲｸﾛｺﾝﾋﾟｭｰﾀ㈱　取締役　野元　幸浮 南日本ﾏｲｸﾛｺﾝﾋﾟｭｰﾀ㈱　ﾏﾈｰｼﾞｬｰ　舟倉　香代		スズキ教育ソフト㈱　技術課長 阿久津 一史 スズキ教育ソフト㈱　ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 若村 衛美子
第4日 7／31 (木)	【講義・実習】 プログラミングの実際と計測・制御		【講義】 マルチメディアの概要と機能 マルチメディアを活用した授業と 生徒の活用事例
会場	パソコン研修室Ⅰ		パソコン研修室Ⅰ
講師	スズキ教育ソフト㈱　技術課長 阿久津 一史 スズキ教育ソフト㈱　ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 若村 衛美子		田代町立田代中学校 教諭　石澤 博治
第5日 8／1 (金)	【講義】 インターネットにおける情報モラル インターネットを活用した授業展開事例		12:15 閉講式
会場	パソコン研修室Ⅰ		パソコン研修室Ⅰ
講師	鹿児島市立緑丘中学校 教諭　本村 安弘		

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（家庭：Ｈ－１）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、中学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	中学校の技術・家庭科担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　７月２８日（月）　～　平成１５年　８月　１日（金）				５日間
参加人数	計画人数	５０人	受講者数	５３人	（参加率）　１０６．０％
開催場所	東京学芸大学				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	32人	60.4%	21人	39.6%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%
割合(%)										

２．研修内容に関する主な意見

○保育分野については、自分自身あまり知識が深くなく、題材として扱う内容について戸惑うことが多かったので、今回の研修は大変役に立ちました。保育体験学習についても、保育園の先生方の１日の生活の大変さや、子供たちへの教育方針がとてもよくわかり、中学生の体験学習の際にも生徒につたえていかなければならないことが沢山ありました。
○日頃一人で考える指導計画や、授業案を相談しながら考えられたのは貴重でした。
○指導も評価にも、心が通ってこそと感じました。
○教師が幼児観察だけをする機会はほとんどないので、とても参考になりました。また、他県の保育事情を知るよい機会となりました。
○指導案・ワークシート等全国の先生方から、すぐにも使えるものを教えていただけました。
（意見多数）

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

家庭：Ｈ－１

平成１５年度　新産業技術等指導者養成講習日程表（東京学芸大学）

時　間	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:00	14:30	15:00	16:00
7月２８日 （月）		受　付	開講式 ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ	（講義） 「技術・家庭科の指導と評価Ⅰ」 （担当）水野香代子（文部科学省初等中等教育局教科調査官） （会場）生活科学学科研究棟		（講義） 「技術・家庭科の指導と評価Ⅱ」 （担当）筒井　恭子（石川県小松教育事務所指導主事） （会場）生活科学学科研究棟			（講義） 「家庭科と家族」 （担当）大竹美登利（東京学芸大学教授） （会場）生活科学学科研究棟	
7月２９日 （火）		（講義） 「乳幼児の発達１」 保育場面の子供の遊びなどについて発達的側面から説明 （担当）倉持　清美（東京学芸大学助教授） （会場）生活科学学科研究棟		（講義） 「乳幼児の発達２」 保育場面の子供の遊びなどについて発達的側面から説明 （担当）倉持　清美 （会場）生活科学学科研究棟		（演習） 「保育体験学習の展開」 パネルディスカッション パネラー　金子　京子　（さいたま市立大谷場中学校教諭） 井口　眞美　（東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎教諭） 阿部　睦子　（東京学芸大学附属中学校教諭） 司会　大竹　美登利（東京学芸大学教授） 倉持　清美　（東京学芸大学助教授） （会場）生活科学学科研究棟			
7月３０日 （水）		（実習） 「幼児観察１」 約４名毎の１３グループに指導者が１名つき，適宜保育所で観察を行う （担当）倉持　清美、井口　眞美、待井ナオミ（元東京学芸大学附属幼稚園教諭）、東京学芸大学大学院生１３名 （会場）小金井，国分寺地区保育園　（１３園）				（演習） 「保育体験学習指導法１」 グループディスカッション （担当）倉持　清美，伊藤　良子（東京学芸大学教授），井口　眞美，待井ナオミ			（演習） 「保育体験学習指導法２」 授業案作成 （担当）大竹美登利 倉持　清美 （会場）生活科学学科研究棟	
7月３１日 （木）		（実習） 「幼児観察２」 約４名毎の１３グループに指導者が１名つき，適宜保育所で観察を行う （担当）倉持　清美、東京学芸大学大学院生１３名 （会場）小金井，国分寺地区保育園　（１３園）				（演習） 「保育体験学習指導法３」 授業案作成 （担当）大竹美登利 倉持　清美 （会場）生活科学学科研究棟		（演習） 「保育体験学習指導法４」 授業案発表 （担当）大竹美登利 倉持　清美 （会場）生活科学学科研究棟		
8月　１日 （金）		（講義） 「保育の現代的問題」 現代社会における保育の問題を扱う （担当）　田村　毅 （会場）　生活科学学科研究棟				（演習） 「保育体験学習指導法５」 授業案発表 （担当）大竹美登利 倉持　清美 （会場）生活科学学科研究棟		閉講式		

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（工業：Ⅰ－1）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　７月２２日（月）　～　平成１５年　８月２９日（金）				３０日間
参加人数	計画人数	２２人	受講者数	１４人	（参加率）　６３．３％
開催場所	大学生協渋谷会館				

Ⅱ　アンケート結果の状況

1．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	9人	64.3%	5人	35.7%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

2．研修内容に関する主な意見

○Linuxサーバードについて、組み立てから課題研究まで、まとまって学習できたことは、大変役にたちました。
○オブジェクトプログラミングの基礎がよく理解できました。
○基本的な部分の研修と、課題研究があることで、自分のやりたいところを重点的に学習できたのが良かった。
○普段行くことのできない所へ行けて良かった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度新産業技術等指導者養成講習日程

（工業・情報，Ｉ－１）

委託団体名：株式会社東大総研

日　時	10	11	12	13	14	15	16	17
7月22日(火)	開講式／ (講義) 講習の目的とカリキュラム	(講義) 本講習と「情報技術」教育について	昼休み	(実習) 1 Linuxマシーンの組み立て実習 <組み立て>		休憩	(実習) 1 Linuxマシーンの組み立て実習 <組み立て>	
7月23日(水)	(実習) 2 Linuxマシーンの組み立て実習 <OSインストール>		昼休み	(実習) 3 LAN設定実習<ケーブル作成・LAN接続>		休憩	(実習) 4 LAN設定実習<アプリケーションのインストール>	
7月24日(木) ～7月25日(金)	(講義) Unix(Linux)の操作		昼休み	(講義) Unix(Linux)の操作		休憩	(講義) Unix(Linux)の操作	
7月28日(月) ～8月1日(金)	(講義) Javaプログラミング		昼休み	(講義) Javaプログラミング		休憩	(講義) Javaプログラミング	
8月4日(月) ～8月7日(木)	(講義) ネットワーク構築、管理、保守		昼休み	(講義) ネットワーク構築、管理、保守		休憩	(講義) ネットワーク構築、管理、保守	
8月8日(金)	(見学) 電気通信大学		昼食	(見学) 移動		休憩	(見学) 東京大学	
8月11日(月)	(トピックス) ゲーミングで考えるアプリケーションの実務利用		昼休み	(トピックス) ゲーミングで考えるアプリケーションの実務利用		休憩	(トピックス) ゲーミングで考えるアプリケーションの実務利用	
8月12日(火)	(講義) H8LANボードを使ったハード制御		昼休み	(講義) H8LANボードを使ったハード制御		休憩	(講義) H8LANボードを使ったハード制御	
8月13日(水)	(実習) 5 H8LANボードを使ったハード制御		昼休み	(実習) 5 H8LANボードを使ったハード制御		休憩	(実習) 5 H8LANボードを使ったハード制御	
8月14日(木)	(課題研究) 課題テーマ設定とグループ分け		昼休み	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施		休憩	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施	
8月15日(金) ～8月28日(木)	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施		昼休み	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施		休憩	(課題研究) 各グループでの課題テーマの実施	
8月29日(金)	(発表準備) -課題研究成果発表準備		昼休み	(発表) -課題研究発表		休憩	(発表) -課題研究成果発表・閉講式	

*8月23日（土）を除く土、日曜日はお休み

実施場所：大学生協渋谷会館

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（工業：Ⅰ－２）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　８月１８日（月）　～　平成１５年　８月２９日（金）				１０日間
参加人数	計画人数	２５人	受講者数	２２人	（参加率）　８８．０％
開催場所	株式会社内田洋行　教育システム事業部				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	20人	90.9%	2人	9.1%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○色々なソフトが出る中で、何が今、学校で大事なのかを改めて分かった気がする。電子科は製図に力を入れてなくて、今でも手書きだが、学科改編などを利用してソフトを購入して、変えていきたい。
○独学ではマスターできない、ソフトを活用させていただき大変良い勉強になりました。
○今回は、高価なソフトを勉強しましたが、そのソフトが学校にない場合は、充分に成果が出ません。可能なら、Ｗｉｎムービーメーカーや Ｐｏｖ－ｒａｙ、メタセコイア等の無料ソフトにも多少ふれてもらいたいと思いました。
○自分でやることによって、復習することになり、さらに技術的なことをサポートしていただき、よい学習の機会になった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度　新産業技術等指導者養成講習日程

（工業，I－2）

社団法人　全国工業高等学校長協会

月日	曜日	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8月18日	月				受付	開講式	オリエンテーション	（講義）デジタル化技術の実際			
8月19日	火		（講義）アナログデータのデジタル化技術　基礎		昼休み	（実習）アナログデータのデジタル化技術　基礎					
8月20日	水		（講義）アナログデータのデジタル化技術　基礎		昼休み	（実習）アナログデータのデジタル化技術　基礎					
8月21日	木		（講義）アナログデータのデジタル化技術　応用		昼休み	（実習）アナログデータのデジタル化技術　応用					
8月22日	金		（講義）アナログデータのデジタル化技術　応用		昼休み	（実習）アナログデータのデジタル化技術　応用					
8月23日	土										
8月24日	日										
8月25日	月		（講義）デジタルデータ加工技術		昼休み	（実習）デジタルデータ加工技術					
8月26日	火		（講義）デジタルデータ加工技術		昼休み	（実習）デジタルデータ加工技術					
8月27日	水		（見学）最新施設見学（企業・学校等）		昼休み	（見学）最新施設見学（企業・学校等）					
8月28日	木		（実習）課題研究（プレゼンテーション準備）		昼休み	（実習）課題研究（プレゼンテーション準備）					
8月29日	金		（研究協議）課題発表		昼休み	（講義）文部科学省	閉講式				

実施場所：株式会社　内田洋行　潮見オフィス　〒135-8730　東京都江東区潮見2-9-15　TEL：03-56734-6397　FAX：03-5634-4088

※上記内容につきましては、変更することがあります。

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（商業：Ｊ－１）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　７月２４日（木）　～　平成１５年　８月２７日（水）				２０日間
参加人数	計画人数	２２人	受講者数	１５人	（参加率）　６８．１％
開催場所	財団法人ソフトピアジャパン　全国マルチメディア専門研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	7人	50.0%	7人	50.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○問題発見解決型教育はすばらしいと思いました。
○社会構造の変化を具体的な例で挙げていただき、大変参考になった。
○システム設計、コーディング、テストランなどプログラミングの流れを時間をかけてとりくみ、作品制作は、大変だったが、作るという楽しさを知ることが出来良かった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日　程・研修会場一覧

	月日	曜	講　座　内　容	研　修　会　場
1	7/24	木	開講式	研修室２（５階）
			オリエンテーション	研修室２（５階）
			地域ネットワークと公共モデル（特別講義）	研修室２（５階）
			ソフトピアジャパン施設紹介（視察）	センタービル、アネックス、ドリーム・コア、ワークショ
2	7/25	金	インターインディペンデント時代の人とネットワーク（特別講義）	研修室２（５階）
[illegible]				
3	7/28	月	情報技術の変遷とＪａｖａ	研修室２（５階）
			Ｊａｖａとオブジェクト指向	マルチメディア実習室２（４階）
4	7/29	火	知的生産の勘どころ（特別講義）	研修室２（５階）
5	7/30	水	知的生産の勘どころ（特別講義）	研修室２（５階）
6	7/31	木	Ｊａｖａプログラミング　－基礎編－	マルチメディア実習室２（４階）
7	8/1	金	Ｊａｖａプログラミング　－基礎編－	マルチメディア実習室２（４階）
[illegible]				
8	8/4	月	Ｊａｖａプログラミング　－基礎編－	マルチメディア実習室２（４階）
9	8/5	火	Ｊａｖａプログラミング　－基礎編－	マルチメディア実習室２（４階）
10	8/6	水	ＨＴＭＬとモバイル対応コンテンツ	マルチメディア実習室２（４階）
11	8/7	木	ＨＴＭＬとＪａｖａ	マルチメディア実習室２（４階）
12	8/8	金	情報関連企業・教育機関の視察	テクノプラザ、岐阜大学
[illegible]				
13	8/18	月	Ｊａｖａプログラミング　－サーブレット編－	マルチメディア実習室２（４階）
14	8/19	火	Ｊａｖａプログラミング　－サーブレット編－	マルチメディア実習室２（４階）
15	8/20	水	Ｊａｖａプログラミング　－サーブレット編－	マルチメディア実習室２（４階）
16	8/21	木	作品制作	マルチメディア実習室２（４階）
17	8/22	金	作品制作	マルチメディア実習室２（４階）
[illegible]				
18	8/25	月	作品制作	マルチメディア実習室２（４階）
19	8/26	火	作品制作	マルチメディア実習室２（４階）
20	8/27	水	作品発表会	マルチメディア実習室２（４階）
			学習指導要領の改訂と情報教育（特別講義）	マルチメディア実習室２（４階）
			閉講式・交流会	センタービル　レセプションルーム（１２階）

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（商業：Ｊ－２）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	産業教育においては、産業技術の高度化、情報技術及び高齢化社会の進展、環境問題などに配慮した新しい視点に立った産業技術が求められている。このため、高等学校において産業教育を担当する教員等に対して、新産業技術に関する知識と技術を習得させ、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　７月２２日（火）　～　平成１５年　８月　１日（金）				１０日間
参加人数	計画人数	２５人	受講者数	２０人	（参加率）　８０．０％
開催場所	千葉商科大学				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	16人	80.0%	3人	15.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	5.0%

２．研修内容に関する主な意見

○今回の研修で、発展的、応用的な課題設定により勉強することができました。色々なソフトによる応用ができました。
○質、量とも充実した研修になりました。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度新産業技術等指導者養成講座講習日程

科目名　講習番号　　委託団体名　　実施場所

商業　Ｊ－２　　全国商業高等学校長協会　　千葉商科大学

日　時	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	16:30
7月 ２２日 (火)	受付 開講式	「変革の時代における ビジネス教育」 (講義)			昼食	「プログラミングの指導」 Visual　BASIC－１ (講義・実習)			
7月 ２３日 (水)	Visual　BASIC－２ (講義・実習)				昼食	Visual　BASIC－３ (講義・実習)			
7月 ２４日 (木)	「ビジネス情報の指導」 ＶＢＡの活用－１ (講義・実習)				昼食	ＶＢＡの活用－２ (講義・実習)			
7月 ２５日 (金)	ＶＢＡの活用－３ (講義・実習)				昼食	「ビジネス情報の指導」 システム開発とデータベース－１ (講義・実習)			
7月 ２６日 (土)	システム開発とデータベース－２ (講義・実習)				昼食	システム開発とデータベース－３ (講義・実習)			

日　時	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	16:30
7月 ２８日 (月)	「ビジネス情報の指導」 ネットワークの基礎－１ (講義・実習)				昼食	ネットワークの基礎　－２ (講義・実習)			
7月 ２９日 (火)	「文書デザインの指導」 Webデザインと情報発信－１ (講義・実習)				昼食	Webデザインと情報発信－２ (講義・実習)			
7月 ３０日 (水)	「文書デザインの指導」 プレゼンテーションとその指導－１ (講義・実習)				昼食	プレゼンテーションとその指導－２ (講義・実習)			
7月 ３１日 (木)	経営情報教育 の指導 (講義・実習)	各校のカリキュラムと その狙い (講義・ディスカッション)			昼食	「文書デザインの指導」 マルチメディアの活用 (講義・実習)			
8月 １日 (金)	「ビジネス情報の指導」 ビジネス情報の分析と活用－１ (講義・実習)				昼食	ビジネス情報の分析と活用－２ (講義・実習)			閉講式

受　付　７月２２日（火）　９：３０～１０：００

懇親会　７月２２日（火）　１６：３０～　（注）　流通の研修生と一緒に

Ⅰ　研修概要

研修名	学校安全教育指導者研修会（第１回　交通安全）					
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係					
研修目的（趣旨）	各学校における交通安全教育及び，防災教育・災害時の心の健康に関する教員等の研修を行ない，安全教育指導者の資質の向上を図り、もって学校安全の充実に質する。					
対象	国公私立の小学校、中学校、高等学校，中等教育学校及び特殊教育諸学校及び養護学校等の交通安全教育に関し、各都道府県において指導的役割を果たしている教員及び教育委員会の交通安全教育担当指導主事等。					
開催期日	平成１５年　５月２６日（火）　～　平成１５年　５月２９日（金）					４日間
参加人数	計画人数	２１０人	受講者数	１５１人	（参加率）	７１．９％
開催場所	独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター					

学校安全教育指導者研修会（第１回及び第２回、７日間）

参加人数	計画人数	２１０人	受講者数	３４９人	（参加率）	１６６．２％

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	79人	59.0%	52人	38.8%	0人	0.0%	3人	2.2%

２．研修内容に関する主な意見

○安全教育に対する見識を深める事が出来た。高度な知識，技術に触れる事が出来とても良かった。
○危険予測に関する理論的な研究を講義を通して知る事が出来た。救助法や自転車に関するより高度な知識，技術を修得することができ，役立った。
○多くの学校の実践を聞く事が出来た。交通安全教育の取り組みの大切さを再確認できた。
○学校安全教育の状況と課題が明らかになり今後の方向性を確かめる事が出来た。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　学校安全教育指導者研修会（第１回）

		会場	9:30	10:00	10:30	11:30	12:30	14:45	15:00	17:00
5月26日（月）	全体会	国際交流棟 国際会議室	受付	開会式	講義１「学校における交通安全教育の考え方、進め方」 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田芳雄 【衛星配信予定】	昼休・食憩	シンポジウム「家庭及び地域社会との連携による学校での交通安全教育」 ・シンポジスト 愛知県一宮市立北方小学校 教諭 真野正一 鳥取県岩美町立岩美中学校 教諭 大坪正雄 鹿児島県立頴娃高等学校 教諭 田中耕一郎 埼玉県神川町教育委員会学務課 指導主事 福嶋慶治 ・コーディネータ 文部科学省ｽﾎﾟｰﾂ・青少年局 体育官 戸田芳雄 【衛星配信予定】	休憩	講義２「交通安全行動と心理」 大阪大学 名誉教授 長山泰久 【衛星配信予定】	

	部会	会場	9:30	12:00	13:00	14:00	14:30	17:00
5月27日（火）	小	国際交流棟 第１ミーティング 受付	講義・演習 ＜小学校部会＞「危険予測を中心とした教材の作成と活用について」 (財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石毛昭治 静岡県生活文化部文化政策室 主査 桜井祥行	昼休・食憩	講義３「応急手当の意義と方法」 日本赤十字社 事業局 救護・福祉部健康安全課長 三井俊介 会場 センター棟 １０１	休憩・移動	実習１「応急手当の手順と方法」 日本赤十字社 救急法指導員（２０名） 会場 国際会議室	
	中	国際交流棟 第１ミーティング 受付	講義・演習 ＜中学校部会＞「危険予測を中心とした教材の作成と活用について」 (財)日本交通安全教育普及協会 教育専門委員 和田浩明 神奈川県教育庁教育部保健体育課 指導主事 山田寛					
	高	第２ミーティング 受付	講義・演習 ＜高等学校部会＞「危険予測を中心とした教材の作成と活用について」 広島国際大学 助教授 小川和久 千葉県教育庁教育振興部学校保健課 指導主事 川上純					

	部会	会場	9:30	10:00	11:00	11:15	12:30	13:30	15:00	15:30	17:00
5月28日（水）	小・中	国際交流棟 国際会議室 受付	講義４「事例に見る自転車事故の現状と指導のポイント」 (財)交通事故総合分析センター 主任研究員 吉田伸一		休憩	講義５「自転車の実技指導の進め方」 (財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石毛昭治	昼休・食憩	実習２「自転車の特性と安全指導」 (財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石毛昭治 (財)日本サイクリング協会 業務第一部長 竹之下守 他 指導員 ７名			
	高	日本体育学校健康センター（国立競技場大会議室）及び明治公園 受付	講義６及び実習３「二輪車の特性と安全指導（理論と実技）」 日本大学 教授 岡野道治 (社)全国二輪車安全普及協会指導員（８名）				昼食・休憩 (12:30～13:30頃に１時間程度)	(引き続き) 講義６及び実習３「二輪車の特性と安全指導（理論と実技）」 日本大学 教授 岡野道治 (社)全国二輪車安全普及協会指導員（８名）	休憩	講義７及び実習４「自転車の実技指導の進め方」 (財)日本交通安全教育普及協会 教育専門委員 和田浩明 主幹 小池敏男 (補助) 参加指導主事	

	部会	9:30	11:00	11:15	15:30	15:45
5月29日（木）	小	受付	講義８「事例等に見る交通事故の責任と補償」 千葉大学 教授 小賀野晶一 会場 カルチャー棟 小ホール	休憩・移動	研究発表・研究協議 ＜小学校部会＞「小学校における効果的な交通安全教育の進め方」 (発表校) (指導助言者) 青森県五所川原市立中央小学校 教諭 工藤直之 東京都足立区立西新井第二小学校 校長 矢萩惠一 秋田県峰浜村立塙川小学校 教諭 佐々木顕信 岡山県教育庁保健体育課 課長補佐 坂根清貴 (司会) 参加指導主事 ２名 会場 国際交流棟 第１ミーティング	閉会
	中				研究発表・研究協議 ＜中学校部会＞「中学校における効果的な交通安全教育の進め方」 (発表校) (指導助言者) 和歌山県下津町立下津第二中学校 教諭 森浩基 山形県上山市立南中学校 校長 鈴木隆重 滋賀県長浜市立南中学校 教諭 脇阪久徳 埼玉県立総合教育センター (司会) 参加指導主事 ２名 主任指導主事 松永勝 会場 センター棟 ５１３	閉会
	高				研究発表・研究協議 ＜高等学校部会＞「高等学校における効果的な交通安全教育の進め方」 (発表校) (指導助言者) 奈良県立御所工業高等学校 教諭 山田芳弘 千葉県立君津青葉高等学校 校長 石井征之 山梨県立山梨園芸高等学校 教諭 熊谷栄二 山形県教育庁スポーツ保健課 保健主幹 高橋藤徳 (司会) 参加指導主事 ２名 会場 センター棟 ４０３	閉会

※　講義１、シンポジウム、講義２については、平成15年6月26日（木）にエル・ネットを活用した衛星配信研修として配信する予定。

（各都道府県内における受信・再配信計画については、各都道府県教育委員会の本研修会担当課にご確認願います。）

Ⅰ　研修概要

研修名	学校安全教育指導者研修会（第２回　防災・心の教育）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	各学校における交通安全教育及び，防災教育・災害時の心の健康に関する教員等の研修を行ない，安全教育指導者の資質の向上を図り、もって学校安全の充実に資する。				
対象	国公私立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校，中等教育学校及び特殊教育諸学校の防災教育・防災時の心の健康について、都道府県内で指導的立場にある教諭及び養護教諭並びに都道府県及び市町村教育委員会の担当指導主事等				
開催期日	平成１６年　１月２８日（水）　～　平成１６年　１月３０日（金）				３日間
参加人数	計画人数	２１０人	受講者数	１９８人	（参加率）　９４．３％
開催場所	独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター				

学校安全教育指導者研修会（第１回及び第２回、７日間）

参加人数	計画人数	２１０人	受講者数	３４９人	（参加率）　１６６．２％

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	90人	50.0%	78人	43.3%	3人	1.7%	9人	5.0%

２．研修内容に関する主な意見

○被害者にならないような内容が多く、大切だとは思うが、加害者を出さない、させない内容も十分検討し広めて欲しい。予防と対応のバランスも大切だと思った。
○安全確保の方法という面での内容が不十分であった。講師の専門的な話は自己の視野を広げるという意味では成果があったが、学校における安全教育に生かせるかは疑問が残った。
○危機管理の専門家の講義が聴きたい。（大学教授より現場の第１線の方）
○伝達講習のため、冊子資料と当日の発表内容が大きく異ならないようにして欲しい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　学校安全教育指導者研修会（第２回）日程一覧

1月28日（水）	9:30	全体会	会場：国際交流棟 国際会議室	受付	開会式	10:00 10:30	講義１ 学校における安全教育の充実 ～防災及び防犯を中心に～ 文部科学省 スポーツ・青少年局 体育官　戸田芳雄 【衛星配信予定講義】	12:00 昼食 13:00	講義２ 地震による災害の危険と安全確保の方法 日本大学 助教授 中森広道 【衛星配信予定講義】	14:50 15:10 休憩 17:00 講義３ 気象災害の危険と安全確保の方法 NHK放送用語委員会 専門委員 宮澤清治 【衛星配信予定講義】

※ *講義1、2、3については、平成16年2月下旬〔日時、受信チャンネル等については追って各県教委へ連絡します〕に、エル・ネットを活用した衛星配信研修として配信する予定です。*

1月29日（木）	9:30	全体会	会場：国際交流棟 国際会議室	受付	10:00	講義４ 子どもの犯罪被害の防止 立正大学 助教授 小宮信夫 【衛星配信予定講義】	12:00 昼食 13:00	講義５ 総合的な学習の時間と安全 鳴門教育大学　教授 村川雅弘 【衛星配信予定講義】	14:50 15:10 休憩 17:00	講義６ 災害時における子どもの心の健康について 大阪人間科学大学　教授 原田正文 【衛星配信予定講義】

※ *講義4、5、6については、平成16年2月下旬〔日時、受信チャンネル等については追って各県教委へ連絡します〕に、エル・ネットを活用した衛星配信研修として配信する予定です。*

1月30日（金）	9:30	幼稚園	会場：センター棟 404号室	受付【各分科会会場ごと】	10:00	実践発表及び研究協議 1 家庭・地域と連携した幼稚園における効果的な安全教育（防災・防犯）の進め方	12:00 昼食 13:00	実践発表	指導助言		15:00 閉会
		小学校	310号室			実践発表及び研究協議 2 家庭・地域と連携した小学校における効果的な安全教育（防災・防犯）の進め方		防災 熊本県水俣市立袋小学校長　蒲生正人 防犯 千葉県君津市立小糸小学校長　鶴岡英夫	兵庫県教育委員会教育企画室長　中杉隆夫 東京学芸大学助教授　渡邊正樹		閉会
		中学校	405号室			実践発表及び研究協議 3 家庭・地域と連携した中学校における効果的な安全教育（防災・防犯）の進め方		防災 神奈川県南足柄市立足柄台中学校教諭　沼田勝彦 防犯 大阪府寝屋川市立第一中学校長　竹井 繁	埼玉県教育局生涯学習部健康教育課指導主事　星 健次郎 神戸大学教授　南 哲		閉会
		高等学校	311号室			実践発表及び研究協議 4 家庭・地域と連携した高等学校における効果的な安全教育（防災・防犯）の進め方		防災 兵庫県立鈴蘭台高等学校教諭　浅堀 裕 防犯 奈良県立高取高等学校長　澤田一夫	大阪府教育委員会保健体育課主任指導主事　吉田最一 武蔵丘短期大学教授　齋藤歌旭		閉会
		心の健康	403号室			実践発表及び研究協議 5 学校における災害時の児童生徒等の心の健康への対応について		愛媛県立宇和島水産高等学校教諭　岡本勇人 北海道豊浦高等学校養護教諭　大蔵 真奈美	神戸市総合教育センター教育相談室相談員　青山泰子 三重県国立療養所榊原病院長　長尾圭造		閉会

Ⅰ　研修概要

研 修 名	公立小・中学校幹部事務職員研修講座				
担当課係	研修事業第二課　国内短期研修係				
研修目的（趣旨）	公立の小学校及び中学校の事務職員で指導的立場にある者に必要な研修を行い、事務職員の資質の向上を図り、もって学校の運営に資する。				
対　　象	公立小学校及び中学校の幹部事務職員				
開催期日	平成１６年　１月１４日（水）　～　平成１６年　１月２３日（金）				５　日間
参加人数	計画人数	１００人	受講者数	９６人	（参加率）　９６．０％
開催場所	独立行政法人教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	60人	63.2%	32人	33.7%	1人	1.1%	0人	0.0%	2人	2.1%

２．研修内容に関する主な意見

○全国各地の方々とさまざまな意見交換ができ各県の状況が理解でき大変有意義であった。
○企業の考え企業の戦略など学校に置き換えて考えなければならないことも痛烈に感じた。
○講師の方はすべて講義講演の内容を整理し分かりやすく話していただきよく理解できました。
○地方では聞けない講義を聞けて新鮮で有意義であった。
○児童・生徒の抱えている問題等、専門的な立場からのお話が聞きたかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度公立小・中学校幹部事務職員研修講座
日　程　表

										13:30	14:10	14:50	15:00	15:10	15:15		16:45	18:00 ～	
1月14日(水)										受　付	オリエンテーション	休憩	開講式	休憩	講演1 「組織とリーダー」 コラムニスト　金平 敬之助			情報交換会 レセプションホール	
	9:00		10:00	10:15			11:45		13:00								16:00		
1月15日(木)	「班別協議」		休憩	講義1 「学校教育の現状と課題」 文部科学省初等中等教育局 視学官　宮川　八岐			昼休み		「班別協議」 (課題レポート協議)									
	9:00		10:00	10:15			11:45		13:00				14:30	14:45			16:00		
1月16日(金)	「班別協議」 (写真撮影)		休憩	講義2 「地方教育行政制度」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 専門官　猪股　志野			昼休み		講義3 「地方教育財政について」 文部科学省初等中等教育局 財務課教育財政室 室長補佐　錦戸　健二			休憩	「班別協議」 (課題レポート協議)						
1月17日(土) 1月18日(日)	自由研修																		
	9:00		10:00	10:15			11:45		13:00								16:00		
1月19日(月)	「班別協議」		休憩	講義4 「開かれた学校づくりと学校外活動の充実」 文部科学省生涯学習政策局 生涯学習推進課 課長補佐　日向　信和			昼休み		「班別協議」 (課題レポート協議)										
	9:00	9:30					11:45		13:00				14:30	14:45			16:00		
1月20日(火)		「班別協議」 (外部講師を交えて)					昼休み		「班別協議」 (外部講師を交えて)			休憩	「班別協議」 (課題レポート協議)						
	9:00		10:00	10:15			11:45		13:00				14:30	14:45			16:15		
1月21日(水)	「班別協議」		休憩	講義5 「人事服務について」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 課長補佐　佐藤　弘毅			昼休み		講義6 「教育課程の改善について」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教育課程総括係長　藤原志保			休憩	講演2 「危機管理は教育機関の必須マター！」 ㈱電通パブリックリレーションズ プロデューサー　伊原　正俊						
	9:00		10:00	10:15			11:45		13:00									17:00	
1月22日(木)	「班別協議」		休憩	講演3 「企業における人材育成」 横浜ベイシェラトン&タワーズ研修担当 ディレクター　袖山　雅弘			昼休み		全体会 (課題レポート協議／班別協議の発表)										
			10:00				11:30	11:40	12:00										
1月23日(金)			講演4 「仕事に活かすコーチング・スキル」 コミュニケーション心理学研究所 代表　市毛恵子			休憩	閉講式												

Ⅰ　研修概要

研修名	高等学校産業教育実習助手講習　　－農　業－				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対し、職務に必要な知識・技術について講習を行い、その資質の向上を図る。				
対　　象	高等学校の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として３年以上勤務し、勤務成績の良好な者。				
開催期日	平成１５年　７月３０日（火）　～　平成１５年　８月　８日（金）				８日間
参加人数	計画人数	６０人	受講者数	３７人	（参加率）　６１．６％
開催場所	東京農業大学農学部				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	29人	87.9%	4人	12.1%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○事前に気象を予測して対策をたてることが重要であること、わずかな環境（気象）の違いでもたらす作物の影響についてよくわかった。
○官能検査は個人ではできにくいので、学校で、醤油を材料に実験してみようと思います

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度　高等学校産業教育実習助手講習会　時間割

東　京　農　業　大　学

月日＼時限・時間	Ⅰ時限 9:00～10:30	Ⅱ時限 10:40～12:10	Ⅲ時限 13:00～14:30	Ⅳ時限 14:40～16:10
7月30日(水)		受付・開講式　am10:30～	オリエンテーション　pm13:00～	「農業科教育法」① (農業科教育法の意義) 講師：大中　正之 教授
7月31日(木)	「農業科教育法」② (農業教育法の目的) 講師：大中　正之教授	「農業科教育法」③ (農業教育の特徴と指導上の留意点) 講師：大中　正之 教授	「食と環境」① (発酵と微生物) 講師：小泉　幸道 教授	「食と環境」② (食酢と醸造) 講師：小泉　幸道 教授
8月　1日(金)	「植物(作物)と環境」⑥ (植物(作物)生育と大気環境(3)) 講師：高橋　久光 教授	「植物(作物)と環境」① (植物(作物)の生産システムと緑化) 講師：高橋　久光 教授	「農業科教育法」④ (学習指導要領の変遷) 講師：大中　正之 教授	
8月　2日(土)	「植物(作物)と環境」⑦ (植物(作物)生産・栽培・管理の自然循環システム(1)) 講師：田島　淳 講師	「植物(作物)と環境」⑧ (植物(作物)生産・栽培・管理の自然循環システム(2)) 講師：田島　淳 講師	「植物(作物)と環境」④ (植物(作物)生育と大気環境(1)) 講師：関山　哲雄 教授	「植物(作物)と環境」⑤ (植物(作物)生育と大気環境(2)) 講師：関山　哲雄 教授
8月　3日(日)	見学会(実験研究施設の見学。教育研究資料収集)			
8月　4日(月)	「農業科教育法」⑤ (新学習指導要領の通達(1)) 講師：大中　正之 教授	「植物(作物)と環境」⑨ (有機質肥料の作り方と実際(1)) 講師：高橋　久光 教授　・高橋　新平 助教授	「植物(作物)と環境」⑩ (有機質肥料の作り方と実際(2)) 講師：高橋　久光 教授　・高橋　新平 助教授	
8月　5日(火)	「食と環境」③ (醤油(調味料)と醸造(1)) 講師：舘　博 教授	「食と環境」④ (味噌(調味料)と醸造(2)) 講師：舘　博 教授	農業科教育法⑥ (新学習指導要領の通達(2) 講師：大中　正之 教授	農業科教育法⑦ (農業に関する新指導要領(1)) 講師：大中　正之 教授
8月　6日(水)	「農業科教育法」⑧ (農業に関する新指導要領(2)) 講師：大中　正之 教授	「食と環境」⑤ (酒類と醸造(1)) 講師：穂坂　賢 講師	「植物(作物)と環境」② (植物(作物)と水・土壌環境(1)) 講師：渡邊　文雄 助教授	「植物(作物)と環境」③ (植物(作物)と水・土壌環境(2)) 講師：渡邊　文雄 助教授
8月　7日(木)	「食と環境」⑥ (酒類と醸造(2)) 講師：穂坂　賢 講師	「食と環境」⑦ (醸造品官能検査演習) 講師：穂坂　賢　・　舘　博 教授	「食と環境」⑧ (味噌製造実習(1)) 講師：穂坂　賢　・　舘　博 教授	「食と環境」⑨ (噌製造実習(2)) 講師：穂坂　賢　・　舘　博 教授
8月　8日(金)		特別講義：文部科学省担当専門官	特別講義　東京農業大学学長	閉講式　pm14：40～

Ⅰ　研修概要

研修名	高等学校産業教育実習助手講習　　－工　業－				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対し、職務に必要な知識・技術について講習を行い、その資質の向上を図る。				
対象	高等学校の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として３年以上勤務し、勤務成績の良好な者。				
開催期日	平成１５年　８月１８日（月）　～　平成１５年　８月２７日（水）				８日間
参加人数	計画人数	６０人	受講者数	３７人	（参加率）　６１．６％
開催場所	群馬大学工学部				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	24人	64.9%	12人	32.4%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	2.7%

２．研修内容に関する主な意見

○大学と企業が協同で研究し、実際に成果のあった内容について紹介があり、すばらしい動向だと思う。
○大学で行われている最先端の技術や普段からあまり学習する機会のない学習指導要領についての講義を受講できて大変勉強になりました。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　高等学校産業教育実習助手講習会　時間割

群馬大学工学部

日　程	第　１　時　限 ８：５０～１０：２０	休憩	第　２　時　限 １０：３０～１２：００	昼食 (60)	第　３　時　限 １３：００～１４：３０	休憩	第　４　時　限 １４：４０～１６：１０
８月18日（月）	［受付・開講式・オリエンテーション］				「機械システム工学」① （機械システム工学概論） 講師：　天田　重庚　教授		「機械システム工学」② （熱の流れの計測とシュミレーション） 講師：　小保方　富夫　教授
８月19日（火）	「機械システム工学」③ （熱と熱機関） 講師：　新井　雅隆　教授		「機械システム工学」④ （材料の破壊） 講師：松原　雅昭　助教授		「機械システム工学」⑤ （機械材料とその加工） 講師：　中澤　崇徳　教授		「機械システム工学」⑥ （制御工学） 講師：　小島　宏行　教授
８月20日（水）	「機械システム工学」⑦ （物体の運動） 講師：　永井　健一　教授		「機械システム工学」⑧ （ナノファブリケーション） 講師：　早乙女　康典　教授		「機械システム工学」⑨ （学問と産業 ーパートナーシップを目指して） 講師：　長屋　幸助　教授		「工業科教育法」① 講師：　佐藤　義雄　教科調査官
８月21日（木）	「工業科教育法」② 講師：　佐藤　義雄　教科調査官		「工業科教育法」③ 講師：　佐藤　義雄　教科調査官		「工業科教育法」④ 講師：　佐藤　義雄　教科調査官		「工業科教育法」⑤ 講師：　佐藤　義雄　教科調査官
８月22日（金）	「工業科教育法」⑥ 講師：　佐藤　義雄　教科調査官		「工業科教育法」⑦ 講師：　佐藤　義雄　教科調査官		「工業科教育法」⑧ 講師：　佐藤　義雄　教科調査官		「工業科教育法」⑨ 講師：　佐藤　義雄　教科調査官
８月23日（土）	休　講						
８月24日（日）	休　講						
８月25日（月）	「建設工学概論」① （橋梁構造形式の歴史） 講師：　辻　幸和　教授		「建設工学概論」② （建設工学における地盤工学の役割） 講師：　鵜飼　恵三　教授		「建設工学概論」③ （土木構造物の技術革新） 講師：　杉山　隆文　助教授		「建設工学概論」④ （地盤変形のコンピュータ・シミュレーション） 講師：　若井　明彦　助教授
８月26日（火）	「建設工学概論」⑤ （都市代謝システムとゼロエミッション） 講師：　黒田　正和　教授		「建設工学概論」⑥ （土木工学と防災工学） 講師：　小葉竹　重機　教授		「建設工学概論」⑦ （種々の環境問題と環境工学） 講師：　渡邊　智秀　助教授		「建設工学概論」⑧ （自然災害への新たな対応） 講師：　片田　敏孝　助教授
８月27日（水）	「建設工学概論」⑨ （土地利用と交通の相互作用） 講師：　青島　縮次郎　教授		閉　講　式				

※講習会場（受付、開・閉講式、オリエンテーション、講習）は「総合研究棟（工学部内）５階：５０２講義室」

Ⅰ　研修概要

研修名	高等学校産業教育実習助手講習　　－水　産－				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対し、職務に必要な知識・技術について講習を行い、その資質の向上を図る。				
対象	高等学校の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として３年以上勤務し、勤務成績の良好な者。				
開催期日	平成１５年　７月２８日（月）　～　平成１５年　８月　５日（火）				７日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	３１人	（参加率）　１０３．３％
開催場所	北海道大学水産学部				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	9人	29.0%	18人	58.1%	1人	3.2%	0人	0.0%	3人	9.7%

２．研修内容に関する主な意見

○水産物を取り巻く社会・経済的視点に立った、学問は大変重要だと理解した。
○これからの水産業を考える場合、環境問題は切っても切り離せない問題なのがわかりました。
○地球温暖化にもっと早く対応しないといけないと思いました。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　高等学校産業教育実習助手講習時間割表

北海道大学水産学部

日程	第１時限 ９：００～１０：３０	休憩	第２時限 １０：４０～１２：１０	休憩	第３時限 １３：１０～１４：４０	休憩	第４時限 １４：５０～１６：２０
7月２８日（月）	受付・開講式・オリエンテーション 落合調査官 「新学習指導要領について」	休憩	水産概論①② 宮下和夫 「未利用水産資源の有効利用」	休憩	水産科教育法①② 河原武則 「水産高校の現状と問題点（1）」	休憩	水産科教育法③④ 河原武則 「水産高校の現状と問題点（2）」
7月２９日（火）	水産概論③④ 川合祐史 「水産分野における微生物バイオテクノロジー」	休憩	水産概論⑤⑥ 川合祐史 「水産分野における微生物バイオテクノロジー」	休憩	海洋環境①② 松永勝彦 「海洋・陸水の環境保全」	休憩	海洋環境③④ 三宅秀男 「栽培漁業と環境保全」
7月３０日（水）	水産科教育法⑤⑥ 古井恒弘 「水産のイメージアップを図る教育を進めるために」（1）	休憩	水産科教育法⑦⑧ 古井恒弘 「水産のイメージアップを図る教育を進めるために」（2）	休憩	水産概論⑦⑧ 阿部周一 「水産生物の育種と分子遺伝学」	休憩	海洋環境（実験）①② 三宅　秀男、村上　　敬 「流れの中の物体の形状抵抗」 「流体中の粒子の沈降速度」 「振動流体中の海底粒子の集積」 「コリオリの効果と偏西風蛇行」
7月３１日（木）	水産概論⑨⑩ 栗原秀幸 「水産物サプリメント」	休憩	水産科教育法⑨⑩ 古井恒弘 「水産のイメージアップを図る教育を進めるために」（3）	休憩	海洋環境⑤⑥ 山下成治 「海洋レクリエーションと環境保全」	休憩	海洋環境（実験）③④ 三宅　秀男、村上　　敬 「流れの中の物体の形状抵抗」 「流体中の粒子の沈降速度」 「振動流体中の海底粒子の集積」 「コリオリの効果と偏西風蛇行」
8月　１日（金）	水産概論⑪⑫ 宮澤晴彦 「水産経済のアウトライン －自給率低下の社会経済的背景－」	休憩	水産科教育法⑪⑫ 猪上徳雄 「これからの水産高校教育のあり方」（1）	休憩	海洋環境⑦⑧ 門谷　　茂 「海洋環境修復」	休憩	海洋環境（実験）⑤⑥ 門谷　　茂、志賀　直信 「二枚貝の水質浄化機能評価実験」（門谷） 「海洋プランクトンの顕微鏡観察」（志賀）
8月　２日（土）							
8月　３日（日）							
8月　４日（月）	水産概論⑬⑭ 佐伯宏樹 「食品開発について」	休憩	水産概論⑮⑯ 山崎浩司 「食の安全について」	休憩	海洋環境⑨⑩ 志賀直信 「環境問題と海洋生態系」	休憩	海洋環境（実験）⑦⑧ 門谷　　茂、志賀　直信 「二枚貝の水質浄化機能評価実験」（門谷） 「海洋プランクトンの顕微鏡観察」（志賀）
8月　５日（火）	水産科教育法⑬⑭ 猪上徳雄 「これからの水産高校教育のあり方」（2）	休憩	水産科教育法⑮⑯ 猪上徳雄 「これからの水産高校教育のあり方」（3）	休憩	海洋環境⑪⑫ 米田國三郎 「位置決定法と練習船おしょろ丸の海洋観測」	休憩	閉校式

レポート提出日・・・平成１５年８月２０日（水）

Ⅰ　研修概要

研修名	会計事務特別研修					
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係					
研修目的（趣旨）	文部科学省所管の会計事務に従事する職員に対して国の会計法規に関する知識を修得させ、かつ、来年度からの国立大学の法人化に必要となる見識を授けることにより、各職員の資質の向上を図ることを目的とする。					
対象	次の（１）及び（２）のいずれの要件も満たしていること。 （１）現在会計事務に従事し、かつ、１年以上会計事務の経験を有する者又はそれに相当する者で、原則として年齢２５歳以上３０歳以下の者。 ただし、事情やむを得ない場合にあっては、満３５歳までの職員とすることができる。（研修期間中に３６歳になる者については認めない。） （２）簿記の初歩的な知識（３級程度）を有する者（市販本等による事前学習で可）。					
開催期日	平成１５年　９月１６日（火）　～　平成１５年　９月３０日（火）					１５日間
参加人数	計画人数	２２０人	受講者数	２３９人	（参加率）	１０８．６％
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	74人	33.0%	134人	59.8%	5人	2.2%	１人	0.4%	10人	4.5%
割合（%）										

２．研修内容に関する主な意見

【講義等全般】
○独法化後に必要な内容の科目に厳選した方が良い
○班別討議の内容が独法化関係だったので、講義も第一週目に独法化関係にして欲しかった
○試験では完答できないと得点にならないという問題があったが部分点があってもいいのでは
【内容がよかった講義】
○「政府調達事務について」は具体的な説明で、理解しやすかった
○「簿記」は理論と実務が分かり易く整理されていて、適切な内容で分かり易かった
○「財政法」は大元の部分について、学ぶことができて良かった
○「国立大学法人の財務会計制度について」は今後の実務の参考になって良かった
【内容がよくなかった講義】
○「会計検査について」は声が小さく、テキストの棒読みで理解しにくかった
○「国立大学法人の財務会計制度について」は内容が多く、時間が足りなかった
○「会計法」は解説を書き取る時間もなければ、理解する時間も無かった
【今回、特別講義において取り上げて欲しかったテーマ、内容】
○先行独法機関の話
○国立大学法人会計の仕訳
○私大等民間の組織運営
○独法化後についての詳細
○「簿記」と「財務会計制度」を組み合わせた講義

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度　会計事務特別研修日程表

研修会場　国立オリンピック記念青少年総合センター
研修期日　9月16日～9月30日

月　日	曜日	研修講義科目等 (9:30～12:30)		講　師	研修講義科目等 (13:30～16:30)		講　師
9月16日	火			・受付　(12:20～13:20) ・開講式　(13:30～13:50) ・オリエンテーション　(14:00～14:50)		班別討議 ① (15:00～16:30)	
9月17日	水	財政法		大臣官房会計課 総務班 法規係長 堀江　直純	会計法		大臣官房会計課 総務班 専門職 神達　進
9月18日	木	政府調達事務について		大臣官房会計課 政府調達室 企画渉外係長 廣岡　信行	簿記 ①		大原簿記学校 水流　英智
9月19日	金	文教予算について (9:30～11:00)	簿記 ② (11:00～12:30)	大臣官房会計課　総括予算班 第二係長　小左古 学 大原簿記学校 水流　英智	簿記 ③		大原簿記学校 水流　英智
9月20日	土						
9月21日	日						
9月22日	月	班別討議 ②			簿記 ④		大原簿記学校 水流　英智
9月23日	火						
9月24日	水	国立大学法人の概要について① (9:30～11:00)	国立大学法人の概要について② (11:00～12:30)	高等教育局大学課 課長補佐　合田　哲雄 大臣官房会計課(法人化PT) 専門官　猿渡　政範	国立大学法人の財務会計制度について① (13:30～17:00)		大臣官房会計課 専門官 猿渡　政範
9月25日	木	外部資金の取り扱いについて		研究振興局 研究環境産業連携課 技術移転推進室　専門職 築坂　直樹	国立大学法人の財務会計制度について② (13:30～17:00)		大臣官房会計課 総務班 専門職 菅原　康宏
9月26日	金	国立大学法人の財務会計制度について③		大臣官房会計課 総務班 専門職 菅原　康宏	会計検査について (13:30～15:00)	補助金適正化法について (15:00～16:30)	会計検査院事務総長 官房法規課　文書係長　島岡　尚代 大臣官房会計課　監査班 監査第一係長 佐藤 元則
9月27日	土						
9月28日	日						
9月29日	月	試験 (9:30～11:00)	班別討議 ③ (11:00～12:30)		班別討議 ④		
9月30日	火	閉講式・写真撮影 (10:30～)					

注1.　9月24日・25日「国立大学法人の財務会計制度について①・②」の講義終了時間は17:00となる

注2.　9月29日　12:45までに班長は各班でまとめたレポートを事務局(413号室)へ提出すること

注3.　9月30日　閉講式の開始時間は10:30となる

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（短期派遣）				
担当課係	研修事業第二課　海外派遣研修係				
研修目的（趣旨）	次代を担う青少年を育成する教員に，諸外国の教育，文化及び社会等の諸事情を視察させ，国際的視野に立った識見及び教職に対する誇りと自覚を高めさせることにより，初等中等教育諸学校の国際化を推進するための中核となる教員の養成，確保を図る。				
対象	公立の小学校，中学校，高等学校，中等教育学校，盲学校，聾学校，養護学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で３５歳以上５５歳以下の者。				
派遣期間	別紙のとおり				１６日間
参加人数	計画人数	１２１３人	受講者数	１２２４人	（参加率）　１００．９％
派遣国	別紙のとおり				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	668人	56.7%	484人	41.1%	5人	0.4%	0人	0.0%	21人	1.8%

２．研修内容に関する主な意見

○初等・中等教育諸学校の全ての校種を見学でき、大変有意義でした。
○家庭訪問の機会があり大変充実していました。時間があるのなら、ホームステイもあると更によかった。
○各校、教育委員会とも、十分な準備をして迎えていただき、充実した研修になった。
○今回１日に１校という訪問の日があり、非常に充実した。訪問数を増やすよりも、じっくり訪問し質疑も充分できる方法はよかった。
○同一都市に８連泊で、心身ともベストな状態で学校訪問に臨むことができよかったです。
○意見交換会の時間が少し短かった。もっとじっくりと話し合える時間があればよかったと思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

Ｈ１５教職員派遣研修団一覧（短期／都道府県団，ブロック団，その他の団 ）

都道府県名	団名	派遣国	派遣都市	出発日	帰国日	団員数
岩手県	31	イタリア	ペルージャ	１０／２（木）	１０／１７（金）	21
岩手県	32	アメリカ合衆国（テキサス州）	アマリロ	１０／１６（木）	１０／３１（木）	21
山形県	61	アメリカ合衆国	アーバイン	１０／１６（木）	１０／３１（木）	20
茨城県	81	スペイン	ブルゴス	１０／９（木）	１０／２４（金）	19
茨城県	82	アメリカ合衆国（テキサス州）	サンアントニオ	１０／９（木）	１０／２４（金）	19
茨城県	83	ドイツ	ウルム	１０／９（木）	１０／２４（金）	19
茨城県	84	ニュージーランド	北島　ロトルア	１０／９（木）	１０／２４（金）	19
栃木県	91	ニュージーランド	北島　ハミルトン	１０／１６（木）	１０／３１（木）	20
群馬県	101	フランス	ストラスブール	１０／９（木）	１０／２４（金）	19
群馬県	102	フィンランド	ラハティ	１０／９（木）	１０／２４（金）	19
埼玉県	111	ドイツ	ビュルツブルク	１０／３０（木）	１１／１４（金）	24
埼玉市	113	ドイツ	アーヘン	１１／１３（木）	１１／２８（金）	15
千葉市	121	イタリア	ピアチェンツァ	１０／９（木）	１０／２４（金）	19
東京都	131	ニュージーランド	南島　ネルソン	１０／２３（木）	１１／７（金）	17
新潟県	151	ドイツ	ドレスデン	１１／６（木）	１１／２１（金）	22
新潟県	152	アメリカ合衆国（ニューメキシコ州）	ラスクルーセス	１０／２３（木）	１１／７（金）	23
富山県	161	アメリカ合衆国（オレゴンン州）	ユージーン	９／１８（木）	１０／３（金）	23
石川県	171	イタリア	シエナ	１０／１６（木）	１０／３１（木）	18
石川県	172	アメリカ合衆国（コネチカット州）	ニューヘブン	１０／１６（木）	１０／３１（木）	18
福井県	181	ドイツ	ヴィンセン	９／１８（木）	１０／３（金）	19
山梨県	191	アメリカ合衆国（テキサス州）	コーパスクリスティ	１０／２（木）	１０／１７（金）	22
山梨県	192	ドイツ	ブレーメン	１０／１６（木）	１０／３１（木）	22
山梨県	193	ニュージーランド	北島　ネーピア	１０／３０（木）	１１／１４（金）	22
岐阜県	211	ニュージーランド	北島　マヌカウ	１０／９（木）	１０／２４（金）	24
岐阜県	212	アメリカ合衆国（カリフォルニア州）	ストックトン	９／２５（木）	１０／１０（金）	23
静岡県	221	ドイツ	シュツットガルト	１０／２（木）	１０／１７（金）	23
静岡県	222	アメリカ合衆国（カリフォルニア州）	オークランド	１０／９（木）	１０／２４（金）	23
滋賀県	251	フランス	ナンシー	１０／１６（木）	１０／３１（木）	20
滋賀県	252	アメリカ合衆国（オハイオ州）	ビーバークリーク	９／２５（木）	１０／１０（金）	20
京都府	261	オーストラリア	シドニー，メルボルン	１１／６（木）	１１／２１（金）	24
大阪市	271	オーストラリア	アデレード	１１／１３（木）	１１／２８（金）	15
奈良県	291	アメリカ合衆国（カリフォルニア州）	サクラメント	１０／２３（木）	１１／７（金）	20
奈良県	292	ニュージーランド	南島　クライストチャーチ	１０／３０（木）	１１／１４（金）	20
和歌山県	301	ドイツ	フライブルグ	１１／６（木）	１１／２１（金）	23
島根県	321	フィンランド	トゥルク	１０／１９（木）	１１／３（金）	24
岡山県	331	フィンランド	エスポー	１０／９（木）	１０／２４（金）	20
山口県	351	ニュージーランド	北島　オークランド	１０／９（木）	１０／２４（金）	22
徳島県	361	イタリア	パルマ	１０／１６（木）	１０／３１（木）	26
香川県	371	ギリシャ	コリントス	１１／６（木）	１１／２１（金）	14
香川県	372	ニュージーランド	北島　ウェリントン	１０／２３（木）	１１／７（金）	15
愛媛県	381	オーストリア	アイゼンシュタット	９／１１（木）	９／２６（金）	18
愛媛県	382	ニュージーランド	北島　パーマストンノース	１０／２（木）	１０／１７（金）	18
高知県	391	アメリカ合衆国（マサチューセッツ州）	マーブルヘッド	１０／１５（水）	１０／３０（木）	21
福岡県	401	アメリカ合衆国（オレゴンン州）	ポートランド	９／１８（木）	１０／３（金）	22
福岡県	402	ニュージーランド	北島　ワンガレー	１０／１６（木）	１０／３１（木）	22
福岡県	403	スペイン	セビーリャ	１０／３０（木）	１１／１４（金）	22
宮崎県	451	オランダ	マーストリヒト	１０／９（木）	１０／２４（金）	20
沖縄県	471	ニュージーランド	南島　ダニーディン	１０／３０（木）	１１／１４（金）	16
小計	48					975
東北　10-11月（北米）	511	アメリカ合衆国（カンザス州）	ウィチタ	１０／９（木）	１０／２４（金）	12
関東　10-11月（欧州）	521	スペイン	シウダー・レアル	１１／１２（木）	１１／２７（木）	24
東海　10-11月（欧州）	531	イタリア	パドバ	１０／１６（木）	１０／３１（木）	23
近畿　10-11（ｵｾｱﾆｱ）	541	オーストラリア（ﾆｭｰｻｳｽｳｪﾙｽﾞ州）	サザーランド	１１／２０（木）	１２／５（金）	18
近畿　10-11月（欧州）	542	スペイン	コルドバ	１１／１３（木）	１１／２８（金）	18
近畿　10-11（北米）	543	アメリカ合衆国（ジョージア州）	アセンズ	１１／１３（木）	１１／２８（金）	17
近畿　11月（北米）	544	アメリカ合衆国（オクラホマ州）	ロートン	１１／１３（木）	１１／２８（金）	17
中・四国　10-11（ｵｾｱﾆｱ）	551	ニュージーランド	北島　タウランガ	１０／３０（木）	１１／１４（金）	16
九州　10-11（ｵｾｱﾆｱ）	561	ニュージーランド	南島　インバーカーギル	１０／９（木）	１０／２４（金）	14
養護教諭団	621	アメリカ合衆国（カンザス州）	ウィチタ	１０／９（木）	１０／２４（金）	8
ブロック（北欧）団	911	デンマーク，スエーデン，ノルウェー	コペンハーゲン，ストックホルム，オスロ	８／１０（日）	８／２５（月）	20
ブロック（英国）団	912	イギリス	カンタベリー	８／３（日）	８／１８（月）	20
ブロック（豪州）団	913	オーストラリア	ケアンズ，メルボルン，シドニー	８／２（土）	８／１７（日）	9
ブロック（米国）団	914	アメリカ合衆国，カナダ	シアトル，バンクーバー，サンフランシスコ	８／１４（木）	８／２９（金）	16
ブロック（ﾄﾞｲﾂ）団	915	ドイツ，イギリス	ハンブルグ，ベルリン，ロンドン	８／１１（月）	８／２６（火）	17
小計	13					249
合計	61					1,224

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（若手派遣）				
担当課係	研修事業第二課　海外派遣研修係				
研修目的（趣旨）	若手教員を連合王国，オーストラリア，ニュージーランド及びカナダに派遣し，教育活動への参加，家庭滞在等の実体験を通じて，国際的視野に立った識見及び教職に対する誇りと自覚を高めさせることにより，初等中等教育諸学校の国際化を推進するための中核となる教員の養成，確保を図る。				
対象	公立の小学校，中学校，高等学校，中等教育学校，盲学校，聾学校及び養護学校の教員（現職の英語教員は除く。）で２５歳以上３５歳以下の者。				
派遣期間	別紙のとおり				６０日間
参加人数	計画人数	７４人	受講者数	４２人	（参加率）　５６．８％
派遣国及び大学	連合王国 オーストラリア ニュージーランド カナダ				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	29人	70.7%	12人	29.3%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○研修先での授業の実践や見学は総合的に計画がされており、有意義だった。
○小、中学校の両方で授業実践を行えたことが良かった。
○専門分野を活かせる学校で研修を行うことができ、これからの教科指導等に活かせると思った。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　教職員派遣研修（若手派遣）

団　　名		人数	派遣期間
ＵＫ	連合王国団	11	平成１５年９月１７日（水） ～１１月１５日（土）
ＳＡ	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ　南ｵｰｽﾄﾗﾘｱ州団	11	平成１５年１０月１日（水） ～１１月２９日（土）
ＮＺ	ニュージーランド団	10	平成１５年９月３０日（火） ～１１月２８日（金）
ＯＮ	ｶﾅﾀﾞ　オンタリオ州団	10	平成１５年９月２４日（水） ～１１月２２日（土）
計		42	

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（日米国民交流・若手教員の米国派遣）				
担当課係	研修事業第二課　海外派遣研修係				
研修目的（趣旨）	日米首脳会談（平成８年４月）による日米国民交流計画を推進するため，若手教員を米国に派遣し，学校，家庭，地域社会における両国若者の相互理解深化を図るための交流活動を通じて，国際的視野に立った識見及び教職に対する誇りと自覚を高めさせることにより，初等中等教育諸学校の国際化を推進するための中核となる教員の養成，確保を図る。				
対象	公立の小学校，中学校，高等学校，中等教育学校，盲学校，聾学校及び養護学校の教員（現職の英語教員は除く。）				
派遣期間	別紙のとおり				９０日間
参加人数	計画人数	１０７人	受講者数	４７人	（参加率）　４３．９％
派遣国及び大学	アメリカ合衆国の次の５州 コロラド州，ミシガン州，ミズーリ州，バージニア州，ウィスコンシン州				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	26人	55.3%	21人	44.7%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○異なる校種で研修を実施することができ、非常に有意義であった。
○地方と都市部の学校で研修を行い得たことは、良い経験になった。
○ボランティア活動を行ったことにより、現地の方との交流やボランティアの考え方を知ることができ有意義だった。
○学校研修期間がもう少し長ければ、更に研修が充実できたと思う。。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　教職員派遣研修
（日米国民交流・若手教員の米国派遣）

団　　名		人数	派遣期間
ＣＯ	コロラド州団	10	平成１５年９月１７日（水） ～１２月１５日（月）
ＭＩ	ミシガン州団	9	平成１５年９月１７日（水） ～１２月１５日（月）
ＭＯ	ミズーリ州団	10	平成１５年９月１５日（月） ～１２月１３日（土）
ＶＡ	バージニア州団	9	平成１５年９月１７日（水） ～１２月１５日（月）
ＷＩ	ウィスコンシン州団	9	平成１５年９月１７日（水） ～１２月１５日（月）
計		47	

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（英語担当派遣　２ヶ月）					
担当課係	研修事業第二課　海外派遣研修係					
研修目的（趣旨）	中学校，高等学校及び中等教育学校において英語教育を担当する教員を諸外国に派遣し，大学等における英語によるコミュニケーション能力及び英語教授法などに関する研修等を通じて指導力を高め，各都道府県・指定都市・中核市において指導的立場に立つ英語教員を育成し，もって我が国の英語教育の充実を図る。					
対象	中学校（盲学校，聾学校及び養護学校の中学部を含む），高等学校（盲学校，聾学校及び養護学校の高等部を含む）及び中等教育学校において英語教育を担当する専任の教諭					
開催期日	別紙のとおり					２ヶ月間
参加人数	計画人数	２００人	受講者数	５６人	（参加率）	２８．０％
開催場所	連合王国（チチェスター大学） アメリカ合衆国（ワシントン大学，ハワイ大学） カナダ（オタワ大学）） オーストラリア（ロ・トローブ大学） ニュージーランド（マッセー大学）　　以上６大学					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	31人	62.0%	17人	34.0%	1人	2.0%	1人	2.0%

２．研修内容に関する主な意見

○短期間で集中できた。
○語学力と教授法の両方を研修することができたのがよかった。
○他国の留学生と意見交換することができ参考になった。
○指導法について実践できるものが多く活用していきたい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　教職員派遣研修（英語担当派遣：２，６，12か月）

英語１２か月

派遣国	大　　学	人数	派　遣　期　間	協力団体
イギリス	バーミンガム大学	4	４月２２日～　３月１５日	ﾌﾞﾘﾃｨｯｼｭ・ｶｳﾝｼﾙ
アメリカ	ジョージタウン大学	5	４月１７日～　３月１０日	国際教育交換協議会
計		9		

英語：６か月

派遣国	大学研修担当大学	語学研修所（大学）	人数	派　遣　期　間	協力団体
イギリス	エセックス大学	ﾍﾞﾙ ﾗﾝｹﾞｯｼﾞ ｽｸｰﾙ ﾎﾞｳｿｰﾌﾞ ﾎｰﾙ ﾉﾙｯﾁ	4	６月１９日～１２月１１日	ﾌﾞﾘﾃｨｯｼｭ・ｶｳﾝｼﾙ
		ﾍﾞﾙ ﾗﾝｹﾞｯｼﾞ ｽｸｰﾙ ｻﾌﾛﾝ ｳｫﾙﾃﾞﾝ	4		
	エクセター大学	ｽｸｰﾙ ｵﾌﾞ ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ ｽﾀﾃﾞｨｽﾞ ﾌｫﾙｸｽﾄﾝ	4	６月１９日～１２月１１日	国際教育交換協議会
		ﾘｰｼﾞｪﾝﾄ ｵｯｸｽﾌｫｰﾄﾞ	5		
	ノッティンガム大学	ｽｻﾞﾝﾇ ｽﾊﾟﾛｰ ﾌﾞﾘﾏｽ ﾗﾝｹﾞｯｼﾞ ｽｸｰﾙ	5	６月１９日～１２月１１日	
		ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ ﾊｳｽ ﾊﾞｰｽ	4		
アメリカ	オハイオ州立大学	カリフォルニア大学サンタバーバラ校	4	６月１２日～１２月４日	国際教育交換協議会
		コロラド大学ボールダー校	5		
	ミネソタ大学	ペンシルバニア大学	5	６月１２日～１２月４日	
		ゴンザガ大学	4		
	カリフォルニア大学アーバイン校	デラウェア大学	4	６月１２日～１２月４日	(株)アイ　エス　エイ
		サウスカロライナ大学コロンビア校	4		
ニュージーランド	ウェリントン　カレッジ　オブ　エデュケーション	マッセー大学語学センター	4	６月１９日～１２月１１日	国際教育交換協議会
		ワイカト大学語学研究所	4		
計			60		

英語：２か月

派遣国	大　　学	人数	派　遣　期　間	協力団体
イギリス	チチェスター大学	10	７月２６日～　９月２２日	ﾌﾞﾘﾃｨｯｼｭ・ｶｳﾝｼﾙ
アメリカ	ワシントン大学	8	７月２６日～　９月２２日	国際教育交換協議会
	ハワイ大学	9	７月２６日～　９月２１日	(株)アイ　エス　エイ
カナダ	オタワ大学	10	７月２６日～　９月２２日	国際教育交換協議会
オーストラリア	ラ・トローブ大学	10	７月２５日～　９月２２日	国際教育交換協議会
ニュージーランド	マッセー大学	9	７月２５日～　９月２２日	国際教育交換協議会
計		56		

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（英語担当派遣　６ヶ月）				
担当課係	研修事業第二課　海外派遣研修係				
研修目的（趣旨）	中学校，高等学校及び中等教育学校において英語教育を担当する教員を６か月間アメリカ合衆国，連合王国，オーストラリア，ニュージーランド及びカナダに派遣し，大学等における英語によるコミュニケーション能力及び英語教授法などに関する研修等を通じて指導力を高め，各都道府県・指定都市・中核市において指導的立場に立つ英語教員を育成し，もって我が国の英語教育の充実を図る。				
対象	中学校（盲学校，聾学校及び養護学校の中学部を含む）及び高等学校（盲学校，聾学校及び養護学校の高等部を含む）において英語教育を担当する専任教員（教育委員会及び教育センターの指導主事等を含む）でおおむね３０歳以上４０歳以下の者。				
開催期日	別紙のとおり				６ヶ月間
参加人数	計画人数	１０６人（１２か月派遣を含む）	受講者数	６９人（うち６か月派遣は６０人）	（参加率）　６５．１％
開催場所	連合王国（エセックス大学，エクセター大学，ノッティンガム大学） アメリカ合衆国（オハイオ州立大学，ミネソタ大学，カリフォルニア大学） ニュージーランド（ウェリントンカレッジ大学）　以上７大学				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	41人	71.9%	14人	24.6%	0人	0%	2人	3.5%

２．研修内容に関する主な意見

○語学研修と大学研修の連携が取れていて効果的な研修となった。。
○学校訪問の回数を増やして欲しい。
○英語の指導方法について新たな視点ができ、今後の自信に繋がった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　教職員派遣研修（英語担当派遣：２，６，12か月）

英語１２か月

派遣国	大　　学	人数	派　遣　期　間	協力団体
イギリス	バーミンガム大学	4	４月２２日～　３月１５日	ﾌﾞﾘﾃｨｯｼｭ･ｶｳﾝｼﾙ
アメリカ	ジョージタウン大学	5	４月１７日～　３月１０日	国際教育交換協議会
計		9		

英語：６か月

派遣国	大学研修担当大学	語学研修所（大学）	人数	派　遣　期　間	協力団体
イギリス	エセックス大学	ﾍﾞﾙ ﾗﾝｹﾞｯｼﾞ ｽｸｰﾙ ﾎﾞｳｿｰﾌﾞ ﾎｰﾙ ﾉﾙｯﾁ	4	６月１９日～１２月１１日	ﾌﾞﾘﾃｨｯｼｭ･ｶｳﾝｼﾙ
		ﾍﾞﾙ ﾗﾝｹﾞｯｼﾞ ｽｸｰﾙ ｻﾌﾛﾝ ｳｫﾙﾃﾞﾝ	4		
	エクセター大学	ｽｸｰﾙ ｵﾌﾞ ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ ｽﾀﾃﾞｨｽﾞ ﾌｫﾙｸｽﾄﾝ	4	６月１９日～１２月１１日	国際教育交換協議会
		ﾘｰｼﾞｪﾝﾄ ｵｯｸｽﾌｫｰﾄﾞ	5		
	ノッティンガム大学	ｽｻﾞﾝﾇ ｽﾊﾟﾛｰ ﾌﾟﾘﾏｽ ﾗﾝｹﾞｯｼﾞ ｽｸｰﾙ	5	６月１９日～１２月１１日	
		ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ ﾊｳｽ ﾊﾞｰｽ	4		
アメリカ	オハイオ州立大学	カリフォルニア大学サンタバーバラ校	4	６月１２日～１２月４日	国際教育交換協議会
		コロラド大学ボールダー校	5		
	ミネソタ大学	ペンシルバニア大学	5	６月１２日～１２月４日	
		ゴンザガ大学	4		
	カリフォルニア大学アーバイン校	デラウェア大学	4	６月１２日～１２月４日	㈱アイ　エス　エイ
		サウスカロライナ大学コロンビア校	4		
ニュージーランド	ウェリントン　カレッジ　オブ　エデュケーション	マッセー大学語学センター	4	６月１９日～１２月１１日	国際教育交換協議会
		ワイカト大学語学研究所	4		
計			60		

英語：２か月

派遣国	大　　学	人数	派　遣　期　間	協力団体
イギリス	チチェスター大学	10	７月２６日～　９月２２日	ﾌﾞﾘﾃｨｯｼｭ･ｶｳﾝｼﾙ
アメリカ	ワシントン大学	8	７月２６日～　９月２２日	国際教育交換協議会
	ハワイ大学	9	７月２６日～　９月２１日	㈱アイ　エス　エイ
カナダ	オタワ大学	10	７月２６日～　９月２２日	国際教育交換協議会
オーストラリア	ラ・トローブ大学	10	７月２５日～　９月２２日	国際教育交換協議会
ニュージーランド	マッセー大学	9	７月２５日～　９月２２日	国際教育交換協議会
計		56		

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（英語担当派遣　１２ヶ月）				
担当課係	研修事業第二課　海外派遣研修係				
研修目的（趣旨）	中学校，高等学校及び中等教育学校において英語教育を担当する教員を１２か月間連合王国及びアメリカ合衆国に派遣し，大学等における英語によるコミュニケーション能力及び英語教授法などに関する研修等を通じて指導力を高め，各都道府県・指定都市・中核市において指導的立場に立つ英語教員を育成し，もって我が国の英語教育の充実を図る。				
対象	中学校（盲学校，聾学校及び養護学校の中学部を含む）及び高等学校（盲学校，聾学校及び養護学校の高等部を含む）において英語教育を担当する専任教員（教育委員会及び教育センターの指導主事等を含む）でおおむね３０歳以上４０歳以下の者。				
開催期日	別紙のとおり				１２ヶ月間
参加人数	計画人数	１０６人（６か月派遣を含む）	受講者数	６９人（うち１２か月派遣は９人）	（参加率）　５６．８％
開催場所	連合王国（バーミンガム大学） アメリカ合衆国（ジョージタウン大学）				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	7人	87.5%	1人	12.5%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○研修をする大学でのプログラムが練られていて、大変勉強になった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　教職員派遣研修（英語担当派遣：２，６，12か月）

英語１２か月

派遣国	大　　学	人数	派　遣　期　間	協力団体
イギリス	バーミンガム大学	4	４月２２日～　３月１５日	ﾌﾞﾘﾃｨｯｼｭ･ｶｳﾝｼﾙ
アメリカ	ジョージタウン大学	5	４月１７日～　３月１０日	国際教育交換協議会
計		9		

英語：６か月

派遣国	大学研修担当大学	語学研修所（大学）	人数	派　遣　期　間	協力団体
イギリス	エセックス大学	ﾍﾞﾙ ﾗﾝｹﾞｯｼﾞ ｽｸｰﾙ ﾎﾞｳｿｰﾌﾞ ﾎｰﾙ ﾉﾙｯﾁ	4	６月１９日～１２月１１日	ﾌﾞﾘﾃｨｯｼｭ･ｶｳﾝｼﾙ
		ﾍﾞﾙ ﾗﾝｹﾞｯｼﾞ ｽｸｰﾙ ｻﾌﾛﾝ ｳｫﾙﾃﾞﾝ	4		
	エクセター大学	ｽｸｰﾙ ｵﾌﾞ ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ ｽﾀﾃﾞｨｽﾞ ﾌｫﾙｸｽﾄﾝ	4	６月１９日～１２月１１日	国際教育交換協議会
		ﾘｰｼﾞｪﾝﾄ ｵｯｸｽﾌｫｰﾄﾞ	5		
	ノッティンガム大学	ｽｻﾞﾝﾇ ｽﾊﾟﾛｰ ﾌﾟﾘﾏｽ ﾗﾝｹﾞｯｼﾞ ｽｸｰﾙ	5	６月１９日～１２月１１日	
		ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ ﾊｳｽ ﾊﾞｰｽ	4		
アメリカ	オハイオ州立大学	カリフォルニア大学サンタバーバラ校	4	６月１２日～１２月４日	国際教育交換協議会
		コロラド大学ボールダー校	5		
	ミネソタ大学	ペンシルバニア大学	5	６月１２日～１２月４日	
		ゴンザガ大学	4		
	カリフォルニア大学アーバイン校	デラウェア大学	4	６月１２日～１２月４日	㈱アイ　エス　エイ
		サウスカロライナ大学コロンビア校	4		
ニュージーランド	ウェリントン　カレッジ　オブ　エデュケーション	マッセー大学語学センター	4	６月１９日～１２月１１日	国際教育交換協議会
		ワイカト大学語学研究所	4		
計			60		

英語：２か月

派遣国	大　　学	人数	派　遣　期　間	協力団体
イギリス	チチェスター大学	10	７月２６日～　９月２２日	ﾌﾞﾘﾃｨｯｼｭ･ｶｳﾝｼﾙ
アメリカ	ワシントン大学	8	７月２６日～　９月２２日	国際教育交換協議会
	ハワイ大学	9	７月２６日～　９月２１日	㈱アイ　エス　エイ
カナダ	オタワ大学	10	７月２６日～　９月２２日	国際教育交換協議会
オーストラリア	ラ・トローブ大学	10	７月２５日～　９月２２日	国際教育交換協議会
ニュージーランド	マッセー大学	9	７月２５日～　９月２２日	国際教育交換協議会
計		56		

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（産業教育）［産業教育内地留学生］				
担当課係	研修事業第二課　海外派遣研修係				
研修目的（趣旨）	産業振興法の趣旨に基づき，中学校，高等学校又は中等教育学校において産業教育を担当する教員等を長期間にわたって大学その他産業教育に関する研修を行うにふさわしい施設に留学させ，産業教育に関する研修に専念させることを通じて，産業教育に関し必要な知識及び技術を習得させ，その資質の向上と指導力のかん養を図ることを目的とする。				
対象	中学校，高等学校又は中等教育学校において産業教育を担当している教諭，助教諭及び実習助手（産業教育の担当を予定される教諭，助教諭及び実習助手を含む。）並びに産業教育の指導に関する事務を担当している指導主事とする。				
開催期日	別紙のとおり				３ヶ月以上1年未満
参加人数	計画人数	９３人	受講者数	８７人	（参加率）　９３．５％
開催場所	派遣先は，①及び②に該当する機関を，内地留学生が，自ら選択する。 ①　国立大学，短期大学（国立を除く），高等専門学校（国立を除く） ②　工場，農場，事務所，試験研究所その他産業教育に関する研修を行うにふさわしい施設				

Ⅱ　アンケート結果の状況

1．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	54人	76.1%	16人	22.5%	0人	0.0%	1人	1.4%

2．研修内容に関する主な意見

○最先端の研究をしている企業の方と知り合いになることで今後の学校との連携を進めることができる。
○研修成果を実習や授業に取り入れることで、授業等の幅が出てきた。
○理論だけではなく、実体験をすることにより具体的な教授法が身に付いた。
○教材を作成するための理論、技術を習得することができた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　教職員派遣研修（産業教育）

No	都道府県	派遣人数	所属校	派遣先	学部・学科名	実験・非実験	派遣時期	期間	備考
1	北海道								
2	青森県	1	県立青森商業高等学校	小樽商科大学	商学部商学科	非実験	15. 10. 1 ～ 15. 12. 20	３か月	
3	岩手県	1	盛岡市立松園中学校	岩手大学	教育学部	実験	15. 9. 1 ～ 15. 11. 28	３か月	
		1	県立釜石工業高等学校	ＳＭＣ株式会社釜石工場		実験	15. 7. 1 ～ 15. 9. 30	３か月	
4	宮城県	1	第二工業高等学校	東北大学		実験	15. 9. 1 ～ 16. 2. 28	６か月	
5	秋田県	2	湯沢市立湯沢南中学校	秋田大学	教育文化学部	実験	15. 5. 1 ～ 15. 7. 31	３か月	
			県立湯沢商工高等学校	秋田大学	教育文化学部	実験	15. 8. 1 ～ 15. 10. 31	３か月	
6	山形県	1	小国町立玉川中学校	山形大学	教育学部	非実験	15. 5. 1 ～ 15. 7. 31	３か月	
		4	県立鶴岡工業高等学校	東北芸術工科大学		非実験	15. 5. 1 ～ 15. 7. 31	３か月	
			県立酒田工業高等学校	オリエンタルモーター株式会社		実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			県立東根工業高等学校	専門学校仙台カレッジオブデザイン		非実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	６か月	
			県立置賜農業高等学校	県立園芸試験場		実験	15. 8. 1 ～ 15. 10. 31	３か月	
7	福島県	2	県立川俣高等学校	東京工業大学	工学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			県立岩瀬農業高等学校	岩手大学	農学部	実験	15. 9. 1 ～ 16. 2. 27	６か月	
		2	県立福島明成高等学校	独立行政法人食品総合研究所		実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			県立岩瀬農業高等学校	郡山女子大学　家政学部		実験	15. 10. 1 ～ 15. 12. 26	３か月	
8	茨城県								
9	栃木県	9	県立宇都宮白楊高等学校	宇都宮大学	農学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			県立那須清峰高等学校	宇都宮大学	工学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			県立栃木工業高等学校	宇都宮大学	教育学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			県立足利商業高等学校	一橋大学	商学部	非実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	６か月	
			県立高根沢高等学校	宇都宮大学	国際学部	非実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	６か月	
			県立今市工業高等学校	宇都宮大学	工学部	実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	６か月	
			県立小山南高等学校	宇都宮大学	教育学部	非実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	６か月	
			県立喜連川高等学校	宇都宮大学	教育学部	実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	６か月	
			黒磯市立黒磯中学校	宇都宮大学	教育学部	実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	６か月	
		6	県立那須高等学校	那須大学　都市経済研究センター		非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			県立足利商業高等学校	東洋大学　国際地域学部		非実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	６か月	
			県立鹿沼商工高等学校	大原情報ビジネス専門学校		非実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	６か月	
			県立足利工業高等学校	株式会社小林鉄工所		実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	６か月	
			県立宇都宮工業高等学校	日神工業株式会社		実験	15. 9. 1 ～ 15. 11. 30	３か月	
			県立真岡工業高等学校	協新電工株式会社		実験	15. 9. 1 ～ 15. 11. 30	３か月	
10	群馬県	2	県立高崎商業高等学校	群馬大学	社会情報学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			昭和村立昭和中学校	群馬大学	教育学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
11	埼玉県	1	県立杉戸農業高等学校	東京農業大学		実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	６か月	
13	東京都	1	都立第二商業高等学校	埼玉大学	経済学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
14	神奈川県	2	県立相模台工業高等学校	東京大学	工学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			県立三崎水産高等学校	東京水産大学	水産学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
15	新潟県	1	県立柏崎工業高等学校	長岡技術科学大学	大学院　工学研究科	実験	15. 9. 1 ～ 16. 2. 28	６か月	
16	富山県	1	県立高岡商業高等学校	富山大学	経済学部	非実験	15. 4. 10 ～ 15. 10. 2	７か月	
		1	県立富山商業高等学校	富山大原簿記法律専門学校		非実験	15. 6. 6 ～ 15. 11. 17	６か月	
17	石川県	1	県立高浜高等学校	金沢大学	教育学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
		1	県立工業高等学校	金沢工業大学	工学設計教育センター	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
19	山梨県	2	県立農林高等学校	山梨大学	工学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			塩山市立松里中学校	山梨大学	教育人間科学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
20	長野県	1	長野工業高等学校	長野県情報技術試験場		実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	６か月	

No	都道府県	派遣人数	所属校	派遣先	学部・学科名	実験・非実験	派遣時期	期間	備考
			所属						
21	岐阜県	1	県立恵那農業高等学校	岐阜大学	農学部	実験	15. 12. 1 ～ 16. 2. 28	3か月	
		1	県立中津川工業高等学校	(有) たけかわ企画		実験	15. 10. 1 ～ 15. 12. 31	3か月	
22	静岡県	2	掛川工業高等学校	豊橋技術科学大学	工学部	実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	6か月	
			浜松市立北浜東部中学校	静岡大学	教育学部	実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	6か月	
23	愛知県	1	県立半田農業高等学校	岐阜大学	農学部	実験	15. 7. 1 ～ 15. 9. 30	3か月	
25	滋賀県	1	県立八幡商業高等学校	滋賀大学	経済学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
26	京都府	1	府立田辺高等学校	京都大学	学術情報メディアセンター	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
27	大阪府	1	府立食品産業高等学校	京都大学	大学院	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
30	和歌山県	1	県立和歌山工業高等学校	和歌山大学	システム工学部	実験	15. 4. 14 ～ 16. 3. 31	12か月	
31	鳥取県	1	倉吉農業高等学校	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校		実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	6か月	
32	島根県	1	県立松江商業高等学校	山口大学	経済学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
		1	県立邇摩高等学校	島根県立農業試験場		実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
33	岡山県	2	県立倉敷工業高等学校	岡山大学	工学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
			県立勝間田高等学校	岡山大学	農学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
34	広島県	2	県立広島工業高等学校	広島大学	教育学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
			県立庄原実業高等学校	広島大学	生物生産学部	実験	15. 11. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
35	山口県	1	田布施町立田布施中学校	山口大学	教育学部	実験	15. 9. 1 ～ 15. 11. 30	3か月	
		1	県立防府高等学校	山口県立大学		非実験	15. 10. 1 ～ 15. 12. 31	3か月	
36	徳島県	1	県立勝浦高等学校	四国大学 短期大学部		実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
37	香川県	2	県立石田高等学校	香川大学	農学部	実験	15. 7. 1 ～ 15. 9. 30	3か月	
			県立坂出工業高等学校	香川大学	工学部	実験	15. 7. 1 ～ 15. 9. 30	3か月	
38	愛媛県	1	県立松山工業高等学校	愛媛大学	工学部	実験	15. 7. 1 ～ 15. 9. 30	3か月	
		1	県立今治南高等学校	東京農業大学 農学部		実験	15. 7. 1 ～ 15. 9. 30	3か月	
39	高知県	1	県立高知園芸高等学校	高知大学	農学部	実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	6か月	
		3	県立高知東工業高等学校	高知工科大学		実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	6か月	
			県立高知工業高等学校	高知工科大学		実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	6か月	
			県立伊野商業高等学校	高知情報ビジネス専門学校		非実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	6か月	
40	福岡県	1	県立久留米筑水高等学校	福岡県立大学 人間社会学部		非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
41	佐賀県	1	有田工業高等学校	佐賀大学	理工学部	実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	6か月	
		3	神崎清明高等学校	九州環境福祉医療専門学校		非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
			牛津高等学校	緑ドレスメーカ服飾専門学校		非実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	6か月	
			鳥栖商業高等学校	麻生電子ビジネス専門学校		非実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	6か月	
43	熊本県	3	県立南稜高等学校	北海道大学	大学院 農学研究科	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
			県立東稜高等学校	熊本大学	教育学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
			県立松橋高等学校	熊本大学	教育学部	非実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	6か月	
44	大分県	2	県立鶴崎高等学校	大分大学	工学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
			県立長洲高等学校	熊本大学	教育学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
		1	県立山香農業高等学校	武蔵野調理師専門学校		実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
45	宮崎県	2	国富町立本庄中学校	宮崎大学	教育文化学部	実験	15. 5. 1 ～ 15. 7. 31	3か月	
			県立日南工業高等学校	宮崎大学	工学部	実験	15. 9. 25 ～ 15. 12. 24	4か月	
46	鹿児島県	1	入来町立入来中学校	鹿児島大学	学術情報基盤センター	実験	15. 9. 1 ～ 15. 11. 30	3か月	
		1	鹿児島県立福山高等学校	東京農業大学 地域環境科学部		実験	15. 9. 1 ～ 15. 11. 30	3か月	
9	大阪市	1	泉尾第二工業高等学校	大阪大学	大学院	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	12か月	
	合計	87							

※ 派遣人数欄の網掛けは，産業界への派遣人数を表す

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（理科教育）［科学教育研究室研究生］				
担当課係	研修事業第二課　海外派遣研修係				
研修目的（趣旨）	小学校，中学校，高等学校，中等教育学校及び特殊教育諸学校の理科教育の担当教員に対し，理科教育に関する基礎的研究を行う機会を与え，もって理科教育担当教員の資質を向上し，その指導力の強化を図ることを目的とする。				
対象	小学校，中学校，高等学校，中等教育学校並びに盲学校，聾学校及び養護学校の小学部，中学部及び高等部の理科教育（算数・数学及び職業に関する教科教育を含む。）の担当教員。				
開催期日	別紙のとおり				3ヶ月以上12ヶ月以内
参加人数	計画人数	８０人	受講者数	８２人	（参加率）　１０２．５％
開催場所	派遣先は、①および②に該当する機関を、参加者が自ら選択する。 ①　国立大学 ②　試験研究所その他理科教育に関する研修を行うにふさわしい施設（国立の機関を除く）				

Ⅱ　アンケート結果の状況

1．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	51人	76.1%	15人	22.4%	0人	0.0%	1人	1.5%

2．研修内容に関する主な意見

○大学との連携ができ、これからも研究が継続して行える。
○最新の設備、施設において研修をすることができるのは、現場ではないことなので、非常に役立った。
○生徒に対しより新しい情報、テーマを提示することができ興味関心を高めることができた。
○研修した内容を地域の研修の場で活用することにより、回りの教員の資質向上にも役立つことができると思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　教職員派遣研修（理科教育）

No	都道府県	派遣人数	派遣元	派遣する国立大学					備考
			所属	大学名	学部・学科名	実験・非実験	派遣時期	期間	
1	北海道	7	北広島西高等学校	北海道大学	理学部	非実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			旭川西高等学校	北海道大学	理学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			壮瞥町立壮瞥中学校	北海道大学	理学部	非実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			札幌旭丘高等学校	北海道大学	理学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			札幌清田高等学校	北海道大学	理学部	非実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			札幌清田高等学校	北海道大学	理学部	非実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			苫小牧工業高等学校	北海道大学	理学部	実験	15. 12. 1 ～ 16. 3. 31	４か月	
4	宮城県	2	白石市立東中学校	東北大学		非実験	15. 9. 1 ～ 16. 2. 28	６か月	
			仙台市立加茂中学校	東北大学		実験	15. 9. 1 ～ 16. 2. 28	６か月	
5	秋田県	2	横手市立横手南中学校	秋田大学	教育文化学部	非実験	15. 7. 1 ～ 15. 12. 31	６か月	
			県立湯沢北高等学校	秋田大学	教育文化学部	実験	15. 7. 1 ～ 15. 12. 31	６か月	
6	山形県	2	鮭川村立曲川小学校	山形大学	教育学部	非実験	15. 5. 1 ～ 15. 7. 31	３か月	
			寒河江市立陵南中学校	山形大学	教育学部	非実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	６か月	
7	福島県	5	県立会津高等学校	福島大学	教育学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			県立遠野高等学校	福島大学	教育学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			郡山市立大槻中学校	福島大学	教育学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			県立岩瀬農業高等学校	福島大学	教育学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			富岡町立富岡第二中学校	福島大学	教育学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
9	栃木県	9	県立佐野高等学校	筑波大学	第２類群人間学類	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			宇都宮市立豊郷中央小学校	宇都宮大学	教育学部	非実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	６か月	
			粟野町立永野小学校	宇都宮大学	教育学部	非実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	６か月	
			岩舟町立小野寺北小学校	宇都宮大学	教育学部	非実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	６か月	
			那須町立芦野小学校	宇都宮大学	教育学部	非実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	６か月	
			芳賀町立芳賀中学校	宇都宮大学	教育学部	非実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	６か月	
			大田原市立親園中学校	宇都宮大学	教育学部	非実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	６か月	
			佐野市立北中学校	宇都宮大学	教育学部	非実験	15. 4. 1 ～ 15. 9. 30	６か月	
			大田原市立野崎中学校	宇都宮大学	教育学部	実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 31	６か月	
14	神奈川県	3	綾瀬市立綾西小学校	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			県立長後高等学校	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			県立中央農業高等学校	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
16	富山県	1	高岡市立万葉小学校	東京工業大学		非実験	15. 5. 1 ～ 15. 7. 31	３か月	
17	石川県	7	県立大聖寺高等学校	金沢大学	理学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			県立金沢西高等学校	金沢大学	工学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			県立津幡高等学校	金沢大学	理学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			県立高浜高等学校	金沢大学	理学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			県立金沢中央高等学校	金沢大学	医学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			小松市立高等学校	金沢大学	理学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			金沢市立鳴和中学校	金沢大学	教育学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
19	山梨県	3	甲府市立大里小学校	山梨大学	教育人間科学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			甲府市立羽黒小学校	山梨大学	教育人間科学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			玉穂町立玉穂南庄学校	山梨大学	教育人間科学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	

No	都道府県	派遣人数	派遣元 所属	派遣する国立大学 大学名	学部・学科名	実験・非実験	派遣時期	期間	備考
20	長野県	14	木曽高校	信州大学	理学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			松本工業高校	信州大学	理学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			飯田長姫高等学校	信州大学	理学部	非実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			松本筑摩高校	信州大学	理学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			松本美須々丘高等学校	信州大学	理学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			長野工業高等学校	信州大学	理学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			松本市立寿小学校	信州大学	農学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			伊那市立東部中学	信州大学	農学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			塩尻市立丘中学校	信州大学	農学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			南箕輪村立南箕輪中学校	信州大学	農学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			木曽山林高等学校	信州大学	農学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			木祖村立木祖小学校	信州大学	農学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			松本市立寿小学校	信州大学	農学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			中条高等学校	信州大学	繊維学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
23	愛知県	1	県立東海南高等学校	名古屋工業大学	工学部	実験	15. 5. 1 ～ 15. 11. 30	７か月	
29	奈良県	2	市立一条高等学校	奈良女子大学	理学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			市立一条高等学校	奈良女子大学	理学部	実験	15. 6. 1 ～ 16. 3. 31	１０か月	
31	鳥取県	1	県立鳥取農業高等学校	鳥取大学	教育地域科学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
35	山口県	2	下関市立玄洋中学校	山口大学	教育学部	実験	15. 11. 1 ～ 16. 1. 31	３か月	
			県立西京高等学校	山口大学	理学部	実験	15. 11. 1 ～ 15. 12. 31	３か月	
40	福岡県	1	県立中間高等学校	福岡教育大学	教育学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
43	熊本県	5	熊本市立託麻中学校	熊本大学	教育学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			長陽村立長陽中学校	熊本大学	教育学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			御船町立御船中学校	熊本大学	教育学部	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			新和町立新和小学校	熊本大学	教育学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			本渡市立本渡北小学校	熊本大学	教育学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
44	大分県	2	中津市立中津中学校	九州工業大学	工学部	非実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
			大分市立滝尾中学校	大分医科大学	看護学科	実験	15. 4. 1 ～ 16. 3. 31	１２か月	
45	宮崎県	6	山田町立木之川内小学校	東京工業大学	教育工学開発センター	非実験	15. 4. 8 ～ 15. 9. 25	６か月	
			延岡市立延岡小学校	筑波大学	第２学群人間学類	実験	15. 10. 2 ～ 16. 3. 25	６か月	
			新富町立上新田中学校	宮崎大学	教育文化学部	実験	15. 4. 7 ～ 15. 9. 26	６か月	
			西都市立妻南小学校	宮崎大学	教育文化学部	非実験	15. 4. 7 ～ 15. 9. 26	６か月	
			延岡市立土々呂小学校	宮崎大学	教育文化学部	非実験	15. 4. 7 ～ 15. 9. 26	６か月	
			高原町立高原中学校	宮崎大学	教育文化学部	非実験	15. 10. 1 ～ 16. 3. 26	６か月	
指5	横浜市	9	横浜市立中田中学校	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			横浜市立大綱中学校	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			横浜市立あざみ野中学校	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			横浜市立中和田中学校	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			横浜市立金沢高等学校	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			横浜市立戸塚高等学校	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			横浜市立戸部小学校	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			横浜市立能見台南小学校	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
			横浜市立下末吉小学校	横浜国立大学	教育人間科学部	実験	15. 5. 1 ～ 16. 3. 31	１１か月	
	計	84							

Ⅰ　研修概要

研修名	進路指導講座（東日本地区）					
担当課係	研修事業第二課　国内短期研修係					
研修目的（趣旨）	各都道府県教育委員会の進路指導担当指導主事及び中学校・高等学校の進路指導主事等に対して、進路指導に必要な専門的知識と技術を習得させ、各都道府県及び各学校における進路指導の中核となる者としての資質の向上を図り、もって中学校及び高等学校における進路指導の充実に資するものとする。					
対象	各都道府県教育委員会の進路指導担当指導主事及び中学校（中等教育学校前期課程を含む。）・高等学校（中等教育学校後期課程含む。）の進路指導主事またはこれに準ずる者					
開催期日	平成１５年　６月１６日（月）　～　平成１５年　６月２０日（金）					５日間
参加人数	計画人数	１１５人	受講者数	９５人	（参加率）	８２．６％
開催場所	筑波大学					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	50人	54.3%	40人	43.5%	0人	0.0%	0人	0.0%	2人	2.2%

２．研修内容に関する主な意見

○講義中心から演習中心という進め方はとてもよかった。バランスのよい研修だった。
○質の高い情報・資料を得ることができた。
○進路学習の計画立案についての講義・演習の時間があると更によかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

進路指導講座　日程表

A･･･大学会館国際会議室　E･･･大学会館第三会議室
B･･･大学会館特別会議室　F･･･大学会館第四会議室
C･･･大学会館第一会議室　G･･･大学会館第五会議室
D･･･大学会館第二会議室　H･･･大学会館第六会議室

月／日（曜日）	9:10 10:40 9:40	10:50 14:10 11:50 12:40	14:20 15:50	16:00 17:00	
6/16(月)	A 受　付	A 開講式 オリエンテーション 昼休み	①（講義）A 現代の青少年と教育の課題 筑波大学教育学系教授 門脇厚司	②（講義）A 教育改革の進展とキャリア教育の推進 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 宮下和己	③（講義）A 産業・経済の構造変化等の現状と課題 日本労働研究機構 主任研究員 小杉礼子 17:30
6/17(火)	④（講義）A 中・高等学校卒業者の進路状況と進路指導の課題 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 宮下和己	⑤(演習Ⅰ)A (中・高)計画的・組織的な進路指導の実践－全体会（実践発表）－ 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 宮下和己 筑波大学教育学系 助教授 藤田晃之 昼休み	⑤（演習Ⅰ）A B C D E F G H (中・高)計画的・組織的な進路指導の実践－第1～第8分散会－ 茨城大学教育学部助教授 佃 直毅 茨城県教育庁義務教育課 指導担当指導主事 戸塚俊宏 茨城県教育庁高校教育課 指導担当指導主事 中川忠之 筑波大学教育学系教授 門脇厚司 筑波大学教育学系助教授 水本徳明 飯田浩之 吉田武男 藤田晃之	⑤（演習Ⅰ）A (中・高)計画的・組織的な進路指導の実践－全体会（分散会報告・協議）－ 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 宮下和己 茨城大学教育学部助教授 佃 直毅	懇親会（大学会館）
6/18(水)	⑥（講義）A 進路指導におけるジェンダーイシュー 筑波大学教育学系 助教授 藤田晃之	⑦（講義）A 科学技術の発達と人材育成，その現状と課題 筑波大学大学研究センター助教授 小林信一 昼休み	⑧（講義）A 小・中・高等学校の連携 文教大学名誉教授 仙崎 武	⑨（講義）A 進路相談の理論と方法 筑波大学心理学系 教授 渡辺三枝子	キャンパスツアー
	9:10 14:20 12:20 13:20		14:30 16:30		
6/19(木)	⑩（演習）B C D 進路相談－カウンセリングーの実際・その1 筑波大学心理学系教授 渡辺三枝子 東京都立八王子工業高等学校校長 内田雅顕 東京都立つばさ総合高等学校 キャリア・カウンセラー 本城慎二	昼休み	⑪（演習）B C D 進路相談－カウンセリングーの実際・その2 筑波大学心理学系教授 渡辺三枝子 東京都立八王子工業高等学校校長 内田雅顕 東京都立つばさ総合高等学校 キャリア・カウンセラー 本城慎二		
6/20(金)	⑫（演習Ⅱ）A (中)保護者・地域とともに進める進路指導の実践 筑波大学教育学系助教授 飯田浩之 ⑫（演習Ⅱ）B (高)「産業社会と人間」の実践 筑波大学学校教育部教授 服部次郎	昼休み	⑬(協議)A 研修の成果と今後の課題 筑波大学教育学系教授 桑原 隆 筑波大学教育学系助教授 藤田晃之	A 閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	進路指導講座（西日本地区）				
担当課係	研修事業第二課　国内短期研修係				
研修目的（趣旨）	各都道府県教育委員会の進路指導担当指導主事及び中学校・高等学校の進路指導主事等に対して、進路指導に必要な専門的知識と技術を習得させ、各都道府県及び各学校における進路指導の中核となる者としての資質の向上を図り、もって中学校及び高等学校における進路指導の充実に資するものとする。				
対象	各都道府県教育委員会の進路指導担当指導主事及び中学校（中等教育学校前期課程を含む。）・高等学校（中等教育学校後期課程含む。）の進路指導主事またはこれに準ずる者				
開催期日	平成１５年　６月　２日（月）　～　平成１５年　６月　６日（金）				５日間
参加人数	計画人数	１２０人	受講者数	９５人	（参加率）　７９．２％
開催場所	広島大学				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	25人	26.9%	63人	67.7%	1人	1.1%	0人	0.0%	4人	4.3%

２．研修内容に関する主な意見

○具体的な実践を協議検討・意見交換できたのが有益だった。
○カウンセリングの講義はとてもわかりやすく有意義だった。
○今後に生きる内容だったので、自分の学校だけではなく他の学校の先生方にも伝達していきたい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　進路指導講座　日程表（西日本地区）

	６月２日（月）	６月３日（火）	６月４日（水）	６月５日（木）	６月６日（金）
9:00	受　　付	４．（演習） （中）保護者・地域とともに進める進路指導の実践 教育学研究科助教授 中條和光 （高）「産業社会と人間」の実践 文部科学省 宮下和己 （９：００～１１：００）２Ｈ	５．（演習） （中・高）計画的・組織的な進路指導の実践 ―全体会（分散会報告・協議）― 宮下和己　河原純一郎 （９：００～１０：３０）１．５Ｈ	１１．（演習） 進路相談ーカウンセリングーの実際・その１ 教育学研究科教授　児玉憲一 （９：００～１２：００）３Ｈ	１３．（講義） 青年期の発達課題と進路指導 教育学研究科教授　前田健一 （９：００～１０：３０）１．５Ｈ
9:30	開　講　式 オリエンテーション （演習打合せ含む）				
10:00					
10:30	１．（講義） 現代の青少年と教育の課題 教育学研究科長　中原忠男 （１０：３０～１２：００）１．５Ｈ				１４．（協議） 研修の成果と今後の課題 教育学研究科教授　深田博己 （１０：４５～１１：４５）１Ｈ
11:00			７．（講義） 産業・経済の構造変化等の現状と課題 学生就職センター教授　田中秀利 （１０：４５～１２：１５）１．５Ｈ		
11:30		５．（演習） （中・高）計画的・組織的な進路指導の実践 ―　全体会（実践発表）―　河原純一郎 （１１：１５～１２：１５）１Ｈ			
12:00					閉講式（修了証書授与）
12:30					
13:00	２．（講義） 教育改革の進展とキャリア教育の推進 文部科学省　宮下和己 （１３：００～１４：３０）１．５Ｈ	（中・高）計画的・組織的な進路指導の実践 第１分散会～第５分散会 教育学研究科助教授　河原純一郎 文部科学省　宮下和己 （１３：００～１５：４５）３Ｈ	８．（講義） 小・中・高等学校の連携 教育学研究科助教授　山田浩之 （１３：００～１４：００）１Ｈ	１２．（演習） 進路相談ーカウンセリングーの実際・その２ 教育学研究科助教授　岡本祐子 （１３：００～１６：００）３Ｈ	
13:30					
14:00			９．（講義） 科学技術の発達と人材育成，その現状と課題　教育学研究科講師　巖淵守 （１４：１５～１５：１５）１Ｈ		
14:30					
15:00	３．（講義） 中・高等学校卒業者の進路状況と進路指導の課題 文部科学省　宮下和己 （１４：４５～１６：１５）１．５Ｈ		１０．（講義） 進路相談の理論と方法 教育学研究科教授　石井眞治 （１５：３０～１７：００）１．５Ｈ	自主的交流	
15:30					
16:00		６．（講義） 企業が求める人材 （株）サタケ取締役副社長　福森　武 （１６：００～１７：００）１Ｈ			
16:30					
17:00					

Ⅰ　研修概要

研修名	公立高等学校事務職員幹部研修講座				
担当課係	研修事業第二課　国内短期研修係				
研修目的（趣旨）	公立高等学校の事務職員で指導的立場にある者に必要な研修を行い、事務職員の資質の向上を図り、もって学校の運営に資する。				
対象	公立高等学校において事務長等指導的立場にある事務職員				
開催期日	平成１５年１２月１日（月）　～　平成１５年１２月５日（金）				５日間
参加人数	計画人数	１００人	受講者数	９４人	（参加率）　９４．０％
開催場所	独立行政法人教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	20人	22.7%	63人	71.6%	2人	2.3%	0人	0.0%	3人	3.4%
割合(%)										

２．研修内容に関する主な意見

○バリエーションにとんだ講義を聴けて大変勉強になった。
○中央でなければ聞くことの出来ない貴重な高度な内容の話を聞くことが出来て大変有意義であった。
○民間企業の経営に関する講座を設けてもらいたい。民権経営感覚を知りたい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度公立高等学校事務職員幹部研修講座日程表

月／日			
１２／１ （月）		13:30	20:00 14:10 受付 14:50 オリエンテーション 15:00 開講式 15:10 講義①「学校教育の課題と動向」 文部科学省初等中等教育局視学官 根本　博 16:45 17:00 フロアーリーダー会 17:20 18:00 情報交換会
１２／２ （火）	9:30 10:30 資料交換 10:45 班別討議① 12:00	昼食	13:30 15:00 講義②「地方教育行政制度」 文部科学省初等中等教育局企画課課長補佐　佐藤弘毅 15:15 班別討議② （助言講師） １班：群馬県立太田高等学校　事務部長　大杉　幸一 ２班：東京都立山崎高等学校　事務長　原田　茂美 ３班：千葉県立佐原白楊高等学校　事務長　阿玉　新一 ４班：東京都立武蔵野北高等学校　事務長　福　伸太郎 ５班：埼玉県立児玉高等学校　事務部長　新井　一雄 17:30
１２／３ （水）	9:00 10:00 班別討議③ （助言講師） １班：太田高等学校　大杉　幸一 ２班：山崎高等学校　原田　茂美 ３班：佐原白楊高等学校　阿玉　新一 ４班：武蔵野北高等学校　福　伸太郎 ５班：児玉高等学校　新井　一雄 10:15 講義③「高等学校事務職員をめぐる話題について」 文部科学省初等中等教育局財務課課長補佐 勝山浩司 12:00	昼食	13:30 班別討議④ （助言講師） １班：太田高等学校　大杉　幸一 ２班：山崎高等学校　原田　茂美 ３班：佐原白楊高等学校　阿玉　新一 ４班：武蔵野北高等学校　福　伸太郎 ５班：児玉高等学校　新井　一雄 17:30
１２／４ （木）	9:00 9:45 班別討議⑤ （助言講師） １班：太田高等学校　大杉　幸一 ２班：山崎高等学校　原田　茂美 ３班：佐原白楊高等学校　阿玉　新一 ４班：武蔵野北高等学校　福　伸太郎 ５班：児玉高等学校　新井　一雄 10:00 講義④「企業における人材育成」 横浜ベイシェラトン&タワーズ研修担当ディレクター 袖山雅弘 12:00	昼食	13:30 班別討議⑥ （助言講師） １班：太田高等学校　大杉　幸一 ２班：山崎高等学校　原田　茂美 ３班：佐原白楊高等学校　阿玉　新一 ４班：武蔵野北高等学校　福　伸太郎 ５班：児玉高等学校　新井　一雄 17:30
１２／５ （金）	9:00 9:30 講義⑤「ストレスマネジメント」 株式会社東京ストレスマネジメント企画グループチーフ 渡辺章二 11:30 11:45 閉講式 12:00		

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（指導主事－全国講座）					
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係					
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的役割を担える人材を養成する。					
対象	都道府県・市町村の指導主事					
開催期日	平成１５年　７　月１４日（月）　～　平成１５年　７　月１８日（金）					５日間
参加人数	計画人数	５０人	受講者数	４４人	（参加率）	８８．０％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	17人	38.6%	26人	59.1%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	2.3%

２．研修内容に関する主な意見

○国の施策，各県の取組状況と自県の取組状況を比較し，自県に求められることがよく認識でき，とても意義ある一週間でした。
○５日間では足りないくらいの内容だったが，ＣＤ等で持ち帰り今後その情報を共有できるのでありがたい。
○全体的な説明が講義形式で行われ，またグループで話し合い・発表という内容もあり，バランスが取れていた。
○私たちのセンターで取り組んでいる方向性が確認できました。時間的な関係で深く行うことはできませんでしたが，研修のもち方についても示唆を与えて頂きました。
○全国の指導主事との意見交換や演習でのアイデア・発想など勉強できる機会が多かった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程　　指導主事－全国

	午前 9:00	午後 13:00	14:30 14:45	16:15 16:30 17:30
第１日 7/14 (月)	10:30 受付 11:00 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 11:30 開講式	【講　義】 教育の情報化に関する国の施策 ※衛星配信講義 文部科学省初等中等教育局参事官付情報教育調査官　中井　淳一	【講　義】 学習指導要領における情報化への対応　※衛星配信講義 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官　永井　克昇	各都道府県等の情報教育研修の取組状況（情報交換）
第２日 7/15 (火)	【講　義】 授業設計と教材作成について 筑波大学附属駒場中・高等学校教諭 市川　道和	【講　義】 ネットワークの基礎知識とセキュリティの実際 NECソリューションズ文教ソリューション事業部主任　井上　義裕		各都道府県等の情報教育研修の取組状況（情報交換）
第３日 7/16 (水)	【講　義】 情報モラルの理解と指導 金城学院大学助教授 長谷川　元洋	【講義・演習】 学校における情報コーディネーターの役割 （コンサルテーションを含む） つくば市教育委員会指導主事 毛利　靖		各都道府県等の情報教育研修の取組状況（情報交換）
第４日 7/17 (木)	【講　義】 校内研修の進め方 金沢大学助教授 中川　一史	【演習(班別)】 校内研修案の作成 金沢大学助教授 中川　一史		各都道府県等の情報教育研修の取組状況（情報交換）
第５日 7/18 (金)	【講　義】 教育情報化の支援体制の在り方・外部人材の活用 福島県教育センター指導主事 渡部　昌邦	12:10 閉講式		

※講師及び講義内容については、変更することがあります。

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－全国講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公立の小学校の教員				
開催期日	平成１５年　９月　８日（月）　～　平成１５年　９月１２日（金）				５日間
参加人数	計画人数	５０人	受講者数	４２人	（参加率）　８４．０％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	17人	40.5%	22人	52.4%	0人	0.0%	0人	0.0%	3人	7.1%
割合(%)										

２．研修内容に関する主な意見

○現在の情報教育のかかえる問題について最新情報を知ることが出来たので良かった。
○内容が良く，また，地元に戻った時に，多くの人に伝わるようにしたい。
○毎日のグループの話し合いがとても良かった。もう少し時間があれば，もっと話を聞けたと思うので，もう少し少人数のｸﾞﾙｰﾌﾟでも良かった。
○著作権やセキュリティについて改めて考える機会となった。
○今まで聞いていた，知っていた，経験していた内容が多く，少し物足りなかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

<table>
<tr><td>日時</td><td colspan="2">9:00　　12:00</td><td colspan="2">13:00　　16:15</td><td></td></tr>
<tr><td>9
／
8

(月)</td><td colspan="2">１０：３０～ 受　　付（図書館棟入口）
１１：００～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（　※　A　）
１１：３０～ 開 講 式（　※　A　）</td><td>【講演】　※A
学習指導要領における
情報化への対応
国立教育政策研究所教育課程研究センター
教育課程調査官 永井 克昇</td><td>【講義】　※B
情報化の方向性
情報化社会と教育
武庫川女子大学
教 授 中野 彰</td><td>注</td></tr>
<tr><td>9
／
9

(火)</td><td>【講義・演習】 ※B
情報教育のねらいと
カリキュラム
つくば市教育委員会
指導主事 毛利 靖</td><td>【講義】　※B
情報倫理と
ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰ、著作権
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｿﾌﾄｳｪｱ著作権協会
専務理事 久保田 裕</td><td colspan="2">【講義・演習】　※B
校内ネットワークの基礎知識
セキュリティ、校内ネットワークの設計
日本電気株式会社文教ｿﾘｭｰｼｮﾝ事業部
主 任　　井上 義裕</td><td>注</td></tr>
<tr><td>9
／
10
(水)</td><td>【講義】　※B
授業設計について</td><td>【講義・演習】　※B
教材作成について（教科別グループ）
・授業案の作成 、教材作成</td><td colspan="2">【発表・協議】※B
授業案と教材の発表
（教科別グループ）
富山大学教育学部
助 教 授　　黒 田　卓</td><td>注</td></tr>
<tr><td>9
／
11
(木)</td><td>【講義】　※B
コンサルテーション
について(Q&A集)</td><td>【講義・演習】　※B
コンサルテーション協議（グループ）</td><td colspan="2">【講義・協議】※B
校内研修の進め方
について
（グループ協議）
東京都江東区立第三砂町小学校
教 諭　　田 中 克 昌</td><td>注</td></tr>
<tr><td>9
／
12

(金)</td><td>【講義・演習】※B
校内研修案の作成
（グループ）
東京都江東区立第三砂町小学校
教 諭　　田 中 克 昌</td><td>【発表・協議】※B
校内研修案の発表
（グループ）</td><td colspan="2">１１：５０～１２：００ 閉　講　式　※A
アンケート回収
解　　散</td><td></td></tr>
</table>

※研修会場：　A＝特別研修棟 プレゼンテーション室、B＝特別研修棟 メディアサポート室

注：16:30～17:30まで、「各学校の情報教育の取り組み状況」を情報交換して頂きます。

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－東部１講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公立の小学校の教員				
開催期日	平成１５年　９月　８日（月）　～　平成１５年　９月１２日（金）				５日間
参加人数	計画人数	２０人	受講者数	２２人	（参加率）　１１０．０％
開催場所	青森県総合学校教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	16人	72.7%	5人	22.7%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	4.6%

２．研修内容に関する主な意見

○教育の情報化に対する考え方が根底から変わった。また，指導者としての力を付けるべく、資料等活用して，不足している力を補っていきたい。
○内容は素晴らしいものばかりで，とても良かった。
○どの先生方も現場に目を向けた話だったので，うなずくことが多かった。
○自由時間が少なく，実践例や役立つ情報等，交換できずに多少残念であった。
○限られた日程で，全部を消化するのは大変でしたが，グループ交流でずいぶんと助けられた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

<table>
<tr><td>時　刻</td><td colspan="3">午　前
9:00　10:30　10:40　12:00</td><td colspan="3">午　後
13:00　14:30　14:40　16:00</td><td>16:30</td></tr>
<tr><td>第１日
９/８
（月）</td><td>受　付
ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ
開講式</td><td colspan="2">【講義】
初等中等教育における情報化の対応について</td><td colspan="2">【講義・演習・協議】
情報化の方向性
情報化社会と教育
情報教育を支える技術と課題
情報教育の内容理解</td><td>自由研究</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="5">聖心女子大学　教授　永　野　和　男</td></tr>
<tr><td>第２日
９/９
（火）</td><td colspan="2">【講義】
情報モラルと著作権</td><td>【講義】
校内ネットワークの基礎知識</td><td colspan="2">【講義・演習】
校内ネットワークの設計</td><td>自由研究</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">ACCS 事業部次長 三 橋 信 司</td><td colspan="3">県総合学校教育センター 指導主事 幸 山　勉</td></tr>
<tr><td>第３日
９/10
（水）</td><td colspan="3">【講義・協議】
コンピュータやインターネットの教育利用</td><td colspan="2">【演習】
Ｗｅｂページの作成</td><td>自由研究</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="5">県総合学校教育センター　指導主事　福　島　成　利</td></tr>
<tr><td>第４日
９/11
（木）</td><td colspan="3">【講義・演習】
コンサルテーション
Ｑ＆Ａ集　Ａの作成（グループ）</td><td>【協議】
コンサルテーション協議(グループ)</td><td>【講義・協議】
校内研修の進め方について
グループ協議</td><td>自由研究</td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="5">園田学園女子大学　助教授　原　　克　彦</td></tr>
<tr><td>第５日
９/12
（金）</td><td>【演習】
校内研修案の作成</td><td>【発表･協議】
校内研修案の発表</td><td>閉講式</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>講師名</td><td colspan="2">園田学園女子大学 助教授 原 克 彦</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－東部２講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公立の小学校の教員				
開催期日	平成１５年１０月　６日（月）　～　平成１５年１０月１０日（金）				５日間
参加人数	計画人数	２０人	受講者数	３３人	（参加率）　１６５．０％
開催場所	千葉県総合教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	19人	57.6%	13人	39.4%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	3.0%

２．研修内容に関する主な意見

○参加者の学校実践事例の持ち寄りがあっても良かった。
○地域，学校へ帰って広めたい内容をたくさん吸収できた。
○施設面が整わないと始まらないという部分が多々あるように感じた。
○今回の研修に参加でき，情報教育の何たるかを自分自身の中に明確化できた。
○色々な観点でのお話が聞けたり，さまざまソフトを活用した実技ができたり，大変有意義な１週間だった。今後も是非続けて欲しい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日時	午前		午後	
	9:00　10:30　11:00　12:00		13:00　15:00　16:30	
10月 6日 (月)	受付 開講式 オリエンテーション	【講義】 「ITで築く確かな学力」のための情報教育のあり方 上越教育大学 教育総合研究センター 教授　南部昌敏	【講義・協議】 小学校における情報教育の展開 メディア教育開発センター　研究開発部 助教授　波多野和彦	
7日 (火)	【講義】 ネットワークと情報教育 日本電気(株) 文教ソリューション事業部 事業推進部 井上義裕	【講義・協議】 情報の科学的な理解を伸ばす授業展開 西遠総合教育センター 指導主事 内山恵美子	【講義・協議】 情報の科学的な理解を伸ばす授業展開 西遠総合教育センター 指導主事 内山恵美子	【演習】 情報の科学的な理解を伸ばす授業展開
8日 (水)	【講義・協議】 情報倫理と著作権 情報安全教育の展開 慶応義塾幼稚舎 情報科教諭　鈴木二正 千葉県総合教育センター 研究指導主事　大久保俊輝	【演習】	【講義・協議】 情報倫理と著作権 情報安全教育の展開 慶応義塾幼稚舎 情報科教諭　鈴木二正 千葉県総合教育センター 研究指導主事　大久保俊輝	【演習】
9日 (木)	【講義・協議】 ネットワークの実践活用 松戸市教育委員会　指導主事　安蒜眞 千葉県総合教育センター　指導主事　日下部正一	【演習】	【講義・協議】 ネットワークの実践活用 松戸市教育委員会　指導主事　安蒜眞 千葉県総合教育センター　指導主事　日下部正一	【演習】
10日 (金)	【講義・協議】 校内研修の進め方 つくば市教育委員会 指導主事　毛利靖		閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－中部１講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公立の小学校の教員				
開催期日	平成１５年１０月２０日（月）～平成１５年１０月２４日（金）				５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	２１人	（参加率）　７０．０％
開催場所	三重県総合教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	12人	57.1%	9人	42.9%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○現在の動向，今後の方向，情報教育の必要性など改めて，再確認することができ，気持を新たにすることができた。
○年間計画も方針もなかった自分の学校に，どんな方向に進んでいけばいいのか方向性を示してくれた。
○教育の情報化は情報教育だけでなく，教科指導全般と校務が関係している。情報教育に傾斜がかかっていたように感じる。教科指導でのIT化についてももっと扱って欲しかった。
○パワーポイントをもっと，日常的に発表のツールとして利用すると操作面だけではなく，人に伝える能力が育成されると実感した。
○内容が充実しており，他県の方との交流などもあって，あっという間に終わった感じがした。研修したことを活かしていきたい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程　　小学校－中部１

日時	午前		午後	
	9:00　10:30	10:40　12:00	13:00　14:50	15:00　16:30
第１日 10／20 （月）	9:15 受付 9:45 オリエンテーション 10:15 開講式	①【講演】 情報化の方向性 情報化社会と教育	②【講義】 情報教育カリキュラムの 作成	③【講義・演習】 情報教育カリキュラムの 検討 （グループ）
会　場	ＯＡ室	ＯＡ室	ＯＡ室	
講師等		富山大学 教授　山西　潤一	金城学院大学 助教授　長谷川 元洋	
第２日 10／21 （火）	④【講義・演習】 情報教育カリキュラムの検討 （グループ）	⑤【講義】 情報倫理と プライバシー （Q&A事例中心に討議）	⑥【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計	
会　場	ＯＡ室		ＯＡ室	
講師等	金城学院大学 助教授　長谷川 元洋		富山大学 講師　高橋　純	
第３日 10／22 （水）	⑦【講義】 授業設計について	⑧【講義・演習】 教材作成について（グループ） ・授業案の作成 ・教材作成		⑨【発表・協議】 ・授業案と教材の発表 （グループ）
会　場	ＯＡ室			
講師等	岡山市教育委員会 課長補佐　青木　将			
第４日 10／23 （木）	⑩【講義】 コンサルテーションについて （Q＆A集）	⑪【演習・協議】 コンサルテーション協議 （グループ）		⑫【講義・協議】 校内研修の進め方について （グループ協議）
会　場	ＯＡ室			
講師等	三重県教育委員会 研修主事　中村　武弘			
第５日 10／24 （金）	⑬【講義・演習】 校内研修案の作成 （グループ）	⑭【発表・協議】 校内研修案の発表 （グループ）	12:10 閉講式	
会　場	ＯＡ室		ＯＡ室	
講師等	三重県教育委員会 研修主事　中村　武弘			

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－中部２講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公立の小学校の教員				
開催期日	平成１５年　８　月１８日（月）　～　平成１５年８　月２２日（金）				５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	３１人	（参加率）　１０３．３　％
開催場所	大阪府教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	16人	51.6%	14人	45.2%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	3.2%

２．研修内容に関する主な意見

○研修計画立案により，学校に戻って即実践できるものが完成できた。
○本校の情報教育の問題点を客観的に見られるようになった。
○グループでの協議等を取り入れたこともあり，様々な先生と情報を交換できたことがとても有効な財産となった。
○情報教育の必然性や指導する上での留意点など多くのことを学びました。またQ&A集やCDなどを頂いたことに感謝したい。
○もう少し基礎的な部分を身につけてから受講するともっと自分の中での充実感等広がったのではと多少後悔。その分現場で生かしたい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

小学校－中部２講座

時刻	午前 9:00	10:30	10:45	12:15	午後 13:15	14:25	14:35	15:45	15:50	17:00
第１日 ８／18 (月)	受付 オリエンテーション 開講式		【講義・演習】 コンピュータや インターネットの 教育利用について		【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育		【講義】 情報教育を支える 技術と課題		【講義】 情報モラルと プライバシー について	
講師名	所　長		大阪府教育センター 指導主事　和田精久		関西大学教授 江澤義典		富士通文教ｼｽﾃﾑ 大寺一浩		大阪府教育センター 指導主事　角谷智彦	
第２日 ８／19 (火)	【講義】 情報教育の 内容と理解		【講義・演習】 情報教育 カリキュラムの作成		【講義・演習】 Ｗｅｂページ作成ソフトや プレゼンテーション作成ソフトによる 教材の作成について					
講師名	園田学園女子大学 助教授　原　克彦		大阪府教育センター 指導主事　山本雄一		大阪府教育センター指導主事　花田　司					
第３日 ８／20 (水)	【講義】 初等中等教育 における情報化 の対応について		【課題選択演習】 教材の作成 (Ｗｅｂページ作成ソフトや プレゼンテーション作成ソフトによる)					【発表・協議】 課題の発表		
講師名	関西大学教授 久保田賢一		大阪府教育センター指導主事　和田精久 大阪府教育センター指導主事　花田　司					大阪府教育センター 指導主事　花田　司		
第４日 ８／21 (木)	【講義・演習】 コンサルテーション Ｑ＆Ａ集によるＡの作成（グループ）				【協議】 コンサルテーション グループ協議		【講義・演習】 校内研修の進め方について グループ協議			
講師名	大阪府教育センター 指導主事　門田浩一				大阪府教育センター 指導主事　門田浩一		大阪府教育センター 指導主事　門田浩一			
第５日 ８／22 (金)	【演習】 校内研修案の作成		【発表・協議】 校内研修案の発表		閉講式					
講師名	大阪府教育センター 首席指導主事　山本雄一				所　長					

Ⅰ　研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－西部１講座）					
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係					
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。					
対　　象	国・公立の小学校の教員					
開催期日	平成１５年１０月２７日（月）　～　平成１５年１０月３１日（金）					５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	２８人	（参加率）	９３．３ ％
開催場所	山口県教育研修所					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	13人	46.4%	14人	50.0%	1人	3.6%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○講義の内容と教育現場のニーズが一致していないと感じた。
○おろそかになりがちな著作権問題などにも真剣に考えることができた。
○少なからず新しい知識を得ることができたが，頂いた資料で改めて学び直すことが必要と感じた。
○教材や知識・技術などがたくさん得られて良かった。情報収集も出来たので，帰ったら整理加工して発信したい。
○教材作りは大変だったが，他の先生方の多くのアイデアを見ることができ，とても役に立たった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程　　小学校－西部１講座

日時	午前				午後	
	9:00	9:30	10:30	10:45 12:15	13:15	14:45 15:00 16:30
第１日 10/27 （月）	受付	開講行事 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ		【講義】 初等中等教育における情報化の対応について	【講義】 情報教育を支える技術と今後の展望	【講義・演習】 校内ネットワークの基礎知識と活用法
講師				茨城県教育研修センター 情報教育課長　中村　一夫	(株)富士通ﾗｰﾆﾝｸﾞﾒﾃﾞｨｱ ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ課長　戸田　博人	(株)富士通ﾗｰﾆﾝｸﾞﾒﾃﾞｨｱ ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ課長　戸田　博人
第２日 10/28 （火）	【講義・演習】 インターネット時代における著作権と情報倫理			【講義・演習】 インターネット時代における著作権と情報倫理	【講義】 情報化社会と教育	【講義】 授業設計について
講師	京都大学大学院法学部 助教授　西村　泰雄			京都大学大学院法学部 助教授　西村　泰雄	山口大学教育学部 教授　林　徳治	山口県教育研修所 研究指導主事　井上成人
第３日 10/29 （水）	【講義・演習】 授業設計および教材の作成					
講師	山口県教育研修所 研究指導主事　深井保司 研究指導主事　大筋克徳					
第４日 10/30 （木）	【発表・協議】 授業案と教材の発表			【講義・演習】 コンサルテーションについて（Q＆A集）		【講義】 校内研修の進め方
講師	山口県教育研修所 研究指導主事　井上成人 研究指導主事　深井保司			山口県教育研修所 研究指導主事　大筋克徳 研究指導主事　井上成人		山口県教育研修所 研究指導主事　辻岡博之
第５日 10/31 （金）	【演習】 校内研修案の作成			【発表・協議】 校内研修案の発表	閉講行事	
講師	山口県教育研修所 研究指導主事　辻岡博之 研究指導主事　中村英樹			山口県教育研修所 研究指導主事　中村英樹 研究指導主事　辻岡博之		

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－西部２講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公立の小学校の教員				
開催期日	平成１５年　７月２８日（月）　～　平成１５年　８月　１日（金）				５日間
参加人数	計画人数	２０人	受講者数	２３人	（参加率）　１１５．０％
開催場所	クレオパーク鍋島				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	8人	34.8%	14人	60.9%	1人	4.3%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○情報教育や校内ＬＡＮの構築についての一般的な知識から具体的な授業実践などの具体的な取組まで幅広く網羅していたのが良かった。
○学校現場におけるこれからの情報化をどのように進めていくのかということが分かった。
○これまでのどの研修よりも実践に役立つことを学べた。また，講師・発表者の話や資料の提示がすばらしく，全体的にとても分かりやすかった。
○情報教育（情報機器を活用した教育）の先進校の取組を知ることが出来たのが良かった。ぜひ，本校，本地区にそのよさを取り入れていきたいと思った。
○メーカーの担当者からの話はやや難しいが，現在の状況，これからの予定等，興味深く聞くことができた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

時　刻	午前 8:50	10:20	10:30	12:00	午後 13:00	14:30	14:35	15:35	15:40	16:40
第１日 7/28 (月)	9:00 受付 10:00 開講式 オリエンテーション		「講義」 ・情報化社会と教育 ・情報教育のねらいとカリキュラム		「講義」 ＩＴ教育が求める学校づくり ・@ＳＣＨＯＯＬ ・映像を中心とした教育ソリューション					
講師名			佐賀大学　理工学部 教授　近藤　弘樹		富士通株式会社 公共ｿﾘｭｰｼｮﾝ本部 教育文化ｿﾘｭｰｼｮﾝ部 ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ課長　中沢　研也 ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｾｷｭﾘﾃｨｿﾘｭｰｼｮﾝ本部　ｿﾘｭｰｼｮﾝ統括部 propose推進部　ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ課長　大寺　一弘					
第２日 7/29 (火)	「講義」 ネットワークが学校にやってきた！ ・教育ネットワークの設計 ・インターネットを活用した授業と情報モラル ・実践例（学びの場.com）				「講義」 ＩＴを用いて指導する意味		「実践発表」 ＴＶ会議を利用した学校間交流		「実践発表」 わかる授業！ 身につく授業！	
							佐賀県川副町立 南川副小学校教諭 江頭則男			
講師名	株式会社 内田洋行　ITCｻﾎﾟｰﾄ部 ﾈｯﾄﾜｰｸ推進担当 課長　野村　裕之				熊本県人吉市立 東間小学校教諭 山本　朋弘		佐賀県有明町立 有明東小学校教諭 小川　弘孝		大分県日出町立 日出小学校教諭 笠置 隆宣	
第３日 7/30 (水)	「講義」 安心してﾈｯﾄﾜｰｸを活用するために ・学校セキュリティ		・ウィルス被害と対策		「実践発表」 校内ＬＡＮを活用した授業		「講義・演習」 もっとＩＴを身近に！ ・校務支援ソフトの利用			
講師名	ｱﾗｲﾄﾞﾃﾚｼｽ株式会社 営業二課　課長代理 大沢　光秋		ﾄﾚﾝﾄﾞﾏｲｸﾛ株式会社 ﾋﾞｼﾞﾈｽﾊﾟｰﾄﾅｰ営業課 村井　太郎		佐賀県佐賀市立 本庄小学校教諭 江口　浩文		スズキ教育ソフト株式会社 ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ　若村　衛美子			
第４日 7/31 (木)	「講義・演習」 ネットワークで使える教材を考えよう ・教材の作成 ・校内での利用方法								発表と評価	
講師名	株式会社学映システム　ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ　山崎　由美子・　上林　一美									
第５日 8/1 (金)	「講義・演習」 校内研修の進め方 ・校内研修案の作成 ・校内研修案の発表			12:00 閉講式 12:30 解散						
講師名	岡山市教育委員会学校教育部指導課 課長補佐　青木　将									

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－全国１講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年１０月　６日（月）　～　平成１５年１０月１０日（金）				５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	３３人	（参加率）　１１０．０％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	20人	60.6%	10人	30.3%	0人	0.0%	0人	0.0%	3人	9.1%

２．研修内容に関する主な意見

○情報機器，ソフトウェアの操作の研修と違い，教師の役割について考えさせられた研修だった。
○何をやるのか，良く分からないで参加してしまった研修でしたが，一本筋が通ったような気がしました。調べ，まとめ，発信する，この一連の流れを大切にしていきたい。
○演習は時間が少なく，あわてた部分もあったが，プレゼンが工夫されていた。また，他の学校での取組は大変参考になった。
○他県や他校種の先生の話が聞くことができ，大変刺激になった。
○今まで情報教育については総合の時間しか意識していなかったが，他の教科でも使ってみたいと考えが変わった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日時	9:00	12:00	13:00	16:15	
10／6（月）	１０：３０～ 受　付（図書館棟入口） １１：００～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（ ※　A ） １１：３０～ 開 講 式（ ※　A ）		【講演】　※B 学習指導要領における情報化への対応 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官　永井 克昇	【講義】　※B 情情報化の方向性 情報化社会と教育 東京国際大学 助教授　山内　豊	注
10／7（火）	【講義・演習】　※B 情報教育のねらいとカリキュラム 東京国際大学 助教授　山内　豊	【講義】　※B 情報倫理とﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰ、著作権 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｿﾌﾄｳｪｱ著作権協会 専務理事 久保田 裕	【講義・演習】　※B 校内ネットワークの基礎知識 セキュリティ、校内ネットワークの設計 富山大学教育学部 講　師　高橋　純		注
10／8（水）	【講義】　※B 授業設計について	【講義・演習】　※B 教材作成について（教科別グループ） ・授業案の作成 、教材作成		【発表・協議】※B 授業案と教材の発表 （教科別グループ）	注
	園田学園女子大学 助 教 授　原　克 彦				
10／9（木）	【講義】　※B コンサルテーションについて(Q&A集)	【講義・演習】　※B コンサルテーション協議（グループ）		【講義・協議】※B 校内研修の進め方について （グループ協議）	注
	三重県教育委員会 研修主事　中 村　武 弘				
10／10（金）	【講義・演習】※B 校内研修案の作成 （グループ） 三重県教育委員会 研修主事　中 村　武 弘	【発表・協議】※B 校内研修案の発表 （グループ）	１１：５０～１２：００ 閉　講　式　※A アンケート回収 解　散		

※研修会場：　A＝特別研修棟 プレゼンテーション室、B＝特別研修棟 メディアサポート室

注：16:30～17:30まで、「各学校の情報教育の取り組み状況」を情報交換して頂きます。

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－全国２講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年１０月２０日（月）　～　平成１５年１０月２４日（金）				５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	２６人	（参加率）　８６．７％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	11人	42.3%	11人	42.3%	2人	7.7%	0人	0.0%	2人	7.7%

２．研修内容に関する主な意見

○もう少し技術的に詳しい話が聞けると思っていた。
○発表の仕方，パワーポイント画面の構成，配色など勉強になった。
○授業での活用，教材作成，情報部の運営など，大変参考となる内容が聞けた。
○デジタルコンテンツは，今すぐ教材として学校で使うことが認識できた。
○他県の先生方のお話，素材，資料を見る機会は貴重なものでした。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日時	9:00	12:00	13:00	16:15	
10／20（月）	１０：３０～ 受　付（図書館棟入口） １１：００～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（ ※ A ） １１：３０～ 開 講 式（ ※ A ）		【講演】　※B 学習指導要領における 情報化への対応 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 永井 克昇	【講義】　※B 情情報化の方向性 情報化社会と教育 岐阜大学 教授 村瀬康一郎	注
10／21（火）	【講義・演習】　※B 校内ネットワークの基礎知識 セキュリティ、校内ネットワークの設計 富士通ラーニングメディア㈱ 部 長　戸田 博人		【講義】　※B 情報倫理と ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰ、著作権 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｿﾌﾄｳｪｱ著作権協会 事業部次長 三橋 信司	【講義・演習】※B 情報教育のねらいと カリキュラム 岐阜大学 助教授 益子 典文	注
10／22（水）	【講義】　※B 授業設計について	【講義・演習】　※B 教材作成について（教科別グループ） ・授業案の作成 、教材作成		【発表・協議】※B 授業案と教材の発表 （教科別グループ）	注
	岐阜大学総合情報センター 助教授　益子 典文				
10／23（木）	【講義】　※B コンサルテーション について(Q&A集)	【講義・演習】　※B コンサルテーション協議（グループ）		【講義・協議】※B 校内研修の進め方 について （グループ協議）	注
	東京・江東区立第三砂町小学校 教 諭　田中 克昌				
10／24（金）	【講義・演習】※B 校内研修案の作成 （グループ）	【発表・協議】※B 校内研修案の発表 （グループ）	１１：５０～１２：００ 閉　講　式　※A アンケート回収 解　散		
	東京・江東区立第三砂町小学校 教 諭　田中 克昌				

※研修会場：　A＝特別研修棟 プレゼンテーション室、B＝特別研修棟 メディアサポート室

注：16:30～17:30まで、「各学校の情報教育の取り組み状況」を情報交換して頂きます。

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－東部１講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公･私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年　７月　７日（月）　～　平成１５年　７月１１日（金）				５日間
参加人数	計画人数	２０人	受講者数	２０人	（参加率）　１００．０％
開催場所	北海道立教育研究所				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	9人	45.0%	11人	55.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○生徒や職員など学校全体に還元できる内容であり，今後の方向性が見えた気がする。また，自分の考え方をもっと柔軟にしなければならないと思った。
○目的が明確で講師の方々にも共通認識があったことでわかりやすく受け入れることができた。
○情報教育のカリキュラムや授業設計について十分に時間をかけて考えることができたし，協議もできた。
○他校の実情が把握でき，視野を広く持つことができた。
○情報科の先生だけでなく，種々の教科の先生方が参加されており，視野が広がった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度 教育情報化推進指導者養成研修 日程表
【中学校・高等学校　東部１】

日　時	午　前		午　後	
	9:00	10:40　12:00	13:00	16:30
第１日 ７／７ （月）	受付 オリエンテーション 開講式	①【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	②【講義】 情報教育のねらいと カリキュラム	③【講義・演習】 情報教育ｶﾘｷｭﾗﾑの 検討 （教科別ｸﾞﾙｰﾌﾟ）
会　場	第３研修室	第３研修室		第３研修室
講　師		上越教育大学 教 授　南部　昌敏		つくば市教育委員会 指導主事 毛利　靖
第２日 ７／８ （火）	④【講義・演習】 情報教育ｶﾘｷｭﾗﾑの 作成 （教科別ｸﾞﾙｰﾌﾟ）	⑤【講義】 情報倫理と プライバシー （Q&A事例中心に討議）	⑥【講義・演習】 校内ネットワークの基礎知識 セキュリティ 校内ネットワークの設計	
会　場	第３研修室		第３研修室	
講　師	つくば市教育委員会 指導主事　毛利　靖		富士通ﾗｰﾆﾝｸﾞﾒﾃﾞｨｱ㈱ 部 長　戸田　博人	
第３日 ７／９ （水）	⑦【講義】 授業設計について	⑧【講義・演習】 教材作成について（教科別ｸﾞﾙｰﾌﾟ） ・授業案の作成 ・教材作成		
会　場	第３研修室			
講　師	園田学園女子大学 助教授　原　克彦			
第４日 ７／10 （木）	⑨【講義・協議】 授業案と教材作成 の発表 （教科別ｸﾞﾙｰﾌﾟ）	⑩【講義】 ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝについて （Ｑ＆Ａ集）	⑪【講義・協議】 ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝ協議 （ｸﾞﾙｰﾌﾟ）	⑫【講義・協議】 校内研修の進め方 について （ｸﾞﾙｰﾌﾟ協議）
会　場	第３研修室	第３研修室		
講　師	園田学園女子大学 助教授 原　克彦	岡山県情報教育センター 指導主事　小林　朝雄		
第５日 ７／11 （金）	⑬【講義・演習】 校内研修案の作成 （ｸﾞﾙｰﾌﾟ）	⑭【講義・協議】 校内研修案の発表 （ｸﾞﾙｰﾌﾟ）	12:15 閉講式	
会　場	第３研修室			
講　師	岡山県情報教育センター 指導主事　小林　朝雄			

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－東部２講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年１０月２０日（月）～　平成１５年１０月２４日（金）				５日間
参加人数	計画人数	４０人	受講者数	４０人	（参加率）　１００．０％
開催場所	岩手県立総合教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	25人	62.5%	13人	32.5%	2人	5.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○「情報教育」ということでさまざまな機器の操作やソフト活用の仕方ばかりになると思っていたが「情報とは・・・」ということから学ぶことができ，とても有意義であった。
○全体の構成及び各講義，個々の構成共に適切であった。
○参加者の先生方にも先進的な取り組みをしていたり，情報の免許を有している先生方がいましたのでこれまで疑問だった部分を教えていただいたり，研修時に不明な点をサポートしていただいたりと充実した研修生活だった。
○内容がとても盛りだくさんで、受講者相互の情報交換はあまり多くはできなかったが，今後の研修の方向性について勉強になった。
○今後の学校教育現場において，これまで以上に情報化推進に向けて自校や地域の実情に適した推進活動・研修活動の輪を広げていかなければならないのだということも痛感した。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

中・高高学校－東部２講座

	午前 9:00		午後 13:00	16:30	17:00
第１日 10/20 (月)	10:30 受付 11:30 開講式		【講義】 情報化社会と教育	【講義】 情報教育に求められる新しい授業の創造	自由研究
講師名			十文字学園女子大学 教授 井口磯夫		
第２日 10/21 (火)	【講義】 授業設計と教材の作成について	【講義と演習】 コンピュータやインターネットの教育利用について	【講義・演習】 コンサルテーションについて		自由研究
講師名	総合教育センター 研修主事 鈴木利典	総合教育センター 研修主事 三田正巳	常磐大学 教授 堀口秀嗣		
第３日 10/22 (水)	【講義と演習】 授業設計及び教材の作成			【講義と演習】 授業や教材の発表	自由研究
講師名	総合教育センター 研修主事 鈴木利典 研修主事 及川晃貴		総合教育センター 研修主事 鈴木利典 研修主事 及川晃貴		
第４日 10/23 (木)	【講義】 ネットワークの基礎知識		【講義と演習】 情報倫理とプライバシー・著作権について		自由研究
講師名	東日本電信電話株式会社 法人営業部 主査 成田敦浩		コンピュータソフトウェア著作権協会 事業部次長 三橋信司		
第５日 10/24 (金)	【講義】 校内研修の進め方	【協議】 構内研修の進め方	11:45 閉講式		
講師名	総合教育センター 研修主事 佐々木秀治				

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－東部３講座）					
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係					
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動の充実が求められている。 このため，初等中等教育において情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的役割を担える人材を養成する。					
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員					
開催期日	平成１５年　７月１４日（月）　～　平成１５年　７月１８日（金）					５日間
参加人数	計画人数	４０人	受講者数	３３人	（参加率）	８２．５％
開催場所	山形県教育センター					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	16人	48.5%	16人	48.5%	1人	3.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○様々なソフトを作った研修から，プライバシーや教育の情報化に関することまで幅広く学ぶことが出来た。
○学校現場へ帰っての校内・情報整備に大変役立つものでした。
○学校，各課，学年，授業でぜひ取り組みたいことの手段を適切に教えて頂いた。
○リーダーとしての理論，心構え，技術等が適度に組み込まれていた。
○興味を持っていながら手を出しそびれていた点や分かっているつもりになっていた点について，豊富な資料や体験を通して確認することができた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

中・高等学校－東部３講座

日時	午前		午後	
第１日 7/14 (月)	9:30　10:00 ・受付 ・開講式 ・ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	10:15　11:45 【講義】 ・初等中等教育における情報化の対応について	12:45　14:15 【講義】 ・情報化の方向性 ・情報化社会と教育	14:40　16:30 【講義・演習】 ・マルチメディアの教育利用について
講師		関西大学　教授　黒上　晴夫		山形県教育センター 高橋　良治
第２日 7/15 (火)	9:00　10:20 【講義･演習】 ・インターネットの教育利用について	10:30　12:00 【講義・協議】 ・教材の作成について事例研究	13:00　16:30 【講義･演習】 ・授業設計と教材の作成	
講師	山形県教育センター 工藤　哲	山形市立第一中学校 長沼　政直 山形県立山形南高校 高橋　修一 山形県教育センター 高橋　良治	山形県教育センター 工藤　哲、多田　和幸 大津　清、高橋　良治	
第３日 7/16 (水)	9:00　12:00 【講義･演習】 ・授業設計と教材の作成		13:00　14:00 【講義･演習】 ・授業設計と教材の作成	14:10　16:30 【演習】 ・教材のプレゼンテーション
講師	山形県教育センター　工藤　哲、多田　和幸、大津　清、高橋　良治			
第４日 7/17 (木)	9:00　10:50 【講義･演習】 ・情報倫理とプライバシー	11:00　12:30 【講義】 校内ネットワークの基礎知識	13:30　16:30 【講義】 ・校内ネットワークについて事例研究 ・校内ネットワークの使い方	
講師	日本電気株式会社 文教ソリューション事業部 井上　義裕		山形市立商業高校　阿部　耕 山形県教育センター 高橋　良治、工藤　哲	
第５日 7/18 (金)	9:00　10:40 【講義･演習】 ・情報教育の推進と校内研修の進め方	10:50　12:00 【演習】 ・校内研修の進め方	12:00 ・閉講式	
講師	山形県教育センター　大津　清			

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－東部４講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習活動の充実が求められている。 このため，初等中等教育において情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年　７月２８日（月）　～　平成１５年　８月　１日（金）				５日間
参加人数	計画人数	４０人	受講者数	４０人	（参加率）　１００．０％
開催場所	群馬県総合教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	16人	40.0%	21人	52.5%	2人	5.0%	0人	0.0%	1人	2.5%

２．研修内容に関する主な意見

○研修内容が本物のスペシャリストからの説明であったために知識や技術が不十分な私にも分かりやすく，理解できた。
○改めてリーダーとして行動しなくてはいけないと再認識させられた。
○様々な角度からアプローチがあり，参考となることが数多くあった。
○研修プログラムに従い，設定されていて，全体的に学習できた。後日，伝達講習を開く際に，資料が電子ファイルで用意されていて助かる。
○５日間内容も豊富であり，他県の先生方との交流からも得るものが多く，とても充実した研修が出来ました。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

時　刻	午　　前 9:00　10:30	10:45　12:15	午　　後 13:15　14:45	15:00　16:30	
第１日 7/28 （月）	9:00 受付 9:35 オリエンテーション 10:00開講式	【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育 情報教育を支える技術と課題 情報教育の内容理解	【講義】 情報倫理とプライバシー （Q＆A事例中心に討議）	【講義・演習】 情報教育のねらいとカリキュラム作成	機器説明 自由研究
講師名		上越教育大学 教授　南部昌敏	金城学院大学 助教授　長谷川元洋	群馬県総合教育センター 指導主事　松井文男 指導主事　今井俊一	
第２日 7/29 （火）	【発表・協議】 情報教育のカリキュラムについて	【講義】 校内ネットワークの基礎知識	【講義・演習】 校内ネットワークの設計セキュリティ	【講義】 コンピュータやインターネットの教育利用について	自由研究
講師名	群馬県総合教育センター 指導主事　松井文男 指導主事　今井俊一	（株）富士通ラーニングメディアコンテンツ開発部長 戸田博人	群馬県総合教育センター 指導主事　根岸　卓 指導主事　大塚道明	群馬県総合教育センター 指導主事　松井文男 指導主事　狩野俊丈 指導主事　大塚道明	
第３日 7/30 （水）	【講義・演習】 授業設計 ・授業案の作成 ・教材作成	【講義・演習】 授業設計 ・授業案の作成 ・教材作成	【発表・協議】 指導案と教材の発表	【講義・演習】 Webページの作成と教育利用について	自由研究
講師名	筑波大学附属中・高等学校　教諭　市川道和 群馬県総合教育センター　指導主事　狩野俊丈 指導主事　齋藤俊明			群馬県総合教育センター 指導主事　小林　努 指導主事　小池千秋	
第４日 7/31 （木）	【講義・演習】 Webページの作成	【発表・協議】 Webページの発表	【講義・演習】 コンサルテーション （Q＆A集　Aの作成）	【演習・協議】 コンサルテーション協議	自由研究
講師名	群馬県総合教育センター 指導主事　小林　努 指導主事　小池千秋		群馬県総合教育センター 指導主事　松井文男 指導主事　根岸　卓 指導主事　大塚道明		
第５日 8/1 （金）	【講義・演習】 校内研修の進め方、校内研修案の作成	【発表・協議】 校内研修案の発表	12:15 閉講式		
講師名	群馬県総合教育センター 指導主事　今井俊一 指導主事　小林　努				

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－東部５講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年　９月２９日（月）　～　平成１５年１０月　３日（金）				５日間
参加人数	計画人数	４０人	受講者数	３７人	（参加率）　９２．５％
開催場所	東京都総合技術教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	12人	33.3%	20人	55.5%	2人	5.6%	0人	0.0%	2人	5.6%

２．研修内容に関する主な意見

○教育情報化を推進する上で留意点や方向性・具体的な手段を学ぶことができた。
○講義や演習の内容には満足しているが，どの講義も駆け足で一つ一つをじっくり考えたり，周囲の人と相談する余裕がなかった。
○勤務校の現状を痛感すると共に，環境面モラル面の早急な整備の必要を痛感した。
○他教科，他校種の情報についての学習方法や内容などが分かり，自分の教科のヒントを得ることが出来た。また自校においても他教科での活用について広めていきたい。
○教材のプレゼンテーションや校内研修の進め方などは，民間企業で実践している方々の提示ノウハウを聞きたかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程　　中・高等学校－東部５講座

時　刻	午　前 9:20 9:40 10:00　　12:20			午　後 13:20　　16:30	
第１日 9/29 （月）	受 付	開講式	【講義】 これからの情報教育	【講義】 情報化の方向性 情報教育の内容理解 情報化社会を支える技術と課題 情報化社会と教育	自由研究
講師名			東京都総合技術教育センター 指導主事　永浜　裕之	東京都総合技術教育センター 指導主事　永浜　裕之	
第２日 9/30 （火）	【講義・演習】 情報倫理と情報モラル ①イントラネットによる実習環境構築技術 ②インターネットの光と影			【講義・演習】 教材のプレゼンテーション ①プレゼンテーションの作成 ②プレゼンテーションの編集 ③プレゼンテーションテクニック	自由研究
講師名	東京都総合技術教育センター 専門教育主事　榎本　竜二 専門教育主事　黒田　英子			墨田区立墨田中学校 教諭　三橋　秋彦	
第３日 10/１ （水）	【講義・演習】 校内ネットワークの基礎 ①ネットワークの基礎知識 ②ネットワークの設計 ③ネットワーク運用管理の知識 ④インターネットの導入			【講義・演習】 校内研修の進め方 ①未来の学校の紹介 ②研修の在り方について考えよう ③仮想の学校の研修案の作成 ④まとめと今後の課題	自由研究
講師名	都立新宿山吹高等学校 教諭　川畑　由彦			西東京市立田無第四中学校 教諭　平出　敏	
第４日 10/２ （木）	【講義・演習】 教材作成演習（１） ・マルチメディアコンテンツの作成			【講義・演習】 教材作成演習（２） ①コンテンツの教材化 ②グループによる討論	自由研究
講師名	東京都総合技術教育センター 専門教育主事　荒井　康仁 専門教育主事　梅川　良視			東京都総合技術教育センター 専門教育主事　荒井　康仁 専門教育主事　梅川　良視	
第５日 10/３ （金）	研修総括			閉講式	
講師名	東京都総合技術教育センター 指導主事　永浜　裕之				

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－東部６講座）					
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係					
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。					
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員					
開催期日	平成１５年１２月　８日（月）　～　平成１５年１２月１２日（金）					５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	２７人	（参加率）	９０．０％
開催場所	富山県総合教育センター					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	15人	55.6%	8人	29.6%	1人	3.7%	0人	0.0%	3人	11.1%

２．研修内容に関する主な意見

○目的意識を持たせた発表が，後半の演習であったことが良かった。
○全体として充実した内容でした。
○教育情報の概念が大きく変わった。
○パソコンの授業は楽しいものだという気持ちを，一人でも多くの先生方に伝えたい。
○講師の方々は，すべて良かった。特に，グループ演習が良かった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

中・高等学校－東部６講座

日　時	午　前		午　後	
	9:00	10:40　12:00	13:00	16:30
第１日 12／８ （月）	受付 オリエンテーション 開講式	①【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	②【講義】 情報教育のねらいと カリキュラム	③【講義・演習】 情報教育ｶﾘｷｭﾗﾑの 検討 （教科別ｸﾞﾙｰﾌﾟ）
会　場	授業設計研修室	研修室３７２	研修室３７２	
講　師		富山大学教育学部 学部長　山西　潤一	関西大学総合情報学部 教　授　　黒上　晴夫	
第２日 12／９ （火）	④【講義・演習】 情報教育ｶﾘｷｭﾗﾑの 作成 （教科別ｸﾞﾙｰﾌﾟ）	⑤【講義】 情報倫理と プライバシー （Q&A事例中心に討議）	⑥【講義】 校内ネットワークの基礎知識 セキュリティ 校内ネットワークの設計	
会　場	研修室３７２	研修室３７２	研修室３７２	
講　師	関西大学 教　授　黒上　晴夫	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｿﾌﾄｳｪｱ著作権協会 小松崎　愛	富山大学教育学部 講　師　　高橋　純	
第３日 12／10 （水）	⑦【講義】 授業設計について	⑧【講義・演習】 教材作成について（教科別ｸﾞﾙｰﾌﾟ） ・授業案の作成 ・教材作成		⑨【講義・協議】 授業案と教材作成 の発表 （教科別ｸﾞﾙｰﾌﾟ）
会　場	研修室３７２			
講　師	筑波大学附属駒場中・高等学校 教　諭　　市川　道和			
第４日 12／11 （木）	⑩【講義】 ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝについて （Q＆A集）	⑪【講義・協議】 コンサルテーション協議 （グループ）		⑫【講義・協議】 校内研修の進め方 について （ｸﾞﾙｰﾌﾟ協議）
会　場	研修室３７２			
講　師	三重県教育委員会 研修主事　　中村　武弘			
第５日 12／12 （金）	⑬【講義・演習】 校内研修案の作成 （ｸﾞﾙｰﾌﾟ）	⑭【講義・協議】 校内研修案の発表 （ｸﾞﾙｰﾌﾟ）	12:15 閉講式	
会　場	研修室３７２		授業設計研修室	
講　師	三重県教育委員会 研修主事　　中村　武弘			

富山県総合教育センター

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－中部１講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年１２月　８日（月）　～　平成１５年１２月１２日（金）				５日間
参加人数	計画人数	４０人	受講者数	４０人	（参加率）　１００．０％
開催場所	福井県教育研究所				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	7人	17.5%	25人	62.5%	7人	17.5%	0人	0.0%	1人	2.5%

２．研修内容に関する主な意見

○授業に照らしたITの活用という面でとても勉強になりました。
○具体的な内容が多く，興味を持って研修を受けることができた。
○教材作成，コンサルテーションはとても充実感があった。
○教育の情報化を強く感じることができました。一部の教員だけでなく，全教員が率先して生徒の指導にあたらなければならないと感じた。
○文部科学省の進めている方向が良く分かったが，実際の学校現場とのギャップが大きいことを感じた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

中・高等学校－中部１講座

時　刻	午　　前		午　　後		17:00以降
第１日 12/ 8 （月）	9：30 受付 10：00 開講式 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 機器説明	10:30～12:00 ①【講義】 初等中等教育における情報化の対応について	13：00～17：00 ②【講義】 情報教育の内容理解 ③【講義・演習】 情報教育カリキュラムの作成について		
講師名		玉川大学学術研究所 教授　山極　隆	大阪大学　人間科学部 教授　前迫孝憲		
第２日 12/ 9 （火）	9：00～12：00 ④【講義】 情報倫理とプライバシーについて		13：00～17：00 ⑤【講義】 学校ホームページの作成と改善について		
講師名	（社）ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰｿﾌﾄｳｴｱ著作権協会 専務室次長　三橋信司		三谷商事株式会社講師 株式会社ｴﾌ・ﾃﾞｨｰ・ｴｽ　宮崎　晴雄		
第３日 12/10 （水）	9：00～12：00 ⑥【講義】 授業設計について ⑦【講義】 教材作成について ・授業案の作成・教材作成		13:00～17:00 ⑦【講義・演習】 教材作成について ・授業案の作成 ・教材作成		自主研究
講師名	福井大学　教育実践研究指導センター　助教授　三嶋博之 （演習補助）福井県教育研究所情報教育課職員				
第４日 12/11 （木）	9：00～10：30 ⑧【発表・協議】 授業案と教材の発表	10:30～12:00 ⑨【講義】 ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝについて	13:00～15:00 ⑩【講義・協議】 ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝ協議	15:00～17:00 ⑪【講義・協議】 校内研修の進め方について	
講師名	福井大学 助教授　三嶋博之	富山大学　教育学部 助教授　黒田卓			
第５日 12/12 （金）	9:00～12:00 ⑫【講義・演習】 校内研修案の作成 ⑬【発表・協議】 校内研修案の発表	12：00 閉講式			
講師名	富山大学　教育学部 助教授　黒田卓				

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－中部２講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年１２月　１日（月）　～　平成１５年１２月　５日（金）				５日間
参加人数	計画人数	４０人	受講者数	３６人	（参加率）　９０．０％
開催場所	長野県総合教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	19人	52.8%	12人	33.3%	5人	13.9%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○情報モラルや著作権など，学校現場で充実させる危機感を感じさせられました。
○担当として意識しておくべき柱を与えてもらった。
○必要な研修内容が一通り講座として用意されていた。
○現状を知れたことで本校の取り組みを考える良い機会となった。
○学校で実践していきたい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

中学校・高等学校－中部２講座

日時	午前		午後		
第１日 12／1 （月）	9:00～ 受付 9:30～ オリエンテーション 開講式	10:00 12:00 ①【講義】 初等中等教育における情報化の対応について	13:10 14:10 ②【講義】 情報化の方向性，情報化社会と教育	14:30 16:30 ③【講義・協議】 情報教育の内容理解	諸連絡
講師		茨城県教員研修センター 情報教育課長 中村一夫 （元 国研教育課程調査官）	上越教育大学 学校教育研究センター教授 南部昌敏		
第２日 12／2 （火）	9:00 10:30 ④【講義・演習】 情報教育カリキュラムの作成	10:40 12:10 ⑤【講義・演習】 コンピュータやインターネットの教育利用について	13:10 15:40 ⑥【講義・演習】 情報倫理とプライバシーについて	15:50 16:50 ⑦【講義・協議】 ホームページの作成について（事例研究）	
講師	信州大学 教育学部講師 南澤信之	信州大学 教育学部教授 東原義訓	金城学院大学現代文化学部 情報文化学科助教授 長谷川元洋	県内 中学教諭 村松浩幸 高校教諭 松原雄一	
第３日 12／3 （水） Aグループ	9:00 10:30 ⑧【講義・演習】 ホームページの作成	10:40 12:10 【演習】 ホームページの作成（同左）	13:10 16:10 【演習】 ホームページの作成（同左）	16:20 16:50 ⑨【発表・協議】 ホームページの発表（人数によりグループ単位）	
講師	総合教育センター 産業教育部 専門主事 飯沼尚隆 鈴木芳昭 牧村浩明 松村秀寿 保坂孝子			総合教育センター 産業教育部 飯沼尚隆 他	
Bグループ	9:00 10:30 ⑧【講義】 授業に使えるＩＴ活用のポイント	10:40 12:10 【演習】 数学科における授業案の作成	13:10 14:10 【演習】 数学科における授業案の作成	14:20 15:20 15:30 16:50 ⑨【発表・協議】 数学科における授業案の発表（模擬授業・相互評価）	
講師	岐阜大学総合情報メディアセンター助教授 （カリキュラム開発研究分野） 益子典文				
第４日 12／4 （木）	9:00 10:30 ⑩【講義・演習】 コンサルテーションQ＆A集作成（グループ演習）	10:40 12:10 【演習】コンサルテーションQ＆A集作成（グループ演習）（同左）	13:10 14:10 ⑪【協議】 コンサルテーション協議（グループ）	14:20 16:50 ⑫【講義・協議】 校内研修の進め方について（グループ協議）	
講師	総合教育センター 情報教育部 専門主事 丸山和男 轟 裕明 大塚 章 高嶋邦夫 森岡一彦			総合教育センター 情報教育部 専門主事 丸山和男 他 4名	
第５日 12／5 （金）	9:00 11:00 ⑬【演習】 校内研修案の作成	11:10 11:50 ⑭【発表・協議】 校内研修案の発表	12:00 12:30 閉講式		
講師	総合教育センター 情報教育部 専門主事 丸山和男 他				

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－中部３講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年　９月　８日（月）　～　平成１５年　９月１２日（金）				５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	２８人	（参加率）　９３．３％
開催場所	名古屋情報メディア専門学校				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	10人	35.7%	14人	50.0%	1人	3.6%	1人	3.6%	2人	7.1%

２．研修内容に関する主な意見

○今後の情報化に向けて考えるべき事がよく分かった。
○テキストの中では充実しているが講義，演習の中身としては物足りなさを感じた。
○受講者同士の意見交換や発表は参考になった。
○今後の指針として役に立つ，有意義な５日間であった。
○どの講座もコンピュータを使うことを求めているのではなく，今求められている授業の活用方法をつかむことができました。その伝え方も学ぶことができ，有意義でした。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

中・高等学校－中部３講座

日　時	午　前		午　後	
	9:00　10:30	10:40　12:00	13:00　14:50	15:00　16:30
第１日 ９／８	9:15 受付 9:45 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 10:15 開講式	①【講演】 情報化の方向性 情報化社会と教育	②【講義】 情報教育のねらいと カリキュラム	③【講義・演習】 情報教育カリキュラムの検討 （教科別グループ）
講師等		大阪大学　教授 前迫　孝憲	岐阜大学　教授 村瀬　康一郎	岐阜大学　教授 加藤　直樹
第２日 ９／９	④【講義・演習】 情報教育カリキュラムの作成 （教科別グループ）	⑤【講義】 情報倫理と プライバシー （Q&A事例中心に討議）	⑥【講義・演習】 校内ネットワークの基礎知識 セキュリティ 校内ネットワークの設計	
講師等	岐阜大学　教授 加藤　直樹	金城学院大学 助教授　長谷川　元洋	富士通ラーニングメディア 部長　戸田　博人	
第３日 ９／10	⑦【講義】 授業設計について	⑧【講義・演習】 教材作成について（教科別グループ） ・授業案の作成 ・教材作成		⑨【発表・協議】 授業案と教材の発表 （教科別グループ）
講師等	筑波大学附属駒場中・高等学校 教諭　市川　道和			
第４日 ９／11	⑩【講義】 コンサルテーションについて （Q＆A集）	⑪【演習・協議】 コンサルテーション協議（グループ）		⑫【講義・協議】 校内研修の進め方について（グループ協議）
講師等	園田学園女子大学　助教授 伊藤　剛和			園田学園女子大学 助教授　垣東 弘一
第５日 ９／12	⑬【講義・演習】 校内研修案の作成 （グループ）	⑭【発表・協議】 校内研修案の発表 （グループ）	12:10 閉講式	
講師等	園田学園女子大学　助教授 垣東 弘一			

＊講師及び講義内容については、変更することがあります。

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－中部４講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年　９月２９日（月）　～　平成１５年１０月　３日（金）				５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	３６人	（参加率）　１２０．０％
開催場所	滋賀県総合教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	14人	40.0%	15人	42.9%	0人	0.0%	0人	0.0%	6人	17.1%

２．研修内容に関する主な意見

○ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝ，ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ等，ｸﾞﾙｰﾌﾟによる実習のおかげで，他校の先生方との情報交換など，非常に充実した研修を過ごすことができた。
○教育の情報化の推進にはやはり行政の理解が必要であるし，現在の財政状況などを鑑みた現実的な話が必要ではないだろうかと感じた。
○講師の方の発表の仕方やコンピュータの利用についてもヒントをたくさんいただいたし，講義の内容も難しい内容もあったが，今後の教育実践で発揮できるようにがんばりたい。
○今後，校内や地域において自分がとるべき立場・行動について考えさせられることが多かった。個人的にも大変有益であった。
○「総合的な学習の時間」の実践事例Ⅱについては，情報教育と専門科目と総合的な学習の時間を融合した素晴らしい実践であった。今後，自分なりに工夫して，新しい授業形態の開発を行いたい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

	午前 9:00　10:30 10:45　12:15		午後 13:15　14:45 15:00　16:30	
第１日 ９／29 （月）	受付 開講式 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	【講義】 情報化の対応について 講師 文部科学省初等中等教育局参事官 教科調査官 大倉　泰裕	【講義】 情報教育を支える技術と課題 講師 滋賀大学教育学部 助教授　宮田　仁	【講義】 情報教育の内容理解とカリキュラム 講師 滋賀大学教育学部 助教授　宮田　仁
第２日 ９／30 （火）	【演習】（選択Ａ） 校内ネットワークの構築（Windows 2000 Server による構築） 講師　マイクロソフト（株）公共ソリューション本部　小野　裕一			
	【演習】（選択Ｂ） マルチメディアの基礎と動画編集による教材作成 研究報告者　滋賀県総合教育センター　研究員　安原　正登、研究員　西川　基史			
第３日 10／１ （水）	【講義】 情報倫理とプライバシー 講師 滋賀県総合教育センター 研修指導主事 益田吉基	【講義】 学校教育と著作権 講師 コンピュータソフトウェア著作権協会 事業部次長 三橋　信司	【講義】 「総合的な学習の時間」の実践事例Ⅰ（中学校） 講師 岐阜県平田町立平田中学校 教諭　服部　康夫	【講義】 「総合的な学習の時間」の実践事例Ⅱ（高等学校） 講師　京都市立堀川高等学校 教諭　森　百合子 教諭　飯澤　功
第４日 10／２ （木）	【演習】 「総合的な学習の時間」におけるメディアの活用について 講師 滋賀県教育委員会事務局学校教育課 指導主事　青木　靖夫 指導主事　奥西　邦彦 スズキ教育ソフト（株）大阪営業所 ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ　杉村　智恵子 ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ　浦出　尚美			
第５日 10／３ （金）	【講義・演習】 コンサルテーション はじめに、Ｑ＆Ａ集 講師 日本福祉大学メディア教育センター 助教授　影戸　誠		閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－中部５講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年１１月１０日（月）～平成１５年１１月１４日（金）				５日間
参加人数	計画人数	４０人	受講者数	３７人	（参加率）　９２．５％
開催場所	奈良県立教育研究所				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	13人	35.1%	22人	59.5%	0人	0.0%	1人	2.7%	1人	2.7%

２．研修内容に関する主な意見

○自分の担当する教科の中でいかにコンピュータを使っていくか、またあふれる情報を上手く利用するかという点で他の先生方の「理科的な目」が参考になった。
○研修内容にも係わりますが，他校種，小中高が混ざった研修にした方が連携の取れた指導を目指すには必要かと思った。
○リーダーとして必要なことを技術だけでなく，その他の面で考えるべきことがたくさんあることがわかった。
○沢山の刺激をいただけたことが大きい収穫だった。情報の推進の意味や方法がわかった。
○作った教案は，早晩実施できそうだし，ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝQ&Aは参考になった。実例が豊富にあって良かった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

中学校・高等学校－中部５講座

日　時	午前 9:00	午前 10:40	午後 13:00	午後 15:00
第１日 11／10 （月）	9:15 受付 9:45 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 10:15 開講式	①【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	②【講義】 情報倫理とプライバシー	③【講義】 著作権について
	教育工学室	教育工学室	教育工学室	
		関西大学 教授　黒上　晴夫	(社)コンピュータソフトウェア著作権協会 事業部次長　三橋　信司	
第２日 11／11 （火）	④【講義】 情報教育のねらいとカリキュラム	⑤【講義・演習】 情報教育カリキュラムの検討	⑥【講義】 授業設計について	⑦【講義・演習】 教材作成について ・授業案の作成 ・教材作成
	情報	千葉県立佐倉南高等学校 教　諭　渡久山　朝		
	理科	岐阜県教育委員会 指導主事　横山　隆光		
	他	園田学園女子大学 助教授　垣東　弘一		
第３日 11／12 （水）	⑦【講義・演習】 教材作成について ・授業案の作成 ・教材作成　（続き）	⑧【協議・発表】 授業案と教材の発表	⑨【講義】 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計について （セキュリティを含む）	
	情報	千葉県立佐倉南高等学校 教　諭　渡久山　朝	教育工学室	
	理科	岐阜県板内村立板内小学校 教　頭　新田　直	園田学園女子大学 助教授　伊藤　剛和	
	他	園田学園女子大学 助教授　垣東　弘一		
第４日 11／13 （木）	⑩【演習】 コンサルテーションについて （Q＆A集）	⑪【演習・協議】 コンサルテーション協議 （グループ協議）		⑫【講義】 校内研修の進め方について
	教育工学室			
	東京都台東区立忍岡中学校 教　諭　前田　光男			
第５日 11／14 （金）	⑬【講義・演習】 校内研修案の作成 （グループ）	⑭【協議・発表】 校内研修案の発表 （グループ）	12:20 閉講式	
	教育工学室		教育工学室	
	東京都台東区立忍岡中学校 教　諭　前田　光男			

注：第２日と第３日の午前中までは、教科に応じて３グループに分かれて講義を受けます。

奈良県立教育研究所

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－中部６講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年　９月２９日（月）　～　平成１５年１０月　３日（金）				５日間
参加人数	計画人数	４０人	受講者数	３３人	（参加率）　８２．５％
開催場所	島根県立松江教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	11人	34.4%	21人	65.6%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○あまり普段は時間もなく，デジタルコンテンツを作るという機会はなかったので今回，そのきっかけができて良かった。
○著作権等のモラルについて詳しく知ることができた。生徒にきちんと伝えるべき内容だった。NHKやACCSなど，普段会うことができない方に会えて良かった。
○他校の先生と話をすることができたし，最終日に発表を聴くことができたことは刺激になった。
○ソフトビジネスパークは偏見の目がとれた。驚くべき施設でした。
○一歩先の情報に触れるというのはとても刺激があり，これからのことを考えるいい機会となった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程　　中・高等学校－中部６講座

時　刻	午　　前		午　　後		
第１日 9/29 （月）	９：３０　受付 １０：００ オリエンテーション １０：１５　開講式	１０：３０ ～１２：００ 【講義】 指導者養成研修（全国）報告 松江教育ｾﾝﾀｰ 大森　俊也 研修主事	１３：００～１６：００ ①【講義】 情報化の方向性，情報化社会と教育 ②【講義】 情報教育のねらいと カリキュラム 大阪大学人間科学部 前迫　孝憲　教授		機器説明 自由研究
講師名					
第２日 9/30 （火）	９：００～１２：００ 【講義】 学校教育の中の著作権について		１３：００～１５：３０ 【講義】 ＮＨＫ教育放送番組デジタルコンテンツについて	【演習】 指導案 作成	自由研究
講師名	（社）ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｿﾌﾄｳｪｱ著作権協会 事業部次長　三橋　信司		NHK教育番組制作デスク 桑山　裕明	松江教育ｾﾝﾀｰ 真田	
第３日 10/1 （水）	９：００～１２：００ 【講義・演習】 デジタル教材作成		１３：００～１６：００ 【演習】 デジタル教材作成 授業設計・教材作成		自由研究
講師名	（株）ﾃｸﾉﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ主任SE 岩崎　照史 SE 白築　訓		（株）ﾃｸﾉﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ主任SE岩崎　照史 SE白築　訓		
第４日 10/2 （木）	９：００～１２：００ 【演習】 授業設計・教材作成		１３：００～１６：００ 【見学】 見学先：ソフトビジネスパーク内の企業見学 （松江市北陵町　ﾃｸﾉｱｰｸしまね）		自由研究
講師名	松江教育センター 真田、嘉田、大森、内田		松江教育センター 真田、嘉田、大森、内田		
第５日 10/3 （金）	【発表・協議】 ・作成教材の発表 ・研究協議	１１：３０ 閉講式			
講師名	松江教育センター 真田、嘉田、大森、内田				

※講師等については、都合により変更することがあります。

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－西部１講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年　８月１８日（月）　～　平成１５年　８月２２日（金）				５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	２８人	（参加率）　９３．３％
開催場所	岡山県立岡山工業高等学校				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	6人	21.4%	21人	75.0%	1人	3.6%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○それぞれの研修内容は良く工夫され，分かりやすい講義内容であった。
○リーダーになるための自分自身の意識改革と知識を得ることが出来た。
○校種，教科の違った受講生が授業・研修案を作り上げることによって視野等，広めることができ，情報教育の重要性がより理解できた。
○推進指導者養成研修ということでプレッシャーを感じながら参加しましたが，旬の情報に触れることができました。情報教育が以前より身近なものになった。
○技術よりも教育情報化推進できる「人間としての力」の方が大切であることが認識できた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程　　中・高等学校ー西部１講座

日　時	午前		午後	
	9:00　10:30	10:45　12:15	13:15　14:45	15:00　16:30
第１日 8／18 （月）	9:30 受　付 10:00 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 10:20 開　講　式	【講義】 情報化の方向性， 情報化社会と教育	【講義】 情報教育のねらいと カリキュラム	【講義・演習】 情報教育カリキュラムの検討 （教科別ｸﾞﾙｰﾌﾟ）
講　師		岡山大学教育学部 教授　近藤　勲	各務原市立那加中学校 校長　井上　志朗	
第２日 8／19 （火）	【講義・演習】 情報教育カリキュラムの作成 （教科別ｸﾞﾙｰﾌﾟ）	【講義】 情報倫理とプライバシー （Q＆A事例中心に討議）	【講義・演習】 校内ネットワークの基礎知識 セキュリティ 校内ネットワークの設計	
講　師	岡山県情報教育センター 研修課長　岸　誠一	日本電気㈱ 主任　井上義裕	日本電気㈱ 主任　井上義裕	
第３日 8／20 （水）	【講義】 授業設計について	【講義・演習】 教材作成について（教科別グループ） ・授業案の作成 ・教材作成		
講　師	金城学院大学 助教授　長谷川 元洋	金城学院大学 助教授　長谷川　元洋		
第４日 8／21 （木）	【発表・協議】 授業案と教材の発表 （教科別ｸﾞﾙｰﾌﾟ）	【講義・協議】 校内研修の進め方について （グループ討議）	【講義・演習】 校内研修案の作成 （グループ）	【発表・協議】 校内研修案の発表 （グループ）
講　師	金城学院大学 助教授　長谷川元洋	園田学園女子大学 助教授　原　克彦		
第５日 8／22 （金）	【講義】 コンサルテーションについて（Q＆A集）	【演習・協議】 コンサルテーション協議 （グループ）	閉講式	
講　師	岡山県情報教育センター 次長　平松　茂			

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－西部２講座）					
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係					
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。					
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員					
開催期日	平成１５年１０月　６日（月）　～　平成１５年１０月１０日（金）					５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	３９人	（参加率）	１３０．０％
開催場所	広島県立教育センター					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	19人	48.7%	19人	48.7%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	2.6%

２．研修内容に関する主な意見

○情報化を推進するために欠かすことのできない内容ばかりで，とても良い勉強となった。
○他校の実態や先生方との会話の中から，本校で活かせることが多かった。
○講演もそうですが，実際に演習をする中で今まで良く分からなかった課題などが発見することができ，自分自身多くのことを学んだ。
○日本社会がこれからどのような生徒や子どもを求めているのが，今回の研修で理解できた。
○ネットワークの構築はこれから機種が変わるたびに必要となるので，とても興味深く勉強になりました。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程　　中・高等学校－西部2講座

時刻	午前 9:00 9:30		10:30 10:40	12:10	午後 13:10	14:40 14:50	16:50
第1日 10/6 (月)	受付	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 開講式	【講義】 初等中等教育における情報化の対応について		【講義】 これからの教育の情報化		【講義】 情報ｾｷｭﾘﾃｨｰﾎﾟﾘｼｰの作成と運用に関する諸問題
講師等			文部科学省 生涯学習政策局学習情報政策課長 森本　浩一		大阪大学大学院 人間科学研究科教授 前迫　孝憲		安田女子大学文学部 助教授　染岡　慎一
第2日 10/7 (火)	【講義】 学校におけるe-learningの現状と展望		【講義】 これからの著作権教育		【講義】 ブロードバンド時代を支える技術と課題		【講義】 校内ネットワークの基礎知識
講師等	常磐大学 国際学部　教授 堀口　秀嗣		文化庁長官官房 著作権課著作物流通推進室長 川瀬　真		NTT西日本広島支店 ソリューション営業部 谷口　宏之		教育センター 指導主事　藤原　淑都
第3日 10/8 (水)	【講義・演習】 校内ネットワークの設計 ※校内ＬＡＮ構築の基本的な考え方と校内ＬＡＮ構築の設計演習①		【演習】 校内ネットワークの構築 ※校内ＬＡＮ構築の設計演習②		【演習】 校内ネットワークの管理運用① ※サーバ管理について①		【演習】 校内ネットワークの管理運用② ※サーバ管理について②
講師等	教育センター 主任指導主事 江波　正善		教育センター 主任指導主事 江波　正善		教育センター 指導主事　乙村　　拡		教育センター 指導主事　乙村　　拡
第4日 10/9 (木)	【講義・演習】 校内研修の進め方 ・講義 ・グループ討議 ※自校の資料をもとに				【講義・演習】 校内研修案の作成 校内研修案の発表		
講師等	教育センター 指導主事　坂　　英明				教育センター 指導主事　原田　信一		
第5日 10/10 (金)	【発表・協議】 コンサルテーション ・はじめに ・Ｑ＆Ａ集　Ｑの作成 Ａの作成	Ｑ＆Ａ集 Ａの発表	まとめと今後の課題		閉講式		
講師等	教育センター 指導主事　湯藤　元彦		教育センター 教育情報部長 柏原　眞治				

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－西部３講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年１０月　６日（月）　～　平成１５年１０月１０日（金）				５日間
参加人数	計画人数	４０人	受講者数	４２人	（参加率）　１０５．０％
開催場所	ＫＣＳ大分情報専門学校				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	13人	31.0%	24人	57.1%	2人	4.8%	0人	0.0%	3人	7.1%

２．研修内容に関する主な意見

○実践が進んでいる各学校の事例等を聞くことができて刺激を受けた。
○著作権に関する講義は，自分の無知を実感すると共に，「このままではまずい！」という危機感を持って，校内研修につなげることのできるものとなった。
○今まで考えていなかった多くのこと（ｾｷｭﾘﾃｨ，校内研修の作成等）を学べ，これから学校の中で利用していきたい。
○高校の先生と話すことができたので，中学校での役割がより理解できた。
○内容的にも，レベルが高く，とても良い研修だった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程　　中・高等学校－西部３講座

日　時	午前		午後	
	9:00　10:30	10:40　12:00	13:00　14:50	15:00　16:30
第１日 10/6 （月）	9:15 受付 9:45 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 10:15 開講式	①【講演】 情報化の方向性 情報化社会と教育	②【講義】 情報教育のねらいと カリキュラム	③【講義・演習】 情報教育カリキュラム の検討と作成 （教科別グループ）
講師等		関西大学　黒上 晴夫		
第２日 10/7 （火）	④【講義】 授業設計について	⑤【講義・演習】 教材作成について（教科別グループ） ・授業案の作成 ・教材作成		
講師等	筑波大学附属駒場中・高等学校　市川　道和			
第３日 10/8 （水）	⑥【講義】 情報倫理と プライバシー (Q&A事例中心に討議)	⑦【講義・演習】 校内ネットワークの基礎知識 セキュリティ 校内ネットワークの設計		
講師等	日本電気（株）　井上　義裕			
第４日 10/9 （木）	⑨【講義】 コンピュータやインターネットの教育利用	⑩【講義】 コンサルテーションについて（Q＆A集）	⑪【演習･協議】 コンサルテーション協議（グループ）	⑫【講義･協議】 校内研修の進め方について（グループ協議）
講師等	大分大学　大岩幸太郎			大分大学　山下茂
第５日 10/10 （金）	⑬【講義･演習】 校内研修案の作成 （グループ）	⑭【発表･協議】 校内研修案の発表 （グループ）	12:10 閉講式	
講師等	大分大学　山下茂			

教科別研修部分について

＊教材として、JAPET制作のCD-ROMの他に、文科省委託、教員研修センター委託等で制作されたデジタルコンテンツやNICERのコンテンツを活用する。

・研修会場で、ＩＴ活用ガイドブックと実践事例を検索し、授業案の設計に役立てる。

・必要に応じて、事前にCECやJAPETが教員研修センターからの委託事業で制作したCD-ROM教材を配布して役立てる。

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－西部４講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年　９月　８日（月）　～　平成１５年　９月１２日（金）				５日間
参加人数	計画人数	４０人	受講者数	４２人	（参加率）　１０５．０％
開催場所	長崎県教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	22人	52.4%	19人	45.2%	1人	2.4%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○理念→知識→実践，とよく構成された研修でした。
○大人（教諭）の意識を変えていかないと情報化社会に適応していく子どもの育成をはかることは難しいと思う。
○他教科での活用のヒントや考え方など役に立つものを学んだので普及をはかりたい。
○自分自身が研修を積み重ねていかないといけないと思った。
○様々な企業，団体の方々の視点，意見，考えを聞いたり，交流していくことが情報教育を推進していく上で必要ではないかと感じた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程　　中学校・高等学校－西部４講座

日　時	午前		午後	
	9:00　10:30	10:40　12:00	13:00　14:50	15:00　16:30
第１日 ９／８ （月）	9:15 受付 9:45 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 10:15 開講式 講義室	①【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育 第１パソコン室 上越教育大学 教授　南部　昌敏	②－１【講義･演習】 情報教育のねらいとカリキュラムの作成 福島県教育センター　指導主事　渡部　昌邦	②－２【講義･演習】 技術科における情報教育のねらいとカリキュラムの作成 熊本大学教育学部　助教授　田口　浩継
第２日 ９／９ （火）	③－１【講義】 授業設計について （授業におけるＩＴ活用のポイント）	④－１【講義･演習】 教材作成について （既存のコンテンツ等を活用した誰でもまねのできるような授業案を作成）		
	長崎県・大瀬戸町立大瀬戸中学校　教　諭　田中　真			
	③－２【講義】 授業設計（技術とものづくり）について（授業におけるIT活用のﾎﾟｲﾝﾄ）	④－２【講義･演習】 技術科における教材作成について（「技術とものづくり」＋「情報とコンピュータ」） （既存のコンテンツ等を活用した誰でもまねのできるような授業案を作成）		
	長崎県・峰町立東部中学校　教　頭　江崎　敏夫			
第３日 ９／10 （水）	⑤－１【発表･協議】 授業案の発表 （模擬授業・相互評価） 大瀬戸町立大瀬戸中学校　教諭　田中　真		⑥【講義】 情報倫理とプライバシー	⑦【講義】 著作権について
	⑤－２【講義】 技術科における授業案の発表 （模擬授業・相互評価） 長崎県･峰町立東部中学校 教頭 江崎　敏夫		第１パソコン室 （財）コンピュータソフトウェア著作権協会 事業部次長　三橋　信司	
第４日 ９／11 （木）	⑧【講義】 校内ネットワークの基礎知識と設計 （セキュリティを含む） 第１パソコン室 ㈱富士通ラーニングメディア 部長　戸田　博人		⑨【演習･演習】 コンサルテーション について （Ｑ＆Ａ集） 第１パソコン室 福岡県教育庁筑豊教育事務所 指導主事　奥　浩幸	⑩【協議･発表】 コンサルテーション 協議、発表 （グループ協議）
第５日 ９／12 （金）	⑪【講義･演習】 校内研修の進め方 第１パソコン室 福岡県教育庁筑豊教育事務所 指導主事　奥　浩幸	⑫【協議･発表】 校内研修案の検討、 発表	12:20 閉講式 講義室	

注：第１日の午後から第３日の午前中まで、技術科の先生方と技術科以外の先生方の２グループで講義を受けます。

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－西部５講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公・私立の中学校・高等学校及び中等教育学校の教員				
開催期日	平成１５年　８月２５日（月）　～　平成１５年　８月２９日（金）				５日間
参加人数	計画人数	４０人	受講者数	４０人	（参加率）　１００．０％
開催場所	沖縄県立総合教育センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	7人	17.5%	27人	67.5%	5人	12.5%	0人	0.0%	1人	2.5%

２．研修内容に関する主な意見

○なぜ「情報活用能力」が必要なのか，なぜ「教育の情報化」が必要なのか，という理論的な部分とそれらを達成するのに必要なソフトの紹介と操作法の両面があり，大変よかった。
○自覚を持って本研修で学んだ内容を現場に還元していくように努力したい。
○研修を受けることで自分が関わっていることが社会としてどの方向に動いているのか，全体像をつかむことができたので大変有意義だった。
○主事の講義内容がもっと専門性の高いものであれば良かった。
○資料の事前配布をしたほうがより密度の濃い研修になる。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日　時	午前 9:00 10:20	午前 10:30 11:50	午後 13:00 14:10	午後 14:20 15:30	午後 15:40 16:50
第１日 8／25 (月)	受　付 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 開講式	① 【講義】 初等中等教育における情報化の対応について	② 【講義】 CD-ROMの使い方 情報化の方向性 情報化社会と教育	③ 【講義・演習】 情報教育を支える技術と課題，他	④ 【講義】 情報教育の内容理解
講　師		沖縄県総務課主任指導主事 仲間靖	沖縄県立総合教育センター指導主事 徳村政秀	十文字学園女子大学 教授　井口磯夫	
第２日 8／26 (火)	⑤ 【講義・演習】 情報教育カリキュラムの作成	⑥ 【演習】 情報倫理とプライバシーについて	⑦ 【講義】 コンピュータやインターネットの教育利用について	⑧ 【講義・協議】 授業設計と教材の作成について，事例研究	
講　師	沖縄県立総合教育センター課長 砂川恵重	沖縄県立総合教育センター主任研究主事 富川盛保	沖縄県立総合教育センター指導主事 玻名城　功	信州大学 教授 東原義訓	
第３日 8／27 (水)	⑨ 【講義・演習】 授業設計および教材の作成			⑩ 【発表・協議】 授業や教材の発表 （人数によりグループ発表）	
講　師	信州大学 教授 東原義訓 13:00 14:50			15:00 16:50	
第４日 8／28 (木)	⑪ 【講義・演習】 コンサルテーションについて， Q＆A集　Aの作成（グループ）		⑫ 【協議】 コンサルテーション協議 （グループ）	⑬※ 【講義・協議】 校内研修の進め方について グループ協議	
講　師	常磐大学　国際学部教授　堀口秀嗣 12:00 12:30			常磐大学 教授　堀口秀嗣 沖縄県立総合教育センター主任研究主事 富川盛保、沖縄県立総合教育センター指導主事 中村厚	
第５日 8／29 (金)	⑭※ 【演　習】 校内研修案の作成	⑮※ 【発表・協議】 校内研修の発表	閉講式		
講　師	堀口秀嗣 富川盛保 中村厚	堀口秀嗣 富川盛保 中村厚			

※⑬、⑭、⑮はグループ分けし、３人の講師であたる。

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（盲学校・聾学校－全国講座）				
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係				
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育においては，情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的な役割を担える人材を養成する。				
対象	国・公立の盲学校・聾学校の教員				
開催期日	平成１５年１２月　８日（月）　～　平成１５年１２月１２日（金）				５日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	２６人	（参加率）　８６．７％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	10人	38.5%	13人	50.0%	1人	3.8%	0人	0.0%	2人	7.7%

２．研修内容に関する主な意見

○内容も充実していて良かった。
○実技Power Point2003Producerの紹介・実技がとても良かった。
○情報教育の新しい動向について幅広く知識が得られた。
○職場で実践してみたいことが多々あり，有意義な研修だった。
○情報教育担当者として，特別支援教育と情報化についていろいろと考えさせられた。県に帰っても個の研修が十分活かされるよう努力したい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日時	9:00	12:00	13:00	16:15	
12／8（月）	１０：３０～ 受　　付（図書館棟入口） １１：００～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（ ※　A ） １１：３０～ 開 講 式（ ※　A ）		【講義】　※A 我が国の特別支援教育と 情報化の意義・動向 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特殊教育調査官　島　治伸		注
12／9（火）	【講義・演習】　※B 授業設計と教材作成 －対象の子どもの実態に応じて－ 横浜市立盲学校　教諭　松田　基章 東京都立葛飾ろう学校　教諭　伊藤　守		【講義・演習】※B 授業設計と教材作成 （続き） 横浜市立盲学校　教諭　松田　基章	【講義・演習】※B プレゼンテーション 発表と相互評価	注
12／10（水）	【講義】　※B 特別支援教育における支援機器の活用 国立特殊教育総合研究所 主任研究官　大杉　成喜	【講義】　※B ネット社会を使った社会参加と情報ﾓﾗﾙ	【講義・演習】　※B 校内研修の進め方と校内研修案の作成 国立特殊教育総合研究所 主任研究官　小野　龍智		注
12／11（木）	【講義・演習】　※B 校内研修の進め方と校内研修案の作成 （続き） 国立特殊教育総合研究所 主任研究官　小野　龍智		【講義・演習】　※B コンサルテーション Q＆A集の検討 協議、Aの作成（ｸﾞﾙｰﾌﾟ） 神奈川県立平塚ろう学校　校長 田村　順一 東京都立光明養護学校　教諭　金森　克浩		注
12／12（金）	【見学】　～１１：４５ 筑波技術短期大学の見学 ※受講者の希望により聴覚部と視覚部の各キャンパスに分かれる ※バス移動		１１：５０～１２：００ 閉　講　式　※A アンケート回収 解　散		

※研修会場：　A＝特別研修棟 プレゼンテーション室、B＝特別研修棟 メディアサポート室

注：16:30～17:30まで、「各学校の情報教育の取り組み状況」を情報交換して頂きます。

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（養護学校－全国講座）					
担当課係	研修事業第一課　長期研修第二係					
研修目的（趣旨）	学習指導要領では，各教科等や「総合的な学習の時間」において，コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用した学習の充実が求められている。 このため，初等中等教育において情報化の進展に対応した教員の指導力向上を図るため，教育委員会等が実施する情報教育に関する研修において指導的役割を担える人材を養成する。					
対象	国・公立の養護学校の教員					
開催期日	平成１５年　７月　７日（月）　～　平成１５年　７月１１日（金）					５日間
参加人数	計画人数	４０人	受講者数	３７人	（参加率）	９２．５％
開催場所	独立行政法人　教員研修センター					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	14人	37.8%	19人	51.4%	1人	2.7%	0人	0.0%	3人	8.1%

２．研修内容に関する主な意見

○今後の情報教育をどの様に進めていくか，又，それを児童生徒にどの様に支援していくかがテーマであり，その内容に添っていたと感じた。
○講義や演習の内容は，情報教育を推進して行くに当たって，参考となるものばかりで，大変勉強になった。情報交換については，改めて自分の学校を振り返る機会にもなり，非常に有意義なものであった。
○自主的な学びを保障するような環境（人的サポート，施設，時間）であった。
○16:30～のグループごとの情報交換は良かった。各県の実態がそれぞれ違うということがわかっただけでも十分充実できた。
○他府県との状況等が聞け，又，実践についても取り入れたいものもあり，とても良かった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日時	9:00　12:00	13:00　16:15	
7 ／ 7 (月)	１０：３０～ 受　付（図書館棟入口） １１：００～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（ ※ A ） １１：３０～ 開 講 式（ ※ A ）	【講義】 我が国の特別支援教育と 情報化の意義・動向 文部科学省初等中等教育局 特殊教育調査官　島　治伸	注
7 ／ 8 (火)	【講義・演習】 ※B 授業設計と教材作成 ー対象の子どもの実態に応じてー 神奈川県立鶴見養護学校 教諭　福田裕志	【講義・演習】 ※B 授業設計と 教材作成 【講義・演習】※B ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ発表と 相互評価 神奈川県立鶴見養護学校 教諭　福田裕志	注
7 ／ 9 (水)	【講義】 ※B コンピュータや インターネット の教育利用 【講義】 ※B ネットを使った 社会参加と 情報モラル 国立特殊教育総合研究所 主任研究官　大杉成喜	【講義】 ※B 特別支援教育における支援機器の活用 東京都立光明養護学校 教諭　金森克浩 富士通株式会社　伊藤智之	注
7 ／ 10 (木)	【講義・演習】 ※B コンサルテーション ・Q＆A集の検討、協議 ・Aの作成 東京都立光明養護学校 教諭　金森克浩	【講義・演習】 ※B 校内研修の進め方と 校内研修案の作成 神奈川県立総合教育センター 研修指導主事　中村信雄	注
7 ／ 11 (金)	【講義・演習】 ～１１：４５ ※B 校内研修の進め方と 校内研修案の作成（続き） 神奈川県立総合教育センター 研修指導主事　中村信雄	１１：５０～１２：００ 閉 講 式 ※A アンケート回収 解　散	

※研修会場：　A＝特別研修棟 プレゼンテーション室、B＝特別研修棟 メディアサポート室

注：16:30～17:30まで、「各学校の情報教育の取り組み状況」を情報交換して頂きます。

Ⅰ　研修概要

研修名	「総合的な学習の時間」研修講座（小学校英語活動研修講座　第１回）				
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係				
研修目的（趣旨）	小学校の「総合的な学習の時間」において、各学校が国際理解に関する学習の一環としての英語活動を行う場合に、小学校段階にふさわしい学習活動ができるよう支援するため、指導的な立場を担う小学校教員及び教育委員会の指導主事等に対して、基本的な知識や指導方法等を習得させる。				
対象	各都道府県等内において指導的立場にある小学校（盲学校、聾学校及び養護学校の小学部を含む）の教員又は教育委員会、教育センター等の指導主事等で、都道府県教育委員会等所属機関の長が推薦する者とする。				
開催期日	平成１５年　５月１３日（火）　～　平成１５年　５月１７日（土）				５日間
参加人数	計画人数	１５０人	受講者数	７２人	（参加率）　４８．０％
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	51人	76.1%	13人	19.4%	3人	4.5%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

【研修講座全体】
- これから英語活動を進めていく上で、他校の実践例、授業作り、教材作りなど具体的で参考になった。
- ワークショップがとても役に立った。
- 色々な方の実践や悩みを聞くことができて、大変有意義だった。授業をさせてもらえたのも良かった。
- あまりにも知らなすぎることが多かったので、参加して良かった。
- 理論と実践があったので良かった。研究校の報告や紹介は、折角の機会なので何校かを研修したかった。
- 指導者講習会というので期待したが、指導案作成が初めてなど段階の差を感じた。実践していく上で新しい課題にぶつかって、当講座を申し込んだが、まだまだその段階の話は無かった。できたら研修の中でもう少し段階を付けて欲しい。
- 意義その他アウトラインの講義を受けて、実践コースに行くというように、各自が段階を追って研修を受けるシステムを作って欲しい。
- 講義を他の所で受けてきている者もいるので、それを終了している者には、情報交換やワークショップ、actibity中心の講座が今後開催されると良い。

【講義で取り上げてほしいテーマ等】
- ＡＬＴの管理について、契約内容・条件・学校の習慣等、各学校レベルではなく、教育委員会で共通理解事項として統一されたものの手引きを作成して欲しい。
- 子供は適応するが、外国人の親向けの大事な資料の敬語版を作成して欲しい。
- 講師による模擬授業…少人数で１５分で良いから体験してみたい。
- 授業で使える歌やチャンツ、英会話、高学年における指導法。
- 今回ビデオを見せていただいたが、歌やチャンツ、ゲームなどが、児童に対してどのように行われているかが分かるように講義してもらえると、学校で実際に行う者にとってはありがたい。
- 小・中の英語学習の連携と現状について。
- 英語科移行への展望について。
- ＡＬＴの研修方法。（英語活動を理解していないＡＬＴが多い）
- 活動の中で取り上げたい歌をもっと丁寧に教えていただきたい。

・職員研修プラン。
・授業の様子をビデオ等で数多く見てみたい。
・教具、教材について、もう少し時間があったら良かった。
・総合的な学習の時間に、国際理解に取り組んでいない学校の英語活動に向けての取組の実際等。
・校内での取組の広め方。
・幼小連携はどうなっているのかについて。
・先進校の授業実践について。（公立だけではなく国立・私立）
・海外における小学校英語教育について。
・小学校教員の英会話講習。

【研究協議】
・各校の取組状況や環境整備が違う中での協議で、色々な意見を聞くことができたのは参考になる面が多かった。学級担任が英語活動を行う難しさを改めて感じた。
・ＡＬＴとＨＲＴのＴＴの授業については、大変参考になった。ＨＲＴのみで行う場合、視聴覚教材を上手く取り入れていきたいと思った。
・時間が足りなかった。（意見多数）
・先進校であるだけに参考になることが沢山あり、分かり易かった。（意見多数）
・ビデオや教材など、沢山目に触れるものがあって分かり易かった。
・それぞれの学校の状況が様々であり、協議というより紹介という感じだった。
・実践経験に基づく、具体的で分かり易い助言だった。（意見多数）
・各担当教諭が実践上の悩みや課題等を出し合うことで、それぞれの地域や学校の様子がよく分かり、有意義な情報交換になった。
・概ねテーマに沿って、活発な意見交換ができた。

【研究協議で取り上げてほしいテーマ等】
・いくつかの先進校で、取り組んできた過程の成果と問題点を聞きたい。
・高学年における指導法。
・年間カリキュラムの考え方。
・英語活動の取り入れ年数別の指導助言。
・総合（英語活動）の評価基準について。
・取り組み体制に差がありすぎるので、悩み別のグループで協議しても良いと思う。

【ワークショップ（演習）】
・伝達講習を行うための資料が、沢山用意できた。
・指導助言が経験に裏打ちされた具体的なもので、役に立った。
・担当のALTの先生が大変優秀で、色々なアイデアを出して授業をもり立ててくれるのに感動た。
・作成した指導案を更に良いものにしてもらった。
・講師の先生方の指導が素晴らしく、一緒に学んでいて心地よかった。
・講師の先生方の人柄が素晴らしく、研修がとても楽しいものになった。
・講師の先生の素晴らしい研修成果に刺激を受けた。
・講師の先生方のやりとりが楽しく、分かり易かった。
・少人数で沢山討議できて良かった。
・オリジナルのビデオによるゲームなど参考になった。
・実際に歌やゲームなどを行うことができ、楽しく身につけることができた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度 小学校英語活動研修講座(第1回)日程

会　場　：　独立行政法人教員研修センター（つくば市）

5月13日(火)

9:30	12:30	13:00	14:00	14:10	15:30	15:40	17:00
	受付	開講式 【行政説明】 小学校における英語活動に対する支援について	休憩	【講義】 小学校英語活動の現状と展望 宮崎大学 教授　影浦 攻	休憩	【講義】 英語活動の基本的な理論 宮崎大学 教授　影浦 攻	

5月14日(水)

11:00	11:40	14:30	14:50	16:20
【講義】 年間活動計画の構想・授業の構成 宮崎大学 教授　影浦 攻	質疑応答	昼休み	【講義】 歌，ﾁｬﾝﾂ，ｸｲｽﾞ，ｹﾞｰﾑなどの実際 中部学院大学 客員教授　久埜 百合	休憩	【講義】 教材・教具の作成の実際 中部学院大学 客員教授　久埜 百合

5月15日(木)

＊
【ワークショップⅠ】
研究協議
実践報告と実践例の紹介
授業の観察
具体的活動例の紹介と体験

グループ別　講師（教諭）・指導助言者(ALT)		
宮城県塩竈市立塩竈第一小学校	教諭	小野寺由起
宮城県塩竈市教育委員会	ＡＬＴ	Laura Mann
千葉県成田市成田小学校	教諭	佐藤　広幸
千葉県成田市教育委員会	ＡＬＴ	Ruka Laladidi
大阪府河内長野市立天野小学校	教諭	梅本　多
大阪府河内長野市教育委員会	ＡＬＴ	Kim Takeda
鹿児島県川内市立平佐西小学校	教諭	八巻　充憲
鹿児島県川内市教育委員会	ＡＬＴ	Michael Kubick

※第３日目以降における昼食は，概ね11:30～13:30の間に適宜７０分程度設けることとする。

5月16日(金)

＊
【ワークショップⅡ】
単元案の構想
時案の構想
授業実践の準備
意見交換

5月17日(土)

14:10	14:30	15:00
＊ 【ワークショップⅢ】 授業実践 授業実践の反省 意見交換	休憩	閉講式

＊【ワークショップ】は、４つのグループに分かれて実施する。

Ⅰ　研修概要

研修名	「総合的な学習の時間」研修講座（小学校英語活動研修講座　第２回）				
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係				
研修目的（趣旨）	小学校の「総合的な学習の時間」において、各学校が国際理解に関する学習の一環としての英語活動を行う場合に、小学校段階にふさわしい学習活動ができるよう支援するため、指導的な立場を担う小学校教員及び教育委員会の指導主事等に対して、基本的な知識や指導方法等を習得させる。				
対象	各都道府県等内において指導的立場にある小学校（盲学校、聾学校及び養護学校の小学部を含む）の教員又は教育委員会、教育センター等の指導主事等で、都道府県教育委員会等所属機関の長が推薦する者とする。				
開催期日	平成１５年　７月２２日（火）　～　平成１５年　７月２５日（金）				４日間
参加人数	計画人数	２００人	受講者数	１７７人	（参加率）　８８．５％
開催場所	福岡リーセントホテル（福岡県福岡市）				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	124人	72.5%	41人	24.0%	2人	1.2%	0人	0.0%	4人	2.3%
割合(%)										

２．研修内容に関する主な意見

【研修講座全体】

・これから英語活動を進めようとしていたので、英語活動の現状から具体的な活動内容まで、身をもって学ぶことができたのでとても良かった。
・とても為になる研修なので、できるだけ英語活動に取り組んでいない先生方の参加を促して欲しい。
・社会全体の流れが良く分かった。
・小学校における英語教育導入の意義と、その目的について考える機会となった。
・理論から実践へのステップがとても細かくて良かった。
・英語活動に抵抗を感じていたが、考え方が変わってきた。まず自らが楽しむことだと分かった。
・各県によって取組が違い、経験の少ない者にとってはとても新しく、為になる内容だった。
・みんなが同じ様な悩みを持っていることが分かった。具体的な指導案、教材を作り、全体に広めなければいけないという使命感が高まった。
・自分の英語力をBrush up する活動も欲しかった。

【講義で取り上げてほしいテーマ等】

・今回と同じ内容で良い。（意見多数）
・現場での教職員の研修について。（意見多数）
・役に立つWEBサイトの紹介等。（意見多数）
・理論の面ではここ２～３年、研修会等で学んだことと大きく変わらない。今一番困っていることが、授業の実際において、歌・チャンツ・クイズ・ゲームの幅を広げることなので、実際に繋がるテーマをお願いしたい。
・色々なアイデアや教材について、もっと沢山知りたい。
・チャンツをもっと詳しく、自作orアレンジのポイント等。
・歌・チャンツ・クイズ・ゲームについて、また別の機会に取り上げて欲しい。
・実技、実践内容。
・チャンツにもっと時間をかけて欲しい。
・実践などの具体例について、どんどん紹介して欲しい。
・教具を充実させるための順序。
・絵本の取り扱い方等について、もっと詳しく聞きたい。

・教師の英語スキルアップの方法の紹介。
・小中の連携について。
・カリキュラムの作成、学習内容の選択と配列、評価。
・実践場面での英語活動（特にコミュニケーションを取り入れた内容）
・指導の実際について、統計的な指導という点で講義が聴けるとありがたい。
・英語活動推進のための方法、具体的な考え方等。
・ゲストティーチャーを捜す際の手だてについて。
・ＡＬＴの学校への派遣事業の現状と、派遣要請方法。
・ＡＬＴが居ない（全く配置がない）時の、授業のアイデア等について。
・諸外国（特に韓国）における早期英語（外国語）教育の実施内容と課題について。
・ゲームや歌の紹介と合わせて、英語活動が目指す子供の姿（意欲・知識）の育成を視野に入れた講義をお願いしたい。

【研究協議】
・もう少し協議があった方が良かった。または各校で実践が違うので、個人懇談の形があっても良かったと思う。
・先生方が気さくな方で楽しく、勉強になった。
・実践する中での具体的な例を出していただきながら指導助言をしていただいたので、大変役に立った。
・英語活動における構想のポイントを話していただき、とても分かり易かった。
・各地域の様子が良く分かり、努力している様子が刺激になった。
・他県の英語活動の様子が良く分かった。
・ビデオ上映があったので、細かい所まで良く分かった。
・事前に参加者に課題を提出させ、中心を捉えた協議をした方が良い。
・意見がなかなか出なかったので、自己紹介という形で各自の学校現状が分かり、結果的には良かったと思う。
・指導・助言の中に自分が悩んでいること、困っていることに対してのヒントが沢山あった。
・実践に基づいた話しがとても良かった。
・具体性があり、実際に授業で使えそうで良かった。
・時間が少し短かった。
・各校の実態がかなり違うので、自校にはあてはまらないことが多かった。
・ＡＬＴの配置等がバラバラで参考にしにくかった。
・テーマを絞る等、工夫をして欲しい。
・もっと各学校の実状、悩みについての時間を持って欲しい。
・もう少し、中身が絞られると良かった。
・殆ど自己紹介的内容で終わってしまい、様々な取組などを聞くことができなかった。
・研究協議の時間を無理して取るより、ワークショップの準備にあてて欲しい。
・他校の先生方の取組が良く分かった。できれば同じ悩みを持つ人が集まって、具体的に話し合えると良いと思う。
・小グループの活用を通じて、話し合いを活発にする工夫が欲しい。

【研究協議で取り上げてほしいテーマ等】
・ＡＬＴとＨＲＴの英語活動における役割について
・小・中・高及び地域連携の取組のねらいと方向性について
・地域人材活用法
・ＡＬＴとのつき合い方、打ちあわせ方
・子供が楽しくできる英語活動（実践から）
・朝の時間、全校一斉に（各教室で）英語活動をする場合の方法
・小学校低学年の時数確保、拡大への意味づけについて
・既に取り組んでいる学校と初めての学校毎のグループに分かれての情報交換できる場
・シラバス毎の実践内容
・年間計画の情報交換
・英語活動の教育課程への位置付け
・時間数の確保と環境整備
・授業を参観して研究協議をしてみたい
・授業実践の様子をもっと見せて欲しい
・実践例、教具等の紹介
・実際の授業のビデオや模擬授業

【ワークショップ（演習）】
・実際に活動してみて、良く分かった。
・楽しい活動で、三浦先生の進め方などとても参考になった。
・アドバイスをいただいたり、実際に一緒に授業を行ったりできたのが良かった。
・ゲームや歌等、すぐに学校で使えそうな物が多く、参考になり楽しかった。
・素晴らしいＡＬＴの先生でうらやましかった。
・ＡＬＴの先生に助けられたことが多くて、発音等正確に分かって良かった。
・多くの工夫があって勉強になった。
・とにかく分かり易く、ＶＴＲなども取り入れながらでとても良かった。
・沢山の情報といくつかのシンプルなキーワードをいただいた。
・できれば２０名くらいのグループが良かった。
・コミュニケーションが取れて良かった。
・単にゲームなどの技術論ではなく、得る物が大きい指導助言だった。
・これまで自分が考えていた問題意識と、他の先生方の考えを交流でき、改めて自分なりに考えていく課題を見いだすことができた。
・実際の授業のことや、歌・ゲームを沢山教えていただいて、とても良かった。
・気軽に質問できる雰囲気があり、楽しかった。
・グループ毎の進度に合わせての進行で、時間に縛られることなく進めていただいたので、とても良かった。
・上原先生の指導は的確で、勉強になった。
・実際の授業のビデオ等、とても役に立った。
・日本語にはない英語の難しさや理屈など、様々なことを適切な指導で良かった。
・他校の先生方の交流がとても役に立った。
・理論的な流れがはっきりしていて良かった。
・助言等、とても適切で素晴らしかった。
・質疑応答の時間がもっと欲しかった。
・もう少し準備の時間が欲しかった。
・最後の授業作りにはもっと時間が必要だった。
・ＡＬＴの意見と、講師の先生方の言われたことが異なっていた。
・プレゼンを行うたびに意見交換した方が良かった。
・他校の情勢や実態が色々で、それを知ることができて楽しく進められたが、レッスンプランを立てるのに困難さはあった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度 小学校英語活動研修講座(第2回)日程

会場 ： 福岡リーセントホテル（福岡市）

9:20　10:00　11:00　11:10　12:30　13:40　15:00　15:10　16:40　17:20

7月22日(火)	受付	開講式 【行政説明】 小学校における英語活動に対する支援について 10:50	休憩	【講義】 小学校英語活動の現状と展望 宮崎大学 難 影浦 攻	昼休み 12:40	【講義】 英語活動の基本的な理論 宮崎大学 難 影浦 攻 13:50	休憩	【講義】 年間活動計画の構想・授業の構成 宮崎大学 難 影浦 攻	質疑応答
7月23日(水)		【講義】 歌，ﾁｬﾝﾂ，ｸｲｽﾞ，ｹﾞｰﾑなどの実際 中部学院大学 韻難 久埜 百合	休憩	【講義】 教材・教具の作成の実際 中部学院大学 韻難 久埜 百合	昼休み	＊ 【ワークショップⅠ】 研究協議（13:50～15:20） 実践報告と実践例の紹介 授業の観察 意見交換 15:20～17:20			
7月24日(木)		＊ 【ワークショップⅡ】 具体的活動例の紹介と体験 単元案の構想 時案の構想 授業実践の準備 意見交換							

グループ別　講師（教諭）・指導助言者(ALT)		
東京都文京区立誠之小学校	教諭	三浦邦子
(株)インタラック　ﾗﾝｸﾞｳｪｯｼﾞｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ(文京区担当)		Barbara Schlag
石川県金沢市立南小立野小学校	教諭	今井　京
石川県金沢市教育委員会	ＡＬＴ	Anna Wojtalewicz
大阪府河内長野市立天野小学校	教諭	梅本　多
大阪府河内長野市教育委員会	ＡＬＴ	Ryan Fujii
兵庫県朝来郡和田山町立竹田小学校	教諭	水田伊都美
兵庫県朝来郡和田山町教育委員会	ＡＬＴ	Sally Shepard
福岡県大野城市立大野南小学校	教諭	上原明子
福岡県大野城市教育委員会	ＡＬＴ	Jessica Heathco
佐賀県伊万里市立滝野小学校	教諭	宗　誠
佐賀県伊万里市教育委員会	ＡＬＴ	Clear Lee

※第３日目以降における昼食は，概ね11:30～13:30の間に適宜７０分程度設けることとする。

15:40　16:00　16:30

7月25日(金)	＊ 【ワークショップⅢ】 授業実践の準備 授業実践 授業実践の反省 意見交換	休憩	閉講式

＊【ワークショップ】は、６つのグループに分かれて実施する。

Ⅰ　研修概要

研修名	「総合的な学習の時間」研修講座（小学校英語活動研修講座　第３回）				
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係				
研修目的（趣旨）	小学校の「総合的な学習の時間」において、各学校が国際理解に関する学習の一環としての英語活動を行う場合に、小学校段階にふさわしい学習活動ができるよう支援するため、指導的な立場を担う小学校教員及び教育委員会の指導主事等に対して、基本的な知識や指導方法等を習得させる。				
対象	各都道府県等内において指導的立場にある小学校（盲学校、聾学校及び養護学校の小学部を含む）の教員又は教育委員会、教育センター等の指導主事等で、都道府県教育委員会等所属機関の長が推薦する者とする。				
開催期日	平成１５年　８月２５日（月）　～　平成１５年　８月２９日（金））				５日間
参加人数	計画人数	２００人	受講者数	１５３人	（参加率）　７６．５％
開催場所	仙台国際センター（宮城県仙台市）				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	107人	73.8%	30人	20.7%	2人	1.4%	0人	0.0%	6人	4.1%

２．研修内容に関する主な意見

【研修講座全体】
・小学校英語活動を進める上でのポイント（留意点）が良く分かったので、今後の活動に生かしていきたい。（意見多数）
・講師の講義はとても分かり易く参考になった。（意見多数）
・今なぜ英語活動が小学生に必要なのか、という理論がはっきりと見えてきた。
・初めて英語活動に触れる者には適切だったと思う。
・他県の取組やシステムを知ることができたので良かった。
・講義もワークショップも共に分かり易く、役に立った。
・有名な先生方の講義を受けることができ、大変良い機会だった。
・授業のビデオ、ワークショップが具体的で良かった。
・講義、研究協議、ワークショップの流れがよく、理解しやすかった。
・英語活動が今後どうなるのかは分からないが、どんな課題があるのかは理解できた。
・何回か授業実践講習を実施して欲しい。
・系統的なテキストを参考書として配布して欲しい。
・今後どうなるかの詳細を知りたかった。
・英語活動は必須になっていないので、学校間での格差、温度差が非常に大きく、推進が難しいので、教育課程での裏付けが欲しい。

【講義で取り上げてほしいテーマ等】
・海外（特にアジア諸国）での取組を具体的に知りたい。（意見多数）
・すぐに授業に生かせる、実践的・具体的テーマを沢山教えて欲しい。（意見多数）
・カリキュラム作成上の留意点、もしくは実践して良かった点について。（意見多数）
・ＨＲＴのみの授業の方策。（意見多数）
・評価の方法。（意見多数）
・小学校教員の英語力向上のための方法について。（意見多数）
・今回よりももっと多くのチャンツ、ゲームを教えて欲しい。
・子どもの将来を見据えた理論が欲しい。
・小グループでの歌、チャンツ等の活動時間をもう少し増やして欲しい。
・年間学年別カリキュラム作り。
・周囲（教員、保護者）の理解を得るための実践例。
・京都市教育委員会で小学校英語を推進されている指導主事の先生の話。

【研究協議】
・ビデオ等見せていただき、分かり易かった。
・全員の発表より特に実践している例を具体的にあげた方が、協議で英語活動内容を良く練ることができたと思う。
・現状報告に時間がかかったので、話し合う時間をもっと取って欲しい。
・話し合いの観点が明確ではなかった。
・短時間の中で多くの内容を協議しなければならなかったので、深まりのある協議にはならなかったと思う。
・講師の先生のアドバイス、ＡＬＴの助言がとても参考になった。
・取組の状況が学校によって大きく異なるので、意見交換が難しいように感じた。
・自己紹介を兼ねて各自抱えている問題点を発表したので、協議の時間が足りなかった。
・他校の取組が良い刺激となった。
・実際に活動されている先生の話が役に立った。
・すぐにテーマに沿っての話し合いは、お互いが慣れていないので少し難しいと思う。
・ＡＬＴが楽しく明るい人でうらやましく感じた。

【研究協議で取り上げてほしいテーマ等】
・カリキュラム作りについて。
・研究校の授業で取り組んでいる、具体的方法について（意見多数）
・評価の方法について（意見多数）
・小・中の連携について
・参考資料の紹介とその活用方法について
・低学年で英語活動を取り上げる場合の時間の取り方
・市町村や学校毎の英語活動体制について

【ワークショップ（演習）】
・ＡＬＴが協力的な方で良かった。
・時間をかけた分、色々な授業を自分達で作り、受け合うのはとても良かった。
・講師の方々はゆとりを持って親切に助言して下さり、大変良かった。
・グループ活動の時間が長すぎたと思う。
・先進校の取組状況を時数配当等、具体的に知ることができて良かった。
・ワークショップの時間配分を上手く取って欲しい。
・授業を元に適切なポイントを助言してもらい、とても良かった。
・素晴らしい能力を持つＡＬＴだと感じた。
・ＡＬＴの本音や要望を聞き、今後のコミュニケーション活動を行う上で参考になった。
・ゲームなど、実践的な内容が中心で良かった。
・授業を見合って研究協議するとより新しいアイデアが生まれたり、考えが深まったりと大変参考になった。
・受講者同士の情報交換が図れるように配慮してもらえて良かった。
・ＡＬＴの立場や文化の違いを説明していただき、役に立った。
・講師の方々の指摘が、とても明確で良かった。
・講師の先生の実践や助言は、英語活動を目指す所、見通しがはっきりと持て大変参考になった。
・指導助言の回数、時間共に足りなかった。
・指導案作成に1.5日は長すぎた。１日でよかったと思う。
・班の人数が２０人程度だともう少し動きやすかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度 小学校英語活動研修講座（第3回） 日程

会場 ： 仙台国際センター（仙台市）

9:30 / 11:00 / 11:40 / 12:30 / 13:00 / 14:00 / 14:10 / 14:30 / 14:50 / 15:30 / 15:40 / 16:20 / 17:00

8月25日(月)			受付	開講式 【行政説明】 小学校における英語活動に対する支援について	休憩	【講義】 小学校英語活動の現状と展望 宮崎大学 教授 影浦 攻			休憩	【講義】 英語活動の基本的な理論 宮崎大学 影浦 攻		
8月26日(火)	【講義】 年間活動計画の構想・授業の構成 宮崎大学 影浦 攻	質疑応答	昼休み	【講義】 歌，ﾁｬﾝﾂ，ｸｲｽﾞ、ｹﾞｰﾑなどの実際 中部学院大学 客員教授 久埜 百合			休憩	【講義】 教材・教具の作成の実際 中部学院大学 客員教授 久埜 百合				
8月27日(水)	＊ 【ワークショップⅠ】 研究協議 実践報告と実践例の紹介 授業の観察 具体的活動例の紹介と体験 意見交換											
8月28日(木)	＊ 【ワークショップⅡ】 単元案の構想 時案の構想 授業実践の準備 意見交換											
8月29日(金)	＊ 【ワークショップⅢ】 授業実践 授業実践の反省 意見交換											

グループ別 講師（教諭）・指導助言者(ALT)		
宮城県塩竈市立塩竈第一小学校	教諭	小野寺由起
宮城県塩竈市教育委員会	ＡＬＴ	Laura Mann
千葉県成田市成田小学校	教諭	佐藤 広幸
千葉県成田市教育委員会	ＡＬＴ	Ruka Laladidi
石川県金沢市立南小立野小学校	教諭	今井 京
石川県金沢市教育委員会	ＡＬＴ	Anna Wojtalewicz
宮城県角田市立藤尾小学校	教諭	横山 直起
宮城県角田市教育委員会	ＡＬＴ	Scott Glen Allen
佐賀県伊万里市立滝野小学校	教諭	宗 誠
佐賀県伊万里市教育委員会	ＡＬＴ	Clear Lee

※第３日目以降における昼食は，概ね11:30～13:30の間に適宜７０分程度設けることとする。

＊【ワークショップ】は、５つのグループに分かれて実施する。

Ⅰ　研修概要

研修名	「総合的な学習の時間」研修講座（小学校英語活動研修講座　第４回）					
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係					
研修目的（趣旨）	小学校の「総合的な学習の時間」において、各学校が国際理解に関する学習の一環としての英語活動を行う場合に、小学校段階にふさわしい学習活動ができるよう支援するため、指導的な立場を担う小学校教員及び教育委員会の指導主事等に対して、基本的な知識や指導方法等を習得させる。					
対象	各都道府県等内において指導的立場にある小学校（盲学校、聾学校及び養護学校の小学部を含む）の教員又は教育委員会、教育センター等の指導主事等で、都道府県教育委員会等所属機関の長が推薦する者とする。					
開催期日	平成１５年１０月２８日（火）　～　平成１５年１１月　１日（土）					５日間
参加人数	計画人数	１５０人	受講者数	１４７人	（参加率）	９８．０％
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市） 名古屋都市センター（愛知県名古屋市）					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	119人	81.5%	26人	17.8%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	0.7%

２．研修内容に関する主な意見

【研修講座全体】
・ワークショップは大変役に立った。
・得るものが大変多く、参加して良かった。
・色々な県での取組や実際の現状を聞いて、とても参考になった。
・「英語」以外にも、学校に戻って役立つことを沢山学ぶことができた。
・お互いの情報交換が一番役に立った。
・英語活動の目指すものについて、今まで分かっているようで分かっていなかったことがはっきり見えてきた。
・今後の授業に生かしたいことばかりだった。
・ワークショップの先生方が大変素晴らしく、参加できて良かった。
・写真撮影禁止になっていたが、実技講習に関わる部分は、撮らせて欲しかった。
・全国の先生方が、この講座を受講できるように配慮して欲しい。

【講義で取り上げてほしいテーマ等】
・英語教育の具体的展望（教科になるのか、総合になるのかの明確な方向）
・ＨＲＴとＡＬＴの授業風景が分かることがあると良い。
・小・中学校の連携の在り方。
・職場の教師の英語活動に対する意識改革をどのように進めたらよいか。
・各自治体で行っている授業形態の紹介。
・テーマにあった教材、教具の作り方について。
・英語活動の様々な実践、実例等。
・ゲーム、歌、チャンツ等のレパートリーを可能な範囲で数多く教えて欲しい。
・具体的な指導計画や授業案の立て方。
・英語活動の実際の様子について、先進校の先生方の取組について沢山聞いてみたい。
・授業の構成について、色々な例を知りたい。
・模擬授業形式の講座がもう１日あれば、より効果的だと思う。
・チャンツについて、トレーニング等を入れて欲しい。
・チャンツ、ゲーム等授業で役に立つ教材を教えて欲しい。

・英語活動における、ＴＴによる授業の進め方。
・小・中連携の学校の様子や課題などを聞いてみたい。
・学校体制を整えるにはどうしたらよいか。

【研究協議】
・実際、立ち上げた方の苦労や工夫、努力が感じられた。
・今後進めていく者にとっては、大変興味深く、参考になる話を沢山聞くことができた。
・それぞれの悩みを基に協議できたので、解決策も見えて良かったと思う。
・学校によって、取組の差が大きいことが良く分かった。
・様々な立場からの意見が出たが、それに対して適切な助言を頂いた。
・各学校の状況が分かって良かった。
・ポイントをついた助言で分かり易かった。
・協議が十分に深まらなかった。
・講師の先生の適切な助言が良かった。
・グループ毎に話し合いをしたので、話しやすかった。
・人数が多すぎるので、司会進行もあまり上手くいかず、意見が述べづらい雰囲気があった。
・テーマ別の小グループで話し合い、それを全体の場で報告しあう方が良い。
・色々な立場や状況下の中で参加している人が多く、意見が出しにくかった。司会の方法等、考慮して欲しい。
・現場の声が文部科学省の方に届くようにして欲しい。

【研究協議で取り上げてほしいテーマ等】
・小学校から中学校英語教育に望むこと。
・ＡＬＴとの関わりについて。
・今回の内容で良い。
・英語を実際生活の中で生かすための教師の支援。
・教科としての英語活動について。
・校内体制について。
・より良い授業の作り方、在り方について。
・より多くのゲーム、歌、チャンツの紹介。
・英語活動を続けていく中で生じる課題について。

【ワークショップ（演習）】
・英語活動にとても前向きに取り組む姿勢が素晴らしかった。
・授業を創り上げることがとても勉強になった。
・沢山のアクティビティを教えていただき、とても役に立った。
・ＡＬＴのキャラクターがとても良かった。
・どの班のプレゼンも素晴らしかった。
・講師の方がとても優しく丁寧で、ＡＬＴも明るく活動的でとても分かり易くためになった。
・ゲームをしながら、教具等のポイントを明確に説明して下さり、分かり易かった。
・無理なく楽しく取り組むことができた。
・活動の実際例を多く取り入れて下さり、とても参考になった。
・ＡＬＴの身振りの違いなど、色々なことを学べて良かった。
・講師の方の様々なアイデアや雰囲気作りなどに大きなヒントがあり、とてもためになった。
・講師の方とＡＬＴの班全体に対する指導や心遣いがとても良かった。
・それぞれの学校に応じた指導助言がなされた。
・当を得た助言と指導だった。
・とても分かり易く、率直に意見を述べられて良かった。
・現場で実践されている方の話や助言は、教育書を読むよりも大変参考になった。
・体験活動を取り入れながらの進め方で、とても良く分かった。
・今後授業を実践していく上で、とても役立った。
・グループでの模擬授業の話し合いは、半分で十分だと思う。
・ＶＴＲなど、実際の授業を多く見たことは良かった。
・梅本先生のことば、実践、明るさから多くを学んだ。
・レジュメに書いてある以上に内容が充実していて、とても良かった。
・低・中・高に分けた具体的なゲームやチャンツなど、大変勉強になった。
・教材作りや使い方など、とても柔軟な発想で行われているのがとても勉強になった。
・学年によってどれくらいの活動が可能になるか、適切な助言を与えてもらった。
・協力しながら内容を考えたり準備をするのが、とても楽しかった。

・校内での協力体制や研修などの必要性を強く感じた。
・かなり進んでいる学校は良いかもしれないが、楽しくどんどんやってみようという気持ちよりは、ハードで息がつけないという気がした。
・「教材・教具づくり、指導方法の検討」の時間がもう少しあると良い。
・他の班の内容を知る場が無かったのが残念。
・ＡＬＴのアドバイス、実践が少なかった。
・内容が理解できない部分があった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度 小学校英語活動研修講座（第4回）日程

会場 ： 独立行政法人教員研修センター（つくば市）

10月28日(火)

9:30	12:30	13:00	14:00	14:10	15:30	15:40	17:00
	受付	開講式 ◇ 【行政説明】 小学校における英語活動に対する支援について	休憩	【講義】◇ 小学校英語活動の現状と展望 宮崎大学 教授 影浦 攻	休憩	【講義】◇ 英語活動の基本的な理論 宮崎大学 教授 影浦 攻	
				14:30	14:50	16:20	

10月29日(水)

11:00	11:40	12:30	13:00	14:30	14:50	17:00
【講義】◇ 年間活動計画の構想・授業の構成 宮崎大学 教授 影浦 攻	質疑応答	昼休み	【講義】◇ 歌、ﾁｬﾝﾂ、ｸｲｽﾞ、ｹﾞｰﾑなどの実際 中部学院大学 客員教授 久埜 百合	休憩	【講義】◇ 教材・教具の作成の実際 中部学院大学 客員教授 久埜 百合	

10月30日(木)

＊
【ワークショップⅠ】
研究協議
実践報告と実践例の紹介
授業の観察
具体的活動例の紹介と体験
意見交換

班	グループ別 講師（教諭）・指導助言者(ALT)		
1	東京都文京区立誠之小学校	教諭	三浦 邦子
	(株)インタラック	ﾄﾚｰﾅｰ	Brian McDonough
2	宮城県角田市立藤尾小学校	教諭	横山 直起
	宮城県角田市教育委員会	ＡＬＴ	Scott Glen Allen
3	鹿児島県川内市立平佐西小学校	教諭	八巻 充憲
	鹿児島県川内市教育委員会	ＡＬＴ	Michael Kubick
4	兵庫県朝来郡和田山町立竹田小学校	教諭	水田伊都美
	兵庫県朝来郡和田山町教育委員会	ＡＬＴ	Sally Shepard
5	福岡県大野城市立大野南小学校	教諭	上原 明子
	福岡県大野城市立大野南小学校	ＩＥＴ	Lawrie Norris

※第３日目以降における昼食は，概ね11:30～13:30の間に適宜７０分程度設けることとする。

10月31日(金)

＊
【ワークショップⅡ】
単元案の構想
時案の構想
授業実践の準備
意見交換

11月1日(土)

＊
【ワークショップⅢ】
授業実践
授業実践の反省
意見交換

14:10	14:30	15:00
休憩	閉講式	

＊【ワークショップ】は、５つのグループに分かれて実施する。
＊ 上記日程の◇印は、当該講義を双方向（つくば・名古屋間）による衛星配信研修として、各都道府県へ生放送する予定であることを示す。

Ⅰ　研修概要

研修名	総合学科等新科目実技指導講座				
担当課係	研修事業第二課　国内短期研修係				
研修目的（趣旨）	総合学科設置校の教員等に対し、「産業社会と人間」及び「課題研究」等の指導内容・方法を中心に、生徒の進路選択及び科目選択のためのガイダンスの内容・方法等に関する研修を行う。				
対象	①各都道府県教育委員会の総合学科担当者 ②総合学科設置校の教員等 ③総合学科設置予定校の教員等 ④「産業社会と人間」を開設又は開設予定の高等学校及び中等教育学校（後期課程）の教員等				
開催期日	平成１５年　９月１６日（火）　～　平成１５年　９月１９日（金）				４日間
参加人数	計画人数	２００人	受講者数	１５８人	（参加率）　７９．０％
開催場所	独立行政法人教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	54人	35.8%	85人	56.3%	5人	3.3%	2人	1.3%	5人	3.3%

２．研修内容に関する主な意見

○あまりにも多くの内容だったのでこれからどう活かしていくかが自己の課題である。
○今後の指針・方向性を見定める上で参考となった。
○総合学科高校の教員だけではなく、普通科高校の教職員も対象にした方がよい。
○多くの実践発表を聞いたり、各学校での取組の資料を得ることで今後に役立つ知識等を得ることができた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度総合学科等新科目実技指導講座日程表

日 程	時 程	講 義 等 名 及 び 講 師
第1日 9/16 （火）	13:00～13:30	受 付
	13:30～14:00	開講式
	14:00～15:30	講 演 「青少年の意思決定力をどう育むか」 ジュニア・アチーブメント本部専任理事 中許 善弘
	15:45～16:30	オリエンテーション
第2日 9/17 （水）	9:00～10:00	実践発表 「『産業社会と人間』の事例研究」 岐阜県立土岐紅陵高等学校教諭 高山 里美
	10:10～11:10	講 義 「インターンシップへの参画」 桑名商工会議所事務局長 阪野 房義
	11:20～12:20	講 義 「総合学科とキャリア教育」 国立教育政策研究所生徒指導研究ｾﾝﾀｰ 宮下 和己
	13:30～15:00	講 義 「ガイダンス・カウンセリングの理論」 筑波大学心理学系教授 渡辺 三枝子
	15:10～17:30	演 習 「『産業社会と人間』の指導計画作成」
第3日 9/18 （木）	9:00～10:30	演 習 「『産業社会と人間』の指導計画作成」
	10:40～12:00	講 義 「ガイダンス・カウンセリングの実践」 東京都立雪谷高等学校教頭 大池 公紀
	13:30～16:30	研究協議 「ガイダンスの充実に向けた取組」 東京都立雪谷高等学校教頭 大池 公紀 筑波大学附属坂戸高等学校長 服部 次郎 上宮太子中学校・高等学校長 田村 昌平 東京都立八王子工業高等学校長 内田 雅顕
第4日 9/19 （金）	10:00～10:50	講 義 「総合学科における『総合的な学習の時間』」 文部科学省初等中等教育局視学官 大杉 昭英
	11:00～12:00	実践発表 「『総合的な学習の時間』への取組」 前兵庫県立神戸甲北高等学校長 藤井 俊之 和歌山県立和歌山高等学校教諭 下村 史郎
	13:30～15:00	班発表及び研究協議 「『産業社会と人間』の指導計画」 千葉県立八街高等学校長 中野 晃男
	15:00～	閉講式

Ⅰ　研修概要

研修名	道徳教育連携・推進講座　（第１回中央研修講座）				
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係				
研修目的（趣旨）	道徳教育の重要性について保護者や地域の人々の理解を促し、学校の教育活動に積極的な参加を得て、学校・家庭・地域社会が連携した道徳教育を進めるとともに、指導計画、指導方法等の工夫・改善を進めていくことのできる、道徳教育推進の中核となる指導者を養成し、道徳教育の一層の充実を図る。				
対象	小・中学校の校長及び教頭並びに教育委員会の指導主事				
開催期日	平成１５年６月１０日（火）　～　平成１５年６月１３日（金）				４日間
参加人数	計画人数	２８０人	受講者数	２２７人	（参加率）　８１．１％
開催場所	独立行政法人教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	164人	77.0%	49人	23.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○たいへん勉強になった。
○シンポジウムで、ＰＴＡ代表を選定したのはとてもよかった。新鮮である。
○各地の実践事例がわかり、疑問が解消した。
○心のノートの活用法は誤解のないようによくアドバイスしていきたい。
○現場の具体的な実践発表がひとつくらいあってもいい。
○テーマ演習は２つでいい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度道徳教育連携・推進講座（第１回中央研修講座）
日　　程　　表

第１日目

6月10日（火）

10:30 受付

11:00 オリエンテーション

11:40 開講式

12:00 昼休み

13:00 講義１「道徳教育の現状と課題」
国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官
(併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
柴原　弘志

14:30 休憩

14:45 講義２「学校における道徳教育の効果的な推進」
国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官
(併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
永田　繁雄

16:00 休憩

16:10 班別会議（自己紹介、資料交換、演習の打合せ等）

18:00 情報交換会

20:00

第２日目

6月11日（水）

9:15 特別講演「今　求められる子育て支援」
恵泉女学園大学
教授　大日向　雅美

10:45 休憩

11:00 講演「未来を拓く心を育てるために」
大阪教育大学
教授　藤永　芳純

12:30 昼休み

14:00 シンポジウム「学校、家庭、地域社会の連携による道徳教育の推進に向けて」
コーディネーター　香川大学教育学部教授　七條　正典
シンポジスト　大阪教育大学教授　藤永　芳純
江東区立深川第三中学校PTA代表　吉川　宏子
岩手県水沢市立姉倉河小学校校長　小林　幸子
福岡県宗像市立宗像中学校校長　近藤　覚

16:45

第３日目

6月12日（木）

9:00 テーマ演習１「道徳教育に対する教員や家庭・地域の意識向上を図る取組」

１班	前新宿区立早稲田小学校校長	荒川　進
２班	福岡県教育庁教育振興部義務教育課指導主事	芋生　修一
３班	鳴門教育大学教育学部附属小学校副校長	大宮　俊恵
４班	高知県大月町立大月中学校校長	田邊　重任
５班	府中市立第四中学校校長	富山　謙一
６班	千代田区立九段小学校校長	波岡　輝男
７班	元埼玉県越谷市立富士中学校校長	矢部　行男
８班	大田区立矢口中学校校長	山田　佳子

11:30 昼休み

13:00 テーマ演習２「学習指導要領の趣旨を生かした道徳の時間の充実への取組」

１班	前新宿区立早稲田小学校校長	荒川　進
２班	福岡県教育庁教育振興部義務教育課指導主事	芋生　修一
３班	鳴門教育大学教育学部附属小学校副校長	大宮　俊恵
４班	高知県大月町立大月中学校校長	田邊　重任
５班	府中市立第四中学校校長	富山　謙一
６班	千代田区立九段小学校校長	波岡　輝男
７班	元埼玉県越谷市立富士中学校校長	矢部　行男
８班	大田区立矢口中学校校長	山田　佳子

15:00 休憩

15:15 テーマ演習３「自由演習テーマ」

16:45

第４日目

6月13日（金）

9:00 講義３「道徳教育の充実に向けて」（Q&Aを含む）
国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官
(併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
柴原　弘志
永田　繁雄

12:15 閉講式

12:30

Ⅰ　研修概要

研修名	道徳教育連携・推進講座　（第２回中央研修講座）					
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係					
研修目的（趣旨）	道徳教育の重要性について保護者や地域の人々の理解を促し、学校の教育活動に積極的な参加を得て、学校・家庭・地域社会が連携した道徳教育を進めるとともに、指導計画、指導方法等の工夫・改善を進めていくことのできる、道徳教育推進の中核となる指導者を養成し、道徳教育の一層の充実を図る。					
対象	小・中学校の校長及び教頭並びに教育委員会の指導主事					
開催期日	平成１５年９月１６日（火）　～　平成１５年９月１９日（金）					４日間
参加人数	計画人数	２８０人	受講者数	２２７人	（参加率）	８１．１％
開催場所	独立行政法人教員研修センター					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	142人	67.3%	63人	29.9%	3人	1.4%	0人	0.0%	3人	1.4%
割合(%)										

２．研修内容に関する主な意見

○実際に「心のノート」を活用しながら、お話いただき、活用しだいでこんなにもすばらしい資料になりうると改めて考えさせられた。
○ゲストティーチャーで参加された方の率直な意見を聴くことができ参考になった。
○ネットワークづくりができた。今後も情報交換ができそうだ。
○自分が知りたかったことが、ほぼ解決できた。
○「心のノート」の使い方・普及について、再確認したので拡めていきたい。
○調査官の講義は、とても参考になった。具体的で、明るく語られる道徳で、希望が湧く話だった。
○子どもの心を揺さぶる授業について考えたい。
○テーマの内容を２つにしぼっていただいた方が十分話合いの時間がとれたと思う。それぞれの内容も重なりがあったようだ。
○１つの班の人数が多い。場所があるなら、もう少し分けた方がよいと思う。
○「道徳の授業」の参観やビデオでの視聴など、現場の学校で取り組まれている姿を生で見ることができると非常によいと思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度道徳教育連携・推進講座（第2回中央研修講座）
日　　程　　表

第１日目

	10:30	11:00	11:40	12:00	13:00	14:30	14:45	16:15	16:25	18:00	20:00
9月16日（火）		受付	オリエンテーション	開講式	昼休み	講義１「道徳教育の現状と課題」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 柴原　弘志	休憩	特別講演「さまよえる現代の若者たち」 埼玉県立大学 助教授　五條しおり	休憩	班別会議 （自己紹介,資料交換, 演習の打合せ等）	情報交換会

第２日目

	9:15	10:45	11:00	12:30	14:00	16:45
9月17日（水）	講義２「学校における道徳教育の効果的な推進」－「心のノート」を生かした指導の充実－ 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 永田　繁雄	休憩	講演「子どもの心を育てる道徳教育」 関西学院大学 教授　横山　利弘	昼休み	シンポジウム「学校、家庭、地域社会の連携による道徳教育の推進に向けて」 コーディネーター　昭和女子大学教授　押谷　由夫 シンポジスト　関西学院大学教授　横山　利弘 埼玉県上尾市子ども育てる推進委員会委員長　和田真由美 広島県三原市立中之町小学校校長　松浦ゆう子 山梨県南アルプス市立御坂中学校校長　丸山　禎男	

第３日目

	9:00	11:30	13:00	15:00	15:15	16:45
9月18日（木）	テーマ演習１「道徳教育に対する教員や家庭・地域の意識向上を図る取組」 １班　青山学院大学非常勤講師　生越　昭二 ２班　京都府教育庁指導部学校教育課指導主事　加賀爪　毅 ３班　徳島県教育委員会学校教育課指導主事　篠原　清子 ４班　神奈川県教育庁教育部義務教育課副主幹兼指導主事　高澤　崇 ５班　大阪市立岸里小学校校長　月本　策三 ６班　長野県教育委員会教学指導課指導主事　畠山　信重 ７班　荒川区立南千住第二中学校校長　峯川　一義 ８班　元神奈川県立久井町立串川中学校校長　茂木　慶三	昼休み	テーマ演習２「学習指導要領の趣旨を生かした道徳の時間の充実への取組」 １班　青山学院大学非常勤講師　生越　昭二 ２班　京都府教育庁指導部学校教育課指導主事　加賀爪　毅 ３班　徳島県教育委員会学校教育課指導主事　篠原　清子 ４班　神奈川県教育庁教育部義務教育課副主幹兼指導主事　高澤　崇 ５班　大阪市立岸里小学校校長　月本　策三 ６班　長野県教育委員会教学指導課指導主事　畠山　信重 ７班　荒川区立南千住第二中学校校長　峯川　一義 ８班　元神奈川県立久井町立串川中学校校長　茂木　慶三	休憩	テーマ演習３「自由演習テーマ」	

第４日目

	9:00	12:15	12:30
9月19日（金）	講義３「道徳教育の充実に向けて」（Ｑ＆Ａを含む） 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 柴原　弘志 永田　繁雄	閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	環境教育担当教員講習会（東部地区）				
担当課係	研修事業第三課　研修企画係				
研修目的（趣旨）	小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校における環境教育に関する指導内容、指導方法等に関する研修を行い、環境教育を担当する教員の指導力の向上を図り、学校における環境教育の一層の充実に資する。				
対象	国立、公立、私立の小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の教員及び教員委員会の指導主事等				
開催期日	平成１５年１１月１１日（火）～平成１５年１１月１４日（金）				４日間
参加人数	計画人数	７５人	受講者数	７２人	（参加率）　９６．０％
開催場所	独立行政法人国立少年自然の家国立若狭湾少年自然の家				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	43人	59.7%	21人	29.2%	4人	5.6%	0人	0.0%	4人	5.6%

２．研修内容に関する主な意見

○内容が充実していたため、時間の流れがどんどん速くなった。大変有意義な講習会であった。また、受講したい。
○ワークショップを２つぐらい体験したかった。１日コースや半日コース。
○環境教育がなぜ必要なのか、言葉や流れに沿うだけでなく十分考える必要性があることに気付いた。学校で実践していることが本当に生徒達が関わっていることなのか吟味していきたい。
○長い研修をアンケートで簡単にふり返るのはよくやるが、こんなにじっくり研修の中身を考えたことはない。本講習会がきちんとコンセプトによって貫かれていることがよくわかった。
○理科教員として環境について主に教科指導を通して行ってきたが、今回の研修のようなことは初めて学ぶ内容が多く新鮮な感じを持った。実践に生かせるように自分のものにしていきたいと思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度環境教育担当教員講習会

1 東部地区

講習会名		平成15年度環境教育担当教員講習会(東部地区)	
実施会場		独立行政法人国立少年自然の家国立若狭湾少年自然の家	
所在地・連絡先		福井県小浜市田烏区大浜 TEL 0770－54－3100 FAX 0770－54－3023	
実施期間		平成15年11月11日(火)～14日(金)	
	時間	内容	備考
前日	15:00 ～ 17:00	第2回企画会議 ・平成15年度環境教育担当教員講習会の方向性の最終確認、調整。 ・各講師による講義、演習、ワークショップの内容の最終確認、調整。	
第一日目	9:00 ～ 9:50	受　付	
	10:00 ～ 10:30	開講式・オリエンテーション	
	10:30 ～ 11:30	基調講演Ⅰ「学校における環境教育の基本的な考え方」 講師：視学官(文部科学省)	全体会
	11:30 ～ 12:00	写真撮影	
	12:00 ～ 13:00	昼　食	
	13:00 ～ 14:30	基調講演Ⅱ「環境教育の必要性」 講師：小林　毅((株)自然教育研究センター　代表)　(調整中)	全体会
	14:45 ～ 16:15	講義　Ⅰ「体験学習法と環境教育(導入編)」 講師：田中　裕幸(有限会社アウトドア・エデュケーションセンター　代表取締役)	全体会
	16:30 ～ 17:30	演　習Ⅰ「体ほぐし・心ほぐしのゲーム」 講師 ①田中裕幸(有限会社アウトドア・エデュケーションセンター　代表取締役) ②長谷川孝一(avmva水辺の自然文化研究所　代表) ③竹越のり子(財団法人キープ協会) ④田畑伊織((株)自然教育研究センター) ⑤岩木啓子(ライフデザイン研究所FLAP　代表)	全体会
	17:30 ～ 18:00	ワークショップⅠ「ワークショップの紹介と登録」 講師 ①田中裕幸(有限会社アウトドア・エデュケーションセンター　代表取締役) ②長谷川孝一(avmva水辺の自然文化研究所　代表) ③竹越のり子(財団法人キープ協会) ④田畑伊織((株)自然教育研究センター) ⑤岩木啓子(ライフデザイン研究所FLAP　代表)	全体会
	18:00 ～	入　浴	
	19:00 ～ 21:00	情報交換会　(含　夕食)	
第二日目	7:40 ～ 8:20	朝　食	
	9:00 ～ 12:00	ワークショップⅡ「体験学習法に基づいた環境教育プログラムの体験」 講師 ①田中裕幸(有限会社アウトドア・エデュケーションセンター　代表取締役) ②長谷川孝一(avmva水辺の自然文化研究所　代表) ③竹越のり子(財団法人キープ協会) ④田畑伊織((株)自然教育研究センター) ⑤岩木啓子(ライフデザイン研究所FLAP　代表)	分科会
	12:00 ～ 13:00	昼　食	
	13:00 ～ 17:00	ワークショップⅢ(ワークショップⅡの内容と同様)	分科会
	17:15 ～ 18:45	夕　食	
	17:15 ～	入　浴	

第三日目	7:40 ～ 8:20	朝　食	
	9:00 ～ 10:20	講義Ⅱ　「体験学習法と環境教育（本編）」 講師 ①田中裕幸（有限会社アウトドア・エデュケーションセンター　代表取締役） ②長谷川孝一（a▾m▾a水辺の自然文化研究所　代表） ③竹越のり子（財団法人キープ協会） ④田畑伊織（（株）自然教育研究センター） ⑤岩木啓子（ライフデザイン研究所FLAP　代表） ⑥藤本登（福岡教育大学環境教育講座　助教授）	分科会
	10:30 ～ 12:00	事例発表　小学校部会 中学校部会　講師2名が分担し　事例発表30分 高等学校部会	分科会
	12:00 ～ 13:00	昼　食	
	13:00 ～ 18:00	演　習Ⅱ　「プランづくりと課題と対応（実践編）」 小学校部会　講師2名が分担し　進行・補助をする 中学校部会　各グループによる授業プランづくりと 高等学校部会　実践時の課題と対応を考え、共有化。	分科会
	18:15 ～	夕食・入浴	
	19:30 ～	自由参加プログラム	
第四日目	7:40 ～ 8:20	朝　食	
	9:00 ～ 11:00	研究協議　「ふりかえりと全員参加型ディスカッション（Q&A）」 講師 ①田中裕幸（有限会社アウトドア・エデュケーションセンター　代表取締役） ②長谷川孝一（a▾m▾a水辺の自然文化研究所　代表） ③竹越のり子（財団法人キープ協会） ④田畑伊織（（株）自然教育研究センター） ⑤岩木啓子（ライフデザイン研究所FLAP　代表） ⑥藤本登（福岡教育大学環境教育講座　助教授）	全体会
	11:00 ～ 11:45	アンケート記入	
	11:45 ～ 12:00	閉講式	
	12:30 ～ 13:00	昼食・解散	

Ⅰ　研修概要

研 修 名	環境教育担当教員講習会（西部地区）				
担当課係	研修事業第三課　研修企画係				
研修目的（趣旨）	小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校における環境教育に関する指導内容、指導方法等に関する研修を行い、環境教育を担当する教員の指導力の向上を図り、学校における環境教育の一層の充実に資する。				
対　　象	国立、公立、私立の小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の教員及び教育委員会の指導主事等				
開催期日	平成１５年１１月２５日（火）　～　平成１５年１１月２８日（金）				４日間
参加人数	計画人数	７５人	受講者数	６７人	（参加率）　８９．３％
開催場所	独立行政法人国立少年自然の家国立山口徳地少年自然の家				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	39人	58.2%	22人	32.8%	0人	0.0%	0人	0.0%	6人	9.0%

２．研修内容に関する主な意見

○ワークショップが非常に役にたった。
○自分自身の知識が増え視野がひろくなった。
○学校教育活動全体が環境教育とつながっている。
○参加型だったので、自身の思いも出せ聞いてもらい、また聞かせてもらって方向性が見つけられた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

2　西部地区

実施会場		独立行政法人国立少年自然の家国立山口徳地少年自然の家
所在地・連絡先		山口県佐波郡徳地町船路６６８ tel　０８３５－５６－０１１１　　ｆａｘ　０８３５－５６－０１３０
実施期間		平成１５年１１月25日（火）～28日（金）
	時間	内　　容
第一日目	9:00	受付
	10:00	開会
	10:30	講義Ⅰ　「学校における環境教育の基本的な考え方」 講師　文部科学省
	11:30	写真撮影・オリエンテーション
	12:00	昼食・着替え
	13:00	全体演習Ⅰ　「参加・体験型学習における導入法」 講師　川島　憲志（フリーランス） 高田　研（岐阜県立森林文化ｱｶﾃﾞﾐｰ教授） 藤本　登（福岡教育大学助教授） 原子　栄一郎（東京学芸大学助教授） 福澤　郁文（デザインFF代表）
	14:00	講演　演題　「環境問題の現状とこれからの環境教育について」 講師　東京学芸大学附属環境教育実践施設助教授　原子　栄一郎
	15:30	研究協議Ⅰ　「全員参加型パネルディスカッション　～環境教育とは～」 講師　川島　憲志（フリーランス） 高田　研（岐阜県立森林文化ｱｶﾃﾞﾐｰ教授） 藤本　登（福岡教育大学助教授） 原子　栄一郎（東京学芸大学助教授） 福澤　郁文（デザインFF代表）
	17:30	夕食
	18:30	講義Ⅱ　「ワークショップの紹介と登録」 講師　川島　憲志（フリーランス） 高田　研（岐阜県立森林文化ｱｶﾃﾞﾐｰ教授） 藤本　登（福岡教育大学助教授） 原子　栄一郎（東京学芸大学助教授） 福澤　郁文（デザインFF代表）
	19:30	入浴
	22:00	就寝
第二日目	8:00	朝食
	9:00	班別演習Ⅰ　「ともに学びわかちあう～ワークショップ体験～」 講師　川島　憲志（フリーランス） 高田　研（岐阜県立森林文化ｱｶﾃﾞﾐｰ教授） 藤本　登（福岡教育大学助教授） 原子　栄一郎（東京学芸大学助教授） 福澤　郁文（デザインFF代表） 進行補助　長弘　幸江（国立山口徳地少年自然の家事業課職員） 和崎　克司（国立山口徳地少年自然の家庶務課職員） 中司　雅之（山口大学人文・理学部職員） 廣永　亮一（山口大学工学部職員）
	17:00	夕食・入浴
	19:00	自由参加プログラム（～２１：００） 「天体観測」（雨天・曇り時は中止）
	22:00	就寝

第三日目	8:00	朝食
	9:00	講義Ⅲ　「ともに学びわかちあう ～ワークショップ体験～ まとめ」 講師　川島　憲志（フリーランス） 高田　研（岐阜県立森林文化ｱｶﾃﾞﾐｰ教授） 藤本　登（福岡教育大学助教授） 原子　栄一郎（東京学芸大学助教授） 福澤　郁文（デザインFF代表）
	11:00	事例発表 ○小学校分科会 事例発表 大阪府阪南市箱作小学校（前田　ゆきみ教諭） 題　目　「地域を愛し、自然に学び、人に学ぶ」 司会　川島　憲志（フリーランス） ○中学校分科会 事例発表 愛知県安城市安城西中学校（江坂　慎也教諭） 題　目　「地域を見つめた循環型社会づくり」 司会　高田　研（岐阜県立森林文化ｱｶﾃﾞﾐｰ教授） ○高等学校分科会 事例発表 福岡県立修猷館高等学校（福泉　亮 教諭） 題　目　「地域の教育力を活用した環境教育・エネルギー教育」 司会　藤本　登（福岡教育大学助教授）
	12:00	昼食
	13:00	研究協議Ⅱ　「学校における環境教育の取り組みと課題」 ○小学校分科会 司会　川島　憲志（フリーランス） 助言　大阪府阪南市立箱作小学校（前田　ゆきみ教諭） ○中学校分科会 司会　高田　研（岐阜県立森林文化ｱｶﾃﾞﾐｰ教授） 助言　愛知県安城市安城西中学校（江坂　慎也教諭） ○高等学校分科会 司会　藤本　登（福岡教育大学助教授） 助言　福岡県立修猷館高等学校（福泉　亮 教諭）
	17:00	休憩など
	18:00	情報交換会（夕食を含む）
	20:00	入浴
	22:00	就寝
第四日目	7:45	朝食
	9:00	質疑応答
	9:30	研究協議Ⅲ　「 ～これからの環境教育～ 」 講師　川島　憲志（フリーランス） 高田　研（岐阜県立森林文化ｱｶﾃﾞﾐｰ教授） 藤本　登（福岡教育大学助教授） 原子　栄一郎（東京学芸大学助教授） 福澤郁文（デザインFF代表）
	11:00	全体演習Ⅱ　「ふりかえりとわかちあい」 講師　川島　憲志（フリーランス） 高田　研（岐阜県立森林文化ｱｶﾃﾞﾐｰ教授） 藤本　登（福岡教育大学助教授） 原子　栄一郎（東京学芸大学助教授） 福澤　郁文（デザインFF代表）
	11:30	アンケート記入
	12:00	閉講式 昼食・解散

＊なお、日程・講師は都合により変更になる場合があります。

Ⅰ　研修概要

研修名	体験活動担当教員講習会（東日本ブロック）					
担当課係	研修事業第三課　研修企画係					
研修目的（趣旨）	学校教育における体験活動の一層の充実を図るため、体験活動の指導内容、実施上の配慮、施設の利用方法等について研究協議・情報交換を行い、体験活動担当教員の資質の向上を図る。					
対象	国立、公立、私立の小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の体験活動担当教員及び都道府県教育委員会の体験活動担当指導主事等。					
開催期日	平成１５年　９月３０日（火）　～　平成１５年１０月　３日（金）					４日間
参加人数	計画人数	７０人	受講者数	５３人	（参加率）	７５．７％
開催場所	独立行政法人国立青年の家国立磐梯青年の家					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	30人	57.7%	19人	36.5%	2人	3.8%	0人	0.0%	1人	1.9%

２．研修内容に関する主な意見

○通達や要領、法令だけでは分かりにくいものや見落としているものを、自分自身が体験することによって、再発見することができ、問題意識を抱くこともできた。指導方法の基礎を学ぶこともできた。
○体験を通して他の先生方とコミュニケーションを図り、考え方の概念を広げることができたことが貴重な財産となった。
○自然環境との接し方、福祉ボランティアでの留意点等を具体的に理解することができ、学校現場で即活用できる内容であった。
○多彩な講師を準備することが学校では困難であると思うので、今回の講習は意義がある。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度 体験活動担当教員講習会

実　施　計　画　書

1　東日本ブロック

実施会場		国立磐梯青年の家	
所在地・連絡先		福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原７１３６－１ TEL　0242-62-2530　　FAX　0242-62-2532	
実施期間		平成１５年９月３０日(火)～１０月３日(金)　３泊４日	
	時　　間	内　　容	
第１日	13：30～14：00	開会行事	
	14：00～14：30	趣旨説明 「体験活動の今日的な意義とその推進」	
	14：30～15：30	講演「体験学習法」 講師　筑波大学　多田　聡　氏	
	15：30～17：30	アイスブレイキング 講師　明治大学　針ヶ谷雅子氏 静岡県キャンプカウンセラー協会　太田　正義氏 明治大学　多田　聡　氏	
	19：30～22：30	入浴、就寝準備	
第２日	9：00～12：00	＜自然体験活動コース＞ 選択実習１ A．環境学習 B．コミュニケーションゲーム C．情報機器の活用 D．林間レクリエーション 講師 A．明治大学　針ヶ谷雅子氏 B．筑波大学　坂本昭裕氏 C．静岡県キャンプカウンセラー協会　太田正義氏 D．明治大学　多田　聡氏 （選択実習１・２は、上のA～Dから２種目を選択し、グループごとにワークショップ形式で展開する。）	＜社会奉仕体験コース＞ 選択実習１ A．環境ボランティア体験 講師 自然観察指導員　井上清志氏 B．福祉ボランティア体験 講師 日本青年奉仕協会　齋藤信夫氏 （選択実習１・２は、上のA・Bを入れ替えて、両方体験する）
	13：00～16：00	選択実習２ （午前と別のプログラムを体験する）	選択実習２ （午前と別のプログラムを体験する）
	16：00～17：30	ミニシンポジウム 「学校における自然体験活動」 進行　筑波大学　坂本昭裕氏 事例発表　大田区教育委員会　高橋俊明氏 いわき市立中央台北小学校　鈴木光雄氏	ミニシンポジウム 「学校におけるボランティア活動」 進行　日本青年奉仕協会　齋藤信夫氏 事例発表　埼玉大学教育学部附属中学校　青柳慎一氏 荒川区社会福祉協議会　福田めぐみ氏
	17：30～22：30	入浴、就寝準備	

第3日	9:00～10:00	＜自然体験活動コース＞ 講義 「学校における自然体験活動プログラムの立案と展開」 講師　筑波大学　坂本昭裕　氏	＜社会奉仕体験コース＞ 講義 「学校におけるボランティア活動プログラムの立案と展開」 講師　日本青年奉仕協会　齋藤信夫　氏
	10:00～17:30	演習 「学校における自然体験活動プログラムの企画・立案」 ・２日目に実施した活動から１つ選択し、種目別に行う 助言 明治大学　針ヶ谷雅子氏 筑波大学　坂本　昭裕氏 静岡県キャンプカウンセラー協会　太田　正義氏 明治大学　多田　聡　氏 いわき市立中央台北小学校　鈴木光雄氏	演習 「学校におけるボランティアプログラムの企画・立案」 ・５～６名のグループに分かれプログラムを立案する 助言 日本青年奉仕協会　齋藤信夫　氏 埼玉大学教育学部附属中学校　青柳慎一氏 荒川区社会福祉協議会　福田めぐみ氏
	19:30～21:30	情報交換会	
	21:30～22:30	入浴、就寝準備	
第4日	9:00～12:00	演習　全体研究協議 ・グループで立案したプログラムを参加者で体験しあい、研究協議を行う。 助言　明治大学　針ヶ谷雅子氏　日本青年奉仕協会　齋藤信夫　氏 筑波大学　坂本　昭裕氏　埼玉大学教育学部附属中学校　青柳慎一氏 静岡県キャンプカウンセラー協会　太田　正義氏　荒川区社会福祉協議会　福田めぐみ氏 明治大学　多田　聡　氏 いわき市立中央台北小学校　鈴木光雄氏	
	12:00～12:30	閉会行事（修了証書の交付、講師による講評など） 昼食後、自由解散	

注１：日程については、天候等の都合により変更になることがあります。

注２：第２日の「自然体験活動コース」「社会奉仕体験活動コース」の選択実習１・選択実習２の内容は、概ね以下のとおりです。

＜自然体験活動コース＞
選択実習１・選択実習２

○環境学習

自然の中で、自然を題材にした様々な体験活動を紹介することで、その手法やファシリテーションの進行について学び、学校教育現場における身近な自然を題材とした、「自然のすばらしさや、人と自然との関わり」を学ぶ授業展開を行うためのきっかけとする。

（例）木の幹のこぶ、樹木の形、岩肌を観察し想像力を働かせ、何に見えるか見つけ出し、自然の中にある異なったものから、共通した部分を見つけ出し、自然とのつながりを考える。

○コミュニケーションゲーム

アイスブレイキングの延長となるものから、より凝集性を高めることを目的としたダイナミックな活動にいたるまで、活動場所の選定や実施上の留意点といった安全管理についてや、生徒の導き方やふりかえりの手法について学ぶ。

○情報機器の活用

自然体験活動を行った後、子どもたちが、感じたことや気づいたことなどをまとめ、ふりかえり、発表・共有するための新しいツールとして、デジタルカメラやパソコン・テレビ等の情報機器を使用し、生徒でも操作可能な手法やまとめかたを学ぶ。

○林間レクリエーション

「楽しみながら自然に親しむ」をキーワードに、自然の中で自然を活用したレクリエーション活動の展開について学びながら、「楽しい」だけでなく期待される教育的効果とその効果を引き出すためのプロセスについて検討する。

＜社会奉仕体験活動コース＞

選択実習１・選択実習２

○福祉ボランティア体験

近隣の福祉施設に赴き、福祉施設の現状やボランティアの受け入れ状況などの話を聞くとともに、利用者とのふれあいをとおして、共生について学ぶ。

○環境ボランティア体験

裏磐梯高原の自然観察ガイドについて体験するとともに、観光地のゴミの状況について清掃活動をしながら、自然環境と人とのつながりを学ぶ。

Ⅰ　研修概要

研修名	体験活動担当教員講習会（西日本ブロック）				
担当課係	研修事業第三課　研修企画係				
研修目的（趣旨）	学校教育における体験活動の一層の充実を図るため、体験活動の指導内容、実施上の配慮、施設の利用方法等について研究協議・情報交換を行い、体験活動担当教員の資質の向上を図る。				
対象	国立、公立、私立の小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の体験活動担当教員及び都道府県教育委員会の体験活動担当指導主事等。				
開催期日	平成１５年１０月２８日（火）～平成１５年１０月３１日（金）				４日間
参加人数	計画人数	７０人	受講者数	４３人	（参加率）　６１．４％
開催場所	独立行政法人国立青年の家国立江田島青年の家				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	18人	41.9%	22人	51.2%	0人	0.0%	0人	0.0%	3人	7.0%

２．研修内容に関する主な意見

○多くの先生方と情報交換できたことは大きい。
○社会奉仕体験では、学校以外の方の視点から普段気づかない点をいろいろしることができとてもよかった。
○教えてもらうだけでなく、実習などが自分たちでプログラムをつくっていくことが取り入れられているのがいいと思う。
○体験活動を捉え直すことができる。
○現場に帰ってすぐ使える点。手法やアイデアをたくさんいただきました。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

2　西日本ブロック

実　施　会　場	国立江田島青年の家
所在地・連絡先	広島県安芸郡江田島町津久茂１－１－１ TEL　０８２３－４２－０６６０ FAX　０８２３－４２－０６６４
実　施　期　間	平成 15 年 10 月 28 日（火）～10 月 31 日（金）

<table>
<tr><th colspan="2">時　　間</th><th>内　　容</th></tr>
<tr><td rowspan="4">第
1
日</td><td>１３：３０～１４：００</td><td>開会行事</td></tr>
<tr><td>１４：００～１４：３０</td><td>趣旨説明
「新学習指導要領における体験活動の位置づけ」
文部科学省初等中等教育局児童生徒課</td></tr>
<tr><td>１５：００～１６：３０</td><td>アイスブレイク
講　師　信州大学　平　野　吉　直</td></tr>
<tr><td>１７：００～２０：００</td><td>特別体験　「野外炊事を楽しむ」
講　師　中京女子大学　平　田　裕　一</td></tr>
<tr><td></td><td>２０：００～２２：３０</td><td>入浴，就寝準備</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第
2
日</td><td colspan="2">＜自然体験活動コース＞

選択実習　１　(9:00～12:20)
A．環境学習
B．コミュニケーション
C．情報機器の活用

講 師
A　信州大学　平野 吉直
B　中京女子大学　平田 裕一
C　静岡県ｷｬﾝﾌﾟｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ協会　太田 正義

※　選択実習１・２は，上のA～Cの中から２種目を選択し，グループごとにワークショップ形式で展開する。

選択実習　２　(13:30～16:50)

※　午前と別のプログラムを選択して体験する。</td><td>＜社会奉仕体験活動コース＞

事例発表　(9:00～11:00)
発表者
奈良県立香芝高等学校　葉山　康彦
神戸市長田区社会福祉協議会　長谷部　治
(有)人 イエ まち ネットワーク　山田　清

ミニシンポジウム　(11:00～12:20)
シンポジスト　事例発表者３名
長沼　豊
コーディネーター　池田　幸也

講　義　(13:30～14:30)
「ボランティア学習の理論」
講　師　常磐大学　池田　幸也

実　習　(14:30～16:50)
「ボランティア学習プログラムの課題」
指　導　池田幸也・長沼　豊

※　ボランティア学習プログラム開発につながる活動を体験的に行い，視野を広げるとともに，課題を探索する。</td></tr>
<tr><td>２０：００～２２：３０</td><td>入浴，就寝準備</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">第
3
日</td><td>＜自然体験活動コース＞

講　義　(9:00～10:00)
「自然体験活動プログラムの立案とその展開」
講　師　　信州大学　平野　吉直

実　習　(10:00～15:30)
「自然体験活動プログラムの企画・立案」
指　導　　平野吉直
助言者　　平田 裕一・太田 正義

※　第2日に実施した活動から1種目を選択して，種目別グループごとに，5～6人の小グループに分かれてプログラムを立案する。

(備考)　昼食・休憩時間は，各小グループごとに設定する。

グループ発表とまとめ(15:30～18:30)
指　導　　平野吉直
助言者　　平田 裕一・太田 正義

※　種目別グループごとに，小グループで立案したプログラムを体験しあい，研究協議を行う。</td><td>＜社会奉仕体験活動コース＞

講　義　(9:00～10:00)
「ボランティア学習プログラムの立案とその展開」
講　師　　学習院大学　　長沼　豊

実　習　(10:00～15:00)
「ボランティア学習プログラムの企画・立案」
指導・助言　　池田幸也・長沼　豊

※　ワークショップ形式で進め，この演習では課題毎に分かれた小グループで，学習指導計画（プログラム）を立案する。

(備考)　昼食・休憩時間は，各小グループごとに設定する。

グループ発表とまとめ(15:00～18:30)
指導・助言　　池田幸也・長沼　豊

※　企画した学習指導計画（プログラム）を発表しあい，研究協議を行う。それをもとに企画を練り直し，明日の発表の準備を行う。
　また，各自成果と課題を整理し，2日間のふりかえりとまとめを行う。</td></tr>
<tr><td>１９：３０～２１：３０</td><td>情報交換会
(注)　講師・参加者とともに意見交換・情報交換を行う。</td></tr>
<tr><td>２１：３０～２２：３０</td><td>入浴，就寝準備</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第
4
日</td><td>９：００～１１：３０</td><td>全体研究協議

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　　平野 吉直・池田 幸也
助　言　者　　平田 裕一・太田 正義・長沼　豊

(注)　グループで，立案したプログラムを発表し，プログラムを体験しあい，研究協議を行う。</td></tr>
<tr><td>１１：３０～１２：００</td><td>閉会行事（修了証書の交付等）

昼食後、自由解散</td></tr>
</table>

Ⅰ　研修概要

研修名	学校体育指導者中央講習会　（東部地区）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	小学校，中学校及び高等学校における体育指導者の資質の向上を図るとともに、都道府県における学校体育実技指導者講習会等の指導者の養成を図る。				
対象	指導主事又は小学校，中学校及び高等学校の教員等				
開催期日	平成１５年　５月２０日（火）　～　平成１５年　５月２３日（金）				４日間
参加人数	計画人数	４００人	受講者数	３７２人	（参加率）　９３．０％
開催場所	代々木オリンピック記念青少年総合センター（カルチャー棟・センター棟・スポーツ棟）、東京体育館、東京武道館、駒沢オリンピック公園等				

体育指導者中央講習会（３地区、東部地区・中部地区・西部地区）

参加人数	計画人数	１２００人	受講者数	１０６８人	（参加率）　８９．０％

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	221人	85.0%	36人	13.8%	0人	0.0%	3人	1.2%

２．研修内容に関する主な意見

○新しい情報を含め、自分が知らなかったことを習得できてたいへん勉強になった。。
○基本の運動をどう高学年へつなげるか、また目当てをどうもたせるか、授業の展開を考えるようになった。（基本の運動）
○講義・実技・研究協議いづれも高度な内容でとても勉強になった。（ゲーム）
○器械運動の技の系統的・段階的な学習活動が特に勉強になった。小さなステップをたくさんふませて、より上の段階へつなげるための指導が分かった。（器械運動）
○各地の先生方と実技指導法を通じて関わることが出来、これまでの実践を振り返り、整理する良い機会となった。（水泳）
○対象生徒のレベルが、高いように思う。自分の担当生徒は決してそれほど高くないので、もっと低いレベルの生徒の指導事例が聞きたかった。（剣道）
○記録等の配布をいただいて、とても配慮されていた。（卓球）
○小学校低学年から高学年までを見通した「ゲーム、～ボール運動」の考え方にたった指導は考え方を広げるものであり、小学校教員に伝えるべき大切なものであると感じた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度東部地区学校体育指導者中央講習会実施要項

1　目　的

小学校・中学校及び高等学校における体育指導者等の資質向上を図るとともに、都道県における学校体育実技指導者講習会等の指導者の養成を図る。

2　企　画

文部科学省

3　主　催

独立行政法人教員研修センター　　東京都教育委員会

4　地区、開催期日、開催地及び参加都道県

地　区	期　　日	開催地	参　加　都　道　県
東　部	５月２０日(火) ～２３日(金)	東京都	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、 福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京 神奈川、山梨　（１５都道県）

5　日　程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17
（第１日） ５月２０日(火)						受付	開会式	解　説	講師・運営委員長打合せ
（第２日） ５月２１日(水)		班　別　実　技			昼食	班　別　実　技			
（第３日） ５月２２日(木)		班　別　実　技			昼食	班　別　実　技			
（第４日） ５月２３日(金)	受付	班　別 研究協議		閉会式					

※開会式は午後２時、講師・運営委員長打合せは午後５時から行う。
※実技講習会、班別研究協議は９時３０分から行う。閉会式は各班ごとに行う。

6　講習内容

（1）解　説　「これからの学校体育の在り方　～指導と評価の一体化～」

文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター　研究開発部教育課程調査官
今関　豊一

（2）実技及び講師

小学校（５班）

① 基本の運動班　講師　赤松　喜久（大阪教育大学助教授）
② ゲ　ー　ム　班　講師　武隈　　晃（鹿児島大学助教授）
③ 器械運動班　講師　神家　一成（高知大学助教授）
④ 水　　泳　　班　講師　広川　俊男（新潟産業大学教授）
⑤ 表現運動班　講師　村田　芳子（筑波大学助教授）

Ⅰ　研修概要

研修名	学校体育指導者中央講習会　（中部地区）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	小学校，中学校及び高等学校における体育指導者の資質の向上を図るとともに、都道府県における学校体育実技指導者講習会等の指導者の養成を図る。				
対象	指導主事又は小学校，中学校及び高等学校の教員等				
開催期日	平成１５年　５月１３日（火）　～　平成１５年　５月１６日（金）				４日間
参加人数	計画人数	４００人	受講者数	３４４人	（参加率）　８６．０％
開催場所	大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）、大阪市立スポーツセンター、大阪府立体育館、大阪府教育センター、堺市金岡公園等				

体育指導者中央講習会（３地区、東部地区・中部地区・西部地区）

参加人数	計画人数	１２００人	受講者数	１０６８人	（参加率）　８９．０％

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	188人	70.9%	66人	24.9%	3人	1.1%	8人	3.0%

２．研修内容に関する主な意見

○技術指導面で競技力や技術の向上する中，指導方法も進歩していると思います。その様な観点で考えると今回の講習会はとても充実していたと思います。（陸上運動）
○教員としての視野の獲得，高度な知識，技術を習得までは達していないが，他県の教員との交流，情報交換を通して自分の物の見方や考え方に刺激を与える良い機会になったと思う。（陸上運動）
○我々の仕事はやはり「授業」なので，授業に使えるネタ，知識，技術をもっと身に付けたかった。（水泳）
○普段，文部科学省調査官の方や大学教授の方から直接講義を受ける機会が得られないので大変有意義な中央講習会であった。これまでの自分のつたない実践を振り返り，今後学校体育を担う役割について考える良い機会となった。（表現運動）
○自分の地区で研修担当をしていて様々な課題を持って参加させて頂きました。先生方との協議，講師の先生のご指導で概ね解決できたと思います。更に身につけたものを戻ってきたときに地区学校で広めていきたいと思う。
○個人差に対応する。段階を踏む。（系統性をおさえる）といった当たり前の部分について再認識したり，新たな視点を得たりする事が出来た。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度中部地区学校体育指導者中央講習会実施要項

1　目　的

小学校、中学校及び高等学校における体育指導者の資質向上を図るとともに、府県学校体育実技指導者講習会における指導者の養成を図る。

2　企　画

文部科学省

3　実　施

独立行政法人教員研修センター・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会

4　開催期日　　平成１５年５月１３日（火）～１６日（金）

5　開催地　　大阪府、大阪市

6　参加府県　　１５府県

北信越	長野県　新潟県　富山県　石川県　福井県
東　海	岐阜県　静岡県　愛知県　三重県
近　畿	滋賀県　京都府　大阪府　兵庫県　奈良県　和歌山県

7　日　程

	13:00	13:30	14:15	15:30		
第１日	５月１３日（火）		受付	開会式	解　説	
	9:00	9:15	12:15	13:15	16:15	
第２日	５月１４日（水）	受付	班別実技	昼食	班別実技	
第３日	５月１５日（木）	受付	班別実技	昼食	班別実技	
第４日	５月１６日（金）	受付	班別研究協議	閉会式		

＊閉会式は、各班ごとに行う。

＜開会式＞

平成１５年５月１３日（火）　１３時３０分～

〔受付〕　１３時００分～１３時２５分

〔会場〕　大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）

大阪市中央区大手前1丁目3番49号

ＴＥＬ　０６（６９１０）８５００

ＦＡＸ　０６（６９１０）８６２４

Ⅰ　研修概要

研修名	学校体育指導者中央講習会　（西部地区）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	小学校，中学校及び高等学校における体育指導者の資質の向上を図るとともに、都道府県における学校体育実技指導者講習会等の指導者の養成を図る。				
対象	指導主事又は小学校，中学校及び高等学校の教員等				
開催期日	平成１５年　５月　６日（火）　～　平成１５年　５月　９日（金）				４日間
参加人数	計画人数	４００人	受講者数	３５２人	（参加率）　８８．０％
開催場所	香川県県民ホール、香川県社会福祉総合センター、香川県立体育館、香川県立武道館、高松市立総合体育館等				

体育指導者中央講習会（３地区、東部地区・中部地区・西部地区）

参加人数	計画人数	１２００人	受講者数	１０６８人	（参加率）　８９．０％

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	218人	77.9%	53人	18.9%	0人	0.0%	9人	3.2%

２．研修内容に関する主な意見

○体育の教材研究がじっくりできた。幅広い視点からの分かりやすい解説・指導のおかけで期待以上の成果を得ることができた。
○活動の展開方法のバリエーションや、活動中に大切にしなければならない点、リーダーシップの取り方について研修、情報交換ができた。
○新学習指導要領における体育学習の進め方等。「授業づくり」の点が聞けなかったのは残念だが、その分、色々な教材を提供していただいたのは貴重だった。
○教材研究では十分準備できてない「場づくりの工夫」について色々体験でき参考になった。
○解説、実技講習を通して、自己の教育指導の見直しができた。今後の課題を踏まえ、具体的な指導法を考えることができた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

（3）研究協議

ア　開設する班ごとに研究協議を行うので、各県教育委員会の割当表（別紙２）に基づき、該当班の発表者１名を決定すること。

イ　協議題は、「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて」である。

8　日　程

日　時	9:00		12:00	13:00	14:00		16:00
第１日					受付	開会式	解　説
第２日		班別実技		昼食	班別実技		
第３日		班別実技		昼食	班別実技		
第４日		班別研究協議	閉会式				

（注）閉会式は班別に行う。

9　持参物

（1）参加者は次のものを持参すること。

ア　受講に必要な服装、筆記用具、共済組合員証

イ　小学校学習指導要領解説体育編　（平成１１年５月）

ウ　中学校学習指導要領解説保健体育編　（平成１１年９月）

エ　高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編　（平成１１年１２月）

（2）参加班別

区分	班	持参物・資料等
小学校	基本の運動	屋外及び屋内シューズ
	ゲーム	屋外及び屋内シューズ
	器械運動	屋外及び屋内シューズ
	水泳	水泳着、着衣泳用服装（トレーナー、Ｔシャツ、トレーニングパンツまたは長ズボン）、空のペットボトル（１L～0.5L）１本
	表現運動	屋内シューズ(底の薄いもの)、40Lゴミ袋1枚、新聞朝刊２日分、講習の中で「お国自慢（地域の踊りの紹介）」の時間を予定しています。地域で長く親しまれている踊りや新しい踊りなど各県で１曲無理のない範囲で紹介し合います。紹介する踊りの音楽と衣装・小道具を無理のない範囲で用意してください。 また、その解説資料を５０部持参してください。
中高等学校	陸上競技	屋外及び屋内シューズ
	バレーボール	屋内シューズ
	卓球	屋内シューズ、卓球用具
	柔道	柔道着、Ｔシャツ、タオル
	レスリング	レスリングシューズ、とび縄、運動着

（3）宿舎及び実技会場には、十分な駐車場がないので留意すること。

（4）全体会・班別研究協議については、それぞれ適切な服装で参加すること。

（5）本講習会の全日程を修了した者については、修了証書を授与する。

Ⅰ　研修概要

研修名	健康教育指導者中央研修会				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校における健康教育に関する研修を行い、教職員等の指導力の向上に質することとする。				
対象	小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の健康教育（保健教育、安全教育、給食指導）に関して指導的立場にある教員並びに都道府県及び市（政令指定都市及び中核市を含む。）町村教育委員会の健康教育担当指導主事。				
開催期日	平成１５年１０月１５日（水）　～　平成１５年１０月１７日（火）				３日間
参加人数	計画人数	２１０人	受講者数	２４８人	（参加率）　１１８．１％
開催場所	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	121人	54.0%	90人	40.2%	1人	0.4%	12人	5.4%

２．研修内容に関する主な意見

○具体的な実践事例をもとにした講義が多く、得るものが多かった。「演習１」では保健学習における評価について協議しあえたことは大変勉強になった。
○指導要領の解説や説明など日頃詳しく読んでいないので勉強になった。重複する部分も多かったが強調されて重要なことだと理解した。
○大学の教授、専門機関の方々の話を聞くことができ大変良かった。今日的な課題、現在の動向をつかむことができた。資料が小中高一緒になっていて参考になった。
○現代の流れに沿う健康教育の在り方を聞けて良かったと思う。
○実践発表はアイディアにとんでいて、これからの指導にすぐに役立つ内容だった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度 健康教育指導者中央研修会日程一覧

会場 ： 独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター

月日		会場 9:30	10:00	10:30	11:30	12:30	14:00 部会	14:15	15:30	16:00	17:00
10月15日(水)	全体会	国際交流棟 国際会議室	受付	開会式	解説1 「学校における健康教育の充実」 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田芳雄	昼食	講演 「総合的な学習の時間と健康」 鳴門教育大学 教授 村川雅弘	保健安全 小中高 センター棟 101 (200)	解説2 「喫煙、飲酒及び薬物乱用防止に関する指導」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育企画室 健康教育調査官 鬼頭 英明	休憩	解説3 「心の健康に関する指導」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育企画室 健康教育調査官 釆女 智津江
								学校給食 センター棟 416 (160)	解説4 「学校給食の食事内容と衛生管理の充実」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 金田 雅代		解説5 「食に関する指導」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 小川 達也

月日	部会	会場 9:30	10:50	11:10	12:30	13:30	14:50	15:10	16:30
10月16日(木)	保健安全 小	センター棟 402(120)	講義1 「毎日の生活と健康」 ～子どもの生活と健康状態～ 大妻女子大学 人間生活科学研究所 教授 大澤清二	休憩	講義2 「病気の予防」 ～生活習慣病の予防～ 鳥取大学 教育地域科学部 助教授 國土将平	昼食	講義3 「けがの防止」 ～人の行動や環境に潜む危険～ 東京学芸大学 助教授 渡邉正樹	休憩	講義4 「育ちゆく体とわたし」 ～子どもの体の発達・発育～ 東京女子医科大学 名誉教授 和洋女子大学 教授 村田光範
	保健安全 中	国際交流棟 国際第1ミーティング	講義5 「心身の機能の発達と心の健康」 ～思春期の心身の発育・発達～ 東京大学大学院教育学研究科 教授 衛藤 隆		講義6 「傷害の防止」 ～自然災害時の危険～ 株式会社社会安全研究所 ヒューマンファクター研究部長 首藤由紀		講義7 「健康と環境」 ～空気や飲料水の衛生的管理～ 神戸大学 教授 石川哲也		講義8 「健康な生活と疾病の予防」 ～生活習慣病の予防～ 東京医科歯科大学 教授 河原和夫
	保健安全 高	国際交流棟 国際第1ミーティング	講義9 「現代社会と健康 Ⅰ」 ～ヘルスプロモーション～ 東京都立大学大学院都市科学研究科 教授 星 旦二		講義10 「現代社会と健康 Ⅱ」 ～感染症の予防～ 国立感染症研究所感染症情報センター 第三室長 多屋馨子		講義11 「生涯を通じる健康」 ～保健医療制度と地域の保健医療機関の活用～ 産業医科大学 教授 松田晋哉		講義12 「社会生活と健康」 ～環境の汚染と健康～ 大分大学 教授 吉岡義正
	教科保健 指導主事	センター棟 513(80)	演習1 教科「保健」の評価規準の作成及び評価方法の工夫 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田芳雄 同 学校健康教育課健康教育企画室 健康教育調査官 鬼頭英明 同 企画・体育課 教科調査官 今関豊一			昼食	演習1 教科「保健」の評価規準の作成及び評価方法の工夫 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田芳雄 同 学校健康教育課健康教育企画室 健康教育調査官 鬼頭英明 同 企画・体育課 教科調査官 今関豊一		
		9:30		11:30	12:30		14:30		
	学校給食	センター棟 304(80)	講義13 「食中毒発生時に見る学校の危機管理」 科学ジャーナリスト 馬場錬成			昼食	講義14 「食生活学習教材を活用した食に関する指導」 日本体育大学教授 成田國英	休憩	講義15 「総合的な学習の時間における食に関する指導」 岐阜大学教授 北 俊夫

月日	部会	会場 9:30	10:30	10:45	12:00	12:35	13:35	15:00	15:35
10月17日(金)	保健安全 小	センター棟 403(80)	講義16 「特別活動における保健指導の進め方」 埼玉県教育局生涯学習部 健康教育課指導主事 中川一美	休憩	講義19 「実践力を育てるための保健学習の考え方、進め方」 筑波大学助教授 野津有司	昼食	演習2 「実践力を育てるための保健学習の指導と評価の工夫」 筑波大学 助教授 野津有司 栃木県教育委員会保健体育課 指導主事 森 良一		閉会式
	保健安全 中	センター棟 405(80)	講義17 「特別活動における保健指導の進め方」 千葉県教育庁教育振興部 学校保健課指導主事 柴崎秀一		講義20 「実践力を育てるための保健学習の考え方、進め方」 宇都宮大学教授 和唐正勝		演習3 「実践力を育てるための保健学習の指導と評価の工夫」 宇都宮大学 教授 和唐正勝 宇都宮市教育委員会学校体育課 指導主事 横嶋剛		閉会式
	保健安全 高	センター棟 409(80)	講義18 「特別活動における保健指導の進め方」 東京都教育庁 指導部 主任指導主事 薄井和久		講義21 「実践力を育てるための保健学習の考え方、進め方」 千葉大学教授 高橋浩之		演習4 「実践力を育てるための保健学習の指導と評価の工夫」 千葉大学 教授 高橋浩之 千葉県立若松高等学校 教諭 長岡知		閉会式
	学校給食	センター棟 304(80)	実践発表及び研究協議1 「食に関する指導について」 発表校 熊本県熊本市立芳野小学校 学校栄養職員 田口典子 岐阜県関市学校給食センター 学校栄養職員 土屋ひろ子 岐阜県関市立倉知小学校 養護教諭 高橋弘子			昼食	実践発表及び研究協議2 「学校給食の衛生管理について」 発表校 香川県財田町立和光中学校 学校栄養職員 真鍋美枝子 滋賀県八日市市立南小学校 校長 森田睦人		閉会式

注1 上記の講義、演習等のうち、2時間を超えるものについては、原則休憩を適宜設ける予定。

注2 研修室(教室番号)については、会場の都合で変更になることがある。

Ⅰ　研修概要

研修名	先端技術体験プログラム　（工業：K－1）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	専門高校においては、産業社会の進展に対応した最新の知識や技術を身につけ、我が国の産業社会を支える人材を育成することが期待されており、教員自身も先端の技術に触れ、専門高校における教育についても技術革新を視野に入れたものとすることが求められる。このため、専門高校の教員に対して、先端の技術に触れさせる作業・実習を伴った研修を実施し、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の工業担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　８月１８日（月）　～　平成１５年　８月２１日（木）				４日間
参加人数	計画人数	３０人	受講者数	３０人	（参加率）　１００．０％
開催場所	宇宙開発事業団筑波宇宙センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

1．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	23人	76.7%	7人	23.3%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

2．研修内容に関する主な意見

○研修時期、宿泊施設、研修会場、研修内容すべてよかったと思います。
○最先端の施設・設備を見学でき、そこで活躍される方々の話を聞くことが出来、技術に対する情熱・挑戦する心が伝わってきました。
○最も身近な宇宙の生活を学べました。宇宙飛行士を目指す人間が今後多く必要になると思もいました。
○モデルロケットの製作や打ち上げに難しさに、「科学する」ことの楽しさが伝わり、今後の教育（物づくり教育）に役たちそうです。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度先端技術体験プログラム

（工業，K－1）

社団法人全国工業高等学校長協会

日時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
8月18日（月）			受付		オリエンテーション ＆ 文科省挨拶講話	講　演（守ろう地球 目指そう宇宙）		施設見学（筑波宇宙センター）	
8月19日（火）		講義・実習（衛星データ利用）		昼休み	講義・実習（衛星データ利用）		講　義（環境試験）総合環境試験棟見学		
8月20日（水）		講　義（国際宇宙ステーション）	講　義（ロケットについて）	昼休み	講　義（モデルロケット）		実　習（モデルロケットの製作と打ち上げ）		
8月21日（木）		講　義（宇宙活動を支える先端的技術）		閉講式					

実施場所　　宇宙開発事業団　筑波宇宙センター

Ⅰ　研修概要

研修名	先端技術体験プログラム　（水産：Ｋ－２）				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	専門高校においては、産業社会の進展に対応した最新の知識や技術を身につけ、我が国の産業社会を支える人材を育成することが期待されており、教員自身も先端の技術に触れ、専門高校における教育についても技術革新を視野に入れたものとすることが求められる。このため、専門高校の教員に対して、先端の技術に触れさせる作業・実習を伴った研修を実施し、指導者としての資質の向上を図る。				
対象	高等学校の水産担当教員等又は教育委員会の関係指導主事				
開催期日	平成１５年　８月１９日（月）　～　平成１５年　８月２１日（木）				３日間
参加人数	計画人数	２４人	受講者数	１５人	（参加率）　６２．５％
開催場所	日本無線株式会社三鷹製作所				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	11人	78.6%	3人	21.4%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○無線通信に関する研修はどこでも出来るものではなく、各種機器・設備の整った最先端技術の企業での体験・研修をさせていただくことができ、教育活動に大いにプラスになった。
○今後の移動体通信の核となる最新の知識や技術を研修することができた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　先端技術体験プログラム日程

（水産　K－２）

全国水産高等学校長協会

月日	9 30 10 30 11 30 12	13 30 14 30 15 30 16 30 17
8月19日（火）	受付 開講式 所管事項説明 （文部科学省落合調査官） 講義 無線ＬＡＮとセキュリティについて	昼休み 講義 スペクトラム拡散通信の原理と現状 講義 携帯電話・ＰＨＳの現状 見学 構内見学
8月20日（水）	講義 高速デジタルネットワーク 講義 マイクロ多重無線ネットワーク	昼休み 講義 衛生通信ネットワーク 講義 公共用デジタル移動通信システム 講義 ＩＰ通信網におけるワイルス対策 見学 自営用通信機器の見学
8月21日（木）	講義 インマルサットの海事衛星通信システムの現状と将来 講義 ＨＳＤ通信回線とマルチメディヤ通信の現状 実習 インマルサットの海事衛星通信システムとＨＳＤ通信回線とマルチメディア通信の実習	昼休み 講義 海上における地上波型無線通信及びＧＭＤＳＳ関連機器の現状ト将来 実習 ＧＭＤＳＳ関連機器実習 講義 ＧＰＳの現状と将来 閉講式

Ⅰ　研修概要

研 修 名	公立小・中学校中堅事務職員研修講座				
担当課係	研修事業第二課　国内短期研修係				
研修目的（趣旨）	公立の小学校及び中学校の事務職員に必要な研修を行い、事務職員の資質の向上を図り、もって学校の運営に資する。				
対　　象	公立小学校及び中学校の中堅事務職員				
開催期日	平成１５年　７月１４日（月）　～　平成１５年　７月１８日（金）				５日間
参加人数	計画人数	１００人	受講者数	１０２人	（参加率）　１０２．０％
開催場所	独立行政法人教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	72人	72.0%	23人	23.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	5人	5.0%

２．研修内容に関する主な意見

○全国の事務職員と交流することができ，良い刺激を受けた。
○講義内容と課題研究のテーマ設定が明確であったので，班別活動の進め方，内容，成果，すべてにおいて充実していた。
○講師の話すスピードが速く，聞き取りにくいことがあった。
○民間の講師の講義を増やしてほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度公立小・中学校中堅事務職員研修講座日程表

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
7月14日(月)						受付 13:00～14:10	オリエンテーション 14:10～14:50	開講式	講義１「学校教育の課題と事務職員の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課課長補佐 緒方 誠 15:30～17:00	資料交換 17:00 17:30	懇親会 18:00～20:00	
7月15日(火)	課題研究 9:00～10:15		講義２「地方教育行政について」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課専門官 塩飽 志野 10:30～12:00	昼食 12:00～13:00	講義３「総合学習と事務職員のかかわり」 練馬区立大泉東小学校主査 浅川 晃造 13:00～14:30		講義４「学校経営の現状と課題」 大三区立田園調布中学校長 石橋 昭 14:45～16:15		課題研究 16:30～17:30			
7月16日(水)	課題研究 9:00～10:15		講義５「教育課程の改善」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課課長補佐 大木 茂 10:30～12:00	昼食 12:00～13:00	講義６「生き抜く力と自己責任」 社団法人経済同友会政策調査部 マネージャー 小林 浩 13:00～14:30		課題研究 14:45～16:15		課題研究 16:30～17:30			
7月17日(木)	課題研究 9:00～10:15		講義７「教育財政について」 文部科学省初等中等教育局財務課 教育財政室室長補佐 第戸 健二 10:30～12:00	昼食 12:00～13:00	課題研究 （討議・発表） 市川市立鬼高小学校事務長 加藤 善久 武蔵野市立第四小学校主任 丹治 益栄 13:00～17:00							
7月18日(金)	自由研究 9:00～9:45		講義８「現代の子どもの現状と課題」 国立教育政策研究所次長 小田 豊 10:00～11:30	閉講式								

※講師の都合により日程が変更になる場合があります。

Ⅰ　研修概要

研修名	養護教諭中央研修会				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	いじめ、不登校、保健室登校等、児童生徒が抱える心身の健康問題などの解決は緊急な教育課題となっており、養護教諭の果たす役割はますます重要となってきている。 そのため、養護教諭を対象に、専門的な知識・技術に関する研修を行い、その資質の向上を図る。				
対象	小学校、中学校，高等学校，中等教育学校及び盲・聾・養護学校の中堅的養護教諭で今後それぞれの地域において指導的役割を果たす者（平成１２年度以前の参加者を除く）並びに各教育委員会において養護教諭の指導を担当する者。				
開催期日	平成１５年１２月　１日（月）　～　平成１５年１２月　５日（金）				５日間
参加人数	計画人数	２４０　人	受講者数	２１７　人	（参加率）　９０．４％
開催場所	独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	120人	61.2%	60人	30.6%	0人	0.0%	16人	8.2%

２．研修内容に関する主な意見

○各県の指導的な方の研修会ということをふまえると、基礎的な内容が多い講義もあった。
○学校におけるアレルギー疾患の管理と指導の講義は最新のデータ資料で良かった。
○行政説明では内容が一部重複し、説明が時間内に収まらず、大切な所を省かれた様に感じた。
○課題別研究協議では質疑応答に終始し、研究協議がなく、指導助言も短く残念だった。
○養護教諭の職務について（現代的な課題に対応した）総括的に学ぶ事が出来、改めて整理できた。また自分になかった視点を多く発見でき成果があった。
○講義内容を全体的にもっと焦点化して欲しい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　養護教諭中央研修会日程一覧

	会場	9:30	10:00	10:15	10:50	11:00	12:00	13:00	14:00	14:15	15:15	15:30	16:30
12月1日（月）	国際会議室 国際交流棟		受付	開会式	休憩	行政説明１ 「健康教育の現状と課題」 文部科学省ｽﾎﾟｰﾂ・青少年局 学校健康教育課長 大木　高仁	昼食・休憩	行政説明２ 「養護教諭を取り巻く課題への対応」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育調査官 采女　智津江	休憩	行政説明３ 「学習指導要領と健康教育」 －総合的な学習の時間を中心に－ 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田　芳雄	休憩	行政説明４ 「学校環境衛生の課題と対応」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育調査官 鬼頭　英明	休憩	行政説明５ 「保健管理と行政的対応」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課専門官 大竹　輝臣

	会場	10:00	11:00	11:10	12:30	13:30	15:00	15:15	16:30
12月2日（火）	国際会議室（セミナーホール） ４１７研修室 センター棟	受付	講義１ 「組織活動の推進と連携の在り方」 －学校保健委員会活動を通して－ 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育調査官 采女　智津江	休憩	講義２ 「学校におけるアレルギー疾患の管理と指導」 国立療養所 南福岡病院長 西間　三馨	昼食・休憩	講義３ 「感染症の新たな課題への対応」 －ＳＡＲＳ・結核等を中心に－ 国立感染症研究所　感染症情報センター長 岡部　信彦	休憩	講義４ 「非常災害時における子どもの心のケアと養護教諭の役割」 近畿大学　名誉教授 花田　雅憲

	会場	10:00	11:30	12:30	16:30
12月3日（水）	国際会議室（セミナーホール） ４１７研修室 センター棟	受付	講義５ 「不審者侵入時等の学校の危機管理体制」 東京学芸大学　助教授 渡邉　正樹	昼食・休憩	講義６・演習 「保健学習の考え方、進め方の理論と実際」 ＜小学校部会＞　筑波大学 体育科学系 助教授　野津　有司 ＜中学校部会＞　宇都宮大学 教育学部 教授　和唐　正勝 ＜高等学校部会＞　千葉大学 教育学部 教授　高橋　浩之

講義・演習会場
センター棟
小：４１７研修室
中：４０３研修室
高：４０９研修室

	会場	10:00	(12:00)	(13:00)	14:45	15:00	16:30
12月4日（木）	国際会議室（セミナーホール） ４１７研修室 センター棟	受付	〔課題別研究協議〕 第１課題　保健指導、保健学習の進め方 助言者　福井大学教育地域科学部附属中学校養護教諭 木下　洋子　スポーツ・青少年局体育官　戸田　芳雄 第２課題　保健管理の進め方 助言者　東京大学大学院　教育学研究科 教授　衛藤　隆　学校健康教育課 健康教育調査官　鬼頭　英明 第３課題　健康相談活動の進め方 助言者　京都市教育相談総合センター　専門主事 市木　美知子　学校健康教育課 健康教育調査官 采女　智津江	昼食・休憩	◎昼食・休憩の時間帯は目安。	休憩	講義７ 「心の健康と生活習慣に関する指導」 女子栄養大学　教授 三木　とみ子

会場
第１課題
第１ミーティングルーム
第２課題
４０３研修室
第３課題
４１７研修室

	会場	10:00	11:30	12:30	14:00	14:10	15:10	15:30
12月5日（金）	国際会議室 国際交流棟	受付	講義８ 「喫煙、飲酒、薬物乱用に関する指導」 －養護教諭が行う効果的な指導－ 神戸大学　教授 川畑　徹朗	昼食・休憩	講義９ 「性教育の在り方、進め方について」 －学校における性教育の課題－ 田能村教育問題研究所長 田能村　祐麒	休憩	講義１０ 「学校経営と養護教諭」 －学校経営の観点から養護教諭へ望むこと－ 愛知県立春日井高等養護学校長 岡田　禮子	閉会式

Ⅰ　研修概要

研修名	保健室相談活動研修会				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	いじめ、不登校、ナイフによる問題行動、保健室登校など児童生徒が抱える心の健康問題等の解決は緊急な教育課題となっている。 これらの問題を解決するためには、保健室における健康相談活動の充実、とりわけ養護教諭資質の向上を図る必要がある。そのため、保健室を訪れる児童生徒への対応の充実を図るため、養護教諭を対象に保健室における健康相談活動の知識や技術に関する研修を行い、その資質の向上を図る。				
対象	小学校、中学校，高等学校，中等教育学校及び盲・聾・養護学校の養護教諭で保健室における相談活動に関し、各都道府県及び市（指定都市及び中核市を含む。）において指導的役割を果たす者並びに各教育委員会において養護教諭の指導を担当する者。				
開催期日	平成１５年　７月　８日（火）　～　平成１５年　７月１１日（金）				４日間
参加人数	計画人数	２００人	受講者数	１７４人	（参加率）　８７．０％
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	106人	72.6%	36人	24.7%	1人	0.7%	2人	1.4%

２．研修内容に関する主な意見

○今までの保健室での対応を見直し、反省すべき点が多くあげられました。著名な研究者の先生方のご講義を受け、とても勉強になった。
○日頃の悩みを事例研究を通して研修することが出来た。今後の参考にしたい。
○他県の教員との短い時間での討議や構成的エンカウンターグループでのふれあいはあったが、もう少しゆったりとした時間帯でもう一歩進んだ深まりのある交流が持てると良かったと思う。
○県内において養護教諭の資質の向上研修に大変役立つ内容で、考え方が整理できた。また、他県の取り組みについて情報を得ることができた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　保健室相談活動研修会　日程一覧

	会場	9:30	10:00	10:10		10:50	11:00		12:00	13:00			16:30	16:45		17:30
7月8日（火）	国際交流棟 国際会議室		受付	開会式	行政説明１「健康教育の現状と課題」文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課長 中岡　司【衛星配信予定】	休憩	行政説明２「保健室における健康相談活動と養護教諭の役割」文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育企画室 健康教育調査官　釆女智津江【衛星配信予定】		昼休・食憩	講義１「学校教育とカウンセリングの基本」筑波大学教授　渡辺 三枝子			休憩	班別事例研究のための打合せ会		

	会場	10:00		12:30	13:30		14:30	14:40		16:30
7月9日（水）	国際交流棟 国際会議室	受付	講義２「養護教諭の行う健康相談活動の理論と実際」女子栄養大学教授　三木 とみ子	昼休・食憩	講義３「健康相談活動における連携の在り方と進め方」千葉大学助教授 岡田 加奈子	休憩	講義４「心の健康問題と身体症状」横浜労災病院 心療内科部長 江花 昭一			

		10:00		11:30	12:30				16:30
7月10日（木）		受付	講義５「児童生徒の心の発達と課題や問題行動への対応」近畿大学名誉教授　花田 雅憲	昼休・食憩	部会別実習　「養護教諭の行う健康相談活動の理論と実際」				

会場	国際交流棟　国際会議室

		指導助言者	
第１部会	１１０	女子栄養大学教授	三木 とみ子
第２部会	３０６	愛知女子短期大学教授	徳山 美智子
第３部会	３０７	京都市教委総合教育センター専門主事	市木 美知子
第４部会	４０４	千葉大学助教授	塩田 瑠美
第５部会	４１４	世田谷区立砧南中学校養護教諭	中村 泰子
第６部会	４１５	川口市立戸塚中学校養護教諭	村木 久美江

会場	センター棟

		10:00		11:00	11:10		15:15	15:30
7月11日（金）		受付	講義６「健康相談活動における事例研究の意義と基本」愛知女子短期大学教授　徳山 美智子	休憩	班別事例研究「健康相談活動の事例研究の進め方と実際」		閉会式	

小学校	第１班	岩手県	５０４	中学校	第３班	埼玉県	国際ミ１	高校	第４班	山梨県	４１１
	第２班	福島県	５０５		第６班	京都府	国際ミ１		第７班	和歌山県	４１２
	第５班	静岡県	５０６		第９班	佐賀県	国際ミ２		第１０班	沖縄県	４１３
	第８班	徳島県	５０７								

*12:30～13:30まで昼食・休憩

会場	国際交流棟　国際会議室	会場	センター棟

＊　行政説明１及び行政性説明２については、平成１５年８月上旬にエルネットを活用した衛星配信研修として配信する予定。
（各都道府県内における受信・再配信計画については、各都道府県教育委員会の本研修会担当課にご確認願います。）

Ⅰ　研修概要

研 修 名	学校栄養職員等研修会				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	学校栄養職員等の専門知識を深め、指導力の向上を図るための研修を行い、もって学校給食の普及充実に質する。				
対　　象	学校給食を実施する学校又は学校給食共同調理場に１５年以上勤務する学校栄養職員（原則として既受講者は除く。）及び教育委員会に勤務する栄養指導担当者。				
開催期日	平成１５年　９月　９日（火）　～　平成１５年　９月１２日（金）				４日間
参加人数	計画人数	１００人	受講者数	９４人	（参加率）　９４．０％
開催場所	独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	79人	84.9%	10人	10.8%	0人	0.0%	4人	4.3%

２．研修内容に関する主な意見

○指導者としての実力を身につけるための研修としては非常に良かった。身の引き締まる思いがした。地場産物利用や教職員への食に関する指導の働きかけ等、足を踏み入れたばかりの事柄等の指導も伺うことができ、今後、進めていかなければならないものの方向づけが少し見えてきたように思う。

○食に関する指導、衛生管理についてこの方法でよいのか迷いながらの実践であることと、マンネリ化しつつある自分の仕事について見直し、反省することばかりでした。学校へのアプローチの仕方、やれない、できない、とあきらめていた様々な事に対して具体的な方法や考え方を学ぶことができました。また、様々な施策についてしっかりとその必要性を理解することができた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度　学校栄養職員等研修会　日程一覧

9月9日（火）

9:30	10:00	10:10	11:00	12:00	13:00	14:15	14:25	15:40	15:45	17:00
	受付	開会式	行政説明１ 「学校給食の現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課長 大木高仁	講義１ 「健康教育の推進について」 東京大学大学院 教育学研究科　教授 衛藤隆	昼休・食憩	行政説明２ 「保健学習の中で取り組む食に関する指導」 文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田芳雄	休憩	講義２ 「生活習慣病予防と食生活」 徳島大学医学部栄養学科 実践栄養学講座　教授 山本茂	休憩	講義３ 「公衆衛生領域における栄養管理」 滋賀医科大学 教授 上島弘嗣

会場　センター棟　４１６室

9月10日（水）

9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:15	14:25	15:40	15:45	17:00
受付	行政説明３ 「学校給食栄養所要量の基準の改訂について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課学校給食調査官 金田雅代	休憩	行政説明４ 「学校教育活動全体で取り組む食に関する指導」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課学校給食調査官 小川達也	昼休・食憩	講義４ 「検査データを活用した個別指導について」 昭和女子大学大学院 生活機構研究科　教授 戸谷誠之	休憩	講義５ 「食物アレルギーについて」 国立成育医療センター 総合診療部小児期診療科 医長　赤澤晃	休憩	実践発表 「地域と連携した地場産物の活用について」 ◎秋田県教育庁保健体育課 吉原朋子 ◎千葉県佐倉市教育委員会 高田久子

会場　国際交流棟　国際会議室

9月11日（木）

9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:15	14:30	17:00
受付	講義６ 「食生活に関する個別指導について」 神奈川県立保健福祉大学　教授 中村丁次	休憩	講義７ 「栄養士が行う個別指導の実際」 食生活アドバイザー 宗像伸子	昼休・食憩	講義８ 「食生活学習教材を活用した食に関する指導」 神戸大学発達科学部 教授 丸谷宣子	休憩	講義９及び実践発表 「食生活学習教材を活用した食に関する指導の実際」 【実践発表】 ◎埼玉県　持木はるみ ◎東京都　梅野みどり ◎岐阜県　安藤千香 ◎香川県　神野久子 【講義】 日本体育大学　教授 成田國英

会場　国際交流棟　国際会議室

9月12日（金）

9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:00	15:00	15:30
受付	行政説明５ 「学校給食衛生管理の基準の改訂について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課学校給食調査官 金田雅代	休憩	講義10 「食中毒の発生状況と学校給食の課題」 共立薬科大学　客員教授 中村明子	昼休・食憩	実践発表及び研究協議 「衛生管理責任者の役割」 【実践発表】 ◎　愛知県西加茂郡三好町立学校給食センター 学校栄養職員　橋本明子 ◎　滋賀県八日市市立御園小学校 栄養主査　奥野明美 【研究協議】	閉会式	

会場　センター棟　１０１室

Ⅰ　研修概要

研 修 名	国立学校等幹部職員研修（部長級）					
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係					
研修目的（趣旨）	国立学校等の新任の部長級幹部職員に対し、その職務の遂行に必要な広範な行政的識見のかん養及び高度の管理能力の充実を図り、もって国立学校等の円滑な管理運営に資することを目的とする。					
対　　象	平成１４年度の本研修後に新たに国立学校等の部長等、厚生補導に関する部の次長、事務部次長及び管理部次長に就任した者のうち、各機関の長の推薦を受けて、独立行政法人教員研修センターが、文部科学省と協議の上決定する。					
開催期日	平成１５年１１月２６日（水）　～　平成１５年１１月２８日（金）					３日間
参加人数	計画人数	９０人	受講者数	１３２人	（参加率）	１４６．７％
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	60人	46.2%	64人	49.2%	1人	0.8%	0人	0.0%	5人	3.8%

２．研修内容に関する主な意見

【講義等全般】

○有意義な研修で、実りのあるものであった。
○時期に合ったテーマについて、参考になる講義・演習を受けることができた。
○法人化という大きなテーマのもと、それぞれの講義が一体となって、相互に関連し合って全体的把握ができ、大学運営の要となる部長職としての自覚を深めることができた。
○法人化への移行直前でもあるので、「リーダーの危機管理」「民間企業の人材と経営」「私立大学の経営」は大変参考になった。
○講義内容は役立つものであったが、一方通行。講師とのディスカッション（及び質疑応答）の場を設定した方がよい。
○可能ならば、私立大の現場で、担当者との意見交換の場が設けられるとかなり有効だと思う。（班別ぐらいの人数で）

【演　習】

○法人化を目前にして、具体的な課題の提供と解決のための方策について各々の経験に基づいた意見が活発に出され、非常に参考になった。
○分野別に偏らない班構成で、各機関の情報が広く得られた。
○職種混合型だったため、テーマに対する討議が一般論の域を出ず、具体的な突っ込んだ議論にならなかった。（複数回答）
○先行独法は別にした方が主体的に討議に参加しやすい。
○病院系は特化した問題を協議できるので、まとめてもらえれば、法人化の最終段階であり、情報交換等が突っ込んでできたのではないか。
○時間が短い。全体で３時間程度は欲しい（受講生の自己紹介シートに沿った説明・意見発表には一人５分は必要であり、そうすると１時間は費やされる。意見交換には２時間は必要。）。
○可能ならば各班に私大や公立大の職員（経営・人事等）の方を参加させていただきたい。
○もう１テーマあってもよいと思う（別グループで）。
○テーマが大きかった。もっと絞り込んだ形でのテーマ設定が望ましい。（複数回答）
○統一テーマの場合は職務別、テーマが別の場合は各人から希望を取った方がよい。
○演習題・協議題・情報交換テーマ等を予め参加者から募り準備させれば効率的・効果的な演習が期待できると思う。
○全体発表があった方が班別討議に力が入る。
○一日ごとに一コマずつ演習を入れる方がよいのではないか。

【希望する講義テーマ等】
○メンタルヘルス面の講演（危険な症状となった職員(部下)との対応・予防方法）
○先行している法人の成功例・失敗例（特殊法人よりは美術館・博物館等）
○文系の研究動向の概論（理工系の研究動向は情報が多いが、文系は不足がちであるため）
○事務系職員の資質・能力の向上について
○民間企業のトップマネジメント
○海外の大学における経営と運営の実状
○部長として求められる企画・調整・先見・提案等に係る具体的な方法論等についての、実践的な研修
○運営費交付金の仕組み（今後、どの様な方向で進むのか等）
○地域貢献とは
○産学連携について
○今回の国立大学法人制度について高等教育局の法人化担当からの説明があれば良かった（すべての受講者が理解しているとは思えないので）。
○国立大学の経営力
○リーダーシップに関する講義
○教官関係者との意見交換会
○（今回のような）先端的な研究成果等
○リーダーによる財務諸表の見方
○私立大学の経営について（私大の職員が少ないと聞くが、国立大学の職員と比較で役割(業務分担等)について聞きたい）
○全体的に質問の時間を設定すべき

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度　国立学校等幹部職員研修（部長級）〔日程〕

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

１１月２６日（水）	１１月２７日（木）	１１月２８日（金）
	9:00 【講　義】 民間企業の人材と経営 東日本旅客鉄道（株） ＪＲ東日本研究開発センター フロンティアサービス研究所 所長　江上 節子 ９０分	9:00 【講　義】 法人経営の実際 独立行政法人日本学術振興会 理事　中西 釦治 ９０分
10:00 受　　付		
10:30 開　講　式 （文部科学省大臣官房人事課長） オリエンテーション・記念撮影	10:30 休　　憩	10:30 休　　憩
11:00 【講　義】 国立大学等を取り巻く課題と状況について 大阪大学 事務局長 北見 耕一 ９０分	10:40 【講　義】 私立大学の経営 法政大学 総長・理事長 清成 忠男 ９０分	10:40 【特別講義】 最先端科学技術研究の現状と未来 －宇宙太陽発電研究を中心に－ 京都大学 宙空電波科学研究センター 教授　松本　紘 ９０分
12:30 休　　憩	12:10 休　　憩	12:10 休　　憩 12:20 閉　講　式 （修了証書の交付） 12:40
13:40 【講　義】 リーダーの危機管理 株式会社 電通パブリック リレーションズ コミュニケーション推進室 リスクコンサルティング部 プロデューサー 伊原 正俊 １２０分	13:20 【演　習】 班 別 討 議　Ⅰ 自己紹介シートを各班内で交換し、自己紹介及びテーマに沿った討議を行う。 （班構成は職種混合型とする。） ９０分	
15:40 休　　憩	14:50 休　　憩	
15:50 【講　義】 職員の服務 文部科学省大臣官房人事課 審査班 主査 出澤　忠 ７０分	15:00 【演　習】 班 別 討 議　Ⅱ 各班内で討議を進め、討議の取りまとめを行う。 １２０分	
17:00	17:00	

17:30
情　報　交　換　会
19:00　国際交流棟（レセプションホール）

Ⅰ　研修概要

研修名	国立大学等幹部職員研修（課長級）・国立大学事務長研修					
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係					
研修目的（趣旨）	国立学校等の新任の課長級幹部職員及び国立大学の事務長に対し、その職務の遂行に必要な広範な行政的識見のかん養及び高度の管理能力の充実を図り、もって国立学校等の円滑な管理運営に資することを目的とする。					
対象	「平成１４年度国立学校等幹部職員研修（課長級）」実施後に新たに国立大学等の課長又は課長相当職（室長は含む）に就任した者のうち、各機関の長の推薦を受けて、独立行政法人教員研修センターが、文部科学省と協議の上、決定する。（事務長研修を受講した者は除く。） また、「平成１４年度国立大学事務長研修」実施後新たに国立大学の事務長に就任した者で、年齢５６歳（平成15年6月末現在）以下の者のうち、各機関の長の推薦を受けて、独立行政法人教員研修センターが、文部科学省と協議の上、決定する。（課長級研修を受講した者は除く。）					
開催期日	平成１５年　６月２４日（火）　～　平成１５年　６月２６日（木）					３日間
参加人数	計画人数	３２０人 課長級２２０人 事務長１００人	受講者数	３０４人 課長級２５４人 事務長　５０人	（参加率）	９５．０％ 課長級１１５．５％ 事務長　５０．０％
開催場所	独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	129人	43.2%	163人	54.5%	0人	0.0%	7人	2.3%

２．研修内容に関する主な意見

【講義等全般】

○課長・事務長へ初めて就任した際の心構え・意識改革もさることながら、法人化に向けての色合いが濃く、タイムリーな講義・提言が大変参考になった。
○独立行政法人・大学法人など、法人化に対応した講演テーマ・研修内容であり、有り難かった。（意見多数）
○課長級研修と事務長研修を同一にしたことにより、大学内の業務を行うに当たって同一の立場で考えることもでき、意見も交わすことができて、有意義であった。
○同様の管理職の方々の意見や悩みを伺えて、とても良かった。（意見多数）
○全国の大学等の機関の同種及び異種の職種の方々と知り合う良い機会であった。
○民間の経営戦略等・私学経営等について講義を受けることができ、大変勉強になった。
○法人化セミナーのような印象。法人化は喫緊の課題ではあるが、新任課長・事務長研修らしいテーマをもう少し導入して欲しかった。
○民間思考や、職員にもっと刺激を与えることで国立大学等の活性化を目指すのであれば、選択制の体験研修を導入できないか（例えば民間企業での職務体験・語学研修など一週間程度で）。
○先行独法等の事例発表（実務）、その中で有利なことをどのように伸ばしているか、又は課題などについての講義を入れるとよい。
○民間のノウハウ（企業経営者）などを導入してはどうか。また、異分野間の交流・意見交換もタイムリーに取り込んではどうか。
○先行独法の役員からの事例説明などの講義があるとよりよい研修となると思う。
○法人化後の大学の組織・運営費交付金の配分の今後の実態や、その内容について受講生がどこを重要視した観点から日常業務処理と将来目標を策定すべきかを教授する内容を取り込んでもらえたらと思った。

【演 習】
○参加者の当面の課題が法人化への対応だと思うので、いろいろな考えを聞くことが出来てよかった。
○限られた時間ではあったが、有意義な討議が出来た。
○グループのメンバーの方々がよく発言され、今後の事務・業務への勉強になった。
○いろいろな考えを聞くことが出来、大変役に立った。
○同業種による班編成であったので、日常業務上の問題点等が話し合えた。
○班内の各構成員の知識や所属機関の実情によって、各々の理解等にも大きな温度差があり、議論が深まらず、まとまりに欠ける部分があった。(意見多数)
○問題が多すぎて焦点を絞れなかった。問題点・改善点の掘り下げが不十分であった。
○与えられたテーマやキーワードにとらわれがちになり、自由な発想ができなかった。
○法人化に向けた喫緊の事項についての傾向と対策を議論したかった。
○各班の人数が多すぎる。１班につき10人前後が適当。(意見多数)
○班別の役割(班長・司会・記録等)は事前に指定しておいた方がよい。
○討議時間が足りず、充分な討議ができなかった。もう半日～１日は必要。(意見多数)
○演習の進め方について、もう少し具体的な指示が必要。
○事例研究があってもよかったのでは。
【希望する講義テーマ等】
○民間企業(サービス業)の組織と運営、経営戦略(非営利法人において参考となる内容のもの)(意見多数)
○コンサルタント等による、自己啓発または意識改革についての心理面からの講義
○先行独立行政法人の現状、事例等(先行法人における組織や事務処理システム及び改善事項等について)
○事務職員の評価方法(勤務評定、インセンティブ等)、スキルアップについて
○民間企業における人事評価システム、人材養成の現状及び人事考課方法等の実態に関する講義
○メンタルヘルスについて
○欧米の大学経営(教員組織と事務組織)の実態・事例について
○リーダー論・人間関係論
○大学マネジメントの専門家の講義
○私立大学における事業の事例報告(私立大学からみた国立大学等との棲み分けについての考えや、大学運営を行う中で成功している具体例等)・財務運営の実際
○法人化後の会計基準の留意点(運営交付金制度等)
○ｅ－ラーニングなど大学におけるＩＴ関係の先進事例
○大学志望者の動向(予備校関係者などによる)
○文部科学行政全般の現状及び動向のようなテーマに沿った講義
○著作権等の権利侵害を犯さないための講義
○先端科学技術について、特定分野に絞った講義(教養講義として)

Ⅲ　研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成１５年度　国立学校等幹部職員研修（課長級）・国立大学事務長研修〔日程〕

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

６月２４日（火）	６月２５日（水）	６月２６日（木）
9:30 受　付	9:00 【講　義】（合同受講） リーダーの危機管理 （株）電通パブリックリレーションズ コミュニケーション推進室 プロデューサー 伊原　正俊 １１０分	9:00 【演　習】 全体発表 各班から討議内容を発表する。 （代表班）　６０分
10:30 開　講　式 （文部科学省大臣官房人事課長） オリエンテーション・記念撮影 （合　同）	10:50 休　憩	10:00 10:10 休　憩
11:00 【講　義】（合同受講） 民間企業の経営戦略・マネジメント 慶応義塾大学大学院 経営管理研究科教授 青井　倫一 ９０分	11:00 【講　義】（合同受講） 私立大学の経営 明治大学 常勤理事 藤田　幸男 ９０分	【講　義】（合同受講） 職員の服務 文部科学省大臣官房人事課 審査班主査　６０分 11:10 休　憩 11:20 【講　義】（合同受講） 法人経営の実際 日本体育・学校健康センター 理事　都賀　善信 ７０分
12:30 休　憩	12:30 休　憩	12:30 休　憩
13:30 【講　義】（合同受講）午前の続き 民間企業の経営戦略・マネジメント 慶応義塾大学大学院 経営管理研究科教授 青井　倫一 １００分	13:30 【演　習】 班別討議　Ⅰ ・庶務系、会計系等職務別 自己紹介シートを各班内で交換し、自己紹介及びテーマ選定等を行う。 各班内でテーマに沿った討議を行う。 １００分	13:30 【講　義】（合同受講） 国立大学等を取り巻く課題と状況について 九州大学事務局長 早田　憲治 ９０分
15:10 休　憩	15:10 休　憩	15:00 休　憩
15:20 【特別講義】（合同受講） 最先端科学技術研究の現状と未来 理化学研究所理事長 小林　俊一 １００分	15:20 【演　習】 班別討議　Ⅱ ・庶務系、会計系等職務別 各班内で討議を進め発表に向けた取りまとめを行う。 １００分	15:10 閉　講　式 （修了証書の交付） 15:30 （合　同）
17:00	17:00	

17:30 情報交換会
19:00 国際交流棟（レセプションホール）

Ⅰ　研修概要

研 修 名	国立大学等課長補佐級研修				
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係				
研修目的（趣旨）	国立大学等の課長補佐、室長補佐、事務長補佐、専門員及び主任専門職員に対し、その職務の遂行に必要な行政的識見を更に深めさせ、相当高度の管理及び指導能力を修得させることにより、国立大学等の円滑な管理運営に資することを目的とする。				
対　　象	平成１４年度の本研修後に新たに国立学校等の課長補佐、室長補佐、事務長補佐、専門員（職制定数上の専門員をいう。）及び主任専門職員に就任した者で、原則として年齢５０歳以下の者のうち、各機関の長の推薦を受けて、独立行政法人教員研修センターが文部科学省と協議の上決定する。				
開催期日	平成１５年　９月２４日（水）～　平成１５年　９月２６日（金）				３日間
参加人数	計画人数	２１５人	受講者数	２９４人	（参加率）　１３６．７％
開催場所	独立行政法人 教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	100人	34.4%	170人	58.4%	3人	1.0%	0人	0.0%	18人	6.2%
割合（%）										

２．研修内容に関する主な意見

【講義等全般】
○多忙な中で、改めて自分の仕事、立場をゆっくり考える良い機会となった。
○今回の研修で法人化に対する考えが変わった。目標が定まった。
○この研修を受講したことで人脈のネットワークが出来た。今後仕事上で役に立つと思う。
○受講者同士の情報交換からは、同じ悩みを抱えていることが分かり、ある意味安心した。
○講師の方々の講義は全般的に興味深く内容もタイムリーであり、講義を集中して聞くことができた。参考となる貴重な意見もあり、本当に勉強になった。（意見多数）
○「民間企業のマネジメント」は、講師の話術・軽妙な語り口で、四時間弱の時間を感じさせず、かつ有意義であった。（意見多数）
○「私立大学の経営」についての講義は、法人化後の国立大学の経営を考えるにあたり大変役に立つものだと思う。もう１コマあってもいい。

【演　習】
○各大学等の現状を知る上では参考になった。
○法人化に対する問題点については、班員のほぼ全員が同様の事項をかかえており、自分だけではないことが分かって安心した。
○法人化に向けた大学の大改革の時であり、１のテーマのみで話し合った方がよかった。
○テーマに具体性がなく、間口が広すぎたため、絞りきれなかった。具体的な課題を示した方がよい。（意見多数）
○時間が短かった。もう少し時間が必要だと感じた。（意見多数）
○班人数を減らし、密度の濃い討議が出来るようにしたほうがよい。
○研修初日に自己紹介シートを班員内で交換しておけば、班別討議がスムーズに進行すると思われる。（意見多数）
○事前にテーマを設定・通知していただき、各自で準備して参加した方がより充分な意見交換ができるのではないか。（意見多数）
○司会・記録・発表者も主催者側で決めておく方がよい。（意見多数）
○はじめに演習で２～３の事例研究を実施し、その後講義を取り入れた方が研修効果が上がると思う。（事例研究は、即戦力となるような事例、たとえばセクハラ、苦情処理、問題職員への対応など補佐級職員が日常抱えるであろう事例がよいと思う。）

【希望する講義テーマ等】
○労働基準法・労働安全衛生法について
○管理部門における評価方法について
○諸外国での大学のあり方、留学生のとらえ方、大学制度など
○男女共同参画について
○法人化における国立大学経営の問題点
○経営分析に関する講義・演習
○公立大学の実態について
○私学経営の戦略的な内容
○私立大学における経費等の状況・会計事務について
○職場におけるコミュニケーションについて
○先輩諸氏による経験に基づいた上司・部下等の対応での良い事例・悪い事例及びその際の適切な処し方等
○職員のメンタルヘルスについて（心身症・鬱病など、職場での対応も含めて専門家による医学的な立場から）（意見多数）

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　国立学校等課長補佐級研修〔日程表〕

会 場：独立行政法人教員研修センター（講　堂）

９月２４日（水）	９月２５日（木）	９月２６日（金）
	9:00	9:00
	【講　義】 民間企業のマネジメント 産業能率大学 経営開発本部 教育・コンサルティング部 主任研究員 浅野　良一 １１０分	【演　習】 全 体 発 表 各班から討議内容を発表する。 （代表　５～６班程度） ８０分
10:00	10:50	10:20
受　　付	休　　憩	休　　憩
11:00	11:00	10:30
開　講　式 （文部科学省大臣官房人事課長） オリエンテーション	【講　義】　（上記の続き） 民間企業のマネジメント 産業能率大学 経営開発本部 教育・コンサルティング部 主任研究員 浅野　良一	【講　義】 法人経営の実際 日本育英会　理事 沖吉　和祐 ９０分
11:30		12:00
【講　義】 国立大学等を取り巻く課題と状況について 東京大学　事務局長 上杉　道世 ９０分	１２０分	昼 休 み
13:00	13:00	13:00
昼 休 み	昼 休 み	【講　義】 リーダーの危機管理 株式会社電通パブリックリレーションズ プロデューサー 伊原　正俊 １１０分
14:00	14:00	14:50
【講　義】 私立大学の経営 津田塾大学 事務局長　塚本　栄 １００分	【演　習】 班 別 討 議　Ⅰ ・庶務系、会計系等職務別 自己紹介シートを各班内で交換し、自己紹介及びテーマ選定等を行う。 各班内でテーマに沿った討議を行う。 １００分	休　　憩
15:40	15:40	15:00
休　　憩	休　　憩	閉　講　式 （修了証書の交付）
15:50	15:50	15:20
【講　義】 職員の服務 文部科学省大臣官房人事課 審査班主査 ７０分	【演　習】 班 別 討 議　Ⅱ ・庶務系、会計系等職務別 各班内で討議を進め発表に向けた取りまとめを行う。 ７０分	
17:00	17:00	

17:30
情 報 交 換 会
19:00　食堂棟３Ｆ（レセプションホール）

Ⅰ　研修概要

研修名	地区別会計事務研修						
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係						
研修目的（趣旨）	各地区の国立学校等の事務職員に対して国の会計法規に関する知識を修得させ、かつ、来年度からの国立大学の法人化に必要となる見識を授けることにより、各職員の資質の向上を図ることを目的とする。						
対象	会計に関する事務の経験が１年以上の者で，原則として初級者を対象とする。						
開催期日	北海道地区	平成15年10月27日（月）～ 平成15年10月31日（金）					5日間
	東北地区	平成15年10月20日（月）～ 平成15年10月24日（金）					5日間
	関東・甲信越地区	平成15年11月17日（月）～ 平成15年11月21日（金）					5日間
	東海・北陸地区	平成15年10月27日（月）～ 平成15年10月31日（金）					5日間
	近畿地区	平成15年10月20日（月）～ 平成15年10月24日（金）					5日間
	中国・四国地区	平成15年11月10日（月）～ 平成15年11月14日（金）					5日間
	九州地区	平成15年10月20日（月）～ 平成15年10月24日（金）					5日間
参加人数	北海道地区	計画人数	４５人	受講者数	３５人	参加率	７７．８％
	東北地区	計画人数	５０人	受講者数	５１人	参加率	１０２．０％
	関東・甲信越地区	計画人数	１００人	受講者数	８５人	参加率	８５．０％
	東海・北陸地区	計画人数	６５人	受講者数	６０人	参加率	９２．３％
	近畿地区	計画人数	５０人	受講者数	５４人	参加率	１０８．０％
	中国・四国地区	計画人数	７５人	受講者数	７５人	参加率	１００．０％
	九州地区	計画人数	７０人	受講者数	８３人	参加率	１１８．６％
開催場所	１北海道地区　：北海道大学　（大滝セミナーハウス） ２東北地区　：山形大学　（ウェルサンピア山形） ３関東・甲信越地区：東京医科歯科大学　（国立オリンピック記念青少年総合センター） ４東海・北陸地区　：福井大学　（すかっとランド九頭竜） ５近畿地区　：神戸大学　（神戸市立神戸セミナーハウス） ６中国・四国地区　：山口大学　（国立山口徳地少年自然の家） ７九州地区　：熊本大学　（国立阿蘇青年の家）						

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
北海道地区	11人	31.4%	23人	65.7%	0人	0.0%	1人	2.9%	0人	0.0%
東北地区	18人	36.7%	27人	55.1%	3人	6.1%	1人	2.0%	0人	0.0%
関東・甲信越地区	28人	35.0%	49人	61.3%	2人	2.5%	0人	0.0%	1人	1.3%
東海・北陸地区	11人	18.3%	45人	75.0%	4人	6.7%	0人	0.0%	0人	0.0%
近畿地区	12人	25.0%	34人	70.8%	1人	2.1%	0人	0.0%	1人	2.1%
中国・四国地区	26人	36.6%	43人	60.6%	1人	1.4%	0人	0.0%	1人	1.4%
九州地区	22人	29.3%	51人	68.0%	1人	1.3%	0人	0.0%	1人	1.3%

2．研修内容に関する主な意見

①北海道地区
研修全体について
・とてもためになる講義ばかりだった。
・講師陣が良かった。
・多くの科目について詳しく講義していただき、とても役に立つ知識を得ることができた。
・班別討議で独法化の話を扱っていたのは良かった。
・職員としての危機意識を強く感じた。
・講義1コマの時間が長い。
今回、その他に研修に取り入れて欲しかった科目
・国立大学法人会計基準
・通常の契約・物品管理
・経理関係
・簿記
・レクリエーション
・企業会計について
・具体的な人事制度について

②東北地区
研修全体について
・独法化に関連した講義は、とても興味深く勉強になった。
・今回勉強した講義の内容や、得た人脈を今後の自分の仕事に生かしていきたい。
・もう少し会計の基礎を勉強した後に受ければ、もっと有意義だったと思う。
・班別討議のテーマについて、他機関の方々の興味深い話を聞くことができて良かった。
・一週間日常業務を離れて受けるべき研修ではないと感じた。
今回、その他に研修に取り入れて欲しかった科目
・財形システムの仕様と運用について
・労働安全衛生法関係の講義
・NEDOや厚生労働科研費等の経費について
・パソコン研修
・日常の会計業務
・スポーツ

③関東・甲信越地区
研修全体について
・他大学の方と、仕事を含め沢山の情報を交換することができ、とても有意義だった。
・来年４月からの法人化を踏まえた講義等は、とても有意義だった。
・通常業務で直接携わっていない業務について、講義を多く聞くことができて視野が拡がった。
・もう少し早い時期に実施して欲しかった。
・講義内容については、法規を読むものより具体例を示される方が役に立つ。
・もっと柔軟に対応して頂き、民間企業を交えた講義等を取り扱って欲しい。
今回、その他に研修に取り入れて欲しかった科目
・簿記
・給与
・旅費について
・歳入関係
・負担行為制度について
・汎用システム
・会計全般
・レクリエーション
・私立大学等の現状及び運用

④東海・北陸地区
研修全体について
・会計の勉強をさせていただく上で、とても意義のあるものだった。
・会計事務に関して知識が得られ、漠然としなかったものが鮮明になった。
・知識の浅い部分についても、確認する時間が取れて良かった。
・他大学の職員との交流を深めることができ、有意義な研修だった。
・もう少し法人化をにらんだ研修内容の方が良かった。
今回、その他に研修に取り入れて欲しかった科目
・財務会計システムの導入の経緯
・メンタルヘルスについて
・給与
・法人化後の大学会計について
・大学等の施設見学
・旅費に関する科目
・レクリエーション

・簿記
・財務会計システムのシュミレーション

⑤近畿地区
研修全体について
・独法化に向けて、講義内容も工夫されていて良かった。
・他大学等との交流で、大学間の事務処理の違いも分かり、非常に役立った。
・班別討議が意見交換もでき、大変有意義だった。
・講義に関して自分の知識が足らず、難しいものだった。
・宿泊施設がコテージ形式では棟毎にまとまってしまい、あまり連帯感が生まれないので良くないと思う。
今回、その他に研修に取り入れて欲しかった科目
・独法化した機関の講義
・独法化の会計
・企業会計や簿記
・私立大学の経理など
・知的財産権について
・会計事務総論
・資産（管財）関係
・監査法人による講義
・演習形式のもの
・一般教養やマナー向上的なもの

⑥中国・四国地区
研修全体について
・自分が担当している分野以外の知識を習得することができ、大変有意義だった。
・今後も地区別会計研修を継続して欲しい。
・今回の研修で、基礎部分について学ぶことができた。
・各大学等との交流を深めることができたのは、今後の情報交換にも大いに役立つと思う。
今回、その他に研修に取り入れて欲しかった科目
・レクリエーション
・病院の会計等
・簿記・パソコン
・法人化後の管理費等について
・国有財産関連
・給与・旅費等について
・簿記について
・財務諸表について
・収入・支出について
・法人化後の契約の流れ
・現場や民間の方の講義
・法人化後の会計業務の組織について

⑦九州地区
研修全体について
・法人化前のこの時期にふさわしい講義内容が多くあった。
・他の大学等の方々と知り合うことができ、色々な情報を得られてとても有意義だった。
・外部の講師による一般企業等の経営改善への取り組みについて知りたい。
・班別討議の前に、外部資金・予算・会計基準の講義を入れた方がよいと思う。
・班別討議を３時間程度にして、２時間は講義に当てて欲しい。
・もう少し実務的な内容の講義が多くても良かったと思う。
・会計、経理系の企業研修を実施して欲しい。
・「国立大学法人会計基準等について」の講義は、班別討議の前に組み込んで欲しかった。
今回、その他に研修に取り入れて欲しかった科目
・レクリエーション（山登り）
・簿記
・労働関係
・医事会計
・男女共同参画ジェンダー論
・債権
・会計の総論
・法人会計
・病院に関する講義
・企業会計
・会計基準

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　北海道地区会計事務研修日程表

当番校　：北海道大学
研修会場：北海道地区国立大学大滝セミナーハウス
開催期日：10月27日～31日

時 月日 (曜)	7 30	8 30	9 30	10 30	11 30	12 30	13 30	14 30	15 30	16 30	17 30	18 30	19 30	22
第１日 10月27日 (月)				札幌発		受付 昼食	開講式	オリエンテーション及び写真撮影 講話 会計職員の心構え 北海道大学 経理部長 五十嵐義明 （６０分）	予算事務 文部科学省大臣官房会計課 国立学校特別会計第三予算班 施設係長 田島　修 （１２０分）	夕食	自由研修			就寝
第２日 10月28日 (火)	起床	体操	朝食	班別討議 文部科学省大臣官房 会計課総務班法規係 宮川裕司 （１８０分）		昼食	特別講義２ 独立行政法人 国立オリンピック記念 青少年総合センター 会計課長 西尾　修 （１２０分）		補助金事務 文部科学省大臣官房 会計課総務班法規係 宮川裕司 （１２０分）	夕食	自由研修			就寝
第３日 10月29日 (水)	起床	体操	朝食	会計経理上の諸問題 文部科学省大臣官房 会計課 総務班主査 西村直章 （１２０分）	講話 服務制度 北海道大学総務部 人事課専門員 佐竹順一 （９０分）	昼食	特別講義１ 文部科学省大臣官房 会計課 総務班 専門職 菅原康宏 （２４０分）				夕食	自由研修		就寝
第４日 10月30日 (木)	起床	体操	朝食	班別討議 文部科学省大臣官房 会計課 総務班専門職 菅原康宏 （１８０分）		昼食	契約・政府調達事務 文部科学省大臣官房会計課 政府調達室 企画渉外係長 廣岡信行 （２４０分）				夕食	自由研修		就寝
第５日 10月31日 (金)	起床	体操	朝食	外部資金事務 文部科学省研究振興局 研究環境・産業連携課 技術移転推進室 企画調査係 小谷野 幸恵 （１２０分）	清掃等 閉講式	昼食	解散							

平成15年度　東北地区国立学校等会計事務研修日程表

当　番　校　山　形　大　学
研　修　会　場　ウェルサンピア山形
研　修　期　日　１０月２０日～１０月２４日

１　講　師
山　形　大　学
　文部科学省大臣官房会計課庁舎管理班主査　関　根　正　夫
　〃　〃　総務班政府調達室政府調達専門官　皆　川　秀　徳
　〃　〃　総務班専門職　菅　原　康　宏
　〃　〃　国立学校特別会計第二予算班病院第二係長　尾　田　史　郎
　〃　〃　監査班監査第一係　金　子　美　陽
　〃　研究振興局技術移転推進室　鳥　生　浩　司
　中央青山監査法人　仙台事務所　公会計グループ　シニア・マネージャー　公認会計士　手　島　貴　弘

２　日　程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
１０月２０日(月)					受付	開講式	写真撮影	オリエンテーション	補助金 (120分) (金子　美陽)	夕　食	自　由　研　修	
１０月２１日(火)		班別討議「国立大学法人等の会計経理の在り方について」(180分) (金子　美陽)		昼　食	予算 (120分) (尾田　史郎)			特別講義２「独立行政法人の会計処理について」(120分) (手島　貴弘)		夕　食	自　由　研　修	
１０月２２日(水)		班別討議「国立大学法人等の会計経理の在り方について」(全体発表) (180分) (菅原　康宏)		昼　食	特別講義１「国立大学法人会計基準(報告書)について」(240分) (菅原　康宏)					夕　食	自　由　研　修	
１０月２３日(木)		会計経理上の諸問題 (120分) (関根　正夫)	講話「服務規律」(60分) (山形大学)	昼　食	契約・政府調達 (240分) (皆川　秀徳)					夕　食	自　由　研　修	
１０月２４日(金)		外部資金 (120分) (鳥生　浩司)	閉講式	昼　食								

平成15年度 （第38回） 関東・甲信越地区国立学校等会計事務研修 日程表

当 番 校　東京医科歯科大学
研修会場　国立オリンピック記念青少年総合センター
開催期日　11月17日～11月21日

【 日 程 等 】

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
11月17日(月)						受付		開講式	オリエンテーション	【特別講義2】 独立行政法人の会計経理について (120分)	休憩	夕食	自主研修		就寝
11月18日(火)	洗面 室内整理	朝食	移動	【班別討議1】 国立大学法人等の会計経理の在り方について (180分/360分)		昼食	【講義】 予　算 (120分)		【講義】 会計経理上の諸問題 (120分)	休憩	夕食	自主研修			就寝
11月19日(水)	洗面 室内整理	朝食	移動	【講義】 補助金 (120分)	【講話】 服務規律に関すること (60分)	昼食	【講義】 契約・政府調達 (240分)			休憩	夕食	自主研修			就寝
11月20日(木)	洗面 室内整理	朝食	移動	【班別討議2】 国立大学法人等の会計経理の在り方について (180分/360分)		昼食	【特別講義1】 国立大学法人会計基準(報告書)等について (240分)			休憩	夕食	自主研修			就寝
11月21日(金)	洗面 室内整理	朝食	移動	【講義】 外部資金 (120分)	閉講式	写真撮影									

【講義科目及び講師(時間割順)】

1. 特別講義2	新日本監査法人医療福祉部公会計本部	公認会計士　児玉卓也	6. 講話	東京医科歯科大学総務部	人事課長 江羅 茂
2. 班別討議1	文部科学省大臣官房会計課経理班	経理高度化専門官　宮本隆正	7. 契約・政府調達	文部科学省大臣官房会計課庁舎管理室	管理第一係長 溝口寛士
3. 予算	文部科学省大臣官房会計課国立学校特別会計第一予算班	専門職 梶原 修	8. 班別討議2	文部科学省大臣官房会計課経理班	経理高度化専門官　宮本隆正
4. 会計経理上の諸問題	文部科学省大臣官房会計課経理班	経理高度化専門官　宮本隆正	9. 特別講義1	文部科学省大臣官房会計課監査班	主査 猿渡政範
5. 補助金	文部科学省大臣官房会計課監査班	監査第一係長　織田島孝広	10. 外部資金	文部科学省研究振興局技術移転推進室	企画調査係 小谷野幸恵

平成１５年度（第４０回）　東海・北陸地区国立学校等会計事務職員研修会日程表

当番校　　福　井　大　学
研修会場　すかっとランド九頭竜
研修期日　１０月２７日～１０月３１日

月　日	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
10月27日 (月)							受付	開講式 オリエンテーション		外部資金 （１２０分） 研究振興局 技術移転推進室 専門職　築坂直樹	自由時間	交換研修		自由研修			就寝
10月28日 (火)		朝　食		班別討議　1 （１８０分） 国立大学法人等の会計経理の在り方について　経理班 経理第二係長　上地義夫		昼　食		予算 （１２０分） 第二予算班 第二係長 山田重樹		補助金 （１２０分） 経理班 経理第二係長 上地義夫		夕食及び 自由時間		自由研修			就寝
10月29日 (水)		朝　食		会計経理上の諸問題 （１２０分） 監査財務企画官 平田文利	講　話 服務規律 (60分) 福井大学 総務部長 安田　修	昼　食		契約・政府調達 （２４０分） 政府調達室 政府調達第一係長 池田幸太郎				夕食及び 自由時間		自由研修			就寝
10月30日 (木)		朝　食		班別討議　2 （１８０分） 国立大学法人等の会計経理の在り方について　政府調達室 政府調達第一係長　池田幸太郎		昼　食		特別講義　1 （２４０分） 国立大学法人会計基準（報告書）等について 総務班 専門官　松岡正和				夕食及び 自由時間		自由研修			就寝
10月31日 (金)		朝　食		特別講義　2 （１２０分） 独立行政法人の会計経理について　大学入試センター 会計課長　河西愛次	閉講式												

平成１５年度　近畿地区国立学校等会計事務研修　日程表

当 番 校：神　戸　大　学
研修場所：神戸市立神戸セミナーハウス
研修期日：１０月２０日～１０月２４日

	9:00 9:30	10:00 10:30	11:00 11:30	12:00 12:30	13:00 13:30	14:00 14:30	15:00 15:30	16:00 16:30	17:00 17:30
10月20日（月）						受付	オリエンテーション	開講式	記念写真 / 自己紹介 / 懇親会
10月21日（火）	班別討議「国立大学法人等の会計経理の在り方について」（180分）文部科学省大臣官房会計課政府調達室 企画渉外係長　廣岡　信行			昼　食	「契約・政府調達事務」（240分）文部科学省大臣官房会計課政府調達室 企画渉外係長　廣岡　信行				
10月22日（水）	「補助金制度」（90分）文部科学省大臣官房会計課経理班 経理第二係　仲野竜也	特別講義「独立行政法人の会計経理について」（90分）独立行政法人東京国立博物館 総務部長　杉長敬治		昼　食	「外部資金の現状とその取扱いについて」（120分）文部科学省研究振興局研究環境産業連携課技術移転推進室 企画調査係　鳥生　浩司		「文教予算について」（120分）文部科学省大臣官房会計課 国立学校特別会計第一予算班 国立学校第二係長　真下　宗		
10月23日（木）	班別討議「国立大学法人等の会計経理の在り方について」（180分）文部科学省大臣官房会計課 国立学校特別会計第一予算班 国立学校第二係長　真下　宗			昼　食	特別講演「国立大学法人会計基準（報告書）について」（240分）文部科学省大臣官房会計課総務班 専門職　菅原　康宏				
10月24日（金）	「会計処理上の諸問題」（120分）文部科学省大臣官房会計課 総務班法規係長　堀江　直純	閉講式	解　散						

（注）研修日程は、講師等の都合により一部変更することがあります。

平成15年度　中国・四国地区国立学校等会計事務研修　日程表

当 番 校　山口大学
研修場所　山口徳地少年自然の家
研修期日　11月10日～11月14日

6:45	7:45	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	22:00
11月10日（月）						受　付	開講式	オリエンテーション	特別講義（120分） 「独立行政法人の会計処理について」 講師：独立行政法人 国立女性教育会館 理事　廣瀬　育生	夕べのつどい 夕　食 入　浴 自由時間	消灯・就寝
11月11日（火）	起　床 洗　面 清　掃 朝のつどい	朝　食 自由時間	班別討議Ⅰ（60分） 「国立大学法人等の会計経理の在り方について」 講師：徳地少年自然の家 庶務課長 佐藤　久	特別講義（120分） 「国立大学法人会計基準（報告書）等について」 講師：文部科学省 大臣官房会計課 総務班　専門官 松岡　正和	昼　食	特別講義（120分） 「国立大学法人会計基準（報告書）等について」 講師：文部科学省 大臣官房会計課 総務班　専門官 松岡　正和			講　義（120分） 「会計経理上の諸問題について」 講師：文部科学省 大臣官房会計課 用度班　主査 前田　千尋	夕べのつどい 夕　食 入　浴 自由時間	消灯・就寝
11月12日（水）	起　床 洗　面 清　掃 朝のつどい	朝　食 自由時間	班別討議Ⅱ（60分） 「国立大学法人等の会計経理の在り方について」 指導助言：徳地少年自然の家 庶務係長　山根　博 会計係長　末武光裕	講　義（120分） 「補助金について」 講師：文部科学省 大臣官房会計課 総務班　専門官 横町　直明	昼　食	講話（60分） 「服務規律について」 山口大学 総務部 人事課長 谷川　貴史	講　義（180分） 「契約・政府調達について」 講師：文部科学省 大臣官房会計課 総務班　法規係長 堀江　直純			夕べのつどい 夕　食 入　浴 自由時間	消灯・就寝
11月13日（木）	起　床 洗　面 清　掃 朝のつどい	朝　食 自由時間	班別討議Ⅲ（60分） 「国立大学法人等の会計経理の在り方について」 指導助言：山口大学経理部主計課 専門員 久保　賢治	講　義（120分） 「予算について」 講師：文部科学省 大臣官房会計課 国立学校特別会計第一予算班 専門職　山路　尚武	昼　食	班別討議Ⅳ（240分） 「国立大学法人等の会計経理の在り方について」 指導助言・全体発表：山口大学 経理部主計課 課長補佐 中川　憲治				夕べのつどい 夕　食 入　浴 自由時間	消灯・就寝
11月14日（金）	起　床 洗　面 清　掃 朝のつどい	朝　食 自由時間	講　義（120分） 「外部資金について」 講師：文部科学省 研究振興局　研究環境産業連携課 技術移転推進室　室長補佐 佐々木　強	閉講式	退　所						

平成１５年度（第４０回）　九州地区国立学校等会計事務研修講義　日程表

当 番 校　熊本大学
研修場所　国立阿蘇青年の家
研修期日　１０月２０日～１０月２４日

区分		午前 9:00	10:00 :10	11:00 :10	12:00	午後 :30	13:00 :10	:30	14:00 :20	:30	15:00 :10	16:00 :30	17:00	17:40	19:40	21:00
第1日	１０月２０日（月）					入所準備	入所	開講式	オリエンテーション	独立行政法人の会計経理について（１２０分）講師：独立行政法人科学博物館 会計課長　片田　晋		休憩	夕べのつどい	夕　食	自主研修（８０分）懇親会	
第2日	１０月２１日（火）	班別討議（１８０分）・国立大学法人等の会計経理の在り方について 助言講師：文部科学省大臣官房会計課 経理班主査　阿部　幸輔				昼　食	講話（７０分）服務規律に関すること 講師：熊本大学総務部人事課専門員 本田 公治		休憩	会計経理上の諸問題（１２０分）講師：文部科学省大臣官房会計課経理班主査 阿部　幸輔		休憩	夕べのつどい	夕　食	自主研修（８０分）	
第3日	１０月２２日（水）	補助金（１２０分）講師：文部科学省大臣官房会計課監査班 監査第一係 鈴木　晴信			休憩	契約・政府調達（５０分）講師：文部科学省大臣官房会計課政府調達室政府調達第一係長 池田 幸太郎	昼　食	契約・政府調達（２００分）講師：文部科学省大臣官房会計課政府調達室 政府調達第一係長　池田　幸太郎				休憩	夕べのつどい	夕　食	自主研修（８０分）	
第4日	１０月２３日（木）	班別討議（１２０分）・国立大学法人等の会計経理の在り方について 助言講師：文部科学省大臣官房会計課政府調達室政府調達第一係長 池田　幸太郎			休憩	外部資金（５０分）講師：文部科学省研究振興局研究環境産業連携課技術移転推進室専門職 築坂　直樹	昼　食	外部資金（７０分）講師：文部科学省研究振興局研究環境産業連携課技術移転推進室専門職 築坂　直樹		休憩	予　算（１２０分）講師：文部科学省大臣官房会計課第一予算班 専門職　饗場　厚		休憩	夕べのつどい	夕　食	自主研修（８０分）	
第5日	１０月２４日（金）	班別討議（６０分）発　表	休憩	国立大学法人会計基準（報告書）等について（１１０分）講師：文部科学省大臣官房会計課監査班主査 猿渡　政範		昼　食	国立大学法人会計基準（報告書）等について（１２０分）講師：文部科学省大臣官房会計課監査班主査 猿渡　政範		閉講式								

Ⅰ　研修概要

研修名	留学生担当者研修会				
担当課係	研修事業第二課　国内短期研修係				
研修目的（趣旨）	大学、高等専門学校、専修学校、準備教育施設及び関係団体において、留学生関係事務担当者（初任職員）に対し、留学生の受入れ及び派遣に伴う諸問題に関する研修の機会を提供し、資質の向上を図ることにより、我が国における留学生交流体制の整備充実資することを目標とする。				
対象	国公私立大学、高等専門学校、専修学校、準備教育施設及び留学生関係団体職員で、原則として留学生担当業務経験年数が２年以下のもの				
開催期日	平成１５年１１月４日（火）　～　平成１５年１１月６日（木）				３日間
参加人数	計画人数	２００人	受講者数	１８５人	（参加率）　９２．５％
開催場所	独立行政法人教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	32人	18.6%	107人	62.2%	32人	18.6%	0人	0.0%	1人	0.6%
割合（%）										

２．研修内容に関する主な意見

○部会では活発な意見交換がなされ他大学の現状などを知ることができ大変参考になった。
○講義の後に質問の時間を設けてほしかった。
○新たな問題発生時の対処方法等学内での設置改善すべき様々な課題を見つけることができました。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度留学生担当者研修会日程表

11月４日（火）　第１日

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	30	50	14:00	15:00	15	16:15	17:00	45	18:00	20:00
				受付	オリエンテーション	開講式	講義１ 「我が国の留学生施策の現状と課題について」 文部科学省 （６０分）	休憩	講義２ ①「留学生の受入について」 ②「留学生の派遣について」 文部科学省 （６０分）	宿泊オリエンテーション等 （４５分）		司会打合わせ	懇親会 （１２０分）	

11月５日（水）　第２日

9:30	10:30	50	11:50	13:00	14:00	15	15:15	30	17:30	19:00	20:00
講義３ 「留学生担当者のための異文化間カウンセリング」 一橋大学留学生センター教授 横田　雅弘 （６０分）	休憩	班別討議（事例研究） （６０分）	昼食	講義４ 「留学交流のクライシス・マネジメント」 JAFSA（国際教育交流協議会）理事 服部　誠 （６０分）	休憩	講義５ 「出入国管理の現状と留学生の受入れについて」 法務省入国管理局入国在留課 法務専門官 内田　省二 （６０分）	休憩	設置者別部会別討議 （国立大学）及び（公私立大学） 受入業務部会、生活支援部会 奨学金部会、 （高等専門学校）高専部会 （専修学校）専修学校部会 （１２０分）	夕食・休憩	自主研修	

11月６日（木）　第３日

10:00	12:00	30
全体会議 （設置者別部会別討議報告） （１２０分）	修了書授与・閉講式 （３０分）	

Ⅰ　研修概要

研修名	人権教育セミナー　（第１回）				
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係				
研修目的（趣旨）	人権教育実施上の課題等について研修を行い、学校における人権教育の一層の充実を図る。				
対象	教育委員会の指導主事及びその他の職員 幼稚園、小・中・高等学校及び中等教育学校の教職員				
開催期日	平成１５年　６月２４日（火）～　平成１５年　６月２５日（水）				２日間
参加人数	計画人数	３００人	受講者数	３００人	（参加率）　１００．０％
開催場所	文部科学省分館虎ノ門ホール				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	88人	45.6%	97人	50.3%	0人	0.0%	8人	4.1%

２．研修内容に関する主な意見

○総合的な視点に立つ人権教育の進め方や個別視点の理解を深めるのに役立った。
○幅広いところからの話を聞くことができ、有意義だった。
○行政説明は、話があちこちに飛んで難解だった。
○各県の情報支援の機会があると良い。
○質問・協議の時間も確保するなどの工夫がほしい。
○現場に生きる実践を提示していただきたい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度 人権教育セミナー（第１回）

日　　程　　表

日　時：平成１５年６月２４日(火)～平成１５年６月２５日(水)

場　所：文部科学省分館　虎ノ門ホール

第１日目

	13:00	13:30	13:50		14:50	15:10		16:10
６月２４日（火）		受付	開講式	行政説明１ 法　務　省 人権擁護局 人権擁護調査官　山野　幸成		休憩	行政説明２ 文部科学省 初等中等教育局児童生徒課 課長補佐　鈴木　敏之	

第２日目

	9:20		10:50	11:00		12:30	13:30		15:00	15:20
６月２５日（水）		講演１ 「児童虐待に関する学校の対応」 山梨大学 助教授　玉井　邦夫	休憩	講演２ 「学校における人権教育」 文部科学省初等中等教育局 視学官　宮川　八岐		昼休み	講演３ 「人権尊重の教育」 大阪教育大学 助教授　森　　実		閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	人権教育セミナー　（第２回）				
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係				
研修目的（趣旨）	人権教育実施上の課題等について研修を行い、学校における人権教育の一層の充実を図る。				
対象	教育委員会の指導主事及びその他の職員 幼稚園、小・中・高等学校及び中等教育学校の教職員				
開催期日	平成１５年１１月　６日（木）～　平成１５年１１月　７日（金）				２日間
参加人数	計画人数	３００人	受講者数	２５０人	（参加率）　８３．３％
開催場所	独立行政法人教員研修センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	74人	34.1%	132人	60.8%	2人	0.9%	0人	0.0%	9人	4.1%

２．研修内容に関する主な意見

○実践を話してもらうことは、大変参考になり、考える材料を提供してもらえるのでありがたい。
○理論と現状と実践と意見交換とバランスのよい研修ができた。また、全国の先生方と交流ができて良かった。
○人権教育についての講話をあまり聞く機会がなかったので、根本的な話はとても参考になった。
○研究協議や指導助言の時間が短いのが残念であった。
○文科省の施策、それに期待すること、それぞれの事業の基本となることをしっかり聞かせて欲しい。
○小中学校連携のところが分科会でもあればいいと思った。
○部会が大きすぎる。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度 人権教育セミナー（第２回）

日　　程　　表

日　時：平成１５年１１月６日(木)～平成１５年１１月７日(金)

場　所：独立行政法人 教員研修センター
開講式、講演、閉講式 ： 講　堂
幼稚園・小学校部会 ： 講　堂
中・高等学校部会 ： レセプションホール（食堂棟３Ｆ）

第１日目

	10:00	11:00	11:20		12:10	13:30		15:00	15:15		16:45
１１月６日（木）		受付	開講式	**講演１** 「人権教育を進めるための学校運営組織の在り方」 文部科学省初等中等教育局 視学官　宮川保之	昼休	**講演２** 「学校教育と子どもの人権」 上越教育大学 教授　若井彌一	休憩		**講演３** 「児童虐待について」 国立成育医療センター研究所 成育社会医学研究部長 谷村雅子		

第２日目

	9:00		12:00	13:00		15:00	15:15
１１月７日（金）	**分科会１**		昼休	**分科会２**		閉講式	
	幼稚園・小学校部会						
	事例発表			指導助言者			
	9:00-10:30 学校法人さくら学園 さくら幼稚園長	片岡　大助		国立教育政策研究所教育課程研究ｾﾝﾀｰ			
	10:30-12:00 青森県八戸市立中居林小学校長	相馬　実		教育課程調査官　安野　功			
	13:00-14:30 愛知県岩倉市立南部中学校教諭	三浦　光俊					
	中・高等学校部会						
	事例発表			指導助言者			
	9:00-10:30 岡山県総社市立総社中学校長	塩尻　正明		文部科学省初等中等教育局			
	10:30-12:00 大分県立双国高等学校教諭	近藤潤一郎		視学官　宮川　保之			
	13:00-14:30 佐賀県神埼町立神埼中学校教諭	森田　直樹					
	佐賀県教育センター研修員	秋吉　洋志					

Ⅰ　研修概要

研修名	エイズ・薬物乱用防止教育研修会					
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係					
研修目的（趣旨）	エイズに関する正しい知識の普及を図り、エイズ教育の推進についての理解を促す。また、学校における薬物乱用防止教育の一層の充実を図るため、薬物乱用防止教育についての理解を深めるための研修を行う。					
対象	小学校、中学校及び高等学校等の保健教育について、都道府県内で指導的立場にある教員並びに都道府県及び市（指定都市及び中核市を含む）町村教育委員会の保健教育担当指導主事					
開催期日	平成１５年　６月１１日（水）　～　平成１５年　６月１２日（木）					２日間
参加人数	計画人数	２５０人	受講者数	２７３人	（参加率）	１０９．２％
開催場所	文部科学省分館　虎ノ門ホール					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	63人	43.4%	66人	45.5%	4人	2.8%	0人	0.0%

２．研修内容に関する主な意見

○実践発表は具体的で分かりやすく、すぐにでもできそうなものもあり、たいへん参考になった。
○沖縄では滅多に文部科学省主催や著名な先生方の講演会はないので、参加できて良かった。現場のお医者さんの話も聞けてあらためてエイズ指導の大切さを感じた。
○喫煙防止教育を現場で指導するにあたって、喫煙している大人と子供の関わり、子供が大人に向ける視線に対しての考え方に回答できるものが理解できた。
○正しい意志決定や行動を導くために、どのように情報提供や指導をしていくか、考えるいいきっかけとなった。
○専門家による講義が、最新のデータに満ちており、大変勉強になった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　エイズ・薬物乱用防止教育研修会　日程一覧

	9:15	9:45	10:00	10:30	12:30	13:30	14:30	14:45	16:15
6月11日（水）	受付	開会式	行政説明 「エイズ教育・性教育を取り巻く状況について」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課専門官 大竹輝臣 【衛星配信予定】	実践発表 「エイズ教育・性教育の模擬授業」 （発表者） ①群馬県太田市立南中学校　教諭 尾内雅子・川上 みさい ②台東区立御徒町台東中学校　教諭 関　ひろ子 （指導助言者） 神戸大学教授　石川哲也	昼食	講義１ 「健康教育の取り組みについて」 神戸大学教授 石川哲也 【衛星配信予定】	休憩	講義２ 「エイズ医学の現状と学校教育に求められるもの」 国立国際医療センター病院部長 岡　慎一 【衛星配信予定】	
会場	虎ノ門ホール（文部科学省分館１Ｆ）								

	9:30	10:00	11:30	12:45	14:15	14:35	16:05	16:30
6月12日（木）	受付	講義３ 「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育について」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育企画室 健康教育調査官　鬼頭英明 【衛星配信予定】	昼食	講義４ 「喫煙防止教育の必要性」 国立保健医療科学院研究情報センター情報デザイン室長 望月　友美子 【衛星配信予定】	休憩	講義５ 「薬物乱用と健康」 関東信越厚生局麻薬取締部長 長野健一 【衛星配信予定】	意見・情報交換セッション	閉会式
会場	虎ノ門ホール（文部科学省分館１Ｆ）							

※　行政説明及び講義１～５は、平成１５年８月上旬にエル・ネットを活用した衛星配信研修として配信する予定。
（各都道府県内における受信・再配信計画については、各都道府県教育委員会の本研修会担当課にご確認願います。）

Ⅰ　研修概要

研修名	公立学校（高等学校・特殊教育諸学校）事務職員研修講座				
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係				
研修目的（趣旨）	公立の高等学校及び特殊教育諸学校の事務職員等に必要な研修を行い、事務職員の資質の向上と学校事務の効率的運営に資する。				
対象	公立の高等学校及び特殊教育諸学校の事務職員並びに教育委員会事務職員				
開催期日	平成１５年１２月１８日（木）～平成１５年１２月１９日（金）				２日間
参加人数	計画人数	９００人	受講者数	５８５人	（参加率）　６５．０％
開催場所	つくば国際会議場（１・２日目） 独立行政法人教員研修センター（２日目）				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		全く役に立たなかった		回答なし	
人数(人)	167人	29.0%	390人	67.8%	7人	1.2%	0人	0.0%	11人	1.9%

２．研修内容に関する主な意見

○学校事務だけではなく、学校全体の今後のあり方を考えさせられた研修だった。
○今話題になっている事項について、専門的な立場から話を聞くことができたので良かった。
○たくさん資料があり、今後校地禁煙にむけて動いていくための参考となった。知らないことが多く、禁煙教育の必要を感じた。
○今後の日本の教育の在り方、学校経営の在り方などを理解できた。
○会場からの意見交換の時間が比較的長かったので、各県の状況を聴取でき有効であった。
○ＩＴや事務の集中化など、数年後には現場にでてくる問題点などがあげられており理解しやすかった。
○授業料未納問題について多くの事例、意見が大変参考になった。
○学校全面禁煙の問題点や、その対処法について聞きたかった。
○もっと学校事務に関連することに内容を絞ってほしかった。
○もっと討議の時間があれば、なお良かった。小グループでの討議ができればもっと積極的な発言があったように思う。
○特殊教育諸学校の分科会があっても良いのでは。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度公立学校(高等学校・特殊教育諸学校)事務職員研修講座

日　　程　　表

日　時　　平成１５年１２月１８日(木)～平成１５年１２月１９日(金)

会　場　　全　体　会　　つくば国際会議場　大ホール
第１分科会　　独立行政法人教員研修センター　レセプションホール
第２分科会　　独立行政法人教員研修センター　第二研修棟(２Ｆ)
第３分科会　　独立行政法人教員研修センター　講堂
第４分科会　　つくば国際会議場　中ホール(300)

第１日目

	13:00	13:30	13:50		15:20	15:35	17:00
１２月１８日 (木)		受付	開講式	講演 「職場の受動喫煙問題 ~健康増進法の施行とWHOたばこ規制枠組条約策定を踏まえて~」 国立保健医療科学院研究情報センター 情報デザイン室長　望月友美子		休憩	講演 「中央教育審議会の今後の動向について」 文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室 専門官　次田　彰

第２日目

	9:30		11:45	13:00		15:30
１２月１９日 (金)		分科会（発表・討議①） 第１分科会「学校運営と事務管理」 第２分科会「事務活動と研修」 第３分科会「学校財政と施設」 第４分科会「環境整備と生徒指導」	昼休み	分科会（発表・討議②） 第１分科会「学校運営と事務管理」 第２分科会「事務活動と研修」 第３分科会「学校財政と施設」 第４分科会「環境整備と生徒指導」	閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	衛生管理研修会				
担当課係	研修事業第三課　体育・産業教育係				
研修目的（趣旨）	近年、腸管出血性大腸菌0157等による大規模な食中毒が発生しており、学校給食において、その防止対策等について各学校給食実施校等まで確実に周知徹底を図ることが喫緊の課題である。 このため、学校給食関係者を対象とした学校給食における衛生管理の推進に係る研修会を行う。				
対象	都道府県及び指定都市教育委員会の給食担当者、指導主事、学校栄養職員、共同調理場長、校長等指導的立場の担当者				
開催期日	平成１５年　５月２２日（木）				１日間
参加人数	計画人数	１１０人	受講者数	１３８人	（参加率）　１２５．５％
開催場所	代々木オリンピック記念青少年総合センター				

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数（人）	93人	73.2%	30人	23.6%	0人	0.0%	4人	3.1%
割合（%）								

２．研修内容に関する主な意見

○衛生管理の意識について改めて見直すことができた。今日の講義を聞いて現実の課題をどのように取り組んでいったらいいか，考えさせられた。今まで出来ないと思って諦めていたことをこれからは出来るところから取り組んで少しでも改善できるように努力していきたい。
○衛生管理の改訂に伴い如何に遵守していくかが今回の大きな課題でした。改訂の主な点が明らかになり，指導の観点を持つことができた。衛生管理指導者の巡回指導報告書で指摘された点は他の調理場でも同様の課題であると考えます。説得力のある内容ですので，現場で危機感を持って衛生管理にあたるよう指導に務めたい。
○学校給食衛生管理の基準の一部改訂の周知徹底を図るため，自分で十分理解することが大切でありその理解を深めることができた。この改訂に至った裏付け等も含めてご講義いただいたことや，巡回指導結果からの関連等も理解することができた。
○日頃より衛生管理が不十分であり，解決しなくてはいけないと思っていましたが，手だてが分からなかったり，いろいろな問題に直面して前進せずにいました。講義によりできることからやれそうなものを少しずつやっていこうと思いました。教育委員会や責任者の意識も薄いので，資料を見せて共に学校給食に対する衛生管理の意識を高めていきたい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　衛 生 管 理 研 修 会　　日 程 一 覧

	9:30	10:00 10:15		11:45	12:45		13:45	14:00		15:00	15:10		16:50	17:00
5月22日（木）	受付	開会式	行政説明 「学校給食における衛生管理の充実について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官　金田雅代 【衛星配信予定】		昼食	講義１ 「ＳＲＳＶ食中毒について」 東京都健康安全研究センター 微生物部参事研究員 関根　大正 【衛星配信予定】		休憩	講義２ 「学校給食衛生管理巡回指導事業から見た調理場の問題点」 共立薬科大学 客員教授 中村　明子		休憩	実践発表 ① 北海道教育委員会スポーツ保健体育課 主査　田中延子 ② 愛知県三好町立学校給食センター 学校給食調理員　加藤靖子 ③ 愛媛県伊予三島市立三島小学校 教諭　寺尾晃代		閉会式
会場	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター　国際会議室													

※　行政説明及び講義１については，平成１５年６月２３日（月）にエル・ネットを活用した衛星配信研修として配信する予定。
（各都道府県内における受信については、各都道府県教育委員会の本研修会担当課にご確認願います。）

Ⅰ　研修概要

研修名	外国語指導助手に対する研修　新規来日外国語指導助手研修　（４月期）				
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係				
研修目的（趣旨）	「語学指導等を行う外国青年招致事業」による招致外国青年の中で語学指導に従事する中国語・韓国語指導助手（新規に来日する者及び契約更新者の中で国際交流員から外国語指導助手へ職種変更をする者）に対して、日本の学校教育制度、職務上必要とされる知識・指導技術等に関する理解を深めさせ、もって、我が国の中学校及び高等学校等における円滑な勤務に資する。				
対象	開催要項上の趣旨項目において、上記「招致外国青年の中で語学指導に従事する中国語・韓国語指導助手（新規に来日する者及び契約更新者の中で国際交流員から外国語指導助手へ職種変更をする者）」としている。				
開催期日	平成１５年　４月１０日（木）				１日間
参加人数	計画人数	１０人	受講者数	１０人	（参加率）　１００．０％
開催場所	ホテル ルポール麹町　（東京）				

Ⅱ　アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人) / 割合(%)	人	%	人	%	人	%	人	%

２．研修内容に関する主な意見

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度外国語指導助手来日直後オリエンテーション（４月期）日程

月日	時　間	研　修　内　容　等	会　場	備　考
4月9日(水)		新規来日者　成田空港到着 バス移動　ホテル到着		
4月10日(木)	10:00～10:30	○開会式	ルポール麹町（麹町会館）「ロイヤルクリスタル」（２Ｆ）	
	10:30～12:00	文部科学省分科会 ○文部科学省担当官による講義 「日本の学校教育制度及び外国語教育の現状等」 「外国語指導助手の役割とﾃｨｰﾑ･ﾃｨｰﾁﾝｸﾞの基本的な考え方」	同「ガーネット」（３Ｆ）	ＣＩＲとは，分かれて実施。
		（昼食）		
	13:15～14:00 14:00～15:55	○日本における中国語教育の現状について ○日本における韓国語教育の現状について ○先輩ＡＬＴからの指導助言等Ⅰ ○先輩ＡＬＴからの指導助言等Ⅱ ○質疑応答，意見交換等 ○担当官によるまとめ		
		○閉会式 ○取りまとめ団体別ミーティング ○夕食会	同「ロイヤルクリスタル」（２Ｆ）	
4月11日(金)		取りまとめ団体別国内移動		

Ⅰ　研修概要

研修名	外国語指導助手に対する研修　新規来日外国語指導助手研修（Ａ日程・Ｂ日程・第２次）					
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係					
研修目的（趣旨）	「語学指導等を行う外国青年招致事業」による招致外国青年の中で語学指導に従事する外国語指導助手（新規に来日する者及び再契約者の中で国際交流員から外国語指導助手への職種変更をする者）に対して、日本の学校教育制度、職務上必要とされる知識・指導技術等に関する理解を深めさせ、もって我が国の中学校及び高等学校等における円滑な勤務に資する。					
対象	開催要項上の趣旨項目において、上記「招致外国青年の中で語学指導に従事する外国語指導助手（新規に来日する者及び再び契約更新者の中で国際交流員から外国語指導助手へ職種変更をする者）」としている。					
開催期日	平成１５年　７月２８日（月）　～　平成１５年　７月２９日（火）					２日間
開催期日	平成１５年　８月　４日（月）　～　平成１５年　８月　５日（火）					２日間
開催期日	平成１５年　８月２１日（木）					１日間
参加人数Ａ日程	計画人数	1,300人程度	受講者数	１，４５５人	（参加率）	１１１．９％
参加人数Ｂ日程	計画人数	1,300人程度	受講者数	１，２４６人	（参加率）	９５．８％
参加人数第２次	計画人数	150人程度	受講者数	９３人	（参加率）	６２．０％
合計	計画人数	２，７５０人	受講者数	２，７９４人	（参加率）	１０１．６％
【参考】４月期を含めた場合合計	計画人数	２，７６０人	受講者数	２，８０４人	（参加率）	１０１．６％
開催場所	新宿京王プラザホテル（東京）					

Ⅱ　アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	人	%	人	%	人	%	人	%

２．研修内容に関する主な意見

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度外国語指導助手来日直後オリエンテーション日程

A日程	B日程	時間	項目		
7月27日(日)	8月3日(日)	終日	JET参加者の来日		
		10:30～11:00	県別オリエンテーション（出席確認・配置先確認，取りまとめ団体別集会の案内）		
		11:00～11:15	開会式		
		11:15～11:40	ＪＥＴプログラム概要説明（重要情報）		
		11:40～11:45	AJETプレゼンテーション		
		12:00～13:00	昼　食		
			ＡＬＴ	時間	ＣＩＲ
7月28日(月)	8月4日(月)	13:00～13:30	文部科学省講義 「外国語指導助手の役割及び ﾃｨｰﾑ･ﾃｨｰﾁﾝｸﾞの基本的考え方」 "The ALT Role in Foreign Language Education and Basics in Team-Teaching"	13:00～15:00	ALTと別にCLAIRが実施
		13:30～14:00	ＡＬＴアドバイザーからの話		
		14:00～15:00	ティーム・ティーチングに関するビデオ視聴 「ＡＬＴの学校での１日」 "An ALT's Day at School"		
		15:15～16:00	１年目PA・カウンセリングシステムの説明・国籍グループ・ミーティング		
		15:15～18:00	ＡＪＥＴ分科会（希望者のみ）・ＡＪＥＴバザール		
		18:30～20:00	夕食会		
			ＡＬＴ	時間	ＣＩＲ
7月29日(火)	8月5日(火)	9:00～10:20	ワークショップⅠ 「ティーム・ティーチングによる模擬授業と 効果的な授業計画」 "Team-teaching Demonstration and Effective Lesson Planning"	9:00～11:50	ALTと別にCLAIRが実施
		10:20～10:35	休　憩		
		10:35～11:25	ワークショップⅡ 「教材の創造的活用法と言語活動の組み立て」 "Creative Use of Teaching Materials and Designing Language Activities"		
		11:25～11:50	質疑応答		
		12:00～13:00	昼　食（ＡＪＥＴインフォメーションフェア）		
		13:15～14:00	CLAIRワークショップ１		
		14:15～15:00	CLAIRワークショップ２		
		15:15～16:00	CLAIRワークショップ３		
		16:15～17:00	CLAIRワークショップ４		
		17:00～20:00	荷物回収・ＡＬＥＴインフォメーションフェア，大使館別活動		
7月30日(水)	8月6日(水)	7:30～11:30	取りまとめ団体別国内移動		

平成15年度外国語指導助手来日直後オリエンテーション（第2次）日程

第２次	時　　間	内　　容　　等	備　　考
８月２０日（水）	終　　日	JET参加者の来日	
８月２１日（木）	9:30～ 9:45	受　付	
	9:45～10:05	開　会　式 ・開会挨拶 ・三省・ＣＬＡＩＲ役員等紹介	
	10:05～11:20	ＴＯＡ（東京オリエンテーションアシスタント）プレゼンテーション	
	11:20～11:30	ＡＪＥＴインフォメーション	
	11:30～12:00	重要情報	
	12:00～13:00	昼　食	
	13:00～13:30	**文部科学省講義** 文部科学省初等中等教育局視学官　小串雅則 「外国語指導助手の役割及びﾃｨｰﾑ・ﾃｨｰﾁﾝｸﾞの基本的考え方」 “The ALT Role in Foreign Language Education and Basics in Team-Teaching”	
	13:30～14:45	**文部科学省デモンストレーション** 文部科学省国際教育課　土生賢行 ＡＬＴアドバイザー　ヒューオリファント 「ﾃｨｰﾑ・ﾃｨｰﾁﾝｸﾞについてのデモンストレーション」 **文部科学省ＡＬＴアドバイザーからの説明** ＡＬＴアドバイザー　ヒューオリファント 「ティーチングプランについて」	適宜，10分程度の休憩を設ける
	14:45～15:00	**ＡＬＴアドバイザーとの質疑応答**	
	15:00～16:00	**ビデオプレゼンテーション**「An ALT's Day at School」	
	16:10～16:30	取りまとめ団体別ミーティング	
	18:30～20:00	夕食会	
８月２２日（金）	終　　日	取りまとめ団体別国内移動	

Ⅰ　研修概要

研 修 名	外国語指導助手に対する研修　再契約予定者研修会（Ａ日程・Ｂ日程）
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係
研修目的（趣旨）	「語学指導等を行う外国語青年招致事業」による招致外国青年の中で、中学校・高等学校等において語学指導に従事する者（以下、「外国語指導助手」という。）の再契約予定者に対し、一層効果的な職務遂行ができるよう、必要な知識・指導技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い、もって我が国の外国語教育の充実に資する。
対　　象	平成１５年度に再契約を予定しているＡＬＴのうち、再契約が１回目の者とする。 なお、Ａ日程、Ｂ日程の参加区分については下記のとおりとする。 Ａ日程：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県 Ｂ日程：北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、愛知県、三重県 ※Ａ日程については、ＡＬＴのみを対象とする。 ※政令指定都市及び中核市については、その所在する道府県として取り扱う。

開催期日	平成１５年　５月２６日（月）　～　平成１５年　５月２８日（水）			（Ａ日程）	３日間	
開催期日	平成１５年　６月　２日（月）　～　平成１５年　６月　４日（水）			（Ｂ日程）		
参加人数Ａ日程	計画人数	2,000人程度	受講者数	８６８人	（参加率）	９５．７％
参加人数Ｂ日程			受講者数	１，０４５人		
			計	１，９１３人		
開催場所	Ａ日程：神戸ポートピアホテル（兵庫） Ｂ日程：新宿京王プラザホテル（東京）					

※ただし、外国語指導助手に関する研修については、Ａ日程及びＢ日程とも１日半の日程となる。
　よって、Ａ・Ｂ日程分合わせて、３日間（当該研修の中期計画上の「３日間」に合致する。）

Ⅱ　アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	人	%	人	%	人	%	人	%

２．研修内容に関する主な意見

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度外国語指導助手再契約予定者研修会（Ａ日程）

期日	時間	内容		備考
5 ／ 26 (月)	15:00~15:20	開会式		
	15:20~15:50	日程説明		
	15:50~17:20	基調講演		
5 ／ 27 (火)	9:15~10:00	文部科学省講演	演題 “Expectations for Second-year ALTs ” 文部科学省初等中等教育局教育課程課 平田　和人教科調査官	
	10:00~10:30	文部科学省Q&A	文部科学省　平田　和人教科調査官 ＡＬＴアドバイザー	
	10:30~10:50	(休　憩)		
	10:50~12:00	ALTﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ I	〔下記２０程度のテーマから各自４テーマを選択〕 1) Audio-visual Aids 2) CALL(Computer-assisted Language Learning)	
	12:00~13:20	昼　食	3) Classroom Management 4) Drama in the Classroom	
	13:20~14:30	ALTﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ II	5) Elementary School Visits 6) Enhancing Students' Motivation	
	14:30~14:50	(休　憩)	7) Extracurricular Activities 8) Global Issues in the Classroom	
	14:50~16:00	ALTﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ III	9) Lesson Designing 10) Life as a Second-year ALT 11) Music in the Classroom	
	16:00~16:20	(休　憩)	12) One-shot Visits 13) Phonics and the *Ichi Nen Sei*	
	16:20~17:30	ALTﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ IV	14) Principles of Activity Design 15) Special Needs Education 16) TEFL/TESOL Basic Theory 17) Teaching Adult Classes 18) Teaching Conversation Strategies 19) Teaching Debate 20) Trading Places 21) Workplace Relations 22) Working at a Non-academic	
	18:00~21:00	国別・地域別ミーティング等		
5 ／ 28 (水)	9:15~10:15	CLAIRﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ 1		
	10:15~10:35	(休　憩)		
	10:35~11:35	CLAIRﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ 2		
	11:35~12:20	質疑応答	(ＣＬＡＩＲによる質疑応答)	

平成１５年度外国語指導助手再契約予定者研修会（Ｂ日程）

期日	時間	内容		備考
6／2(月)	15:00~15:20	開会式		ALT CIR SEA (合同)
	15:20~15:50	日程説明		
	15:50~17:20	基調講演		
6／3(火)	9:15~10:00	文部科学省講演	演題 “ New Directions in Foreign Language Education ” 文部科学省初等中等教育局教育課程課 加納　幹雄教科調査官	ＡＬＴ
	10:00~10:30	文部科学省Q&A	{ 文部科学省　加納　幹雄教科調査官 ＡＬＴアドバイザー	
	10:30~10:50	(休　憩)		
	10:50~12:00	ALTﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ Ⅰ	〔下記２０程度のテーマから各自４テーマを選択〕 1) Audio-visual Aids 2) CALL(Computer-assisted Language Learning) 3) Classroom Management	
	12:00~13:20	昼食	4) Drama in the Classroom 5) Elementary School Visits	
	13:20~14:30	ALTﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ Ⅱ	6) Motivation Strategies 7) Enhancing Students' Motivation	
	14:30~14:50	(休　憩)	8) Extracurricular Activities 9) Global Issues in the Classroom	
	14:50~16:00	ALTﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ Ⅲ	10) Lesson Designing 11) Life as a Second-year ALT 12) Music in the Classroom	
	16:00~16:20	(休　憩)	13) One-shot Visits 14) Phonics and the *Ichi Nen Sei*	
	16:20~17:30	ALTﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ Ⅳ	15) Principles of Activity Design 16) Special Needs Education 17) Teaching Adult Classes 18) Teaching Debate/ Discussion 19) Trading Places 20) Workplace Relations 21) Education Centre-based ALTs 22) Early Childhood Teaching 23) Communicative Writing:Teaching Writing in the EFL Classroom	
	18:00~21:00	国別・地域別ミーティング等		ALT CIR SEA (合同)
6／4(水)	9:15~10:15	CLAIRﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ 1		ALT・CIR・SEA (合同)
	10:15~10:35	(休　憩)		
	10:35~11:35	CLAIRﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ 2		
	11:35~12:00	質疑応答	(ＣＬＡＩＲによる質疑応答)	

Ⅰ　研修概要

研修名	留学生交流研究協議会（北海道、東北、関東地区）				
担当課係	研修事業第二課　国内短期研修係				
研修目的（趣旨）	大学等における留学生受入れ体制を整備、充実するため、留学生の受入れ・派遣に関する諸問題について、関係大学等の教員、幹部事務職員及び関係省庁等により研究協議を行う。				
対象	①大学・短期大学・高等専門学校・専修学校・準備教育機関の留学生交流関係教員及び幹部事務職員 ②関係省庁担当職員 ③（財）日本国際教育協会職員 ④（財）国際学友会職員 ⑤（財）関西国際学友会職員 ⑥（財）内外学生センター職員 ⑦（財）留学生支援企業協力 ⑧（財）日本語教育振興協会職員 ⑨ＵＭＡＰ国内委員会職員				
開催期日	平成１５年　６月１２日（木）　～　平成１５年　６月１３日（金）				２日間
参加人数	計画人数	３５０人	受講者数	３６０人	（参加率）　１０２．９％
開催場所	つくば国際会議場（筑波大学）				

Ⅱ　アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	人	%	人	%	人	%	人	%

２．研修内容に関する主な意見

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成15年度留学生交流研究協議会（北海道・東北・関東地区）日程表

6月12日（木）（第1日目）		6月13日（金）（第2日目）	
時　　間	スケジュール	時　　間	スケジュール
9:00 ～ 10:00	受付（2階大ホールロビー）	10:00 ～ 11:30	分科会報告・質疑応答 会場：大ホール
10:00 ～ 11:30	開会式 会場：大ホール 全体会議 会場：大ホール		
11:30 ～ 13:00	昼食 会場：多目的ホール	11:30 ～ 11:50	閉会式 会場：大ホール
13:00 ～ 14:30	分科会 (1)交流部会 会場：中ホール200 (2)教育指導部会 会場：大会議室101		
14:30 ～ 15:00 （休憩）	(3)生活部会 会場：大会議室102		
15:00 ～ 17:00	(4)高等専門学校部会 会場：中会議室202A (5)専修学校部会 会場：中会議室202B		
17:30 ～ 19:30	自由討議及び懇親会 会場：多目的ホール		

Ⅰ　研修概要

研修名	留学生交流研究協議会（中部、近畿地区）				
担当課係	研修事業第二課　国内短期研修係				
研修目的（趣旨）	大学等における留学生受入れ体制を整備、充実するため、留学生の受入れ・派遣に関する諸問題について、関係大学等の教員、幹部事務職員及び関係省庁等により研究協議を行う。				
対象	①大学・短期大学・高等専門学校・専修学校・準備教育機関の留学生交流関係教員及び幹部事務職員 ②関係省庁担当職員 ③（財）日本国際教育協会職員 ④（財）国際学友会職員 ⑤（財）関西国際学友会職員 ⑥（財）内外学生センター職員 ⑦（財）留学生支援企業協力 ⑧（財）日本語教育振興協会職員 ⑨ＵＭＡＰ国内委員会職員				
開催期日	平成１５年　６月１９日（木）　～　平成１５年　６月２０日（金）				２日間
参加人数	計画人数	２５０人	受講者数	３６３人	（参加率）　１４５．２％
開催場所	メルパルクＮＡＧＯＹＡ（名古屋大学）				

Ⅱ　アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	人	%	人	%	人	%	人	%

２．研修内容に関する主な意見

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度留学生交流研究協議会日程表

（中部・近畿地区）

6月１９日（木）

9:00	10:00	10:15	11:30	13:00	14:45	15:15	17:00	17:30	19:30
	開会式	全体会議		シンポジウム		シンポジウム			
受付	挨拶 名古屋大学 文部科学省 日程説明等	留学生交流の当面する諸問題について 文部科学省 法務省 外務省		昼食	・テーマA 2階「平安の間」 ・テーマB 2階「羽衣の間」 ・テーマC 3階「サルビアの間」 ・テーマD 3階「カトレアの間」	休憩	・テーマA （続き） ・テーマB （続き） ・テーマC （続き） ・テーマD （続き）		自由討議 及び 懇親会 2階 「瑞雲の間」
	2階「瑞雲の間」								

6月２０日（金）

10:00	11:30	11:50
全体会議		閉会式
シンポジウム報告及び質疑応答 テーマA～D		挨拶 文部科学省 名古屋大学
2階「瑞雲の間」		

【会場】
メルパルク NAGOYA

ＪＲ名古屋駅から
中央線「千種」駅下車
地下鉄１番出口前

ＪＲ名古屋駅から
地下鉄東山線「千種」
駅下車１番出口前

TEL 052-937-3535
FAX 052-937-3673

Ⅰ　研修概要

研修名	留学生交流研究協議会（中国、四国、九州地区）				
担当課係	研修事業第二課　国内短期研修係				
研修目的（趣旨）	大学等における留学生受入れ体制を整備、充実するため、留学生の受入れ・派遣に関する諸問題について、関係大学等の教員、幹部事務職員及び関係省庁等により研究協議を行う。				
対象	①大学・短期大学・高等専門学校・専修学校・準備教育機関の留学生交流関係教員及び幹部事務職員 ②関係省庁担当職員 ③（財）日本国際教育協会職員 ④（財）国際学友会職員 ⑤（財）関西国際学友会職員 ⑥（財）内外学生センター職員 ⑦（財）留学生支援企業協力 ⑧（財）日本語教育振興協会職員 ⑨ＵＭＡＰ国内委員会職員				
開催期日	平成１５年　６月２６日（木）　～　平成１５年　６月２７日（金）				２日間
参加人数	計画人数	２００人	受講者数	２３９人	（参加率）　１１９．５％
開催場所	愛媛県県民文化会館（愛媛大学）				

Ⅱ　アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

1．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	人	%	人	%	人	%	人	%

2．研修内容に関する主な意見

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１５年度　留学生交流研究協議会日程

（中国・四国・九州地区）

会　場　愛媛県県民文化会館

6月26日（木）

9:30	10:00	10:10	11:30	13:30	15:00	15:30	17:00	17:30	19:30
受付	開会式	全体会議		分科会		分科会			
	挨拶 愛媛大学 文部科学省 関係機関紹介 日程説明等 （2階真珠の間A）	留学生交流の当面する諸問題について 文部科学省 法務省 外務省	昼食	交流部会 （2階真珠の間B） 教育指導部会 （2階第4会議室） 生活部会 （3階第6会議室） 高等専門学校 （2階第3会議室）	休憩	交流部会 （2階真珠の間B） 教育指導部会 （2階第4会議室） 生活部会 （3階第6会議室） 高等専門学校 （2階第3会議室）		自由討議 及び 懇親会 （2階真珠の間A）	

6月27日（金）

10:00	11:30	11:50
分科会報告・質疑応答	閉会式	
（交流部会） （教育指導部会） （生活部会） （高等専門学校部会） （2階真珠の間A）	挨拶 文部科学省 愛媛大学	

Ⅰ　研修概要

研修名	「学習の評価」に関する研修会					
担当課係	研修事業第三課　研修企画係					
研修目的（趣旨）	小・中学校における評価規準の作成、新しい評価方法の実施についての説明や事例紹介等を行い、目標に準拠した評価の客観性、信頼性を高めるための諸方策について研修することにより、各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図るとともに、適切な評価の実施に資する。					
対象	国公私立小・中学校の校長及び教員、並びに教育委員会指導主事					
開催期日	平成１５年　４月	～	平成１６年　３月			２日間
参加人数	計画人数	７，５００人	受講者数	４，９１５人	（参加率）	６５．５％
開催場所	独立行政法人教員研修センター　他２０機関					

Ⅱ　アンケート結果の状況

１．研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		まったく役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	683人	36.3%	1,129人	60.1%	48人	2.6%	3人	0.1%	17人	0.9%
割合(%)										

２．研修内容に関する主な意見

○「学習の評価」は現在最も関心のある、また研修を深める必要のある内容で、このような研修の場がもっと必要である。
○内容的には、地区の研修よりも具体的で知りたい内容であった。このような質の高い研修の機会をぜひ増やして欲しい。
○自分の評価観について改めて問い直す良い機会になった。
○校長及び教頭、県や市の指導主事がいるといないでは大きな違いがある。
○やるべきことが見え、いままで悩んでいた点がすっきりし、意識が高まったように思う。
○悩んでいた点が解決し、方向性の見える充実した研修であった。
○教師にとって、勉強・研修の大切さを痛感した。評価に関わるエキスパートが少ないため、官民に関わらず、色々な研修に参加する必要性を感じる。
○他県の様子をしることができ、参考になった。
○このような研修をブロックで開催することには大きな意義がある。
○文科省担当官から直接講義を受けることができ、規準と基準、評価方法について多くを学ぶことができた。
○評価の在り方について、その重要性を改めて実感した。
○目標と指導と評価の一体化という点で、理論的にも実践的にも大変整理して現場に持ち帰ることができる。
○今までの評価の研修（文部省が行っていた教育課程等）は、各教科が同時開催だったため自分の教科しか参加できなかったが、今回は複数の教科について研修が受けられ満足である。
○自校で実施している評価は、まだまだ改善しなければならないということを再確認した。
○要点を押さえた素晴らしい実践事例と、教科ごとの理論を直接聞くことができ、貴重な研修であった。
○規準と基準の考え方、実際の評価活動や総括の活動等、現場で混乱していることや迷っていることについて整理できた。評価の作業に振り回されることなく、子供との深い関わりにおいて、指導と評価を一体として考えていくことを改めて実感させられた。
○大切なのは、「評価のための評価」ではなく「子供のための評価」ということが再認識できた。
○まずは自分が評価への認識を改め、改善に向けていきたいと思う。

○教科をまとめてではなく、各教科別の講義であったので、評価規準の具体例がよく分かった。
○現場の先生の実践事例がセットされていたことは、とてもありがたかった。
○中途半端な現場の状況を価値づけるのではなく、過ったとらえ方や、実践に釘を刺すような場面があったことも好感を持った。
○国・算・社・理は全部あった方がいい。
○授業の中での具体的な評価の場面があるともっと良かった。
○この研修は自校での実践における悩みや課題解決のための方向付けになっている。また再検証する場でもあり、来年も是非参加したい。
○この研修で学んだことは、今後学校や地域に持ち帰り広げていけるように研究したい。
○文部科学省担当官の方々の講義を、直接きくことができた大変貴重な機会であった。
○調査官の考えが理解できた反面、その旨が現場に下りてくるとどうして変わってしまうのかと痛感した。
○大変有意義な研修であった。評価規準・基準の見直し、これからの授業に役立てたい。
○評価に対する重要性を改めて認識することができた。
○文部科学省担当官の話を直接聞くことでき、書物を読んでも分からなかった点まで理解できたような気がする。
○各校現場で、今最も頭を痛めていることの１つが、評価の問題だと感じている。その点で先進校の事例発表は、大変勉強になった。
○実践的に学ぶ機会を得ることができ、大変勉強になった。
○絶対評価のとらえ方について曖昧な点があったのだが、明らかになったように思う。
○たくさんの立派な資料がありがたかった。
○このような研修は、管理職や研究主任、教科主任などの義務研修にして、各職場に下ろしていくようにするといいのではないか。
○この夏に評価の研修会や、研究会に何回か参加したが、この研修が最も分かり易かった。
○貴重な実践事例をたくさん知ることができました。また改めて指導と評価について考えることができた。
○日頃疑問に思いながらも、うやむやにしているところが、わかり大変勉強になった。
○文科省の先生からの適切な指導を受けることができ大変有意義であった。
○講師の先生方が厳選された方ばかりで大変ためになりました。
○自校での研修に生かしていきたい。

Ⅱ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

小学校　全国

「学習の評価」に関する研修（小学校）日程

日　程	講　義
3月4日(木) 11:00 ～11:40	受付
11:40 ～12:00	オリエンテーション
12:00 ～12:45	昼食
12:45 ～13:00	開講式　挨拶：独立行政法人教員研修センター　理事長 遠山　耕平
13:00 ～14:00	「総論」講師：文部科学省初等中等教育局　視学官 嶋野　道弘
14:15 ～16:15	「生活」講師：文部科学省初等中等教育局　視学官 嶋野　道弘
16:30 ～18:30	「算数」講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 吉川　成夫 事例紹介者：東京都世田谷区立八幡小学校教諭 滝井　章
3月5日(金) 9:30 ～11:30	「理科」講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 日置　光久
11:30 ～12:45	昼休み
12:45 ～14:45	「体育」 （保健領域） 講師：文部科学省スポーツ・青少年局　体育官 戸田　芳雄 事例紹介者：神奈川県川崎市総合教育センター研修指導主事 山田　義弥 （体育領域） 講師：文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育課教科調査官 渡邉　彰 事例紹介者：神奈川県綾瀬市立天台小学校教諭 小林　美晴
15:00 ～17:00	「社会」講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 寺田　登 事例紹介者：岐阜県岐阜市立長良東小学校教諭　堀江　秀樹 茨城県高萩市教育委員会指導主事　花園　文嘉
17:00 ～	閉講式　：独立行政法人教員研修センター　理事 戸田　春夫

※一部の講義において、事例発表を取り入れて行うこととしている。

「学習の評価」に関する研修
－北部①ブロック－

実　施　要　項

1 目的
　評価規準の作成、評価方法の工夫・改善等についての説明や事例紹介等を行い、目標に準拠した評価の客観性、信頼性を高めるための諸方策について研修することにより、各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図るとともに、適切な評価の実施に資する。

2 受講対象
(1) 対象者
　小・中学校の校長、教頭、教員及び教育委員会指導主事
(2) 定員
　200名

3 主催者等
主催：独立行政法人教員研修センター、北海道教育委員会
共催：文部科学省
主管：北海道教育庁上川教育局

4 日時
第1日　平成15年7月31日(木)10：15～17：00
第2日　平成15年8月 1日(金)10：00～15：30

5 会場
ニュー北海ホテル　　(旭川市5条6丁目　℡ 0166-24-3111)

6 内容
　評価の工夫・改善についての説明・事例紹介・質疑応答

7 日程

第1日　7月31日(木)

9:45　10:15　10:30　　12:00　13:00　　15:00　　17:00

受付	開会式	全体会 講義 〔総論〕	昼食・休憩	全体会 道徳 (「総合的な学習の時間」を含む)	小学校 〔理科〕 中学校 〔特別活動〕

第2日　8月1日(金)

9:30　10:00　　12:00　13:00　　15:00　15:30

受付	小学校 〔算数〕 中学校 〔国語〕 〔社会〕 〔数学〕 〔理科〕 〔外国語〕 〔音楽〕	昼食・休憩	小学校 〔国語〕 中学校 〔国語〕 〔社会〕 〔数学〕 〔理科〕 〔外国語〕 〔音楽〕	閉会式

北部日本地区「新小・中学校学習指導要領に基づく学習の評価」の在り方に関する特別研修開催要項
－　平成１５年度福島県学習の評価に関する研修　－

１　目　的

目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の客観性、信頼性を高めるための諸方策について研修することにより、各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図るとともに適切な評価の実施に資する。

２　主　催　　独立行政法人教員研修センター　　福島県教育委員会

３　共　催　　文部科学省

４　期　日　　平成１５年８月１９日（火）～２０日（水）　２日間

５　会　場

小学校部会　　福島県文化センター
〒 960-8116　福島市春日町５－５４
電話　０２４－５３４－９１９１

中学校部会　　福島学院大学
〒 960-0181　福島市宮代乳児池１－１
電話　０２４－５５３－３２２１

６　参加者　　・道県市町村教育委員会、政令指定都市教育委員会の小・中学校の教員
・道県教育委員会及び市区町村・政令指定都市教育委員会の指導主事等
なお、小学校部会は、５００名程度、中学校部会は、３００名程度予定

７　日程及び内容

（１）小学校部会　　（総論、国語、社会、図画工作、算数）

８月１９日（火）

10:00	10:20	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	16:15
受付	開会 挨拶	総論 （全体会）	昼食 休憩	教科（国語） （実践発表）	休憩	教科（社会） （実践発表）	

８月２０日（水）

9:40	10:00	11:30	12:45	14:15	14:30
受付	教科（図画・工作） （実践発表）	昼食 休憩	教科（算数） （実践発表）	閉会 挨拶	

（２）中学校部会
（総論、道徳、総合的な学習、国語、社会、数学、理科、英語、音楽、美術）

８月１９日（火）

10:00	10:20	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	16:15
受付	開会 挨拶	総論 （全体会）	昼食 休憩	道徳 （全体会）	休憩	総合的な学習 （全体会）	

８月２０日（水）

9:40	10:00	11:30	12:45	14:15	14:30
受付 （分科会ごと）	教科分科会 （説　明）	昼食 休憩	教科分科会 （実践発表・協議）	閉会 （分科会ごと）	

学習の評価に関する研修－小学校－（千葉県）

平成１６年１月１５日（木）

9:00~ 9:40	受　付
9:45~ 9:55	会場使用説明
10:00~10:20	開会式 挨拶　独立行政法人教員研修センター理事長　遠山耕平 挨拶　千葉県教育庁教育次長　大路正浩 千葉県教育庁教育振興部参事兼指導課長　岩崎永夫
10:30~11:30	総　論 文部科学省初等中等局　視学官　嶋野道弘
11:30~13:00	昼休み
13:00~15:00	生　活 文部科学省初等中等局　視学官　嶋野道弘
15:10~17:10	理　科 文部科学省初等中等局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 日置光久

平成１６年１月１６日（金）

9:30~10:00	受　付
10:00~12:00	社　会 文部科学省初等中等局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 安野　功
12:00~13:00	昼休み
13:00~15:00	体　育 文部科学省スポーツ青少年局企画・体育課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 渡邉　彰（運動領域） 栃木県教育委員会事務局保健体育課　指導主事　森　良一 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課　~~教科調査官~~ 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 戸田芳雄（保健領域） 神奈川県綾瀬市立天台小学校　教　諭　小林美晴
15:10~17:10	算　数 文部科学省初等中等局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 吉川成夫
17:10	修了証書交付

※大ホール内での飲食・喫煙は禁止です。飲食場所は，１階多目的室及び各ロビー，屋外になります。また，喫煙場所はロビー外の藤棚の下のみです。飲み物の自動販売機は，情報教育棟の１階及び総合教育センター棟の２・４・６階にあります。
※昼食の注文・配付はロビーで行う。

－関東ブロック－　小学校「学習の評価」に関する研修

小学校　関東２

プ　ロ　グ　ラ　ム

平成15年８月26日（火）

10:00～10:40　受付

時　間		講師・主催者	会　場
10:40～11:00 （小・中合同）	開会挨拶	遠山耕平 独立行政法人教員研修センター　理事長 板屋越麟一 新潟県教育委員会教育長	朱鷺メッセ スノーホール
11:00～11:50 （小・中合同）	総論	坂口浩司 国立教育政策研究所教育課程研究センター　研究開発課長	

11:50～13:00　昼休み

時　間	教科等	講師・事例紹介者	会　場
13:00～14:30	音楽	高須　一 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官 実践事例発表者　渡邊麗子 東京都新宿区立四谷第三小学校　教諭	朱鷺メッセ 中会議室 ３０１
14:30～14:50	休　憩		
14:50～16:20	社会	安野　功 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官 実践事例発表者　川西千加子 さいたま市立高砂小学校　教諭	

平成15年８月27日（水）

9:50～10:20　受付

時　間	教科	講師・事例紹介者	会　場
10:20～11:50	体育	戸田芳雄（保健領域） 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官 実践事例発表者　森　良一 栃木県教育委員会保健体育課　指導主事 渡邉　彰（運動領域） 文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官 実践事例発表者　小林美晴 神奈川県綾瀬市立天台小学校　教諭	万代シルバー ホテル５階 万代の間

11:50～13:00　昼休み

13:00～14:30	国語	井上一郎 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官 実践事例発表者　林　理香 兵庫県宝塚市立売布小学校　教諭	万代シルバー ホテル５階 万代の間
14:30～14:50	休　憩		
14:50～16:20	図画工作	板良敷　敏 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官 実践事例発表者　野切　卓 北海道札幌市立伏見小学校　教諭	
16:20～16:30	修了証書の交付		

小・中学校「学習の評価」に関する研修 ―東海・北陸ブロック― 開催要項

1　目　的

小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法についての説明や事例紹介等を行い、目標に準拠した評価の客観性、信頼性を高めるための諸方策について研修することにより、各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図るとともに、適切な評価の実施に資する。

2　主　催　　独立行政法人教員研修センター　富山県教育委員会

3　共　催　　文部科学省

4　期　日　　平成16年１月28日(水)～29日(木)

5　会　場　　パレブラン高志会館　〒930-0018　富山県富山市千歳町１－３－１
ＴＥＬ（0120）542-489、(076) 441-2255
ＦＡＸ（076）441-1770

6　参加者　　東海・北陸６県（石川県、福井県、岐阜県、愛知県、三重県、富山県）の国公私立小学校・中学校の校長及び教員、並びに教育委員会指導主事等。
小学校100名程度、中学校100名程度。（２日間の参加を原則とする。）

7　日程等

(1)　小学校〈４教科：国語、社会、算数、理科〉〈総合的な学習の時間〉

〔第１日目…１月28日(水)〕

9:30 10:00 10:20　11:50 12:00 13:00　14:30 14:40　16:40 16:50

受付	開会挨拶	総論（小中合同）	諸連絡	昼食休憩	総合的な学習の時間講話（小中合同）	休憩	国語科 実践発表・協議・講話	諸連絡
会場	２階 カルチャーホール							

〔第２日目…１月29日(木)〕

9:30 10:00　12:00 13:00　15:00 15:10　17:10 17:20

受付	算数科 実践発表・協議・講話	昼食休憩	理科 実践発表・協議・講話	休憩	社会 実践発表・協議・講話	修了証書の交付
会場	２階 カルチャーホール					

(2)　中学校〈５教科：国語、社会、数学、理科、英語〉〈総合的な学習の時間〉〈特別活動〉

〔第１日目…１月28日(水)〕

9:30 10:00 10:20　11:50 12:00 13:00　14:30 14:50　16:20 16:30

受付	開会挨拶	総論（小中合同）	諸連絡	昼食休憩	総合的な学習の時間講話（小中合同）	休憩移動	特別活動講話	諸連絡
会場	２階 カルチャーホール						２階 嘉月	

〔第２日目…１月29日(木)〕

9:30 10:00　12:00 12:10

受付	５教科部会 実践発表・協議・講話	修了証書の交付
会場	国語（2階 205）、社会（3階301）、数学（3階306・307）、理科（3階 303）、英語（3階302）	

「小学校学習指導要領に基づく学習の評価」の在り方に関する特別研修
－近畿地区－

プ ロ グ ラ ム

【第１日】２月１２日（木）　　滋賀県総合教育センター　新館４階研修室Ａ

12:30 ～ 13:00	受　付
13:00 ～ 13:10	開　会 挨　拶　　独立行政法人教員研修センター　総務部長　　竹身　良文 滋賀県教育委員会事務局学校教育課　課長　　國弘　正義
13:10 ～ 14:30	総　論　　国立教育政策研究所 教育課程研究センター　研究開発課長　　坂口　浩司
14:30 ～ 14:40	休　憩
14:40 ～ 16:30	総合的な学習の時間 文部科学省初等中等教育局視学官　　嶋野　道弘

【第２日】２月１３日（金）　　滋賀県総合教育センター　新館４階研修室Ａ

9:30 ～ 10:00	受　付
10:00 ～ 12:00	理　科　　横浜国立大学教授　　森本　信也 東京都新宿区立余丁町小学校教諭　　手代木　英明
12:00 ～ 13:00	休　憩
13:00 ～ 15:00	算　数　　国立教育政策研究所教育課程研究センター・教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 吉川　成夫 滋賀県彦根市立城南小学校教諭　　桂田　久仁子
15:00 ～ 15:30	閉　会 修了証書の交付 挨拶　　滋賀県教育委員会事務局学校教育課主席参事　　上路　博

「小学校における学習の評価」に関する研修会（近畿ブロック）
実　施　要　項

1　目　的

小学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等についての説明や事例紹介等を行い、目標に準拠した評価の客観性、信頼性を高めるための諸方策について研修することにより、各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図るとともに、適切な評価の実施に資する。

2　主　催

独立行政法人教員研修センター、奈良県教育委員会
文部科学省（共催）

3　期　日

７月29日（火）～７月30日（水）

4　会　場

奈良県立教育研究所　　奈良県磯城郡田原本町秦庄22-1 TEL 07443-3-8900

5　参加者

小学校校長及び教員並びに教育委員会指導主事　　350名

6　日程

７月29日（火）		７月30日（水）	
10:00～10:30	受付	9:30～10:00	受付
10:30～10:40	挨拶	10:00～11:30	音楽
10:40～12:00	総論	12:30～14:00	理科
13:00～14:30	特別活動	14:10～15:40	国語
14:40～16:10	社会	15:40～16:00	閉会行事

7　講師等

教科等	講師・事例紹介者	
総　論	金　本　正　武	千葉大学　教授
特別活動	成　田　國　英	日本体育大学　教授
社　会	寺　田　　登	文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官
	堀　江　秀　樹	岐阜市立長良東小学校　教諭
音　楽	高　須　　一	文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官
	渡　邊　麗　子	東京都新宿区立四谷第三小学校　教諭
理　科	日　置　光　久	文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官
	楳　内　典　明	岩手県千厩教育事務所　指導主事 岩手県東山町教育委員会　指導主事
国　語	上　谷　順三郎	鹿児島大学　助教授
	吉　川　彰　彦	兵庫県宝塚市立光明小学校　教諭

平成１５年度広島県「学習の評価」に関する研修開催要項

１　目的　小学校及び中学校における評価規準の作成，評価方法の工夫改善等についての説明や事例紹介等を行い，目標に準拠した評価の客観性，信頼性を高めるための諸方策について研修することにより，各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図ると共に，適切な評価の実施に資する。

２　主催　独立行政法人教員研修センター
　　広島県教育委員会

３　共催　文部科学省

４　期日　（小学校）平成１６年２月３日（火）・４日（水）
　　（中学校）平成１６年２月５日（木）・６日（金）

５　日程

【小学校】

3日（火）

10:00	10:45	11:00	12:00	13:00	15:00	15:10	17:10
受付	開講式	「総　論」講話	昼食	「音　楽」講話・実践	休憩	「理　科」講話・実践	

4日（水）

9:30	10:00	12:00	13:00	15:00	15:10	17:10	17:30
受付	「家庭科」講話・実践	昼食	「社　会」講話・実践	休憩	「算　数」講話・実践	閉会	

【中学校】

5日（木）

13:15	13:45	14:00	15:00	15:15	16:15
受付	開講式	「総　論」講話	休憩	「特別活動」講話	

6日（金）

9:30	10:00	12:00	13:00	16:00
受付	「教科部会」講話・実践 国語，社会，数学，理科， 音楽，美術，技術，家庭， 外国語	昼食	「教科部会」講話・実践 国語，社会，数学，理科， 音楽，美術，技術，家庭，外国語	

学習の評価に関する研修会（小・中学校）　実施要項

１　目　的　　小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等についての説明や事例紹介等を行い、目標に準拠した評価の客観性、信頼性を高めるための諸方策について研修することにより、各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図るとともに、適切な評価の実施に資する。

２　主　催　　独立行政法人教員研修センター・高知県教育センター

３　共　催　　文部科学省

４　期　日　　《小学校》　平成１５年８月２５日（月）・２６日（火）
　　《中学校》　平成１５年８月２７日（水）・２８日（木）

５　会　場　　高知県立高知女子大学　池キャンパス（高知市池２７５１－１）

６　対　象　　国公私立小学校・中学校の校長及び教員、並びに教育委員会指導主事等

７　定　員　　《小学校》　２００名
　　《中学校》　２００名
　　※２日間参加できることを原則とします。

８　日　程

《小学校》

【２５日】

9:00	9:30	9:45	11:45	12:45	13:45	15:00	17:00
受付	開会	「国　語」講話・実践発表	昼食	「特別活動」講　話	「算　数」講　話	「社　会」講話・実践発表	

【２６日】

9:00	10:30	12:00	13:00	14:00	15:15	16:45
「図画工作」講話・実践発表	「音　楽」講話・実践発表 「体　育」講話・実践発表	昼食	「総　論」講　話	「道　徳」講　話	「生　活」講話・実践発表	閉会

《中学校》

【２７日】

9:00	9:30	9:45	12:00	13:00	14:30	16:00
受付	開会	「総　論」講　話	昼食	「道　徳」講　話	「特別活動」講　話	

【２８日】

9:30	12:00	13:00	16:00
「各教科部会」講話・実践発表 国語、社会、数学、理科 音楽、美術、保健体育 技術・家庭、外国語	昼食	「各教科部会」実践発表・研究協議 国語、社会、数学、理科 音楽、美術、保健体育 技術・家庭、外国語	閉会

「学習の評価に関する研修」　－　九州地区　－

実　施　要　項

1　目　的　　評価規準の作成、評価方法の工夫改善等についての説明や事例紹介等を行い、目標に準拠した評価の客観性、信頼性を高めるための諸方策について研修することにより、各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図るとともに、適切な評価の実施に資する。

2　受講対象者等

（1）受講対象者

国公私立小学校・中学校、中等教育学校（前期課程）の校長及び教員、並びに教育委員会指導主事

（2）定員

小学校　：　２００名程度

中学校　：　２００名程度

3　主催・共催

主　催　：　独立行政法人教員研修センター、福岡県教育委員会

共　催　：　文部科学省

4　日　時

平成１６年２月１９日（木）～２０日（金）

5　会　場

福岡リーセントホテル　（別紙案内図参照）

〒812-0053　福岡市東区箱崎２丁目５２－１

℡(092)641-7741

6　日　程

[小学校部会]

第１日目		第２日目	
９：５０～１０：２０	受　付	９：３０～１１：３０	算　数
１０：２０～１０：３０	開　会	１１：３０～１２：４０	休憩（昼食）
１０：３０～１１：３０	総　論	１２：４０～１４：４０	国　語
１１：３０～１３：００	休憩（昼食）	１４：５０～１６：５０	社　会
１３：００～１５：００	音　楽	１６：５０～１７：１０	閉　会
１５：１０～１７：１０	特別活動		

［中学校部会］

第１日目		第２日目	
１３：２０～１３：５０	受　付	１０：００～１２：００	教科別分科会
１３：５０～１４：１０	開　会	１２：００～１３：１０	休憩（昼食）
１４：１０～１５：１０	総　論	１３：１０～１５：１０	教科別分科会
１５：２０～１６：５０	特別活動	１５：１０～１５：３０	閉　会

○ 教科別分科会（五教科）　国語・社会・数学・理科・外国語

7　講　師

［小学校部会］

部　会	氏　名	所　属　・　職　名
総　論	金本　正武	千葉大学　教授
国　語	井上　一郎	初等中等教育局教育課程課　教科調査官
社　会	寺田　登	初等中等教育局教育課程課　教科調査官
算　数	吉川　成夫	初等中等教育局教育課程課　教科調査官
音　楽	金本　正武	千葉大学　教授
特別活動	成田　國英	日本体育大学　教授

［中学校部会］

部　会	氏　名	所　属　・　職　名
総　論	萩元　良二	初等中等教育局教育課程課　学校教育官
国　語	河野　庸介	初等中等教育局教育課程課　教科調査官
社　会	大杉　昭英	初等中等教育局　視学官
	朝倉　啓爾	初等中等教育局教育課程課　教科調査官
数　学	根本　博	初等中等教育局　視学官
理　科	清原　洋一	初等中等教育局教育課程課　教科調査官
外国語	平田　和人	初等中等教育局教育課程課　教科調査官
特別活動	森嶋　昭伸	初等中等教育局児童生徒課　生徒指導調査官

8　その他

(1) 会場駐車場は宿泊者優先となっており台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

(2) 昼食等については、各自でご準備いただくか、会場周辺の飲食店またはコンビニエンスストア等をご利用ください。

「学習の評価」に関する研修
ー北部①ブロックー

実　施　要　項

1 目的
評価規準の作成、評価方法の工夫・改善等についての説明や事例紹介等を行い、目標に準拠した評価の客観性、信頼性を高めるための諸方策について研修することにより、各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図るとともに、適切な評価の実施に資する。

2 受講対象
(1) 対象者
小・中学校の校長、教頭、教員及び教育委員会指導主事
(2) 定員
200名

3 主催者等
主催：独立行政法人教員研修センター、北海道教育委員会
共催：文部科学省
主管：北海道教育庁上川教育局

4 日時
第1日　平成15年7月31日(木)10:15～17:00
第2日　平成15年8月　1日(金)10:00～15:30

5 会場
ニュー北海ホテル　　(旭川市5条6丁目　℡ 0166-24-3111)

6 内容
評価の工夫・改善についての説明・事例紹介・質疑応答

7 日程

第1日　7月31日(木)

9:45　10:15　10:30　　12:00　13:00　　15:00　　17:00

受付	開会式	全体会 講義 〔総論〕	昼食 ・ 休憩	全体会 道徳 (「総合的な学習の時間」を含む)	小学校 〔理　科〕
					中学校 〔特別活動〕

第2日　8月1日(金)

9:30　10:00　　12:00　13:00　　15:00　15:30

受付	小学校 〔算　数〕	昼食 ・ 休憩	小学校 〔国　語〕	閉会式
	中学校 〔国　語〕 〔社　会〕 〔数　学〕 〔理　科〕 〔外国語〕 〔音　楽〕		中学校 〔国　語〕 〔社　会〕 〔数　学〕 〔理　科〕 〔外国語〕 〔音　楽〕	

北部日本地区「新小・中学校学習指導要領に基づく学習の評価」の在り方に関する特別研修開催要項
－ 平成１５年度福島県学習の評価に関する研修 －

１　目　的

目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の客観性、信頼性を高めるための諸方策について研修することにより、各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図るとともに適切な評価の実施に資する。

２　主　催　　独立行政法人教員研修センター　　福島県教育委員会

３　共　催　　文部科学省

４　期　日　　平成１５年８月１９日（火）～２０日（水）　２日間

５　会　場

小学校部会　　福島県文化センター
〒960-8116　福島市春日町５－５４
電話　０２４－５３４－９１９１

中学校部会　　福島学院大学
〒960-0181　福島市宮代乳児池１－１
電話　０２４－５５３－３２２１

６　参加者　・道県市町村教育委員会、政令指定都市教育委員会の小・中学校の教員
・道県教育委員会及び市区町村・政令指定都市教育委員会の指導主事等
なお、小学校部会は、５００名程度、中学校部会は、３００名程度予定

７　日程及び内容

（１）小学校部会　（総論、国語、社会、図画工作、算数）

８月１９日（火）

10:00	10:20	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	16:15
受付	開会 挨拶	総論 （全体会）	昼食 休憩	教科（国語） （実践発表）	休憩	教科（社会） （実践発表）	

８月２０日（水）

9:40	10:00	11:30	12:45	14:15	14:30
受付	教科（図画・工作） （実践発表）	昼食 休憩	教科（算数） （実践発表）	閉会 挨拶	

（２）中学校部会
（総論、道徳、総合的な学習、国語、社会、数学、理科、英語、音楽、美術）

８月１９日（火）

10:00	10:20	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	16:15
受付	開会 挨拶	総論 （全体会）	昼食 休憩	道徳 （全体会）	休憩	総合的な学習 （全体会）	

８月２０日（水）

9:40	10:00	11:30	12:45	14:15	14:30
受付 （分科会ごと）	教科分科会 （説明）	昼食 休憩	教科分科会 （実践発表・協議）	閉会 （分科会ごと）	

中学校「学習の評価」に関する研修－関東ブロック－（千葉県）

平成１６年１月２９日（木）

１２：３０～１３：３０	受　付
１３：３０～１３：５０	開会式 挨拶　独立行政法人教員研修センター理事　戸田　春夫 挨拶　千葉県教育庁教育振興部長　八木　雅之
１４：００～１５：００	総　論 坂口　浩司 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発課長
１５：１５～１６：４５	特別活動 宮下　和己 文部科学省初等中等教育局児童生徒課　生徒指導調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所生徒指導研究センター統括研究官

平成１６年１月３０日（金）

９：１５～９：４５	受　付
９：４５～１１：４５ 教科別分科会	国語 西辻　正副 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官
１１：４５～１３：１５ 昼休み	山梨県教育委員会　義務教育課　指導主事　佐藤喜美子 （事例発表）
１３：１５～１６：１５ 教科別分科会	社会 朝倉　啓爾 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 大倉　泰裕 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 事例発表者３名　未定 数学 立花　正男 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官

	理科 呉屋　博 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 **外国語** 松浦　伸和 広島大学　助教授 **音楽** 大熊　信彦 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 岩手県立総合教育センター研修主事　福士　幸雄（事例発表） 東京都福生市立第二中学校　教諭　清水宏美（事例発表） **美術** 聖徳大学　人文学部教授　遠藤　友麗 **保健体育** （運動領域）今関　豊一 文部科学省スポーツ青少年局企画・体育課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 （保健領域）戸田　芳雄 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課 教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 **技術・家庭科** 広島大学　教授　（技術領域）間田　泰弘 石川県教育委員会　小松教育事務所　指導主事 （家庭領域）筒井　恭子
１６：１５～１６：３０ 修了証書交付	

※来所の際は，電車等でお願いします。（自家用車での来所は，御遠慮ください。）
※大ホール内での飲食・喫煙は禁止です。飲食場所は，１階多目的室及び各ロビー，屋外になります。また，喫煙場所はロビー外の藤棚の下のみです。飲み物の自動販売機は，情報教育棟の１階及び総合教育センター棟の２・４・６階にあります。
※昼食の注文・配付はロビーで行う。

受講者の教科別人数及び会場

－関東ブロック－　中学校「学習の評価」に関する研修

中学校　関東２

プ　ロ　グ　ラ　ム

平成15年８月26日（火）

10:00～10:40　受付

		講師・主催者	会　場
10:40～11:00 （小・中合同）	開　会 挨　拶	遠山耕平 独立行政法人教員研修センター　理事長 板屋越麟一 新潟県教育委員会教育長	朱鷺メッセ スノーホール
11:00～11:50 （小・中合同）	総　論	坂口浩司 国立教育政策研究所教育課程研究センター　研究開発課長	
11:50～13:00	昼　休　み		
	教科等	講師・事例紹介者	会　場
13:00～14:30	道　徳	小寺正一 京都教育大学　教授・副学長	朱鷺メッセ 中会議室 ３０２
14:30～14:50	休　憩		
14:50～16:20	特別活動	宮下和己 文部科学省初等中等教育局児童生徒課　生徒指導調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所生徒指導研究センター　総括研究官	

平成15年８月27日（水）

9:30～10:00　受付

	教　科	講師・事例紹介者	会　場
10:00～12:00 教科別研修	国　語	西辻正副 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官 実践事例発表　佐藤喜美子 山梨県教育委員会義務教育課　指導主事	メルパルク NIIGATA 米山
	社　会	朝倉啓爾 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官 山口　正 筑波大学附属中学校　教諭 実践事例発表（地理分野）青柳慎一 埼玉大学教育学部附属中学校　教諭 実践事例発表（歴史的分野）田代敏生 さいたま市教育委員会　指導主事 実践事例発表（公民分野）峯岸　誠 東京都大田区立東調布中学校　校長	メルパルク NIIGATA 雪椿
	数　学	根本　博 文部科学省初等中等教育局　視学官 実践事例発表　永田潤一郎 千葉大学教育学部附属中学校　教諭	メルパルク NIIGATA 弥彦
	理　科	清原洋一 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官 実践事例発表　坂本紹一 千葉大学教育学部附属中学校　教諭	メルパルク NIIGATA チェルシー
	英　語	松沢伸二 新潟大学　教授	メルパルク NIIGATA
12:00～12:10	修了証書の交付		

小・中学校「学習の評価」に関する研修 —東海・北陸ブロック— 開催要項

1　目　的

小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法についての説明や事例紹介等を行い、目標に準拠した評価の客観性、信頼性を高めるための諸方策について研修することにより、各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図るとともに、適切な評価の実施に資する。

2　主　催　　独立行政法人教員研修センター　富山県教育委員会

3　共　催　　文部科学省

4　期　日　　平成16年１月28日㈬～29日㈭

5　会　場　　パレブラン高志会館　〒930-0018　富山県富山市千歳町１－３－１
ＴＥＬ（0120）542-489、(076) 441-2255
ＦＡＸ（076）441-1770

6　参加者　　東海・北陸６県（石川県、福井県、岐阜県、愛知県、三重県、富山県）の国公私立小学校・中学校の校長及び教員、並びに教育委員会指導主事等。
小学校100名程度、中学校100名程度。（２日間の参加を原則とする。）

7　日程等

(1)　小学校〈４教科：国語、社会、算数、理科〉〈総合的な学習の時間〉

〔第１日目…１月28日㈬〕

9:30 10:00 10:20　11:50 12:00 13:00　14:30 14:40　16:40 16:50

受付	開会 挨拶	総　論 （小中合同）	諸連絡	昼食 休憩	総合的な学習の時間 講話（小中合同）	休憩	国　語　科 実践発表・協議・講話	諸連絡
会場	２階 カルチャーホール							

〔第２日目…１月29日㈭〕

9:30 10:00　12:00 13:00　15:00 15:10　17:10 17:20

受付	算　数　科 実践発表・協議・講話	昼食 休憩	理　科 実践発表・協議・講話	休憩	社　会 実践発表・協議・講話	修了証書 の交付
会場	２階 カルチャーホール					

(2)　中学校〈５教科：国語、社会、数学、理科、英語〉〈総合的な学習の時間〉〈特別活動〉

〔第１日目…１月28日㈬〕

9:30 10:00 10:20　11:50 12:00 13:00　14:30 14:50　16:20 16:30

受付	開会 挨拶	総　論 （小中合同）	諸連絡	昼食 休憩	総合的な学習の時間 講話（小中合同）	休憩 移動	特別活動 講　話	諸連絡
会場	２階 カルチャーホール						２階 嘉月	

〔第２日目…１月29日㈭〕

9:30 10:00　12:00 12:10

受付	５教科部会 実践発表・協議・講話	修了証書 の交付
会場	国語（2階 205）、社会（3階301）、数学（3階306・307）、理科（3階 303）、英語（3階302）	

「中学校における学習の評価」に関する研修会（近畿ブロック）

実　施　要　項

1　目　的

中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等についての説明や事例紹介等を行い、目標に準拠した評価の客観性、信頼性を高めるための諸方策について研修することにより、各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図るとともに、適切な評価の実施に資する。

2　主　催

独立行政法人教員研修センター、奈良県教育委員会

文部科学省（共催）

3　期　日

８月４日（月）～８月５日（火）

4　会　場

第１日	奈良県立教育研究所	奈良県磯城郡田原本町秦庄22-1	TEL 07443-3-8900
第２日	奈良県立教育研究所	奈良県磯城郡田原本町秦庄22-1	TEL 07443-3-8900
	奈良女子大学	奈良市北魚屋東町	TEL 0742-20-3330
	春日野荘	奈良市法蓮町757-2	TEL 0742-22-6021

5　参加者

中学校校長及び教員並びに教育委員会指導主事　　350名

6　日　程

８月４日（月）		８月５日（火）	
13:00～13:30	受付	9:30～10:00	受付
13:30～13:40	挨拶	10:00～12:30	各教科
13:40～15:40	総論	12:30～12:40	閉会行事
15:50～16:50	特別活動		

7　講　師

教科等	講師・事例紹介者	
総　論	山　極　　隆	玉川大学　教授
特別活動	森　嶋　昭　伸	文部科学省初等中等教育局児童生徒課　生徒指導調査官
		文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官
		国立教育政策研究所生徒指導研究センター　総括研究官
国　語	千々岩　弘　一	鹿児島国際大学　教授
	中　島　聖　巳	栃木県教育委員会　義務教育課　副主幹
社　会	池　田　信　明	文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官
		国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官
	大　倉　泰　裕	文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官
		国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官
	湯　浅　清　治	広島大学附属中・高等学校　教諭
	中　山　眞　一	奈良県曽爾村立曽爾中学校　教諭

	峯岸　誠	大田区立東調布中学校　校長
数学	立花正男	国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官
	小林隆夫	山梨県東八代郡中道町中学校組合立笛南中学校　教諭
理科	小玉秀史	国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官
	平田豊誠	大阪教育大学附属池田中学校　教諭
外国語	平田和人	文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官
	大鐘雅勝	千葉市立稲毛中学校　教諭
	伊藤幸男	埼玉県熊谷市立荒川中学校　教諭
音楽	大熊信彦	文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官
	小長井博子	千葉県佐倉市教育センター　指導主事
美術	村上尚徳	文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官
	川合克彦	川崎市立向丘中学校　教諭
保健体育	戸田芳雄	文部科学省スポーツ・青少年局　体育官
	今関豊一	文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育課　教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官
	長岡佳孝	山形県教育委員会スポーツ保健課　指導主査兼学校保健係長
	石川泰成	埼玉大学教育学部附属中学校　教諭
技術・家庭	間田泰弘	広島大学　教授
	筒井恭子	石川県教育委員会小松教育事務所　指導主事

平成１５年度広島県「学習の評価」に関する研修開催要項

1. 目的　小学校及び中学校における評価規準の作成，評価方法の工夫改善等についての説明や事例紹介等を行い，目標に準拠した評価の客観性，信頼性を高めるための諸方策について研修することにより，各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図ると共に，適切な評価の実施に資する。

2　主催　独立行政法人教員研修センター
　　広島県教育委員会

3　共催　文部科学省

4　期日　（小学校）平成１６年２月３日（火）・４日（水）
　　（中学校）平成１６年２月５日（木）・６日（金）

5　日程

【小学校】

3日（火）

10:00	10:45	11:00	12:00	13:00	15:00	15:10	17:10
受付	開講式	「総　論」講話	昼食	「音　楽」講話・実践	休憩	「理　科」講話・実践	

4日（水）

9:30	10:00	12:00	13:00	15:00	15:10	17:10	17:30
受付	「家庭科」講話・実践	昼食	「社　会」講話・実践	休憩	「算　数」講話・実践	閉会	

【中学校】

5日（木）

13:15	13:45	14:00	15:00	15:15	16:15
受付	開講式	「総　論」講話	休憩	「特別活動」講話	

6日（金）

9:30	10:00	12:00	13:00	16:00
受付	「教科部会」講話・実践 国語，社会，数学，理科， 音楽，美術，技術，家庭， 外国語	昼食	「教科部会」講話・実践 国語，社会，数学，理科， 音楽，美術，技術，家庭，外国語	

平成１５年度「学習の評価」に関する研修会（中学校）
―中国・四国ブロック―開催要項

中学校　中国・四国２

1　目　的

評価規準の作成、新しい評価方法の実施についての説明や事例紹介等を行い、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の客観性、信頼性を高めるための諸方策について研修することにより、各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図るとともに、適切な評価の実施に資する。

2　主　催　　独立行政法人教員研修センター
　　香川県教育委員会

3　共　催　　文部科学省（申請中）

4　期　日　　平成１５年８月２２日（金）１４：３０～１６：３０
　　８月２３日（土）１０：００～１５：３０

5　会　場　　１日目　全　体　会　：丸亀市民会館大ホール
　　（丸亀市大手町２丁目４－２０）
　　２日目　教科別分科会：丸亀市民会館
　　丸亀市生涯学習センター
　　（丸亀市大手町２丁目１－２０）
　　丸亀市保健福祉センター
　　（丸亀市大手町２丁目１－７）

6　受講対象者等

（１）受講対象者

国公私立中学校の校長及び教員並びに教育委員会指導主事等

（２）定員

５００名

（３）受講者の決定

申込者が定員を超えた場合には、抽選により受講者を決定し、受講できない場合にのみ通知します。

7　開設分科会（開設教科）

国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語

8　講師

教　科	職　　名	氏　名
総論 (全体会)	文部科学省初等中等教育局教育課程課　学校教育官	萩元　良二
国　語	横浜国立大学　教授	高木　展郎
社　会	文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官	池田　信明
数　学	文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官	立花　正男
理　科	文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官	田代　直幸
音　楽	鳴門教育大学　教授	西園　芳信
美　術	文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官	村上　尚徳
保健体育	文部科学省スポーツ青少年局学校保健教育課（体育官	戸田　芳雄
	文部科学省スポーツ青少年局企画・体育課　教科調査官	今関　豊一
技術・家庭	広島大学　教授	間田　泰弘
外国語	文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官	平田　和人

9　日　程

8月22日（金）

14:00	14:30	14:40	16:30
受付	挨拶	全体会	

8月23日（土）

9:30	10:00	12:00	13:30	15:30
受付	教科別分科会	休憩	教科別分科会	

10　その他

（1）全日程に出席された受講者には、修了証書を授与します。

（2）受講料は不要です。

（3）平成14年2月に公表された「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考料（中学校）」を熟読の上参加してください。（本参考資料は、国立教育政策研究所のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ（http//www.nier.go.jp）にも掲載されています。）

11　受講申込先及び問合せ先

香川県教育委員会事務局義務教育課
「学習の評価」に関する研修会　担当
〒760-8582　高松市天神前6番1号
TEL 087-832-3742　FAX 087-831-7787
E-mail:bw2187@pref.kagawa.lg.jp

学習の評価に関する研修会（小・中学校）　実施要項

１　目　的　小学校及び中学校における評価規準の作成、評価方法の工夫改善等についての説明や事例紹介等を行い、目標に準拠した評価の客観性、信頼性を高めるための諸方策について研修することにより、各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図るとともに、適切な評価の実施に資する。

２　主　催　独立行政法人教員研修センター・高知県教育センター

３　共　催　文部科学省

４　期　日　《小学校》　平成１５年８月２５日（月）・２６日（火）
　　《中学校》　平成１５年８月２７日（水）・２８日（木）

５　会　場　高知県立高知女子大学　池キャンパス（高知市池２７５１－１）

６　対　象　国公私立小学校・中学校の校長及び教員、並びに教育委員会指導主事等

７　定　員　《小学校》　２００名
　　《中学校》　２００名
　　※２日間参加できることを原則とします。

８　日　程

《小学校》

【２５日】

9:00	9:30	9:45	11:45	12:45	13:45	15:00	17:00
受付	開会	「国　語」講話・実践発表	昼食	「特別活動」講　話	「算　数」講　話	「社　会」講話・実践発表	

【２６日】

9:00	10:30	12:00	13:00	14:00	15:15	16:45
「図画工作」講話・実践発表	「音　楽」講話・実践発表 「体　育」講話・実践発表	昼食	「総　論」講　話	「道　徳」講　話	「生　活」講話・実践発表	閉会

《中学校》

【２７日】

9:00	9:30	9:45	12:00	13:00	14:30	16:00
受付	開会	「総　論」講　話	昼食	「道　徳」講　話	「特別活動」講　話	

【２８日】

9:30	12:00	13:00	16:00
「各教科部会」講話・実践発表 国語、社会、数学、理科 音楽、美術、保健体育 技術・家庭、外国語	昼食	「各教科部会」実践発表・研究協議 国語、社会、数学、理科 音楽、美術、保健体育 技術・家庭、外国語	閉会

「学習の評価に関する研修」　－　九州地区　－

実　施　要　項

1　目　的　　評価規準の作成、評価方法の工夫改善等についての説明や事例紹介等を行い、目標に準拠した評価の客観性、信頼性を高めるための諸方策について研修することにより、各学校における指導と評価の一体化の一層の充実を図るとともに、適切な評価の実施に資する。

2　受講対象者等

（1）受講対象者

国公私立小学校・中学校、中等教育学校（前期課程）の校長及び教員、並びに教育委員会指導主事

（2）定員

小学校　：　２００名程度

中学校　：　２００名程度

3　主催・共催

主　催　：　独立行政法人教員研修センター、福岡県教育委員会

共　催　：　文部科学省

4　日　時

平成１６年２月１９日（木）～２０日（金）

5　会　場

福岡リーセントホテル　（別紙案内図参照）

〒812-0053　福岡市東区箱崎２丁目５２－１

TEL (092) 641-7741

6　日　程

［小学校部会］

第１日目		第２日目	
９：５０～１０：２０	受　付	９：３０～１１：３０	算　数
１０：２０～１０：３０	開　会	１１：３０～１２：４０	休憩（昼食）
１０：３０～１１：３０	総　論	１２：４０～１４：４０	国　語
１１：３０～１３：００	休憩（昼食）	１４：５０～１６：５０	社　会
１３：００～１５：００	音　楽	１６：５０～１７：１０	閉　会
１５：１０～１７：１０	特別活動		

[中学校部会]

第１日目		第２日目	
１３：２０～１３：５０	受　付	１０：００～１２：００	教科別分科会
１３：５０～１４：１０	開　会	１２：００～１３：１０	休憩（昼食）
１４：１０～１５：１０	総　論	１３：１０～１５：１０	教科別分科会
１５：２０～１６：５０	特別活動	１５：１０～１５：３０	閉　会

○ 教科別分科会（五教科）　国語・社会・数学・理科・外国語

7　講　師

[小学校部会]

部　会	氏　名	所　属　・　職　名
総　論	金本　正武	千葉大学　教授
国　語	井上　一郎	初等中等教育局教育課程課　教科調査官
社　会	寺田　登	初等中等教育局教育課程課　教科調査官
算　数	吉川　成夫	初等中等教育局教育課程課　教科調査官
音　楽	金本　正武	千葉大学　教授
特別活動	成田　國英	日本体育大学　教授

[中学校部会]

部　会	氏　名	所　属　・　職　名
総　論	萩元　良二	初等中等教育局教育課程課　学校教育官
国　語	河野　庸介	初等中等教育局教育課程課　教科調査官
社　会	大杉　昭英	初等中等教育局　視学官
	朝倉　啓爾	初等中等教育局教育課程課　教科調査官
数　学	根本　博	初等中等教育局　視学官
理　科	清原　洋一	初等中等教育局教育課程課　教科調査官
外国語	平田　和人	初等中等教育局教育課程課　教科調査官
特別活動	森嶋　昭伸	初等中等教育局児童生徒課　生徒指導調査官

8　その他

(1) 会場駐車場は宿泊者優先となっており台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

(2) 昼食等については、各自でご準備いただくか、会場周辺の飲食店またはコンビニエンスストア等をご利用ください。

Ⅰ　研修概要

研修名	道徳教育連携・推進講座　（地区別研修講座）					
担当課係	研修事業第三課　道徳・産業教育係					
研修目的（趣旨）	道徳教育の基本問題及び指導上の諸問題について都道府県教育委員会との連携・協力の下で研修を行い、教員の実践的指導力の向上を図るとともに、保護者や地域住民との交流を深め、道徳教育推進の中核的指導者・協力者となる人材を育成し、学校及び地域社会における道徳教育の一層の充実に資する。					
対象	教育委員会の指導主事、国・公・私立学校の教員及びＰＴＡ関係者（保護者・地域住民）（ＰＴＡ関係者については、単なる参加者としてではなく、シンポジストやオブザーバー、実践事例発表者として参加を得るよう工夫を図る。）					
開催期日	平成１５年　４月	～	平成１６年　３月			２～３　日間
参加人数	計画人数	３０，０００人	受講者数	３８，３４７人	（参加率）	１２７．８％
開催場所	各都道府県で設定					

Ⅱ　アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

１．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	人	%	人	%	人	%	人	%

２．研修内容に関する主な意見

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

Ⅰ　研修概要

研修名	外国語指導助手に対する研修　招致期間中外国語指導助手研修（中間期）					
担当課係	研修事業第三課　語学・国立学校係					
研修目的（趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下，「語学指導等を行う外国青年招致事業」による招致外国青年のうち，中学校・高等学校等において語学指導に従事する者（以下，「外国語指導助手」という。）及び，日本人外国語担当教員（以下，「担当教員」という）に対し，一層効果的な語学指導ができるよう必要な知識・指導技術等を習得させるとともに，外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い，もって我が国の外国語教育の充実に資する。					
対象	(1) 外国語指導助手 (2) 外国語指導助手と同数以上の中学校・高等学校の日本人外国語担当教員（以下，「担当教員」という。） (3) 都道府県・指定都市及び市町村教育委員会の外国語担当指導主事等					
開催期日	平成１５年１０月中旬から平成１６年１月下旬の間において，概ね３日間の日程で各都道府県教育委員会が定める期間とする。					
参加人数	計画人数	10,000人	受講者数	11,618人	（参加率）	116.2%
開催場所	各都道府県教育委員会において設定する。					

Ⅱ　アンケート結果の状況

アンケートは実施していない

1．研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役にたたなかった		回答なし	
人数(人)	割合(%)	人	%	人	%	人	%	人	%

2．研修内容に関する主な意見

Ⅰ　研修概要

研修事業名	衛星配信研修

研修事業名	配信した講義及び数	特記事項
教職員等中央研修講座（校長・教頭等）	「教育改革の推進」 外18	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
（中堅教員）	「教育改革の推進」 外29	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
生徒指導総合研修講座	「LD・ADHD児の理解と指導」　外11	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼 ・講義「いじめ問題の理解と対応」について、岡山県及び福井県と双方向で実施 ・講義「不登校児童生徒への援助の在り方」について、福井県と双方向で実施 ・講義「心を育てるグループ・エンカウンター」について、岩手県と双方向で実施 ・事例発表「体験活動の意義とそれを生かした生徒指導」については、燕東小学校（新潟県）及び大野原中学校（香川県）と双方向で実施
外国人児童生徒等日本語指導講習会	「日本語指導の必要な児童生徒教育について」	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
学校安全教育指導者研修会	「学校における交通安全教育の考え方、進め方」 外8	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
教育情報化推進指導者養成研修（指導主事全国講座）	「教育の情報化に関する国の施策」 外1	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
「総合的な学習の時間」研修講座（小学校英語活動研修講座）（第4回）	「小学校英語活動の現状と展望」 外5	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼 ・「小学校英語活動の現状と展望」外5の講義等について、名古屋都市センターと双方向で実施
保健室相談活動研修会	「健康教育の現状と課題」 外1	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
エイズ・薬物乱用防止教育研修会	「エイズ教育・性教育を取り巻く状況について」　外5	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
衛生管理研修会	「学校給食における衛生管理の充実について」 外1	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
9 研修事業	89 講義	